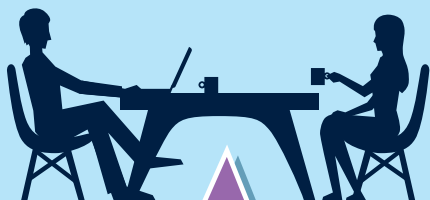
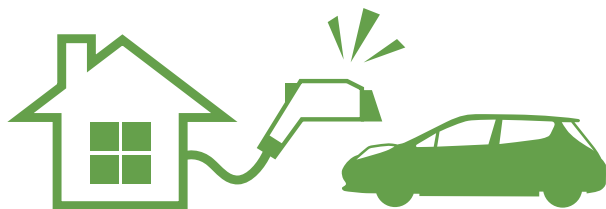
zero Emission
LEAF
リーフとの生活
ようこそ！リーフの世界へ。
リーフとの毎日を快適にする、
便利な使い方をご紹介します。

部屋の中から手軽に操作！

携帯電話やパソコンから充電開始。
バッテリー充電量の確認もできます。

真冬の朝、真夏の昼でも部屋の中から
エアコンをONにできます。

リモート充電 P.CH-20
乗る前エアコン（リモート機能） P.4-8

リーフを充電しよう！

ガソリンスタンドに行くことなく
ご家庭で充電できます。

普通充電

約8時間で100%

※AC200V コンセントの場合

P.CH-8

上手に走ってエコドライブ！

ECO（エコ）モードを使うことによって走行可能距離を延ばすことができます。

エコインジケーターを使って楽しくエコドライブできます。

ECO（エコ）モード P.5-8
エコインジケーター P.2-9

到達予想エリアをナビから確認！

現在のバッテリー残量で現在地から到達できる範囲を表示します。

ナビゲーションシステム取扱説明書の「到達予想エリアを表示する」をお読みください。

おでかけ先で素早く充電！

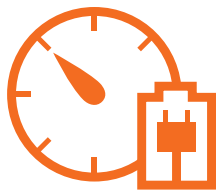
ドライブの合間の休憩中に充電可能です。

で

80%

急速充電　P.CH-13

家に帰ったらお得な充電！

電気料金の安い夜間プランを利用していれば、タイマー充電で電気代がぐっとお得になります。

充電プラグの挿し忘れや抜けには、お知らせメールが届きます。

タイマー充電 P.CH-16
プラグ挿し忘れ通知 P.CH-20

今日のエコドライブ成果は？

使用した電力から今日のエコドライブの成果をチェック！

ナビゲーションシステム取扱説明書の「電費情報・電力消費を見る」をお読みください。

はじめに

このたびは日産車をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。この車は、最新のテクノロジーを採用し、厳しい品質管理の下で生産しております。

本書には、お車の正しい取り扱い方法、お手入れのしかた、万一のときの応急処置などが記載されています。
お車を安全·快適にお使いいただくため、ご使用前に本書を必ずお読みください。

点検·整備、保証については別冊のメンテナンスノートをお読みください。

日産販売会社はリーフの整備作業に最も精通しています。 整備が必要になったときや疑問が生じたときは、日産販売会社がサポートいたします。

安全運転のための注意事項

お車を運転する前に、本書を必ずお読みください。本書には、お車を安全に運転するための、各種の操作方法やお手入れのしかたが記載されています。

警告

安全のための重要情報

お車を安全で快適に運転するために、次の重要な運転ルールをお守りください。

- 酒酔い/酒気帯び状態又は薬の影響が出ているときは、絶対に運転しないでください。
- 常に法定速度を守り、交通状況に合った安全な速度で走行してください。
- 走行中は運転に集中し、気が散るような操作は行わないでください。
- 常にシートベルトを着用し、お子さまには適切なチャイルドシートを使用してください。
- 運転しながらのハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話などの使用はやめてください。周囲への注意力が低下し、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- お車のすべての乗員に、安全装置の適切な使い方を伝えてください。
- 足元のまわりに空き缶などの物を置かないでください。ブレーキペダルやアクセルペダルに物が挟まると、ペダルの操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ウインドーにアクセサリーを取り付けると、視界の妨げになったり、吸盤がレンズの働きをして火災を起こしたり、SRSエアバッグが作動したときアクセサリーが飛んでケガをするなど、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 本書に記載されている、安全に関する重要な情報を必ず参照してください。

車両の改造

車両の改造は行わないでください。改造によって性能、安全性、又は耐久性が低下する場合があるだけでなく、法律に違反することもあります。さらに、改造が原因の損傷又は性能上の不具合には、保証が適用されないことがあります。

本書についての注意点

本書には、オプション装備に関する情報が含まれています。そのため、一部の情報はお客様のお車には該当しない場合があります。

車両の仕様変更により、本書の内容が実車と一致しない場合がありますのであらかじめご了承ください。

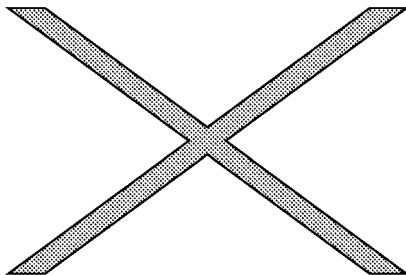
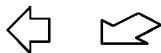
本書に関する重要な情報

本書ではさまざまなシンボル（記号）が使用されています。それらのシンボル（記号）は、次の基準で用いられています。

⚠ 警告

守らないと生命の危険又は重大な障害につながるおそれがあります。危険を避けるために、記載内容に従ってください。

⚠ 注意

守らないと傷害又は車両の損傷につながるおそれがあります。危険を避けるために、記載内容に従ってください。

上記のシンボル（記号）は、**"禁止事項"**又は**"避けるべき状態"**を表しています。

上図のシンボル（記号）は、矢印の向いている方向が車両前方であることを表しています。

上図の矢印は、動き又は操作の方向を表しています。

上図の矢印は、イラスト中の場所又は操作の方向を表しています。

[ ]:

画面に表示されるボタン/項目を表しています。

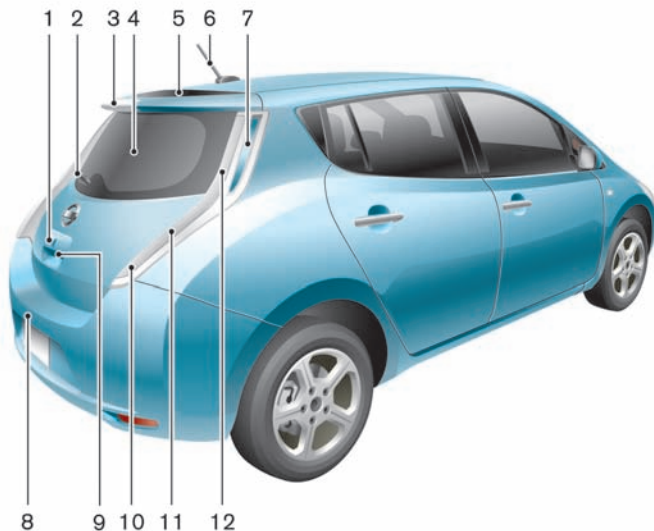
Bluetooth®及びBluetooth®ロゴは、Bluetooth SIG, Inc.の登録商標であり、クラリオン株式会社は、ライセンスに基づいて使用しています。

目次

0 イラスト目次

外観（フロント）

1. 充電ポートリッド(P.3-17)
2. モーターフード(P.3-14)
3. 車幅灯（P.8-13)
4. ヘッドランプ及び方向指示器兼非常点滅表示灯
   — スイッチの操作(P.2-33)
   — 電球（バルブ）の交換(P.8-13)
5. フロントワイパー及びウオッシャー
   — スイッチの操作(P.2-31)
   — ブレードの交換(P.8-5)
   — ウオッシャー液(P.8-4)
6. ドアミラー(P.3-20)
7. パワーウインドー(P.2-42)
8. けん引フック(P.6-12)
9. タイヤ
   — ホイール·タイヤ(P.8-19、P.9-4)
   — パンクしたときは(P.6-3)
10. 方向指示器（側面）
    — スイッチの操作(P.2-34)
    — 電球（バルブ）の交換(P8-13)
11. ドア
    — キー(P.3-2)
    — ドアロック(P3-3)
    — インテリジェントキーシステム(P.3-5)
    — セキュリティーシステム(P.2-30)
12. チャイルドセーフティドアロック(P.3-5)

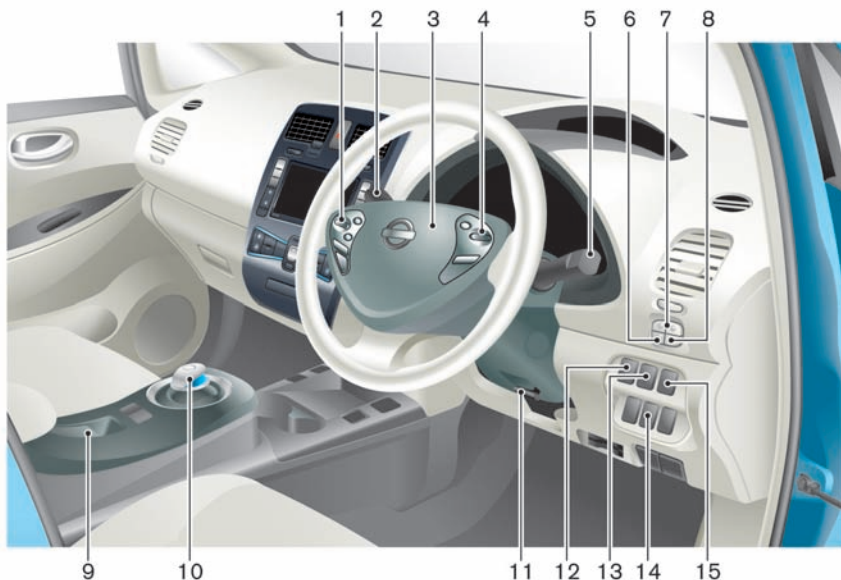
外観（リヤ）

1. バックビューモニター*（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
2. リヤワイパー･ウオッシャー
   — スイッチの操作(P.2-32)
   — ウオッシャー液(P.8-4)
3. ハイマウントストップランプ
   — 電球（バルブ）の交換(P. 8-13)
4. リヤーウインドーデフォッガー(P.2-32)
5. ソーラーセルモジュール*（P.EV-25)
6. アンテナ（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
7. リヤコンビランプ
   — 電球（バルブ）の交換(P. 8-13)
8. 番号灯(P. 8-13)
9. バックドア(P.3-15)
   — インテリジェントキーシステム(P.3-2)
10. 後退灯 (P.8-13)
11. 方向指示器/非常点滅表示灯(P. 2-34)
12. 制動灯/尾灯 (P. 8-13)

*： 車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

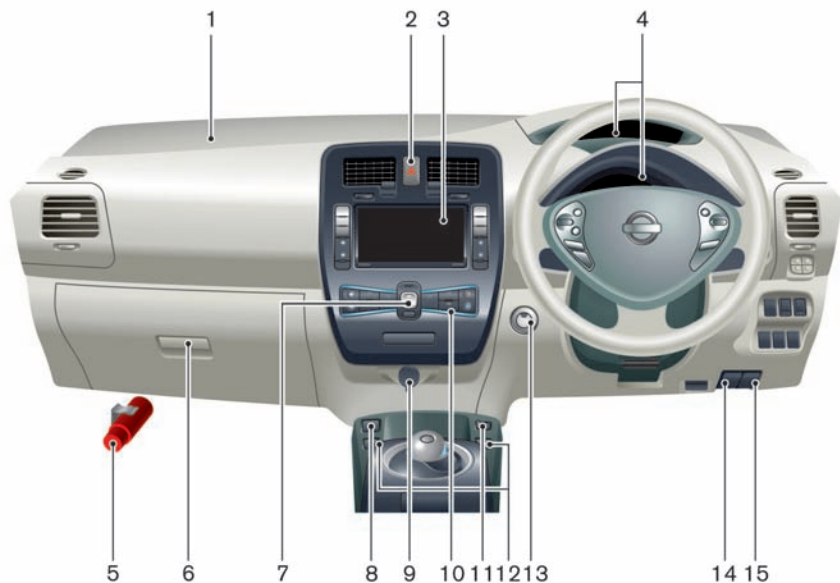
室内

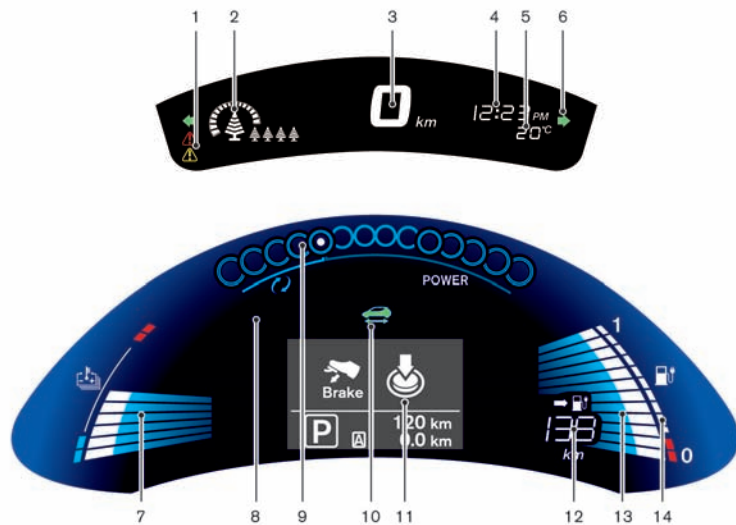
1. サンバイザー(P.3-19)
2. ルームミラー(P.3-19)
3. サングラスホルダー(P.2-39)
4. マップランプ(P.2-44)
   - マイク（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
5. 前席シート(P.1-3)
6. ルームランプ(P.2-45)
7. SRSカーテンエアバッグシステム(P. 1-24)
8. シートベルト(P.1-8)
9. 充電ケーブル（EVSE）(P.CH-8)
10. カップホルダー(P.2-39)
11. ドアアームレスト
    — パワーウインドースイッチ(P.2-42)
    — ドアロックスイッチ(P.3-4)
12. コンソールボックス(P.2-40)
13. SRSサイドエアバッグ(P.1-24)
14. ヒーターシートスイッチ（後席）*(P.2-36)
15. 後席シート(P.1-5)

*： 車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

運転席まわり

1. ステアリングスイッチ（左側）（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
   — ⓐ 到達予想エリアスイッチ
   — オーディオスイッチ
   — Bluetooth®ハンズフリーフォン
2. ワイパー･ウオッシャースイッチ(P.2-31)
3. ハンドル
   — EPS(電動パワーステアリング)(P.5-17)
   — ホーン(P.2-36)
   — 運転席SRSエアバッグシステム(P.1-22)
4. ステアリングスイッチ（右側）
   — ASCD(オートスピードコントロール）スイッチ*(P.5-13)
5. ヘッドランプ、方向指示器スイッチ
   — ヘッドランプ(P.2-33)
   — 方向指示器(P.2-34)
6. ツイントリップメーター用TRIP/RESETスイッチ(P.2-6)
7. ドライブコンピュータースイッチ(P.2-24)
8. イルミネーションコントロールスイッチ(P.2-33)
9. 電動パーキングブレーキ(P.5-11)
10. セレクトレバー(P.5-8)
11. ハンドル位置調節レバー(P.3-18)
12. ステアリングヒータースイッチ*(P.2-35)
13. 即充電スイッチ(P.CH-19)
14. 車両接近通報音（VSP）一時停止スイッチ(P.EV-23)
15. VDC OFFスイッチ(P.2-37)

*： 車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

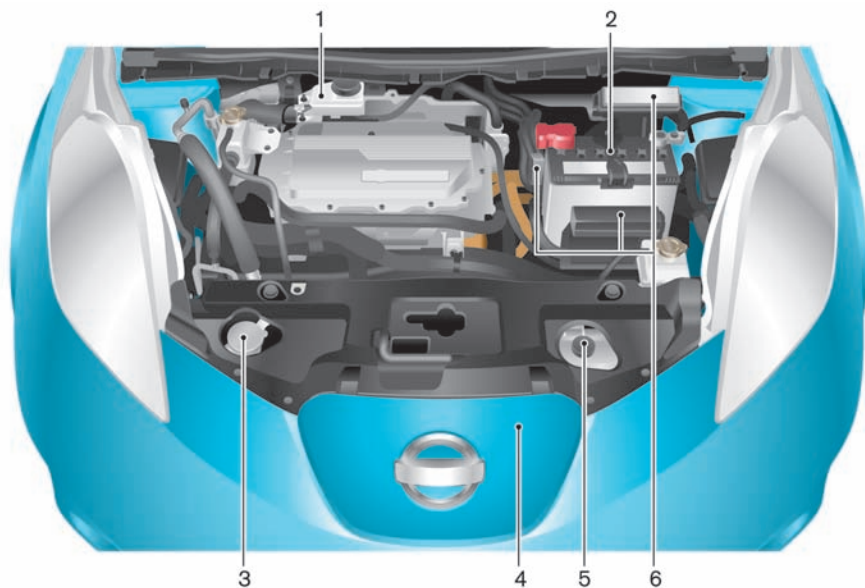
インストルメントパネル

1. 助手席SRSエアバッグシステム(P.1-22)
2. 非常点滅表示灯スイッチ(P.2-35)
3. ナビゲーションシステム（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
   — 車両情報及び設定スイッチ
   — Bluetooth®ハンズフリーフォン
   — オーディオシステム
4. ツインデジタルメーター(P.2-5)
5. 発炎筒 (P.6-2)
6. グローブボックス(P.2-40)
7. エアコンスイッチ(P.4-3)
8. iPod®コネクター/USBコネクター（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
9. 電源ソケット(P.2-38)
10. デフォッガースイッチ(P.2-32)
11. AUX入力端子 （ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
12. ヒーターシートスイッチ(前席)* (P. 2-36)
13. パワースイッチ(P. 5-5)
14. フードオープナー(P.3-14)
15. 充電ポートリッドオープナー(P.3-17)

*： 車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

メーター

ツインデジタルメーター

この車両のメーターは、アッパーメーターとロアメーターに分かれています。

1. マスターウォーニング(P.2-14)
2. エコインジケーター(P.2-9)
3. スピードメーター(P.2-6)
4. 時計(P.2-10)
5. 外気温計(P.2-9)
6. 方向指示器/非常点滅表示灯(P.2-17)
7. リチウムイオンバッテリー温度計(P.2-6)
8. 警告灯/表示灯(P.2-11)
9. パワーメーター(P.2-7)
10. 走行可能表示灯(P.2-16)
11. マルチファンクションディスプレイ(P.2-18)
    — オドメーター/トリップメーター(P.2-6)
    — ドライブコンピューター(P.2-24)
    — シフトポジションインジケーター(P.2-24)
    — タイマー表示(P.2-29)
12. 航続可能距離表示(P.2-8)
13. リチウムイオンバッテリー残量計(P.2-8)
14. リチウムイオンバッテリー容量計(P.2-9)

モータールーム

1. ブレーキフルードリザーバータンク(P.9-2)
2. 12Vバッテリー(P.8-4)
3. ウオッシャータンク(P.8-4)
4. 充電ポートリッド(P.3-17)
5. 冷却水リザーバータンク(P.9-2)
6. ヒューズ及びヒュージブルリンクホルダー(P.8-7)

警告灯及び表示灯

警告灯	名称	ページ
	12V系充電警告灯	2-11
	ABS警告灯	2-12
	ブレーキシステム警告灯（黄色表示）	2-12
	ブレーキ警告灯（赤色表示）	2-13
PS	EPS(電動パワーステアリング)警告灯	2-13
	電制シフト警告灯	2-14
	EVシステム警告灯	2-14
	ヘッドランプ警告灯	2-14
	バッテリー残量警告灯	2-14
	マスターウォーニング（黄色表示又は赤色表示）	2-14
	シートベルト警告灯	2-15
	SRSエアバッグ警告灯	2-15
	VDC警告灯	2-15
	電動パーキングブレーキ警告灯	2-15

警告灯	名称	ページ
	出力制限表示灯	2-16
	プラグイン表示灯	2-16
	ヘッドランプ上向き表示灯	2-16
	走行可能表示灯	2-16
	セキュリティーインジケーター	2-17
	テールランプ表示灯	2-17
	方向指示表示灯	2-17
OFF	VDC OFF表示灯	2-17

EV(電気自動車)の概要

EVシステム

リーフは電気自動車（EV)です。エンジンが搭載されている従来の車両とは異なる方式で作動するシステムがあるため、本書を最後までお読みいただくことが重要です。

従来の車両と大きく異なるのは、電気によって駆動されることです。エンジンを動力源とする車両のようにガソリンや軽油を必要としません。

リーフは、CO2（二酸化炭素）やNOx（窒素酸化物）といった排気ガスを一切出さないため、環境に優しい車両です。

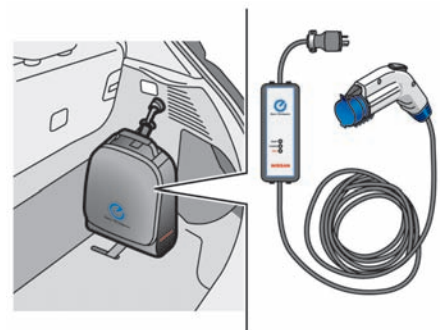
この車両には2種類のバッテリーが使用されており、ひとつは従来のエンジン車と同じ12Vのバッテリー、もうひとつはリチウムイオンバッテリー（高電圧）です。

- 12Vバッテリーは、車両の各システムと機能（オーディオシステム、SRSエアバッグシステム、ヘッドランプ、ワイパーなど）に電力を供給します。
- リチウムイオンバッテリーは、走行用モーターに電力を供給します。

車両に搭載されたリチウムイオンバッテリーの電力を使用して走行したり、12Vバッテリーを充電したりするため、リチウムイオンバッテリーが徐々に放電し、完全に放電すると走行できなくなります。

ご家庭で充電するためには、車両後部のラゲッジルームに搭載された充電ケーブル（EVSE*）の接続が必要です。なお、充電にかかる時間は、リチウムイオンバッテリーの残量や充電電圧によって変わります。

この車両は、減速中又は下り坂走行中に、走行エネルギーを電力に変換してリチウムイオンバッテリーを充電し、航続可能距離を延ばすことができます。

この方式は回生充電と呼ばれます。また、ブレーキペダルを踏んでいるときは、この回生ブレーキと通常の油圧ブレーキを同時に制御する回生協調ブレーキによって、効率よくエネルギーを回収しながら安全に減速します。

充電ケーブル（EVSE）

*：EVSEは、Electric Vehicle Supply Equipmentの略称です。

リチウムイオンバッテリー

⚠ 警告

この車両には、密閉式のリチウムイオン高電圧バッテリーが搭載されています。リチウムイオンバッテリーは、不適切な方法で処分すると、重度のやけどや感電により重大な傷害又は死亡につながるおそれがあるだけでなく、環境汚染につながります。

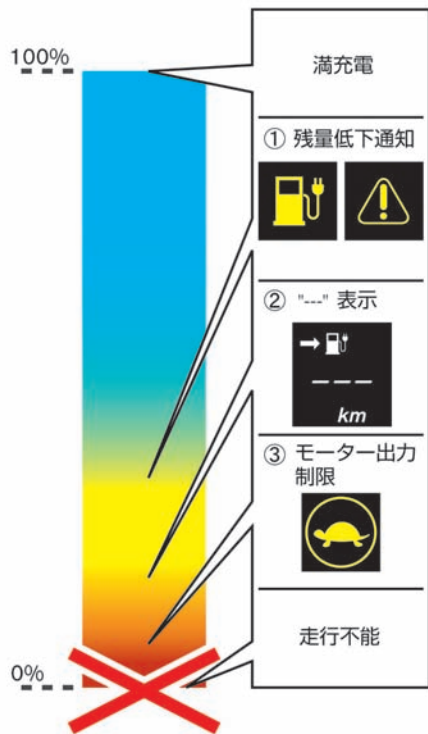
⚠ 注意

リチウムイオンバッテリーの損傷を防止するために以下のことをお守りください。

- 外気温が49°C以上の場所に24時間以上放置しない
- 外気温が−25°C未満の場所に7日間以上放置しない
- リチウムイオンバッテリー残量計の目盛が0（ゼロ）か、ほぼ0（ゼロ）の状態で14日間以上放置しない
- リチウムイオンバッテリーを車の走行以外の用途で使用しない

知識：

- 外気温が−25°C以下では、リチウムイオンバッテリーが凍結して充電やEVシステムが始動ができなくなるおそれがあります。車両を暖かい場所に移動してください。
- リチウムイオンバッテリーの蓄電能力は、通常のバッテリーと同じように時間の経過や使用状況に伴い低下します。 リチウムイオンバッテリーの蓄電能力が低下すると、航続可能距離は短くなります。蓄電能力の低下は、バッテリー本来の特性であり、不具合ではありません。リチウムイオンバッテリーの蓄電能力は、5年が経過すると当初の約80%になると予測しています。この数値はあくまでも予測値であり、車両の使用状況によって蓄電能力が低下する割合は変化します。
- リチウムイオンバッテリーには寿命があります。リチウムイオンバッテリーのリサイクル又は処分については、日産販売会社にご連絡ください。お客様自身でリチウムイオンバッテリーのリサイクル又は処分は行わないでください。

リチウムイオンバッテリーの残量が低下したとき

リチウムイオンバッテリーの残量が低下したときは、メーター及びナビゲーション画面に、以下の順に警告が表示されます。

1. 次の警告が同時に表示されます。
   - バッテリー残量警告灯 が点灯する（P.2-14）
   - マスターウォーニング が点灯する（P.2-14）
   - ナビゲーション画面とマルチファンクションディスプレイに残量低下通知が表示される（P.2-27）

   - 航続可能距離表示①が点滅する（P.2-8）

   これらの警告が表示されたときは、ナビゲーション画面の案内に従い、すみやかに最寄りの充電施設で充電してください。なお、ナビゲーションシステムで表示される到達可能範囲内に充電施設が表示されないときは、安全な場所に停車して、日産EVカスタマーセンターにご連絡ください。

2. 航続可能距離が“---”表示になります。②
3. リチウムイオンバッテリーの残量がほぼ0（ゼロ）になると出力制限表示灯 が点灯し、走行用モーターの出力が制限されます。走行できなくなる前に、すみやかに安全な場所に停車し、日産EVカスタマーセンターにご連絡ください。

知識：

警告が表示されるタイミングは、運転のしかたや道路状況、気温などにより異なります。

長期間駐車するとき:

車両を長期間使用しないときは、タイマー充電をOFFにして保管し、3ヶ月に1度ロングライフモードで充電してください。

- 充電ケーブルを接続したままタイマー充電が繰り返されると、12Vバッテリーの電力が消費され、12Vバッテリーあがりのおそれがあります。
- 充電量が少ない状態で長期間放置すると、リチウムイオンバッテリーの性能が低下するおそれがあります。（自然放電により充電量は徐々に低下していきます。）

ロングライフモードによる充電方法については、☞ “タイマー充電”(page CH-16)をお読みください。

知識：

- 出力制限表示灯 は、リチウムイオンバッテリーの温度が上限値又は下限値に達したときや、異常が発生した場合にも点灯します。☞ “出力制限表示灯”(page 2-16) をお読みください。
- 交通渋滞などでナビゲーションシステムに表示された充電施設に到着するまでに、予想以上に時間がかかる可能性があります。できるだけ早く充電施設に向かってください。
- 12Vバッテリーが完全にあがり、ブースターケーブルを接続して、パワースイッチを押しても電源ポジションが走行可能状態に切り替わらないときは、日産販売会社にご連絡ください。ブースターケーブルの接続については、☞ “12Vバッテリーがあがったときは”(page 6-9)をお読みください。

12Vバッテリーの充電について

この車両の12Vバッテリーは、リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力により、自動的に充電されます。

12Vバッテリーを充電しているときは、インストルメントパネル上の充電インジケーターが点滅します。（充電中、走行可能状態を除く）

☞ “充電インジケーター”(page CH-21)をお読みください。

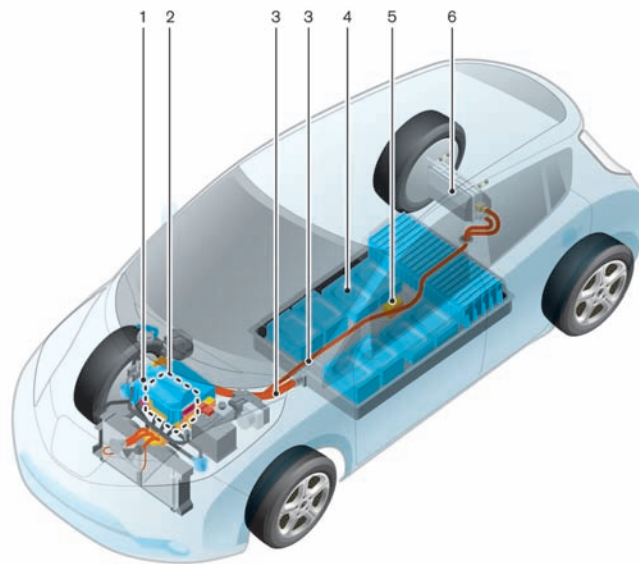
知識：

- 次の場合、12Vバッテリーの電力が低下しても充電が行われません。
  - — 電源ポジションがACCのとき。
  - — 電源ポジションがONでシフトポジションがN（ニュートラル）のとき。

高電圧に関する注意

高電圧部品について

⚠ 警告

- EVシステムは、最大で約400Vの直流高電圧が使用されるため、走行用モーターの作動中や作動後、停止後にシステムが高温になることがあります。車両に貼られているラベルの記載事項に従い、高電圧と高温に注意してください。
- 高電圧ケーブルはオレンジ色で識別されています。高電圧部品とケーブルだけでなく、配線のコネクターも分解や取り外し、交換を絶対に行わないでください。
- 高電圧のケーブルや部品などを分解や取り外し、交換を行うと、重度のやけど又は感電により、重大な傷害又は死亡につながるおそれがあります。高電圧システムには、お客様で整備できる部品はありません。必要な整備については、日産販売会社に依頼してください。

高電圧部品

1. 走行用モーターインバーター
2. 走行用モーター及び減速機
3. 高電圧ワイヤーハーネス(オレンジ色)
4. リチウムイオンバッテリー
5. サービス･プラグ
6. 車載充電器

交通事故に関する注意

⚠ 警告

- 走行が可能な場合は、走行車線から離れた安全な場所に停車し、必ずセレクトレバー上部のⓅスイッチを押して、シフトポジションをP（パーキング）にしてセレクトレバー手前の表示灯、又はロアメーターのシフトポジション表示灯が切り替わったことを確認し、パーキングブレーキをかけてEVシステムをOFFにしてください。
- 高電圧部品又はケーブルが露出していないか確認してください。露出している場合は絶対に触れないでください。
- 万一のとき感電を防ぐために、高電圧配線やコネクター、高電圧部品（インバーターユニット、リチウムイオンバッテリーなど）には触れないでください。
- 車内又は車外で露出した電気配線が見える場合は、感電するおそれがあります。 電気配線には絶対に触れないでください。
- 走行中にフロアに強い衝撃が加わったときは、安全な場所に停車し、フロアを点検してください。
- リチウムイオンバッテリーに漏れ又は損傷が見られる場合は、火災が発生することがあります。 すみやかに日産販売会社にご連絡ください。
- 車内又は車外に漏れ出した液には絶対に触れないでください。リチウムイオンバッテリーから漏れた液体が皮膚や衣服に付着したときには、水道水などのきれいな水で洗い流し、すみやかに医師の診察を受けてください。
- EVシステムから火災が発生したときは、できるだけ早く車両から離れてください。消火するときは、必ず電気火災用の消火器（ABC、BC、又はCタイプ）を使用し、水で消火するときは、消火栓などから大量の放水が可能な場合のみ水での消火を行ってください。不適切な消火器又は、少量の水での消火作業は危険なので絶対に行わないでください。
- けん引が必要なときは、前輪を持ち上げてけん引してください。けん引時に前輪が接地していると、走行用モーターが発電し、EVシステムの部品を損傷するおそれがあります。
- 車両が損傷し、車両が安全であることを確認できない場合は、車両に触れないでください。 車両から離れ、日産販売会社に連絡し、事故車が電気自動車であることを伝えてください。
- この車両に板金･塗装による修理が必要な場合は、リチウムイオンバッテリーパック及び高電圧部品（インバーター、ワイヤーハーネスなど）を取り外してから作業する必要があるため、日産販売会社にご連絡ください。特にリチウムイオンバッテリーパックが損傷しているときなどは、自動車の整備に関する知識がないと重大な傷害を受けるおそれがあります。また、塗装ブースでリチウムイオンバッテリーパックが高温にさらされると、バッテリーの性能が低下するおそれがあります。

高電圧遮断システム

高電圧遮断システムは、エアバッグが作動する衝突や追突のときに作動し、高電圧システムが自動的にOFFになり、走行可能表示灯も消灯します。

ケガ又は事故につながる危険を最小限に抑えるために、高電圧遮断システムを備えています。高電圧遮断システムが作動すると、車両は走行可能状態にできません。 EVシステムを再始動するには、日産販売会社にご連絡ください。

EV（電気自動車）の特徴

警告

- エンジン音がしないため、歩行者には特に注意してください。歩行者は車両の接近や移動、発進に気付かずに、車両の進行方向に近づくおそれがあります。 ☞ “車両接近通報音（VSP）一時停止スイッチ”(page 2-46) をお読みください。
- 車両から離れるときは、必ずEVシステムをOFFにしてください。また、走行可能表示灯が点灯しているときは車両が動き出すことがあるため、必ずセレクトレバー上部のⓅスイッチを押し、シフトポジションをP（パーキング）にしてセレクトレバー手前の表示灯、又はロアメーターのシフトポジション表示灯が切り替わったことを確認してください。
- 車両を発進させるまでは必ずブレーキペダルを踏み込んだままにしてください。 シフトポジションがD(ドライブ)やECO（エコ）、R(リバース)でブレーキペダルから足を離すと、アクセルペダルを踏んでいなくてもクリープ現象で車両が動き出し、重大な傷害を受けるおそれがあります。

知識：

- 加速と減速を繰り返すような運転は、一定の速度で走行するよりもリチウムイオンバッテリーの電力を消費します。EV（電気自動車）は、リチウムイオンバッテリーがあがると走行できないため注意してください。
- この車両には回生協調ブレーキシステムが搭載されています。 回生協調ブレーキシステムは、アクセルペダルを離したときに車両が走行するエネルギーをリチウムイオンバッテリーに回収（充電）し、航続可能距離を延ばします。また、エンジンを搭載した車両のエンジンブレーキの役割を行います。
- シフトポジションがD（ドライブ）位置でアクセルペダルから足を離すと、回生協調ブレーキシステムによって車両は徐々に減速します。
- シフトポジションがECO（エコ）位置でアクセルペダルから足を離すと、D（ドライブ）位置のときよりも回生ブレーキが強くかかります。

- バッテリーの過充電を防ぐため、リチウムイオンバッテリーが満充電のときは、回生協調ブレーキシステムによる減速が少なくなります。また、リチウムイオンバッテリーの温度が高い又は低い（リチウムイオンバッテリー温度計が赤色又は青色の範囲に入っている）ときは、バッテリーの損傷を防ぐために回生ブレーキの作動は自動的に弱くなります。
- 交通状況や道路状況に応じて、回生ブレーキと合わせてブレーキペダルを使用して車両を減速させてください。

音と振動について

次のような音や振動は異常ではありません。

- モータールームから発生するモーターの音
- 電動パーキングブレーキ作動時の音及び振動
- 充電時の冷却水ポンプの音及び冷却ファンの作動音
- タイマーエアコン又は乗る前エアコン（リモート）使用時のコンプレッサー及び冷却ファンの音
- EVシステムを始動又は停止したときのリレー作動の音及び振動（電源ポジションをON又はOFFにしたとき）
- 車両接近通報装置（VSPシステム）の作動音

EV（電気自動車）のある生活（シーンガイド）

シーンガイドでは、リーフの主な機能を1日の流れにそって説明しています。

操作するときは、機能について詳しく説明している参照先を必ずお読みください。

リチウムイオンバッテリーの充電について

⚠ 警告

EV（電気自動車）は高電圧を使用しているため、適切な取り扱いが必要です。リチウムイオンバッテリーを充電する前に“充電”の章を必ず読み、注意事項及び手順に従ってください。

この車両には、以下のような充電方法があります。

種類	充電ポート	充電コネクタ	充電ケーブル(EVSE)/充電器*1	コンセント形状	充電目安時間*2
普通充電(200V)			200V用充電ケーブル(EVSE)		満充電まで約8時間
急速充電			急速充電器		充電量80%まで約30分*4
普通充電(100V)			100V用充電ケーブル(EVSE)*3		満充電まで約28時間

*1：ここに表示した充電機器は、あくまで一例です。
*2：リチウムイオンバッテリーの温度や残量、外気温などにより充電目安時間が異なります。表中の充電目安時間は、リチウムイオンバッテリー温度計の目盛りが7～8個目を表示しているときに、バッテリー残量警告灯が点灯してから充電を開始した場合の目安時間です。
*3：普通充電(100V)に使用する充電ケーブル(EVSE)は、標準装備ではありません。お買い求めになるときは、日産販売会社にご相談ください。
*4：急速充電器の種類により充電時間が異なります。

車に乗る前に

リチウムイオンバッテリーの充電量をお手持ちの携帯電話又はパソコンで確認することができます。

また、あらかじめエアコンを作動させておくこともできます。

知識：

お手持ちの携帯電話又はパソコンを使ったさまざまなサービスを利用するには、カーウイングスサービスへのお申込みが必要です。詳しくは、カーウイングス専用ホームページをご覧になるか、日産販売会社にお問い合わせください。

携帯電話又はパソコンで、充電状態の確認やエアコンを作動させる場合は、車両がカーウイングスの通信圏内に入っている必要があります。

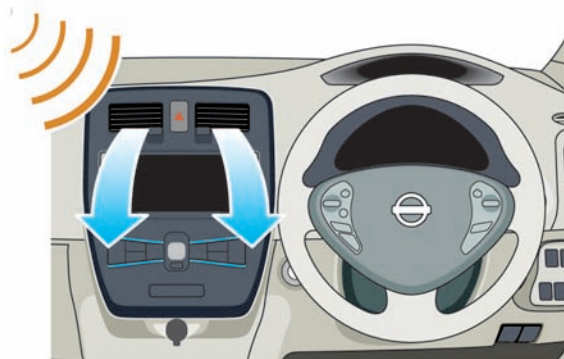
充電量の確認をする

お手持ちの携帯電話又はパソコンを使用して、離れた場所から車の充電量を確認することができるので、出発前にリチウムイオンバッテリーの充電量を確認することができます。

- 事前に充電量を確認することで、目的地までのルートを検討することができます。
- 充電量が少ないときは、リモート充電機能を使って、充電を開始することができます。
- 充電量の確認及びリモート充電機能については、☞ “充電関連のリモート機能について”(page CH-20) をお読みください。

知識：

リモート充電を行うためには、車両に充電ケーブル（EVSE）が接続されている必要があります。お車から降りたときなどに、あらかじめ充電ケーブル（EVSE）を接続しておくことをおすすめします。☞ “普通充電のしかた”(page CH-8) をお読みください。

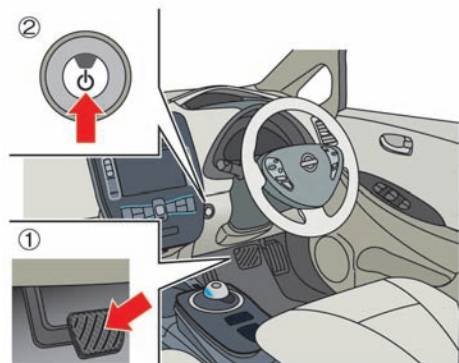
乗る前エアコン（リモート）を使う

お手持ちの携帯電話又はパソコンを使用して、出発前にエアコンを作動させることができます。

- 事前にエアコンを作動させておくことで、車内を快適な温度に近づけることができます。また、充電ケーブル（EVSE）を接続した状態でエアコンを作動させることで、リチウムイオンバッテリーの電力の消費を軽減することができます。☞ “乗る前エアコン（リモート）”(page 4-8)をお読みください。

知識：

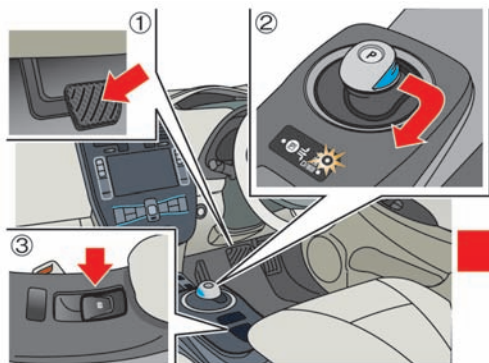
- 乗る前エアコン（リモート）の温度設定は調節できません。極端に暑い日や寒い日は、車内が快適な温度にならないことがあります。
- 充電中に乗る前エアコン（リモート）を作動させると、充電時間が通常よりも長くなります。

車に乗りEVシステムを始動する

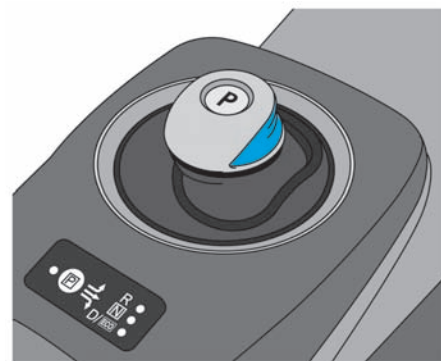
以下の手順でEVシステムを始動します。

1. ブレーキペダルを踏みます。
2. パワースイッチを押します。
3. スタートアップサウンドが鳴り、走行可能表示灯が点灯して、EVシステムが始動します。
4. 必要に応じて、ナビゲーションシステムで目的地を設定します。目的地を設定することで、ルート上の充電施設の確認や、目的地まで走行できるかを確認することができます。詳しくは、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

知識：

- ナビゲーションシステムで目的地を設定しないときは、メーターで充電量と航続可能距離を確認し、目的地まで走行できるか確認してください。メーター表示については、☞ “メーター”(page 2-5)をお読みください。
- メーターに表示される充電量や航続可能距離はあくまで目安です。走行状況やエアコンの使用状態により、航続可能距離まで走行できないこともありますので、早めに充電するように心がけてください。

走行する

1. ブレーキペダルを踏みます。
2. セレクトレバーをD（ドライブ）に動かします。手を離すと、セレクトレバーは中央の位置に戻ります。
3. 電動パーキングブレーキを解除します。
4. ブレーキペダルから足を外してアクセルペダルを踏み、発進します。

知識：

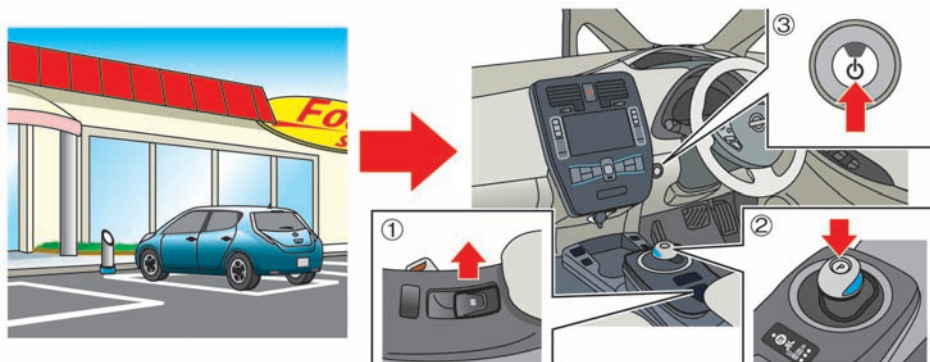
- この車両のセレクトレバーは、手を離すと必ず中央の位置に戻るため、セレクトレバーの位置でシフトポジションの確認ができません。セレクトレバーを操作したときは、必ずセレクトレバー手前のインジケーター又はメーターで、シフトポジションが切り替わったことを確認してください。
- セレクトレバーの操作が完了するまでは、ブレーキペダルを踏み続けてください。ブレーキペダルを踏まずにセレクトレバーを操作すると、ブザーが鳴るとともにシフトポジションの切り替えができません。
- シートベルトを着用した状態でシフトポジションをD（ドライブ）、ECO（エコ）、R（リバース）に入れ、アクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキは自動的に解除されます。

走行中は、ECO（エコ）とD（ドライブ）の2つのシフトポジションが選択できます。

- 通常、街中を走行するときや、航続距離を延ばしたいときは、シフトポジションをECO（エコ）にしてください。D（ドライブ）のときと比較してアクセルペダルから足を離したときの回生ブレーキが強くなり、リチウムイオンバッテリーにより多くのエネルギーが回収され、航続可能距離が延びます。また、加速するときや、エアコンに使用される電力も抑えることができます。ただし、加速力やエアコンの効きは低下します。
- 高速走行時など、走行性能を最大限に引き出したいときは、シフトポジションをD

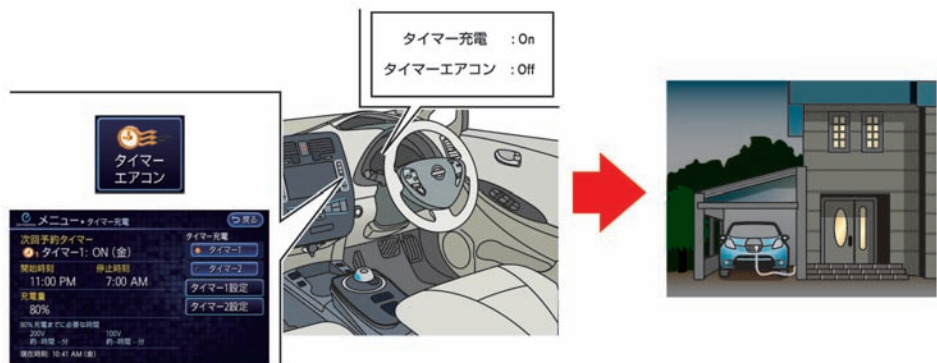
（ドライブ）にしてください。

走行中は、ECOインジケーターでどのくらいエコドライブができているか確認することができます。☞“エコインジケーター”(page 2-9) をお読みください。

充電量が低下してくると、バッテリー残量警告灯 が点灯します。点灯したときは、早めに充電してください。“2.メーター、スイッチ、室内装備”の章をお読みください。

駐車する

1. 車両を完全に停止させ、ブレーキペダルを踏んだまま電動パーキングブレーキをかけます。このとき電動パーキングブレーキスイッチのインジケーターの点灯を確認してください。
2. ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーの上部のⓅスイッチを押します。このとき、セレクトレバー手前の表示灯又はメーターでP（パーキング）に切り替わったことを必ず確認してください。
3. パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにします。
4. 駐車場に充電器が設置されている場合は、必要に応じてリチウムイオンバッテリーを充電します。 充電についての詳細は、“充電”の章をお読みください。

帰宅してから

リチウムイオンバッテリーの充電

帰宅したら、次にお車を使う時に備えて充電の準備をします。

知識：

夜間電力を使って充電するなど、あらかじめ決められた時間帯に充電をするときは、ナビゲーションシステムでタイマー充電の設定をしておきます。詳しい設定のしかたは、☞ “タイマー充電”(page CH-16)をお読みください。

1. お車を車庫に停め、パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにします。このとき、メーターにタイマー充電とタイマーエアコンのON/OFF設定が表示されます。
2. 充電ポートリッドを開けてからお車を降ります。
3. ラゲッジルームから充電ケーブル（EVSE）を取り出して、車両に接続します。☞ “普通充電のしかた”(page CH-8)をお読みください。
4. タイマー充電がONのときは、予約した時刻になると自動的に充電を開始します。タイマー充電がOFFのときは、充電ケーブル（EVSE）を接続するとすぐに充電を開始します。

知識：

- あらかじめタイマー充電が予約されていても、リモート充電を行うことができます。
- 万が一、充電ケーブル（EVSE）の接続を忘れてしまった場合、お手持ちの携帯電話またはパソコンにお知らせしてくれる機能があります。☞ “充電関連のリモート機能について”(page CH-20)をお読みください。

航続可能距離に影響を与える要因

車両の航続可能距離は、以下の要因により大きく異なることがあります。

- リチウムイオンバッテリーの充電量
- 天候や気温などの外的要因
- 運転のしかた（加速のしかたや減速のしかたなど）
- 車両積載量（車に積む荷物の量など）
- 登坂などの地形による要因
- バッテリーの使用経過年数など

航続可能距離を延ばす運転

航続可能距離を延ばすためには、次の運転習慣をおすすめします。

走行する前:

- 充電ケーブルを接続した状態で、乗る前エアコン（リモート）を作動させてください。
- 車両から不要な荷物を降ろしてください。

走行中:

- ECO（エコ）モードで走行してください。ECO（エコ）モードには、次の特徴があります。
  — アクセルペダルから足を離したときにD（ドライブ）よりも回生ブレーキが強くなります。
  — D（ドライブ）よりも加速力が低下します。
  — 消費電力を抑えるため、D（ドライブ）よりもエアコンの効きが弱くなります。
- アクセルペダルの踏み込み量を一定にし、一定の速度で走行してください。ASCD（オートスピードコントロール装置）付車は、ASCDを使用して一定の車速を維持してください。
- 加速/減速時にアクセルペダルの踏み込みと解除をゆっくりと行い、滑らかに加速/減速してください。
- 安全な車間距離を維持し、不必要な停止やブレーキペダルを踏んでの減速を避けてください。
- エアコンの温度を控えめに設定してください。また、エアコンをこまめに停止してください。
- 高速走行中は、空気抵抗を低下させるため、窓ガラスを閉めてください。

車両のメンテナンス:

- 推奨されている定期メンテナンススケジュールに従ってください。
- タイヤ空気圧を適正値に調整してください。
- ホイールアライメントを適正な状態に調整してください。

リチウムイオンバッテリーの寿命

リチウムイオンバッテリーは、時間の経過や使用状況により蓄電能力が低下します。蓄電能力の低下に伴い航続可能距離が短くなりますが、 バッテリー本来の特性であり異常ではありません。

運転のしかた、保管/充電方法、リチウムイオンバッテリー温度などは蓄電能力に影響を与えます。リチウムイオンバッテリーの寿命を延ばすため、次のような運転や充電をおすすめします。

- 車両を外気温が49°C以上の場所に24時間以上放置しない
- 車両を外気温が−25°C以下の場所に7日間以上放置しない

- リチウムイオンバッテリー残量計の表示が0（ゼロ）かほぼ0（ゼロ）の状態で14日間以上放置しない
- 外気温が極めて高いときは、運転又は充電を控える
- 運転後は、車両とリチウムイオンバッテリーが冷えるのを待ってから充電する
- 直射日光の当たらない、熱源から離れた涼しい場所で駐車又は車両を保管する
- 頻繁に（週に一回以上）急速充電するときは、充電量を80%以下にする
- 満充電に近い状態で繰り返し充電を行うのは控える
- リチウムイオンバッテリーを充電するときは、普通充電を使用し、急速充電の使用は最小限に抑える
- 適切な速度で走行する
- ECO（エコ）モードで走行する
- 長距離走行をしない場合は、主にロングライフモードで充電する ☞ "ロングライフモードについて"(page CH-18)をお読みください。
- 車両を長期間使用しないときは、タイマー充電をOFFにして保管し、3か月に1度ロングライフモードで充電する ☞ "ロングライフモードについて"
(page CH-18)をお読みください。

知識：

リチウムイオンバッテリーの残量は、リチウムイオンバッテリー残量計で確認できます。詳細については、☞ "リチウムイオンバッテリー残量計"(page 2-8)をお読みください。

リーフの専用装備

ツインデジタルメーター及び警告･表示灯

作動状態に関する情報を表示するために、次の2つのメーターが装備されています：

- アッパーメーター
- ロアメーター

アッパーメーター

マスターウォーニング：

マスターウォーニングは、アッパーメーターにあります。

警告灯または表示灯が点灯したときは、マスターウォーニングも点灯します。

☞ "警告灯"(page 2-11)をお読みください。

エコインジケーター：

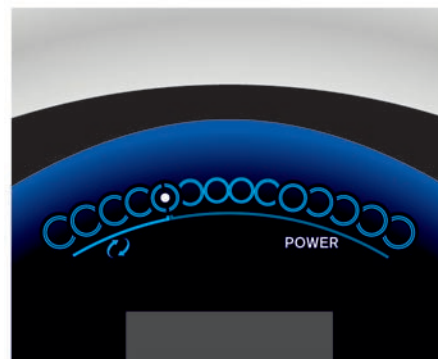
エコインジケーターは、運転をしているその瞬間のエコ運転の状態と、電源ポジションを走行可能状態にしてから、電源ポジションをOFFにするまでのエコ運転度の累積結果を表示し、エコドライブへのモチベーションを高めるものです。 ☞ “エコインジケーター”(page 2-9) をお読みください。

ロアメーター

リチウムイオンバッテリー温度計：

リチウムイオンバッテリー温度計は、リチウムイオンバッテリーの温度を表示します。

☞ “リチウムイオンバッテリー温度計”(page 2-6) をお読みください。

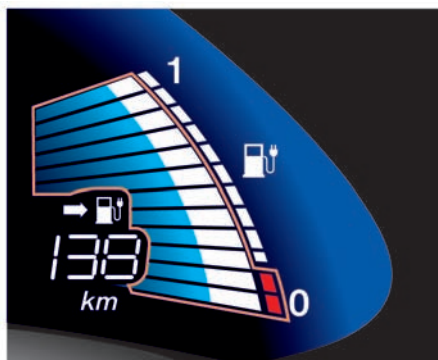
パワーメーター：

パワーメーターは、走行用モーターの出力状態と回生状態を表示します。

☞ “パワーメーター”(page 2-7) をお読みください。

航続可能距離表示：

航続可能距離表示は、リチウムイオンバッテリーの残量と平均電費をもとに航続可能な距離を表示します。

☞ “航続可能距離表示”(page 2-8) をお読みください。

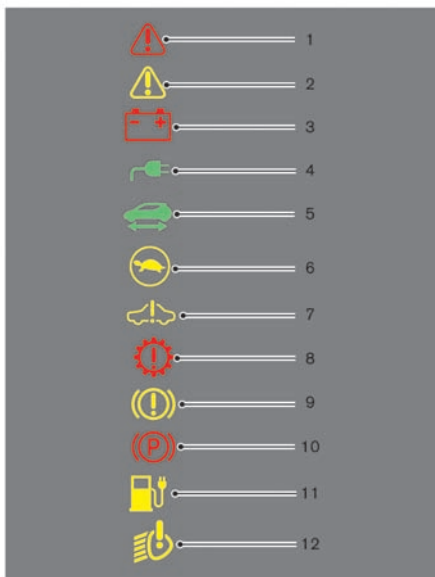
リチウムイオンバッテリー残量計：

リチウムイオンバッテリー残量計は、リチウムイオンバッテリーに残っている電力を表示します。

☞ “リチウムイオンバッテリー残量計”(page 2-8) をお読みください。

リチウムイオンバッテリー容量計：

リチウムイオンバッテリー容量計は、リチウムイオンバッテリーの容量を表示します。

☞ “リチウムイオンバッテリー容量計”(page 2-9) をお読みください。

警告灯及び表示灯

EVシステムでは次のEV（電気自動車）専用警告灯とインジケーターが使用されています。

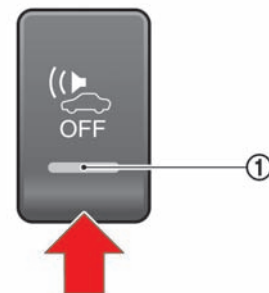
1. マスターウォーニング（赤色表示）
2. マスターウォーニング（黄色表示）
3. 12V系充電警告灯
4. プラグイン表示灯
5. 走行可能表示灯
6. 出力制限表示灯
7. EVシステム警告灯
8. 電制シフト警告灯
9. ブレーキシステム警告灯（黄色表示）
10. 電動パーキングブレーキ警告灯
11. バッテリー残量警告灯
12. ヘッドランプ警告灯

詳細については、☞ “メーター·表示灯·警告灯の見かた”(page 2-11)をお読みください。

車両接近通報装置（VSPシステム）

車両接近通報装置（VSPシステム）は、低速走行中に車両が接近していることを車両接近通報音で歩行者に知らせます。

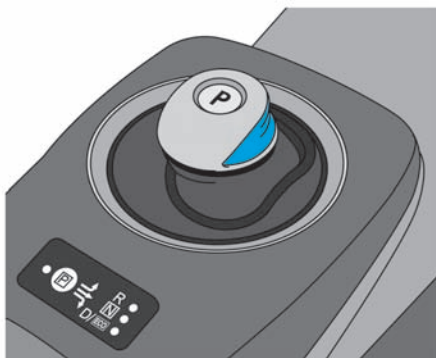
VSPシステムは、以下のときに音を発します。

- 車両を発進し、車速が30km/h以内のとき。
- 減速して、車速が25km/h以下になったとき。
- シフトポジションをR（リバース）にしたとき。

VSPシステムのON/一時停止

1. 電源ポジションをONにします。
2. VSP 一時停止スイッチを押して、VSPシステムを一時停止状態にします。（VSP一時停止インジケーター①が点灯）
3. VSP 一時停止スイッチを再び押すと、VSPシステムがONになります。（VSPスイッチの一時停止インジケーター①が消灯）
4. 電源ポジションをOFFにすると設定はリセットされ、再び電源ポジションをONにするとVSPシステムはONになります。

⚠ 警告

- VSPシステムは、高速道路の渋滞走行などの歩行者がいない状況でのみ、一時停止状態にしてください。歩行者がいる可能性があるときは、絶対にVSPシステムを一時停止状態にしないでください。
- VSPシステムを一時停止状態にして走行すると、近づく車両に歩行者が気づかず、事故が発生して重大な傷害又は死亡につながるおそれがあります。
- 車両から音が聞こえないときは、すみやかに日産販売会社に連絡し、点検を受けてください。

電制シフト

この車両には、電制シフトが搭載されています。

運転者は、シフトポジションをP（パーキング）、R（リバース）、N（ニュートラル）、D（ドライブ）、ECO（エコ）に切り替えられます。

電制シフトには、次の3つの特徴があります。

- 滑らかなシフト操作ができます。
- シフトポジションをP（パーキング）にするときは、セレクトレバー上部のⓅスイッチを押します。
- 電源ポジションをOFFにすると、自動的にP(パーキング)に切り替わります。

☞ “運転のしかた”(page 5-8)をお読みください。

電動パーキングブレーキ

電源ポジションがON又は走行可能状態のとき、ブレーキペダルを踏み込んで電動パーキングブレーキスイッチを操作して、パーキングブレーキをかけたり解除したりします。

パーキングブレーキのかけかた：

ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げます。（電動パーキングブレーキ警告灯と電動パーキングブレーキスイッチ表示灯が約1秒後に点灯）

パーキングブレーキの解除：

ブレーキペダルを踏み込んだ状態で、電動パーキングブレーキスイッチを押し下げます。（電動パーキングブレーキ警告灯と電動パーキングブレーキスイッチ表示灯が消灯）

知識：

パーキングブレーキの自動解除機能：

電動パーキングブレーキは、次のすべての条件が満たされると自動的に解除されます。

- 運転席シートベルトを着用する
- シフトポジションをD（ドライブ）、ECO（エコ）、R（リバース）にする
- アクセルペダルを踏み込む

詳細については、☞ “電動パーキングブレーキ”(page 5-11) をお読みください。

LEDヘッドランプ（ロービーム）

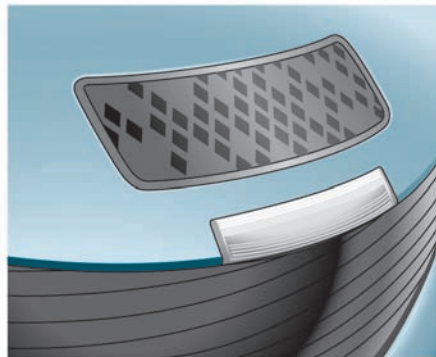
ヘッドランプのロービームに、発光ダイオード（LED）が使用されています。LEDヘッドランプには次の特徴があります。

- 消費電力量が少ない
- 形状がコンパクト

交換するときは、日産販売会社にご連絡ください。

到達予想エリアスイッチ

ステアリング上の到達予想エリアスイッチを押すと、リチウムイオンバッテリーの残量で航続可能な範囲をナビゲーションシステムディスプレイに表示します。 ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

ソーラーセルモジュール*

12Vバッテリーの充電を補助するためにソーラーセルモジュールが装着されています。

ソーラーセルモジュールから、リチウムイオンバッテリーには充電されません。

知識：

次の場合は、ソーラーセルモジュールが充分に機能しないおそれがあります。

- 曇り空などで照度が低いとき
- ソーラーセルモジュールに影がかかっているとき
- 落ち葉や汚れなどが付着したとき

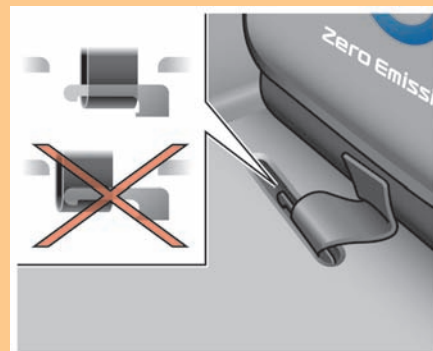
ソーラーセルモジュールのお手入れについては、☞ “ソーラーセルモジュール*”(page 7-3) をお読みください。

*：車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

CH 充電

充電に関する注意事項

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカー又は植え込み型除細動器(ICD)などの医療電気機器を使用している方は、充電がそうした機器に及ぼす影響について医療電気機器製造業者に確認してから充電作業を行ってください。
- 植え込み型心臓ペースメーカー又は植え込み型除細動器(ICD)などの医療電気機器を使用している方は、充電中に次のことをお守りください。
  — 車内にとどまらないでください。
  — 物を取るときなどに、ラゲッジルームを含めた車内に入り込まないでください。
- お子さまなど不慣れな方だけで充電作業を行ったり、充電ケーブル（EVSE）を幼児の手の届くところで使わないでください。
- 充電ポート·充電コネクタ·プラグ·コンセントの金属製接点には触れないでください。
- 充電する前に、充電ポート·充電コネクタ·プラグ部分に水分·サビ·腐食がないこと、及び異物が入っていたり、損傷していたりしないことを確認してください。損傷などが見られる場合は、充電を行わないでください。
- 充電ポート又は充電機器の分解·修理·改造は、絶対にしないでください。
- 異臭又は煙など、充電中の異常に気づいたときは、ただちに充電を中止してください。
- 雷が鳴りだしたときは、充電中でも車両及び充電機器には触らないでください。落雷による感電などのおそれがあります。
- 充電中は、モータールーム内の冷却用ファンが突然回転し始める場合があります。手足や衣類·アクセサリー類などが接触したり、巻き込まれたりしないよう注意してください。

- 充電ケーブル（EVSE）のケース下側についているベルトは、ラゲッジボード下のフックに確実に通してください。フックにベルトが確実に通されていないと、事故などでケースが飛び出すおそれがあります。

⚠ 注意

- 充電機器の損傷を防ぐために、次の点に注意してください。
  — 充電機器に強い衝撃をあたえない
  — 無理に引っぱる·ねじる·折り曲げるなど、ケーブル部分に負担をかけない

— ケーブル部分を踏みつけたり、引きずったりしない

— 充電機器は、ヒーターなどの温度が高くなるものに近づけない

- 充電終了後は、充電ポートのキャップを必ず閉めてください。キャップを閉めずに充電ポートリッドを閉めると、水やゴミが充電ポートに入って故障の原因となります。
- 車両にボディカバーをかけたまま充電しないでください。（リーフ純正ボディーカバーを除く）
- リチウムイオンバッテリーを充電しながら12Vバッテリーにブースターケーブルを接続しないでください。車両又は充電機器が破損するおそれがあります。
- 車両を動かすときは、必ず充電コネクタが車両から取り外されていることを確認してください。充電コネクタが根元まで差されておらずロックがかかっていない場合、走行可能状態にできるため、車両が発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

知識：

- 充電を開始するときは、必ず電源ポジションを一度OFFにしてください。電源ポジションがOFF以外のときは、車両に充電コネクタを接続しても、充電を開始することができません。
- 安全のため、走行可能状態のときに充電コネクタが接続されると、電源ポジションは自動的にONに切り替わります。この状態のままでは充電は開始されませんので、必ず電源ポジションを一度OFFにしてください。
- 外気温が0°C以下のときは、通常よりも充電時間が長くなったり、リチウムイオンバッテリーの充電量が低下する場合があります。
- 車両を長期間使用しないときは、タイマー充電をOFFにして保管し、3ヶ月に1度ロングライフモードで充電してください。

  — 充電ケーブルを接続したままタイマー充電が繰り返されると、12Vバッテリーの電力が消費され、12Vバッテリーあがりのおそれがあります。

  — 充電量が少ない状態で長期間放置すると、リチウムイオンバッテリーの性能が低下するおそれがあります。（自然放電により充電量は徐々に低下していきます。）

  ロングライフモードによる充電方法については、☞ “タイマー充電” (page CH-16)をお読みください。 バッテリー残量警告灯が点灯したときは、ただちに充電してください。
- 充電中は、電源ポジションをONにしてエアコンやナビゲーションシステムを使用できます。 ただし、それらの操作によって電力が消費されるため、充電時間は通常よりも長くなります。
- 充電中に停電が発生したときは、電力の復旧と同時に充電も自動的に再開されます。
- リモート機能でエアコンを作動させるときは、リチウムイオンバッテリーの電力を節約するために充電ケーブルを接続しておくことをおすすめします。
- 充電ポートが凍結したときは、解凍してから充電コネクタの接続又は取り外しを行ってください。凍結したまま充電コネ

クタの接続又は取り外しを行うと、故障の原因になります。

- 充電コネクタや充電ポートに異物が入り接続ができなくなったときは、無理に接続しようとはせず日産販売会社にご連絡ください。 無理に接続しようとすると、充電装置と車両が破損するおそれがあります。
- 充電ポートには排水用の穴があります。この穴が詰まったりして充電ポート内に水が溜まったときは、充電を行わずに日産販売会社にご連絡ください。

雨や雪の中での充電について

この車両は、雨や雪などの悪天候の中でも充電できますが、感電や漏電などを防止するために次のことに注意してください。なお、急速充電器又はケーブル付普通充電器の使いかたや注意事項については、急速充電器の取扱方法に従ってください。

警告

- 大雨などで車両やコンセント周辺が浸水するおそれがあるときは、充電を行わないでください。
- 雷が鳴り出したときは、充電中でも車両及び充電機器には触れないでください。落雷による感電などのおそれがあります。

1. プラグをコンセントに接続するとき
    - ぬれた手でプラグを接続しないでください。
    - プラグは、必ずEV専用コンセント（専用配線、カバーによるロック機構付）に接続してください。
    - 手元スイッチがある場合は、手元スイッチをOFFにしたままで、プラグを接続してください。
    - プラグやコンセントがぬれているときは、乾いた布などで水分を拭き取ってから接続してください。
    - プラグやコンセントが凍結しているときは、凍ったまま無理に接続しようとせず、解凍してから乾いた布などでプラグの水分を拭き取って、接続してください。
2. 充電コネクタを車両に接続するとき
    - 充電ポートリッド内の雪や泥、水分などを除去するときは、充電ポートキャップを閉めた状態で行ってください。
    - 充電ポートのキャップを開けた状態で、充電ポート内に直接水をかけないでください。
    - 充電コネクタや充電ポート内が凍結しているときは、凍ったまま無理に接続しようとせず、解凍してから乾いた布などで水分を拭き取って充電コネクタを接続してください。ごみなどの異物が入り、故障のおそれがあります。
    - 充電ポートには排水用の穴があります。万一この穴が詰まるなどして充電ポート内に水が溜まったときは、充電はを行わずに日産販売会社にご連絡ください。
3. 充電コネクタを車両から抜くとき
    - 充電コネクタが凍結して抜けないときは、手元スイッチを切って解凍してから充電コネクタを抜いてください。
    - 充電中に車両が雪に埋もれてしまっても、感電の危険はありません。雪を除去してから充電コネクタを抜いてください。
    - 充電コネクタを抜いたあとは、充電ポートキャップ及び充電ポートリッドを速やかに閉め、充電コネクタのキャップを確実に取り付けて、雨や雪が入らないようにしてください。
    - 充電ポートキャップ、充電ポートリッドが凍結して動かないときは、無理に動かそうとはせず、必ず解凍してから動かしてください。
    - 充電ポートリッド内の雪や泥、水分などを除去するときは、充電ポートキャップを閉めた状態、又は充電コネクタが接続された状態で行ってくださ

い。

- 充電ポートキャップを開けた状態で、充電ポート内に直接水をかけないようにしてください。ごみなどの異物が入り、故障などのおそれがあります。

4. プラグをコンセントから抜くとき
    - ぬれた手でプラグを抜かないでください。
    - 手元スイッチがある場合は、手元スイッチをOFFにしてから、プラグを抜いてください。
    - プラグやコンセントがぬれているときは、乾いた布などで水分を拭き取ってから抜いてください。
    - プラグやコンセントが凍結しているときは、凍ったまま無理に抜こうとはせず、解凍して乾いた布などで水分を拭き取ってから抜いてください。
    - 保管するときは、プラグについた水分や汚れなどを拭き取ってください。

立体駐車場や公共駐車場などでの充電について

充電設備の設けられた立体駐車場や公共駐車場など、交通量が多い場所や周囲のスペースが狭い場所で充電する場合は、次の点に注意してください。

- 車両走行用の通路側で作業するときは、他の車両に十分に注意してください。
- スペースが狭いときは、充電機器で車両を傷つけないように注意してください。
- 充電機器を接続するときは、他の車両や歩行者の妨げになったり、隣の駐車スペースにはみ出したりしないようにしてください。

機械式駐車場での充電について

充電設備の設けられた機械式駐車場で充電をする場合は、次の点に注意してください。

- 充電機器が、駐車場の機械設備に引っかからないように注意してください。
- 駐車パレット自体が移動、又は回転する駐車場のときは、動作中に充電機器が巻き込まれないように配慮して、充電機器を接続してください。
- 充電ケーブル（EVSE）を使うときは、機械式駐車場に車両を入れる前に、ラゲッジルームから充電ケーブル（EVSE）を取り出してください。機械式駐車場の構造によっては、充電ケーブル（EVSE）を取り出せなくなることがあります。

外出先で充電するときのマナーについて

外出先の充電設備で充電する場合、次のことに注意をしてマナーを守った作業を心がけましょう。

- ことわりなしに他の車両のプラグや充電コネクタを抜いたりしないでください。
- 急速充電が途中で停止したときは、もう一度急速充電器の開始スイッチを押すと充電を再開できますが、次に待っている人がいるときは、追加充電は控えるようにしましょう。
- コンセントボックスや充電器などに扉がついているときは、充電が終了後に必ず閉めるようにしましょう。
- 充電終了後は、次の方のためにすみやかに車両を移動させましょう。

リチウムイオンバッテリー充電の種類と方法

この車両には、以下のような充電方法があります。

種類	充電ポート	充電コネクタ	充電ケーブル(EVSE)/充電器[*1]	コンセント形状	充電目安時間[*2]
普通充電(200V)			200V用充電ケーブル(EVSE)		満充電まで約8時間
急速充電			急速充電器		充電量80%まで約30分[*4]
普通充電(100V)			100V用充電ケーブル(EVSE)[*3]		満充電まで約28時間

*1：ここに表示した充電機器は、あくまで一例です。
*2：リチウムイオンバッテリーの温度や残量、外気温などにより充電目安時間が異なります。表中の充電目安時間は、リチウムイオンバッテリー温度計の目盛りが7～8個目を表示しているときに、バッテリー残量警告灯が点灯してから充電を開始した場合の目安時間です。
*3：普通充電(100V)に使用する充電ケーブル(EVSE)は、標準装備ではありません。お買い求めになるときは、日産販売会社にご相談ください。
*4：急速充電器の種類により充電時間が異なります。

リーフは電気自動車です。この車両はあらかじめリチウムイオンバッテリーに蓄えられた電気を使用して走行するため、走行時はエコドライブを心がけ、充電プランを立てることが重要です。

リチウムイオンバッテリーの充電方法には次の2種類があります。

- 普通充電
- 急速充電

リチウムイオンバッテリーの充電にかかる所要時間は、リチウムイオンバッテリーの充電状態、経年数、温度、接続した電源の状態によって異なります。本書に記載されている充電時間はあくまでも目安であり、これらの条件によって変化することがあります。

普通充電

主にご家庭で日常的に行う充電を普通充電といいます。

リチウムイオンバッテリーの寿命を長持ちさせるには、急速充電は必要最小限にして、極力普通充電で充電することをおすすめします。

普通充電では、AC200VまたはAC100Vの電源を使用し、リチウムイオンバッテリー残量警告灯が点灯してから満充電までAC200Vの場合で約8時間かかります。特別な場合を除き、充電時間が短く実用的なAC200Vのご使用をおすすめします。

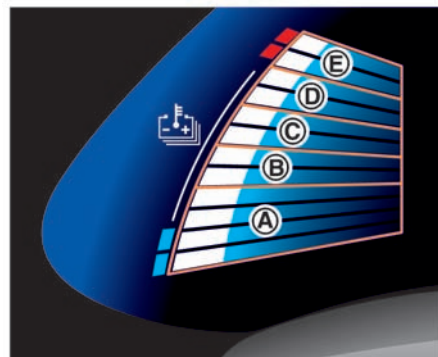
普通充電には、車両のラゲッジルームに搭載された日産純正充電ケーブル（EVSE）を使用してください。また、電源には、工事ガイドの基準に沿ったブレーカー付きの専用回路を使用してください。☞ “普通充電のしかた”(page CH-8) をお読みください。

急速充電

日産リーフには、CHAdeMO（チャデモ）仕様の急速充電器が使用できます。（CHAdeMOとは、日本の電気自動車用急速充電規格です。）

外出先の充電施設に設置された急速充電器を使用して、短時間で行うことのできる充電を急速充電といいます。

週に１回以上の頻度で急速充電を行う場合は、充電量が80%以下での充電を行ってください。

急速充電にかかる時間は、リチウムイオンバッテリーの温度や急速充電器の種類などにより異なります。バッテリー残量警告灯が点灯してから充電量80%まで充電する場合は、リチウムイオンバッテリー温度計の目盛りを基準に、以下の時間を目安にしてください。

	目盛りの数	充電にかかる目安時間
Ⓐ	4個以下	90分以上
Ⓑ	5個～6個	約30分～約90分
Ⓒ	7個～8個	約30分
Ⓓ	9個～10個	約30分～約90分
Ⓔ	11個以上	90分以上

知識：

- 急速充電の連続充電時間は、最大で60分です。指定の充電量になる前に充電が停止したときは、再度急速充電器の開始スイッチを押すと、充電を続けることができます。

- 外気温が0°C以下の場所で長時間駐車していたときは、急速充電の目安時間より長くかかることがあります。

充電量の確認方法

充電量の確認方法は、以下の３種類があります。

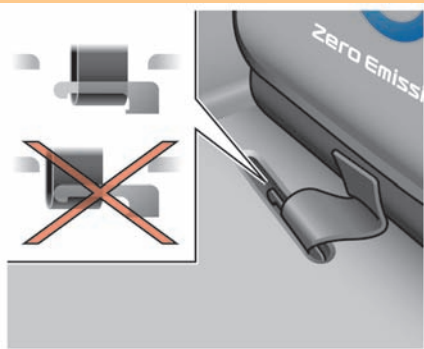
- パワースイッチを押して電源ポジションをONにしたときに、メーターのリチウムイオンバッテリー残量計で確認する。☞ “リチウムイオンバッテリー残量計”(page 2-8)をお読みください。
- 携帯電話又はパソコンで確認する。詳しくは、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- 充電インジケーターで確認する。☞ “充電インジケーター”(page CH-21)をお読みください。

知識：

- 充電中は、パワースイッチを押して電源ポジションをONに切り替えても充電は継続されます。
- 急速充電コネクタと普通充電コネクタを同時に接続すると、充電できなくなります。充電途中に別の充電コネクタを接続すると、充電は中止されます。
- 安全のために、充電コネクタ接続中は走行可能状態に切り替えることはできません。
- 充電中は、電磁波によるノイズのためにラジオが聞こえなくなることがありますが異常ではありません。

普通充電のしかた

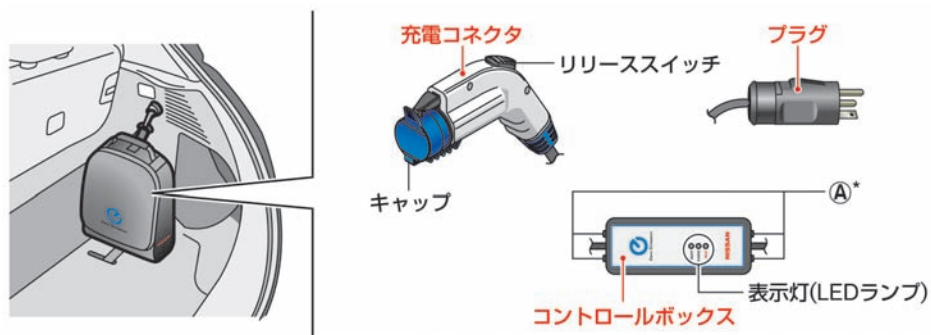
⚠ 警告

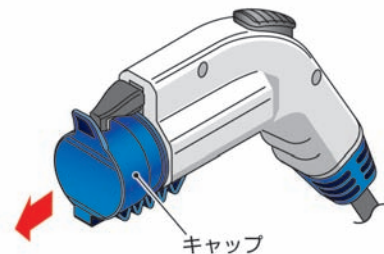
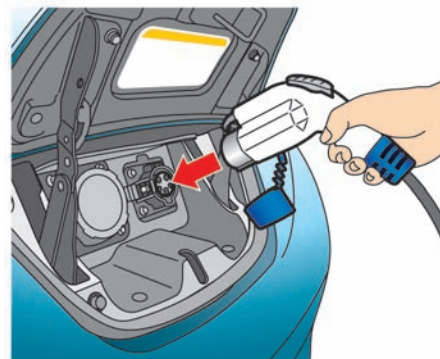
- 日産自動車が推奨する電源回路ガイドラインに基づいた工事を行ってください。推奨の電源回路を使わない場合、配線の異常過熱、ブレーカーによる電気回路の遮断、他の電気機器への悪影響などが発生することがあります。ガイドラインについては、日産自動車のホームページをお読みください。
- 感電又は短絡火災を防ぐために、漏電しゃ断器の設置されたEV/プラグインハイブリッド充電用コンセント（防雨型、ふたロック機構付き）を使用してください。
- 感電のおそれがあるため、ぬれた手でプラグを抜き差ししないでください。
- 火災などのおそれがあるため、延長ケーブルや変換アダプターなどは絶対に使用しないでください。

- 充電ケーブル（EVSE）のケース下側についているベルトは、ラゲッジボード下のフックに確実に通してください。フックにベルトが確実に通されていないと、事故などでケースが飛び出すおそれがあります。

⚠ 注意

- 充電ケーブル（EVSE）は、必ず日産純正品を使用してください。それ以外の機器を使用すると、リチウムイオンバッテリーが正常に充電されず、故障などの原因となります。
- 発電機などは絶対に使用しないでください。電力の著しい変化などで車両が故障するおそれがあります。
- 充電ケーブル（EVSE）の分解·修理·改造は、絶対にしないでください。
- 充電ケーブル(EVSE)の破損などを防ぐために、次の点に注意してください。
  — コントロールボックスを水につけないように注意してください。
  — コントロールボックスに強い衝撃を与えたり、落としたりしないように注意してください。
  — 無理に引っぱる·ねじる·折り曲げるなど、ケーブル部分に負担をかけないでください。
  — ケーブル部分を踏みつけたり、引きずったりしないでください。
  — 充電ケーブル(EVSE)は、ヒーターなどの温度が高くなるものの近くに置かないでください。
  — 充電ケーブル(EVSE)は、周囲の温度が85°C以上になる場所では保管·使用しないでください。
- 充電ケーブル（EVSE）が破損しているときは、充電を行わないでください。

- 普通充電は、充電施設に設置された普通充電器又は、ラゲッジルームに収納された充電ケーブル（EVSE）をAC200V又はAC100VのEV/プラグインハイブリッド充電用コンセントに接続して行います。
- 充電ケーブル（EVSE）は、車両と通信してリチウムイオンバッテリーの充電を行います。充電ケーブル(EVSE)以外の充電器を使用すると、この通信が正常に行われず、充電が正しく行われないおそれがあります。
- 普通充電では、便利な充電方法としてタイマー充電、リモート充電を行うことができます。☞ “便利な充電方法”(page CH-16)をお読みください。

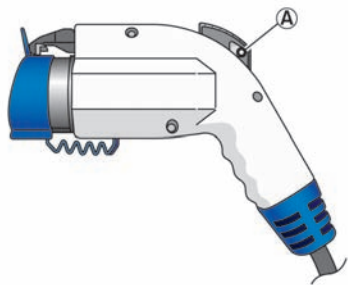
普通充電を開始するには：

1. セレクトレバー上部のⓅスイッチを押して、P(パーキング)に切り替えます。
2. パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにします。電源ポジションがOFF以外のときは充電が開始されません。
3. 充電ポートリッドを開きます。 ☞ “充電ポート”（page 3-17）をお読みください。
4. ラゲッジルームから充電ケーブル(EVSE)を取り出します。
5. プラグをAC200V又はAC100VのEV/プラグインハイブリッド充電用コンセントに接続します。正常に接続されると、コントロールボックスの全ての表示灯が点灯したあと、緑色の表示灯が点灯します。 ☞ “EVSEコントロールボックス表示灯（LEDランプ）”（page CH-24）をお読みください。

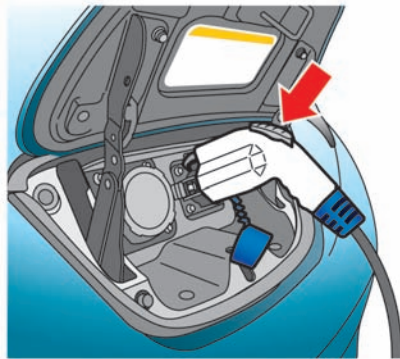
*：イラストのⒶの穴にひもなどを通して、コントロールボックスを壁にかけることができます。

6. 充電コネクタのキャップを外します。

7. 普通充電ポートのキャップを開き、充電コネクタを普通充電ポートにロックがかかるまでまっすぐに差し込みます。正常

に接続されると、ブザーが1回鳴ります。

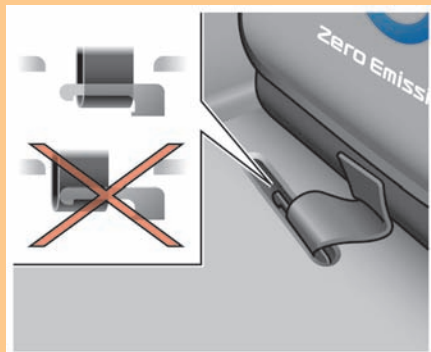
8. 充電が開始されるか、タイマー充電の待機状態になると、ブザーが2回鳴って充電インジケーターの表示が変化します。☞ “充電インジケーター” (page CH-21)をお読みください。

充電中の注意点：

- 充電を途中でやめたいときは、充電コネクタを抜き取ってください。充電は自動的に中止されます。
- 充電中は充電ケーブル（EVSE）が温かくなりますが、異常ではありません。

- 屋外の駐車場などで充電を行うときは盗難防止のため、充電コネクタを接続してからⒶの位置に南京錠を取り付けることをおすすめします。この部分に南京錠を取り付けることで、充電コネクタを車両から取り外すことができなくなります。南京錠については、日産販売会社にご相談ください。
- いたずらや盗難防止のため、充電中に車両を離れるときは必ずドアを施錠してください。コンセントボックスなどに鍵が付いている場合も施錠することをおすすめします。

普通充電を終了するには：

1. 充電コネクタのリリーススイッチを押してロックを解除しながら手前に引いて、充電コネクタを普通充電ポートから取り外します。
2. 普通充電ポートのキャップを閉めてから、充電ポートリッドを閉めます。
3. キャップを充電ケーブル(EVSE)に取り付けます。

4. コンセントからプラグを抜き取り、充電ケーブル(EVSE)をケースに収納します。

⚠ 警告

充電ケーブル（EVSE）のケース下側についているベルトは、ラゲッジボード下のフックに確実に通してください。フックにベルトが確実に通されていないと、事故などでケースが飛び出すおそれがあります。

知識：

充電ケーブル（EVSE）をケースに収納する際には、次の手順に従ってください。

1. ケーブル部分をケースに収まる大きさ（直径約25cm）で巻きます。
2. コントロールボックスをケースの底面に差し込みます。
3. ケーブル部分と充電コネクタをコントロールボックスの手前側に入れて、ふたを閉めます。

外出先で普通充電をするときの注意点

外出先での普通充電には、通常通り充電ケーブル（EVSE）をコンセントに接続するタイプと、充電コネクタ部分までが一体になった普通充電器が設置されているタイプがあります。これらを使って充電する場合は次の点に注意してください。

- 充電作業がしやすく、かつ安全に作業できるように、車両の充電ポートと電源又は普通充電器の位置を考慮した向きで駐車をしてください。
- タイマー充電が設定されているときは、即充電スイッチを押してタイマー充電を一時的にOFFにしてから、車両に充電コネクタを接続しなければならないことがあります。
- コンセントを使用するときは、200Ｖ及び100Ｖともに専用配線に接続されたEV/プラグインハイブリッド充電用コンセントを使用してください。
- 普通充電器の一部は、リーフに対応していないことがあります。ご使用になる前に、リーフに対応していることを充電器本体に表示された操作案内で確認するか、管理者にお問い合わせください。また、リーフに対応しているときは、充電器本体に表示された操作手順にしたがって作業してください。

急速充電のしかた

ここでは急速充電の手順の一例を説明しており、操作手順や充電にかかる時間は、急速充電器の種類によって異なります。

急速充電は、充電施設に設置された急速充電器を利用して短時間でリチウムイオンバッテリーを充電できます。

この車両には、CHAdeMO（チャデモ）仕様の急速充電器が使用できます。（CHAdeMOとは、日本の電気自動車用急速充電規格です。）

警告

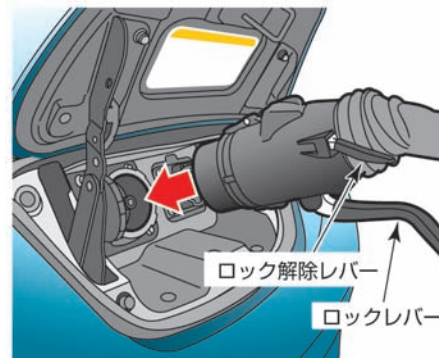
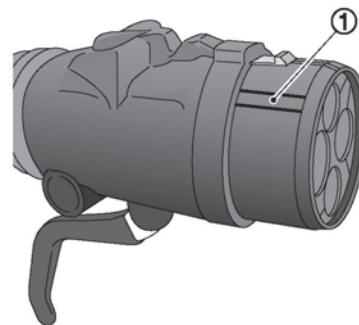
- 必ずリーフに対応した急速充電器を使用してください。対応していない急速充電器を使用すると、火災や故障などのおそれがあります。

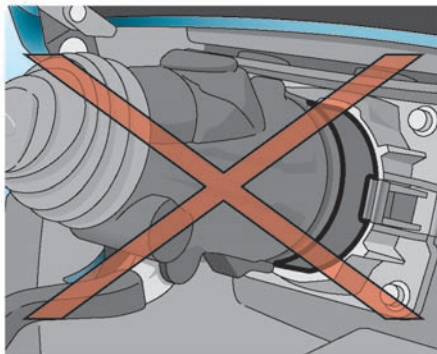
注意

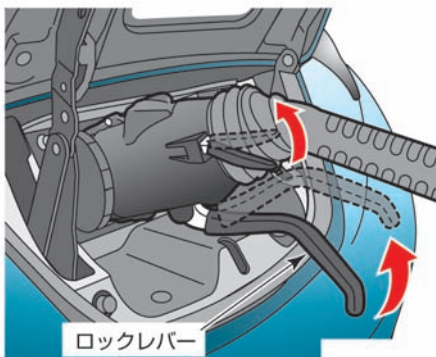
- 急速充電コネクタは普通充電コネクタよりも重いため、落下させるとケガをしたり、車両又は急速充電コネクタを破損したりするおそれがあります。取り扱いには十分に注意してください。

- 必ず急速充電器本体の取扱方法に従い、作業を行ってください。間違った操作を行うと、車両又は急速充電器を破損するおそれがあります。

急速充電を開始するには:

1. セレクトレバー上部のⓅスイッチを押して、P(パーキング)に切り替えます。
2. パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにします。電源ポジションがONのときは、充電が開始されません。
3. 充電ポートリッドを開きます。☞ “充電ポート”(page 3-17)をお読みください。

4. ロック解除レバー及びロックレバーに触れずに、充電ポートと急速充電コネクタの溝を合わせてください。そのまま突き当たるところまでまっすぐに差し込み、

急速充電コネクタを軽く手前に引いて、抜けないことを確認してください。

⚠ 注意

急速充電コネクタを差し込むときは、急速充電ポートに対してまっすぐに根本まで差し込んでください。急速充電コネクタが根元までさし込まれないまま充電を開始すると、リチウムイオンバッテリーが充電されなかったり、充電機器が破損するおそれがあります。

5. ロックレバーをカチッと音がするまで握ってください。ロック解除レバーが上がって急速充電コネクタがロックされます。
6. 急速充電コネクタが確実にロックされていることを確認してから、急速充電器に表示されている手順に従い充電を開始します。正常に充電が開始するとブザーが2回鳴り、インストルメントパネル上の充電インジケーターの表示が変わります。☞ “充電インジケーター” (page CH-21) をお読みください。

次の場合は充電が終了します。

- 充電が完了したとき。
- 充電時間が60分を経過したとき。
- 急速充電器に設定されている充電終了時間になったとき。

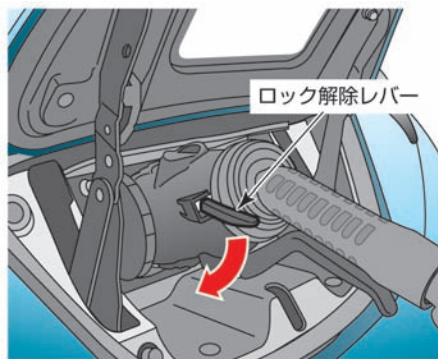
知識：

- 急速充電は、充電開始時のリチウムイオンバッテリーの残量や気温などにより、充電量が100%になる前に充電が停止する場合があります。
- リチウムイオンバッテリーの温度が低い時又は高い時は、充電時間が長くなることがあります。
- 途中で充電が停止したときは、急速充電器の開始スイッチを再び押すと、充電を再開できます。
- 充電中は、急速充電コネクタが急速充電ポートにロックされるため、急速充電コネクタを外すことができません。途中で充電をやめるときは、急速充電器に表示されている手順に従って充電を停止し、充電インジケーターで充電が中止されたことを確認してください。充電が中止されると、急速充電コネクタを車両から取り外しできるようになります。

- リチウムイオンバッテリーの容量が低下している場合や温度が低い場合は、満充電になっても急速充電器のパネルに表示されている充電量が100%にならないことがあります。
- 急速充電は、充電量が高くなるほど充電される速度が遅くなります。

充電を終了するには：

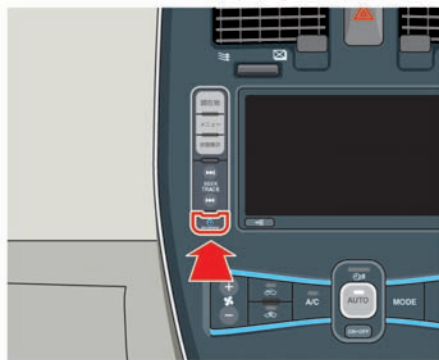
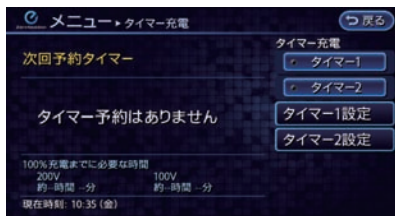
1. インストルメントパネル上の充電インジケーター又は急速充電機本体の表示で、充電が停止していることを確認してください。

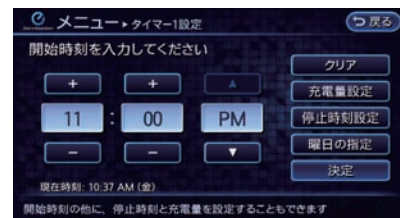
2. ロック解除レバーを押しながら、急速充電コネクタを車両から取り外します。
3. 急速充電ポートのキャップを閉めます。
4. 充電ポートリッドを閉めます。

便利な充電方法

タイマー充電

普通充電にはタイマー機能があり、充電を行う時間帯をあらかじめ予約しておくことができます。この機能により、あらかじめ予約した時刻に充電の開始·停止を自動的に行うことができます。

この機能は、充電の開始時刻と停止時刻の設定を、あらかじめ２種類登録しておくことができます。また、設定した２種類の時刻について、どちらの時間帯に充電するかを曜日ごとに選択して予約することができます。

各曜日に予約した時刻は、次の週にも継続されるため、再設定する必要はありません。

1. Zero Emission（ゼロエミッション）スイッチ を押します。

2. [タイマー充電]をタッチします。

3. [タイマー1設定]又は[タイマー2設定]をタッチします。

4. 開始時刻を入力します。

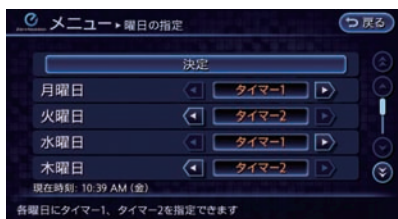
   [充電量設定]をタッチすると、充電量を100%充電又は80%充電から選べます。

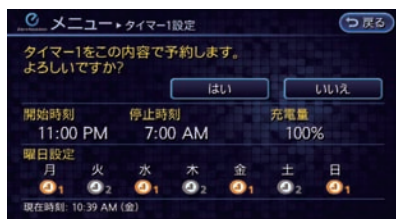
知識：

80%充電はロングライフモードとも言います。普段からロングライフモードを使用すると、リチウムイオンバッテリーの性能低下を抑制する効果があります。詳しくは、☞ “ロングライフモードについて”(page CH-18)をお読みください。

[停止時間設定]をタッチして、タイマー充電の停止時刻を設定します。

5. [曜日の指定]をタッチして、曜日ごとに作動させたい設定を選んでから、[決定]をタッチします。

知識：

[曜日の指定]でOFFを選択すると、その曜日のタイマー充電は行われず、次回のタイマー充電の予約まで待機します。

6. [決定]をタッチすると、確認画面が表示されます。

7. [はい]をタッチします。
   設定が保存され、表示灯が点灯します。
8. パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにして、充電コネクタを接続します。

知識：

- タイマー充電を予約したあとは、必ずパワースイッチを押して電源ポジションをOFFにしてください。電源ポジションがONになっていると、予約した充電開始時刻になっても充電は開始されません。
- タイマー充電は、充電開始時刻と充電停止時刻の両方又はどちらか一方を入力して設定することができます。
  — 充電開始時刻と充電停止時刻の両方を入力したときは、その時間帯のみ充電が行われます。設定した時間帯が必要充電時間より短いと、指定した充電量まで充電されないことがあります。
  — 充電開始時刻のみを入力したときは、その時刻から充電を開始して指定の充電量になるまで充電を続けます。充電開始時刻を過ぎてから充電コネクタを車両に接続すると、次回の充電開始時刻まで充電は開始されません。すぐに充電をしたい場合は、即充電又はリモート充電をお使いください。☞ “即充電スイッチ” (page CH-19) 及び ☞ “充電関連のリモート機能について” (page CH-20) をお読みください。
  — 充電停止時刻のみを入力したときは、その時刻までに指定した充電量となるように充電開始時刻が自動的に設定されます。充電コネクタを車両に接続してから充電停止時刻までの時間が短いとき、又は外気温や供給される電力などの外的要因により充電時間が延びたときは、指定した充電量にならないことがあります。なお、指定時刻よりも早めに充電を停止することがありますが、異常ではありません。
- タイマー充電を解除するには、[タイマー1]又は[タイマー2]をタッチします。表示灯が消灯して予約が解除されます。予約

を解除しても設定した時刻、曜日、充電量は消去されません。

- タイマー充電とタイマーエアコンが両方作動したときは、どちらかの機能を優先するように設定できます。詳しくは、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- 充電施設によっては、時間帯によって電源をON/OFFするタイマー機能を持つものがあります。このような充電施設で充電を行う場合は、充電施設の電源がONになっている時間内でタイマー充電時刻を設定してください。
- 充電中は、タイマー充電の設定は変更できません。充電中にタイマー充電の設定を変更すると、変更内容は次回の予約から反映されます。

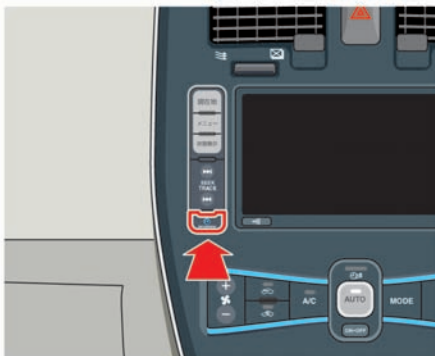
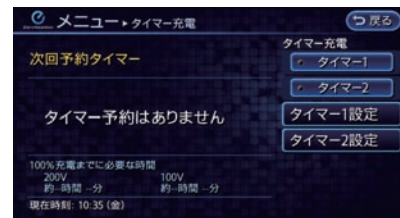
ロングライフモードについて

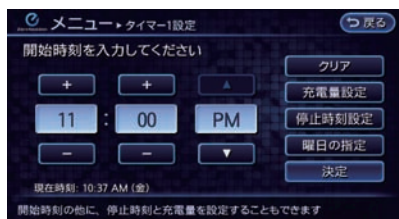
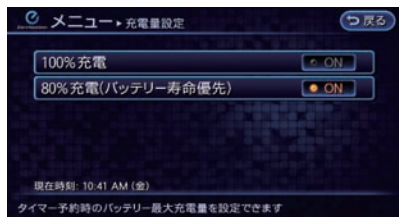
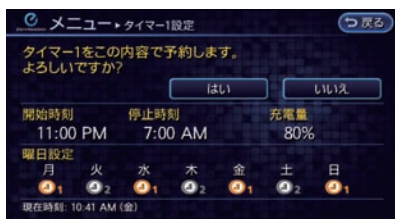
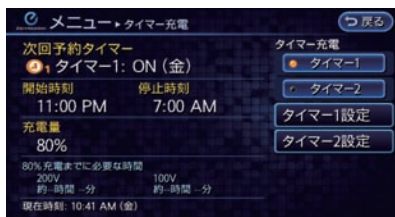
タイマー充電で充電をするとき、充電量80%で充電することをロングライフモードと言います。

リチウムイオンバッテリーの寿命が短くなることを防ぐために、普段の充電はロングライフモードで充電することをおすすめします。

知識：

タイマー充電以外の充電方法でロングライフモード(充電量80%)を設定することはできません。

設定のしかた：

1. Zero Emission（ゼロエミッション）スイッチ を押します。

2. [タイマー充電]をタッチします。

3. [タイマー1設定]又は[タイマー2設定]をタッチします。

4. [充電量設定]をタッチします。

5. [80%充電(バッテリー寿命優先)]をタッチすると表示灯が点灯します。
6. [戻る]をタッチすると元の画面に戻ります。

7. 全ての設定を完了後、[決定]をタッチすると確認画面が表示されます。
8. 確認画面に表示された内容に問題がない場合は、[はい]をタッチします。

9. ロングライフモードに設定した次回の予約から充電量が80%になります。

即充電スイッチ

タイマー充電の予約がされていないときは、充電ケーブル(EVSE)を車両に接続すると自動的に充電が開始されます。

タイマー充電の予約が設定されているときに、すぐに充電を行いたい場合は、以下の手順で即充電を開始してください。

1. パワースイッチを押して、電源ポジションをOFFにします。

2. 即充電スイッチを押します。
3. 充電インジケーターが即充電受け付け状態に切り替わったあと、充電ケーブル(EVSE)を車両に接続します。

知識：

- 即充電スイッチを押すと約15分間、即充電受け付け状態になります。
- 即充電受け付け状態を取り消すときは、もう一度即充電スイッチを押します。

- 即充電開始後に車両から充電ケーブル(EVSE)を取り外すと、充電が停止し、自動的にタイマー充電に切り替わります。再度、即充電を行うには、もう一度即充電スイッチを押してから充電ケーブル(EVSE)を車両に接続します。

充電関連のリモート機能について

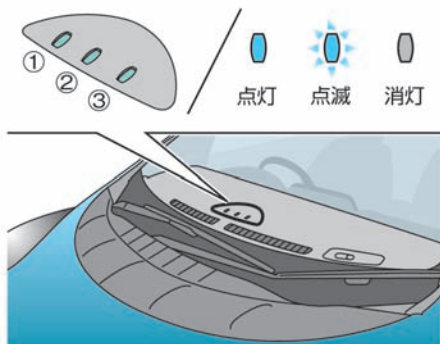
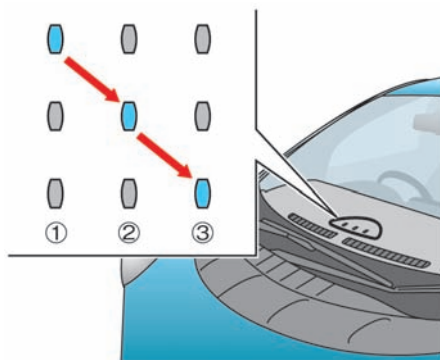
この車両には、TCU（テレマティクス·コミュニケーション·ユニット）と呼ばれる通信機器が搭載されています。 このTCUが日産カーウイングスデータセンターと通信することによって、さまざまなリモート機能サービスを利用することができます。

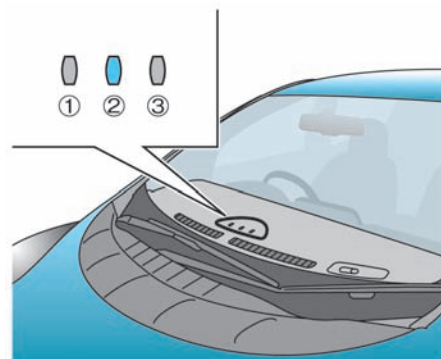
- バッテリー状態チェック：
  パソコン又は携帯電話から、ウェブサイトでリチウムイオンバッテリーの残量や航続可能距離などの確認ができます。
- リモート充電：
  パソコン又は携帯電話から、リチウムイオンバッテリーの充電を開始できます。
- プラグ挿し忘れ通知：
  あらかじめ登録した場所（最大５か所）で電源ポジションをOFFにしたあと、一定の時間後に充電ケーブル（EVSE）が接続されていない場合は、パソコン又は携帯電話にメールでお知らせができます。

知識：

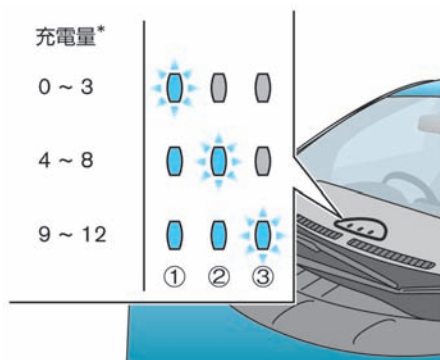
- 上記のサービスを利用するには、カーウイングスサービスに申し込む必要があります。 詳しくは、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- 上記のサービスを利用するには、次の条件が満たされている必要があります。
  — 車両が携帯電話の通信圏内に入っている。
  — ご利用になるパソコン又は携帯電話がインターネットに接続可能な状態になっている。
- ご利用の携帯電話の機種によっては、上記のサービスがご利用できない場合がありますので、 事前にご確認ください。

充電に関わる表示灯について

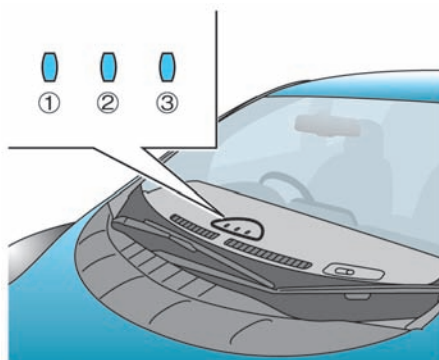
充電インジケーター

充電コネクタが車両に接続されているときは、①～③の充電インジケーターの点灯のしかたで、充電状態が車内外から確認できます。

タイマー充電受け付け状態：

タイマー充電が予約されているときに電源ポジションをOFFにしてから充電ケーブル（EVSE）を接続すると、充電インジケーターは①から③の順に点灯します。充電ケーブル（EVSE）を接続してから約15分後に自動的に消灯します。

即充電受け付け状態：

充電ケーブル(EVSE)が接続されていないときに、電源ポジションをOFFにして即充電スイッチを押すと②のインジケーターが点灯します。

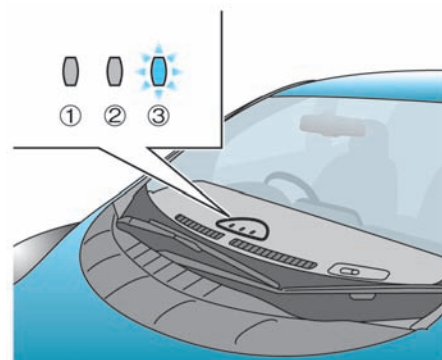
15分以内に充電ケーブル(EVSE)を接続しないと、インジケーターは自動的に消灯して即充電受け付け状態ではなくなります。もう一度、即充電受け付け状態にしたいときは、再度即充電スイッチを押してください。

充電時：

充電中は、リチウムイオンバッテリーの充電量に応じて、充電インジケーターの点灯数が①から順番に増えていきます。

*:ここでの充電量は、メーターにあるリチウムイオンバッテリー残量計の点灯している数を表しています。

充電完了時：

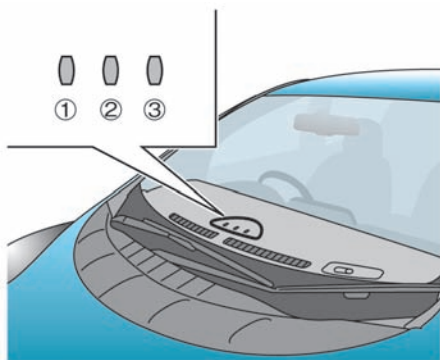
以下の場合はすべてのインジケーターが点灯します。

- リチウムイオンバッテリーが満充電になったとき。
- 急速充電が完了したとき。
- タイマー充電で80%充電が完了したとき。

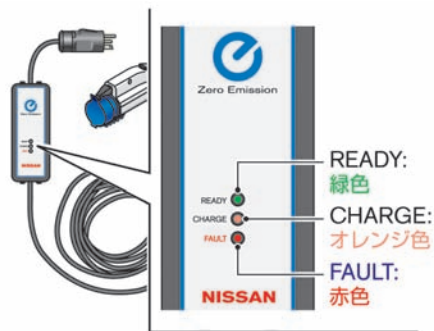
充電インジケーターは、約15分後又は充電コネクタを外すと消灯します。

12Vバッテリー充電時、タイマーエアコン作動時、乗る前エアコン(リモート)作動時：

12Vバッテリーを充電しているとき、タイマーエアコン作動時、乗る前エアコン(リモート)作動時は、インジケーター③が点滅します。

（12Vバッテリーはオーディオ、ワイパー、照明システムなどに電力を供給しています）

☞ “12Vバッテリーの充電について”(page EV-5)をお読みください。

充電していないとき：

リチウムイオンバッテリーが充電されていないときは、インジケーターは点灯しません。

EVSEコントロールボックス表示灯（LEDランプ）

充電ケーブル(EVSE)を使用して充電しているときは、コントロールボックスにある表示灯（LEDランプ）で充電の状態や故障について確認できます。

READY	CHARGE	FAULT	状態及び必要な対応
○	○	○	充電ケーブル(EVSE)のプラグをコンセントに接続するたびに、全ての表示灯が約0.5秒点灯します。
○	●	●	初期処理が完了したあと、充電ケーブル(EVSE)を車両に接続していないか、車両に接続していても充電は行われていないことを示します。
○	○	●	車両に電力が供給されていることを示しています。（充電中、タイマーエアコン中など）
○	●	◎	漏電しているか、充電ケーブル(EVSE)が故障しています。すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
○	●	○	充電ケーブル(EVSE)が故障しています。 すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。
●	●	●	コンセントのブレーカーがオフになっているか、充電ケーブル(EVSE)が故障しています。 コンセントに電源がきているにもかかわらず、プラグをコンセントに接続しても表示灯が点灯しないときは、すみやかに使用を中止し、日産販売会社にご連絡ください。

意味	点灯	点滅	消灯
記号	○	◎	●

充電トラブルシューティングガイド

充電ができないなど、充電の作業中に困ったときは以下の表をお読みください。ここにある項目を確認しても問題が解決できないときは、車両又は充電機器の故障の可能性がありますので、日産販売会社にご連絡ください。

症状	原因	対処法
充電ができない。	車両の電源ポジションがＯＮになっている。	パワースイッチを押して、電源ポジションをＯＦＦにしてください。
	普通充電コネクタと急速充電コネクタが同時に接続されている。	どちらかの充電コネクタを取り外してください。
	すでに満充電になっている。	すでに満充電になっているときは、充電が行われません。
	リチウムイオンバッテリーの温度が極端に高い、又は低い。	メーターのリチウムイオンバッテリー温度計を確認してください。リチウムイオンバッテリーの温度が赤色又は青色の範囲に入っているときは、充電できなくなることがあります。
	12Vバッテリーがあがっている。	電源ポジションをＯＮにしてもメーターなどが点灯しない場合は、12Vバッテリーがあがっている可能性があります。12Vバッテリーを充電するか交換してください。
普通充電ができない。	コンセントまで電力がきていない。	漏電遮断機が作動していたり、停電していたりしないか確認してください。なお、電源にタイマー機能がついている場合、電源に設定されている時間帯までは、コンセントに電力が供給されないものもあります。 また、立体駐車場の場合、駐車パレットが完全に格納されるまでの間やエレベーターの作動中は、電力が遮断されるものがあります。
	プラグがコンセントに正しく接続されていない。	プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。
	充電コネクタが正しく接続されていない。	充電コネクタが正しく接続されているか確認してください。
即充電ができない。	タイマー充電が設定されている。	タイマー充電を解除してから充電コネクタを接続するか、即充電スイッチを押して即充電を開始してください。

症状	原因	対処法
タイマー充電ができない。	充電ケーブル（EVSE）を接続し忘れている。	あらかじめ充電ケーブル（EVSE）を接続してください。
	ナビゲーションシステムの時計がずれている。	ナビゲーション画面の時計の時刻が正しいか確認してください。 なお、交換作業などで12Vバッテリーの脱着をしたあとは、GPSとの通信が行われるまでの間、時刻が設定されません。
	タイマー充電の予約が設定されていない。	タイマー充電が設定されていないときは、即充電が開始されます。タイマー充電の時刻·曜日を設定してください。
	充電開始時刻/充電停止時刻の両方が設定されていて、充電開始時刻前又は充電停止時刻後である。	タイマー充電の設定時刻と現在の時刻を確認し、状況に応じて時刻を設定しなおしたり、即充電を行ったりしてください。
	充電開始時刻のみを設定していて、その時刻を過ぎてしまっている。	
	充電停止時刻のみを設定していて、その時刻を過ぎてしまっている。	
	充電量を80%に設定していて、すでに充電量が80%を超えてしまっている。	すでに80%を超えているときは、充電は開始されません。充電が必要な場合は、100%に設定を変えるか即充電を行ってください。
リモート充電ができない。	充電ケーブル（EVSE）が接続されていない。	あらかじめ充電ケーブル（EVSE）を接続してください。
	通信ができていない。	携帯電話をお使いの場合は、通信圏外になっていないか確認してください。 パソコンをお使いの場合は、インターネットの接続状態を確認してください。
		車両が通信圏外にあるときも通信ができません。
		２週間以上電源ポジションがOFFにされたままだと、リモート機能は自動的にOFFとなります。いったん電源ポジションをONにしてください。

症状	原因	対処法
普通充電が途中で止まってしまう。	コンセントまで電力がきていない。	充電中に漏電遮断器が作動したり、停電が起きたりした可能性があります。この場合、電力が復帰すると自動的に充電も再開されます。
	充電ケーブル（EVSE）が抜けてしまっている。	充電ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
	充電コネクタのリリーススイッチが押されている。	充電コネクタのリリーススイッチがしばらく押されたままになっていると、充電が停止します。
	普通充電コネクタと急速充電コネクタが同時に接続された。	どちらかの充電コネクタを取り外してください。
	タイマー充電の充電停止時刻になった。	充電停止時刻が設定されている場合は、指定した充電量まで充電できていなくても充電は停止します。
	リチウムイオンバッテリーの温度が極端に高い、又は低い。	メーターのリチウムイオンバッテリー温度計を確認してください。外気温の変化などで、充電中にリチウムイオンバッテリーの温度が赤色又は青色の範囲に入ってしまったときは、充電が停止することがあります。
急速充電ができない。	急速充電コネクタが正しく接続されていない。	急速充電コネクタが正しく接続され、かつロックがかかっていることを確認してください。
	急速充電器のセルフチェック機能でNGになってしまった。	車両故障の可能性があります。ただちに充電を停止して、日産販売会社にご連絡ください。
	急速充電器の電源がOFFになっている。	急速充電器の電源がONになっていることを確認してください。

症状	原因	対処法
急速充電が途中で止まってしまう。	急速充電のタイマーで終了している。	急速充電器本体には、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されていることがあり、この時間が経過した場合は充電が停止されます。さらに充電したいときは、もう一度充電開始操作を行ってください。
		急速充電の時間は最大で60分に設定されており、この時間が経過した場合は自動的に充電が停止されます。さらに充電したいときは、もう一度充電開始操作を行ってください。
	充電量が90%付近になった。	リチウムイオンバッテリーの充電残量が半分以下から充電を開始した場合、リチウムイオンバッテリーに負担をかけないように、充電量が90%付近で停止することがあります。さらに充電したいときは、もう一度充電開始操作を行ってください。
	急速充電器の電源が何らかの理由でOFFになってしまった。	急速充電器の電源がOFFになっていないか確認してください。
	普通充電コネクタと急速充電コネクタが同時に接続された。	どちらかの充電コネクタを取り外してください。
	リチウムイオンバッテリーの温度が極端に高い、又は低い。	メーターのリチウムイオンバッテリー温度計を確認してください。外気温の変化などで、充電中にリチウムイオンバッテリーの温度が赤色又は青色の範囲に入ってしまったときは、充電が停止することがあります。

1 シート、シートベルト、SRSエアバッグ

正しい運転姿勢

正しい運転姿勢がとれるよう、ハンドル、シート、ミラーを調節してください。

⚠ 警告

- ハンドル、シート、ミラーの調節は安全のため必ず走行前に行ってください。走行中に調節をすると前方不注意となり危険です。
- 調節したあとは確実に固定されたことを確認してください。ハンドルやシートが固定されていないと突然運転姿勢が変わり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

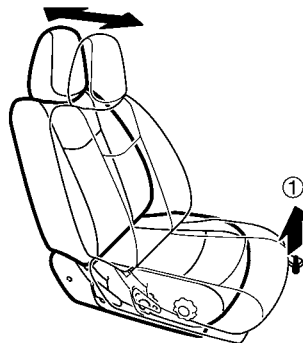
- 調節するときは、動いている部分に手や足などを近づけないでください。挟まれてケガをするおそれがあります。
- 背もたれを調節するときは、背もたれを支えながら調節してください。顔や身体に当たり思わぬケガをするおそれがあります。
- 背もたれと背中の間にクッションなどを入れないでください。運転姿勢が不安定になり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 室内を清掃するときやシートの下に落とした物を拾うときなど、シートの下に手を入れるときは十分に注意してください。シートレールやシートフレームに当たりケガをするおそれがあります。

シート

前席シート

⚠ 注意

シートを調節しているときは、シートの下などの動いている部分に手などを入れないでください。思わぬケガをするおそれがあります。

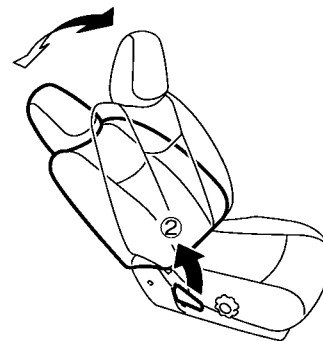
前後位置・背もたれの角度調節

前後位置（スライド）：

レバー①を引いたまま、調節したい方向にシートを動かします。

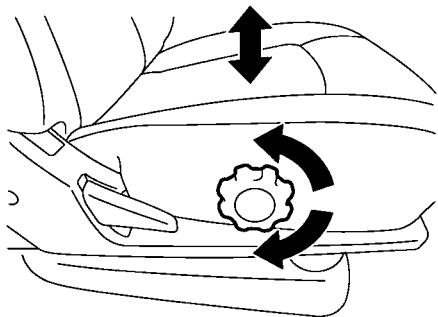
背もたれの角度（リクライニング）：

レバー②を引いたまま、調節したい方向に背もたれを動かします。

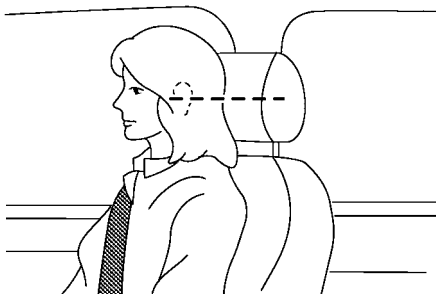
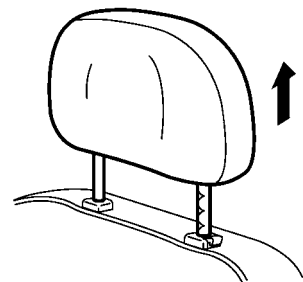
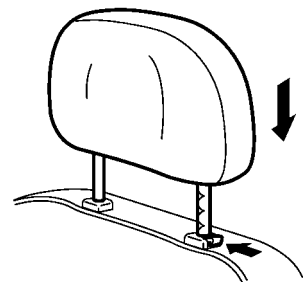
⚠ 警告

背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。

⚠ 注意

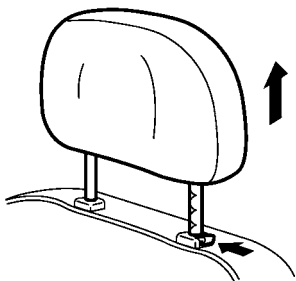
背もたれを起こすときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり戻してください。急に戻すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

シートの上下調節（運転席）

ダイヤルを回し、シートを調節したい高さに合わせます。

ヘッドレストの使いかた

上下調節のしかた：

ヘッドレストの中心が耳の高さになるように調節します。

上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。

下げるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

脱着のしかた：

- 取り外すときは、ボタンを押しながらヘッドレストを引き上げます。
- 取り付けるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを差し込みます。

⚠ 警告

ヘッドレストは外したまま走行しないでください。万一のとき、頭部への衝撃を防ぐことができなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 取り付けるときは、前後の向きを間違えないでください。
- 取り付けたあとは、ヘッドレストを持ち上げ、抜け出さないことを確認してください。万一のとき、ヘッド レストが効果を十分発揮せず、思わぬケガをするおそれがあります。

後席シート

背もたれの倒し方

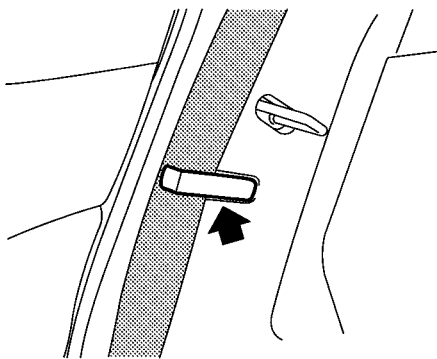
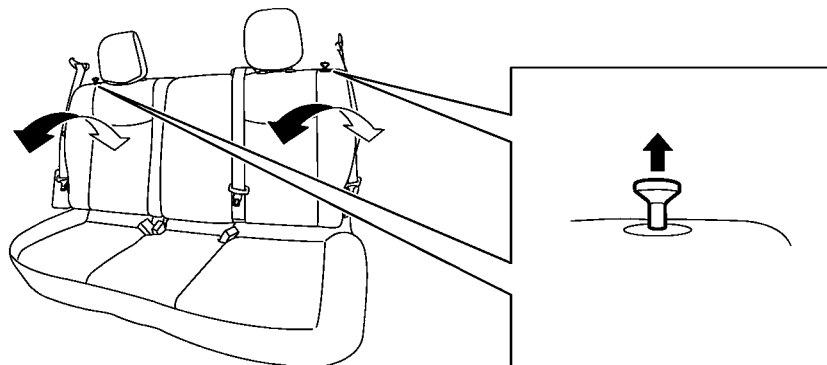
後席シートを折りたたみ、ラゲッジルームのスペースを広げることができます。

左右別々に倒すことができます。

⚠ 警告

ラゲッジルーム（荷室）に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

後席に人が乗っていたり、物や飲物などを置いたまま操作を行うと、ケガをしたり、物を壊したり、室内を汚すおそれがあります。特にラゲッジルーム側から背もたれを倒すときは、後席が見えにくいので注意してください。

● シートベルトをベルトクリップで留めてから操作してください。

後席シート左右にあるノブを引いたままゆっくりと背もたれを前に倒します。

⚠ 注意

背もたれを倒すときは、背もたれを手で押さえ、ゆっくり倒してください。急に倒すと顔や身体などに当たり、思わぬケガをするおそれがあります。

元に戻すとき：

● 背もたれを起こし、手で後方へ押し付けてロックします。

● 背もたれを操作したとき、ノブの赤い部分が見える場合は、シートが正しくロックされていません。その場合はノブを引いてロックを解除し、もう一度背もたれをロックさせてください。

ヘッドレストの使い方（後席）

ヘッドレストは、ロックする位置まで上げた状態で使います。

● 上げるときは、そのままヘッドレストを引き上げます。

● 下げるときは、ボタンを押しながらヘッドレストを下げます。

⚠ 注意

ヘッドレストはロック位置まで上げて使用してください。格納状態では機能が十分に発揮できません。

後席のヘッドレストは調節できません。

ヘッドレストの脱着は、前席シートと同じです。

シートベルト

シートベルトの正しい着用

- 走行する前に全員が必ずシートベルトを着用してください。
- シートベルトは正しい姿勢で正しく着用しないと、シートベルトの効果が十分発揮できなかったり、ベルトによりケガなどをするおそれがあります。
- 次の使用方法、警告にしたがって正しく着用してください。

⚠ 警告

- 走行する前に全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- シートベルトを正しく着用しないと、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。着用するときは以下のことを必ずお守りください。
  — 運転者は正しい運転姿勢で、同乗者は正しい着座姿勢で着用してください。

— ベルトは1人用です。2人以上で1本のベルトを使わないでください。

— ベルトはねじれた状態で着用しないでください。ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、万一のとき衝撃力が分散できず、局部的に強い力を受けることがあります。

— 腰部ベルトは腰骨のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。ベルトが腰骨からずれていると、腹部に強い圧迫を受けることがあります。

— 肩ベルトは脇の下を通さず、確実に肩に掛けてください。肩に十分掛かっていないと、上半身を拘束しないことがあります。

— シートベルトをクリップなどで故意にたるみをつけ、身体から浮いた状態に調節しないでください。ベルトにたるみがあると、十分な効果を発揮しないことがあります。

- シートの背もたれを倒したまま走行しないでください。シートベルトが効果を十分発揮せず、衝突時などに身体がシートベルトの下に入り込み、ベルトにより重大な傷害を受けるおそれがあります。
- バックルや巻き取り装置の中に異物を入れないでください。シートベルトが正常に機能を発揮せず、万一のとき重大な傷害につながるおそれがあります。
- 妊娠中や疾患のある方も、万一のときのためにシートベルトを着用してください。ただし、局部的に強い圧迫を受けるおそれがありますので医師に相談し、注意事項を確認してください。妊娠中の方は、腰ベルトを腹部から避けて腰部のできるだけ低い位置にぴったりと着用してください。肩ベルトは、確実に肩を通し、腹部を避けて胸部に掛かるように着用してください。
- お子さまにも必ずシートベルトを着用さ せてください。お子さまをひざの上に抱いていると、衝突時などにお子さまを支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートベルトが首や顔に当たるなど、適正な着用ができない小さなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシート をお使いください。また、ひとりで座れない小さなお子さまには乳児用チャイルドシートをお使いください
- 一度強い衝撃を受けたシートベルトやベルト部分に傷がついたり破れたりしているシートベルトは、機能を十分発揮しないことがあります。事故などにより衝撃を受けたり傷がついた場合は、日産販売会社に点検を依頼してください。
- シートベルトの清掃は中性洗剤かぬるま湯で行い、乾かしてからお使いください。ベンジンやガソリンなどの有機溶剤は絶対に使わないでください。ベルトの性能が落ち、シートベルトが機能を十分発揮しないことがあります。

知識：

- 運転者がシートベルトを着用していないと、警告灯や警報が作動します。☞“シートベルト警告灯”(page 2-15)及び☞“シートベルト非着用警報(シートベルトリマインダー）”(page 2-18)をお読みください。
- チャイルドシートは年齢、体格に応じて使い分けるように設定しています。☞“各着席位置別チャイルドシート適合表”(page 1-16)をお読みください。

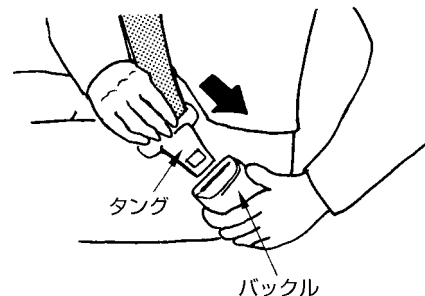
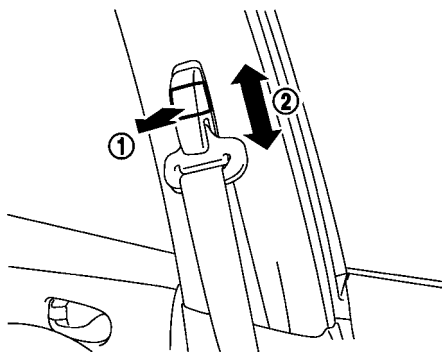
シートベルトの着用のしかた

ELR(緊急固定）付3点式シートベルト

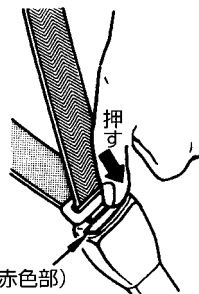
通常は身体の動きに合わせて伸縮しますが、衝突時など強い衝撃を受けると、ベルトが自動的にロッ クし身体を固定します。

1. タングを持ってベルトをゆっくり引き出します。

   ベルトがロックして引き出せないときは、一度ベルトを強く引いてからゆるめ、再度ゆっくり引き出してください。
2. ベルトを腰骨のできるだけ低い位置に掛け、たるみがないように密着させせます。

3. ベルトがねじれないようにして、タングをバックルに“カチッ”と音がするまで確実に差し込みます。

4. 前席は、肩ベルトのアンカー位置の高さを調節します。
   - ノブ①を引きながらアンカー部②を上下させ、ベルトが肩に確実に掛かる位置に調節し手を離します。
   - 手を離したあと、“カチッ”と音がするまで動かし固定させせます。

警告

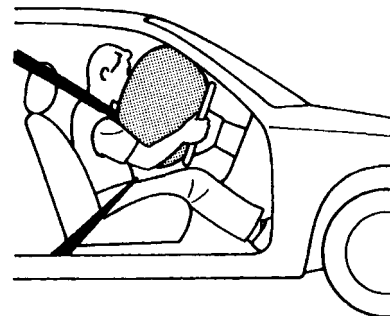
肩ベルトのアンカー位置は確実に肩に掛かるように調節してください。また、アンカーは確実に固定されていることを確認してください。ベルトが肩から外れたり、万一のときシートベルトが十分効果を発揮せず、重大な傷害につながるおそれがあります。

外すときは、バックルのボタンを押し、タングを持ってゆっくり戻 します。

前席ロードリミッター付プリテンショナーシートベルト

正面衝突など車両前方から強い衝撃を受けたとき、装着したシートベルトを瞬時に巻き取るプリテンショナーと乗員に加わるシートベルトの拘束力を一定レベルに保つロードリミッターが付いています。

- 運転席･助手席SRSエアバッグシステムと同時に作動します。

☞ “SRSエアバッグが作動するとき” (page 1-25) をお読みください。

⚠ 警告

使用方法は通常のシートベルトと同じです。正しく着用しないと、プリテンショナー及びロードリミッターの効果が十分発揮できず、重大な傷害につながるおそれがあります。

⚠ 注意

電源ポジションをON後約7秒間はシステムチェックを行うため、プリテンショナーは作動しません。SRSエアバッグ警告灯が消灯してから走行してください。

プリテンションナーシートベルト付車の取り扱いについて

運転席にはダブルプリテンショナー機構がついています。ラップアウタープリテンショナーが腰部シートベルトの緩みを引きこみ、肩部のロードリミッター付プリテンショナーと合わせて乗員の拘束性能を高めます。

⚠ 警告

プリテンショナーシートベルトの部品や配線を修理したり、電気テスターを使ってプリテンショナーのシステムの回路診断をしないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。

⚠ 注意

廃車にするときやプリテンショナーシートベルトを廃棄するときは、必ず日産販売会社にご相談ください。

- プリテンショナーが作動したとき作動音や白煙が出ますが、火災ではありません。
- プリテンショナーは、一度作動すると再使用できません。衝突を起こしたときは必ず日産販売会社で点検を受け、作動済みの場合は交換してください。

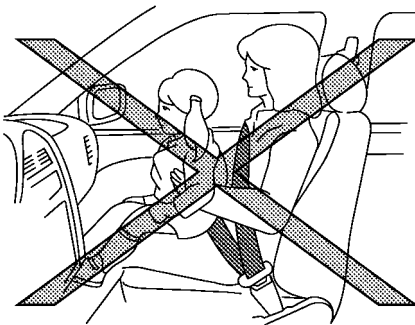
お子さまの安全

お子さまは後席に

助手席に乗せるのは避けてください。お子さまの動作が気になったり、スイッチ、レバー類のいたずらなど安全運転の妨げになるおそれがあります。

また、助手席SRSエアバッグの格納部に近づいていると、万一の事故などでSRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、重大な傷害につながるおそれがあります。

お子さまにもシートベルトを着用

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。お子さまを抱いていると、衝突時などに支えることができず重大な傷害を受けるおそれがあります。☞ “シートベルトの着用のしかた”(page 1-10)をお読みください。

- シートベルトが首や顔に当たったり、腰骨に掛からないような小さなお子さまには、チャイルドシートやジュニアシートをお使いください。また、ひとりで座れない小さなお子さまには、乳児用チャイルドシートをお使いください。

  （詳しくは、日産販売会社にご相談ください。）

チャイルドシートは後席に

- チャイルドシートは後席に取り付け、走行する前に確実に固定されていることを確認してください。

  固定方法及び取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

- 助手席に乳児用チャイルドシートを取り付けたり、チャイルドシートを後ろ向きに取り付けることはやめてください。SRSエアバッグが作動したときに強い衝撃を受け、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。やむを得ず助手席に取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは、必ず後席に取り付けてください。
- チャイルドシートは使用していないときでもシートにしっかりと固定するか、荷室などに収納してください。室内に放置したままにすると、急ブレーキ時などに思わぬ事故につながるおそれがあります。

乳児用チャイルドシート、チャイルドシート、 ジュニアシートの総称として「チャイルドシ ート」と呼んでいます。

チャイルドシート

チャイルドシートについて

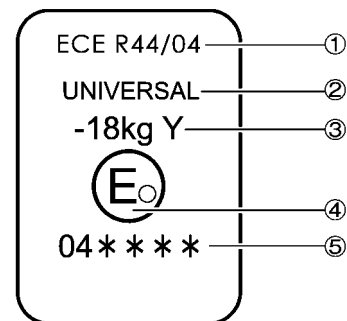
⚠ 注意

- お子さまの年齢や体格にあった、適切なチャイルドシートをお選びください。
- 固定方法及び取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

知識：

この車は2006年10月1日施行の新保安基準に適合したISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーを標準装備しています。

新保安基準適合マーク

新保安基準適合品の汎用（ユニバーサル）チャイルドシートには、下記の認証マークが表示されています。新保安基準適合品をお使いください。

① 法規番号
② チャイルドシートのカテゴリー（UNIVERSALは汎用品の認可であることを表します。）
③ 対象となるお子さまの体重範囲
④ 当該装置を認可した国番号
⑤ 当該装置認可番号

チャイルドシートの質量グループ

ECE R44※の基準に適合するチャイルドシートはお子さまの体重により以下のように分類されます。

質量グループ	お子さまの体重
グループ0	10kgまで
グループ0＋	13kgまで
グループⅠ	9〜18kgまで
グループⅡ	15〜25kgまで
グループⅢ	22〜36kgまで

※ECE R44はチャイルドシートに関する国際

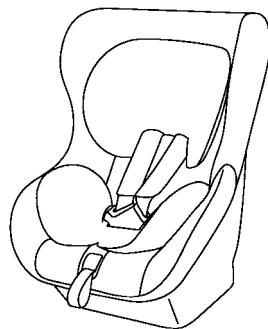
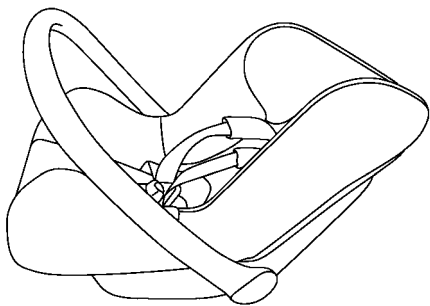
法です。

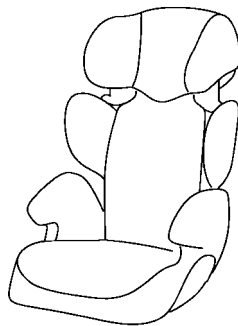
チャイルドシートの種類

乳児用チャイルドシート：

ECE R44基準のグループ0、0＋に相当します

チャイルドシート：

ECE　R44基準のグループ0＋、Ⅰに相当します。

ジュニアチャイルドシート：

ECE　R44基準のグループⅡ、Ⅲに相当します。

各着席位置別チャイルドシート適合表

チャイルドシートの固定方法には、シートベルトで取り付ける方法と、ISO　FIXチャイルドシート固定専用アンカーで取り付ける方法があります。次の表から各着席位置でどのチャイルドシートが使用できるかを選択してください。

シートベルトで取り付けるチャイルドシートについて

選択の目安：

詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

質量グループ	着席位置		
	前席（助手席）	後席左右	後席中央
0 (10kgまで)	×	U	U
0+ (13 kgまで)	×	U	U
I (9 - 18 kg)	×	U	U
Ⅱ(15 - 25kg)	×	U	U
Ⅲ(22 - 36kg)	×	U	U

凡例

U：　この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）区分のチャイルドシートに適合しています。

UF：この質量グループでの使用を許可された、前向き汎用（ユニバーサル）区分のチャイルドシートに適合しています。

X：　チャイルドシートを取り付けることはできません。

日産純正チャイルドセーフティシート：

質量グループ	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0+ (13 kgまで)	日産純正ISO FIX対応ベビーシート	後向き	準汎用

注意

- 表に記載されていないチャイルドシートを使用するときは、チャイルドシート製造業者又は販売業者にご相談ください。

ISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーで取り付けるチャイルドシートについて

選択の目安：

詳しくは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

質量グループ	サイズ等級	固定具	着席位置		
			前席（助手席）	後席左右	後席中央
キャリコット	F	ISO/L1	-	×	-
	G	ISO/L2	-	×	-
0 (10kgまで)	E	ISO/R1	-	×	-
0+ (13 kgまで)	E	ISO/R1	-	IL	-
	D	ISO/R2	-	×	-
	C	ISO/R3	-	×	-
I (9 - 18 kg)	D	ISO/R2	-	×	-
	C	ISO/R3	-	×	-
	B	ISO/F2	-	IUF	-
	B1	ISO/F2X	-	IUF	-
	A	ISO/F3	-	IUF	-
Ⅱ(15 - 25kg)		(1)	-	-	-
Ⅲ(22 - 36kg)		(1)	-	-	-

凡例

IUF：この質量グループでの使用を許可された汎用（ユニバーサル）カテゴリーの前向きチャイルドシートに適合しています。

IL： この質量グループでの使用を許可された、下表に記載されている「日産純正ISO FIX対応ベビーシート」に適合しています。

X： チャイルドシートを取り付けることはできません。

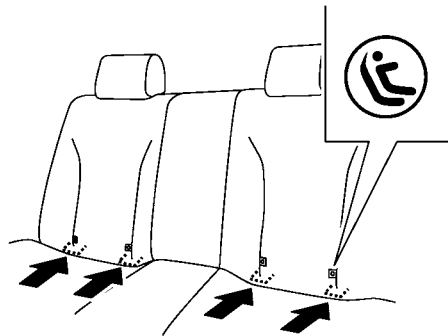
(1)： サイズ等級表示の無いチャイルドシートの各シート位置でのISO FIX対応ベビーシート固定機構の取り扱いについては販売業者にご相談ください。

日産純正チャイルドセーフティシート：

質量グループ	サイズ等級	固定具	商品名	取り付け向き	カテゴリー
0+ (13 kgまで)	E	ISO/R1	日産純正ISO FIX対応ベビーシート	後向き	準汎用

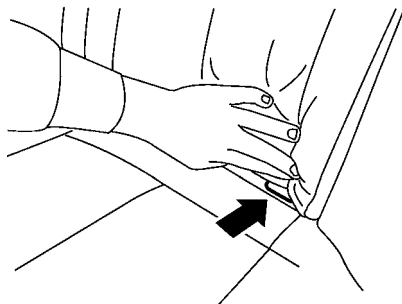
注意

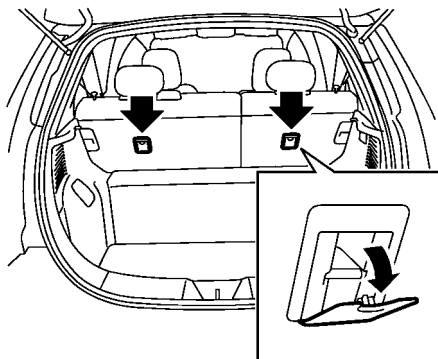
- 日産純正ISO FIX対応ベビーシートの取り付けには別売りのベースキットが必要です。
- ISO FIX対応のチャイルドシートをすでにお持ちの場合、ご使用前に2006年10月1日施行の新保安基準に適合していることを確認してください。新保安基準に適合していないチャイルドシートは取り付けられません。詳しくは日産販売会社にご相談ください。

ISO FIX対応チャイルドシート固定専用アンカーについて

この車両には、ISO FIXに対応するチャイルドシートを固定するための専用のアンカー(固定装置）が装備されています。

> **注意**
>
> ISO FIX対応チャイルドセーフティシートを取り付けるときは、ヘッドレストをロックする位置にしてください。

アンカーの場所

ISO FIX対応チャイルドシート用ロアアンカーは、マーク下側にあります。

アンカーの位置

テザーアンカーは、背もたれ後ろ側にあります。

取り付けかた及び取り外しかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書をお読みください。

> **警告**
>
> - チャイルドシートを取り付けるときは、アンカー部周辺に異物がないことや、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むと チャイルドシートが固定されず、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。
> - チャイルドシートは確実に固定してください。確実に固定されていないと、衝突時や急ブレーキ時にお子さまが重大な傷害を受けるおそれがあります。

知識：

シートカバーを装着するときは、スリットがあるものを使用してください。日産純正シートカバーをおすすめします。

SRSエアバッグ

SRSエアバッグの作動

SRSエアバッグは、シートベルトと併用することで安全性を高めます。シートベルトは必ず着用してください。

※SRSとは、Supplemental Restraint Systemの略でシートベルトの補助拘束装置の意味です。

電源ポジションがONのとき作動可能です。

⚠ 警告

- SRSエアバッグはシートベルトを補助する装置です。SRSエアバッグだけでは、身体の飛び出しなどを防止することはできません。SRSエアバッグの効果を発揮させるため、必ずシートベルトを正しい姿勢で正しく着用してください。
- 乗車するときは必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグが誤って作動したり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。
  — ハンドルまわり、車両前部、インストルメントパネルまわり、前席シートまわり、センターピラー（ロックピラー）まわり、センターコンソールまわり、ルーフサイド部などのSRSエアバッグ格納部を修理するときは、日産販売会社にご相談ください。また、SRSエアバッグ格納部に傷がついていたりひび割れがあるときは、そのまま使用せず日産販売会社で交換してください。
  — SRSエアバッグ格納部に過度の衝撃を与えないでください。
  — 電気テスターを使ってSRSエアバッグの回路診断をしたり、回路を変更しないでください。
  — エアロパーツなどを取り付けたりサスペンションを改造するときは、日産販売会社にご相談ください。不適正な改造をすると衝撃を正しく検知できません。

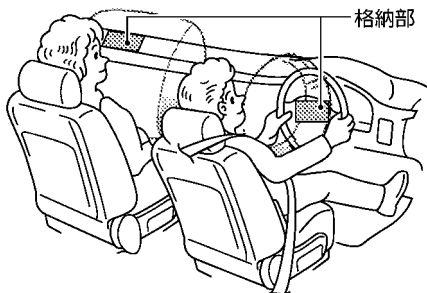
⚠ 注意

- 電源ポジションをONにしたあと約7秒間はメーター内のSRSエアバッグ警告灯が点灯し、システムチェックを行うため、SRSエアバッグは作動しません。警告灯が消灯してから走行してください。
- SRSエアバッグは膨らんだあと高温になるため、30分以内はさわらないでください。やけどをするおそれがあります。
- SRSエアバッグは高温のガスにより高速で膨らむため、事故の状態によっては、擦過傷、打撲、やけどなどを負うことがあります。
- SRSエアバッグが膨らむとき、作動音や白煙が出ますが火災ではありません。また、発生するガスによりむせることがありますが毒性はありません。ただし、SRSエアバッグ作動時の残留物（カス）などが目や皮膚に付着したときは、できるだけ早く水で洗い流してください。皮膚の弱い方などは、まれに皮膚に刺激を感じることがあります。

- 廃車にするときやSRSエアバッグを廃棄するときは必ず日産販売会社にご相談ください。SRSエアバッグの作動により、思わぬ傷害を受けるおそれがあります。

知識：

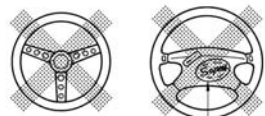
- 助手席SRSエアバッグが作動した衝撃でフロントガラスが割れることがあります。
- 運転席、助手席SRSエアバッグは膨らんだあとすぐにしぼむので、視界の妨げになることはありません。
- SRSエアバッグは、一度膨らむと再使用できません。日産販売会社で交換してください。

運転席·助手席SRSエアバッグシステム

車両前方から強い衝撃を受けたときSRSエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の頭部にかかる衝撃を緩和するシステムです。

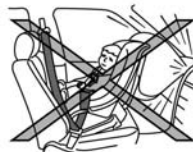
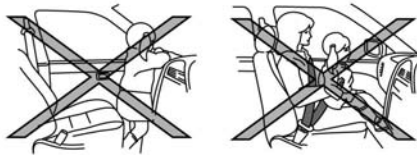
- 運転席SRSエアバッグは、ハンドル部に格納されています。
- 助手席SRSエアバッグは、助手席側インス トルメントパネル部に格納されています。 乗員がいなくても運転席と同時に作動します。

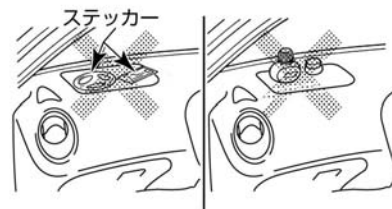
⚠ 警告

必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受けたり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

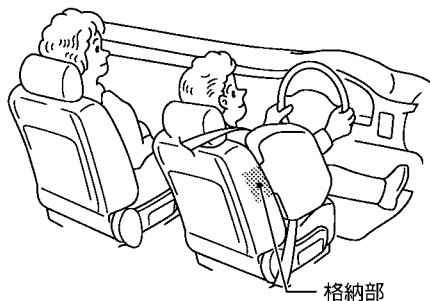
- 運転席SRSエアバッグシステム
  - — ハンドルから顔をできるだけ（約30cm 以上）離し、ハンドルにもたれかかるなどSRSエアバッグ格納部に手や顔、胸などを不必要に近づけないでください。 また、内がけでのハンドル操作はしないでください。
  - — 不適正なハンドルに交換したり、センターパッド部（SRSエアバッグ格納部） にステッカーなどを貼らないでください。

— 前面ガラスにアクセサリーなどを付けないでください。

- 助手席SRSエアバッグシステム

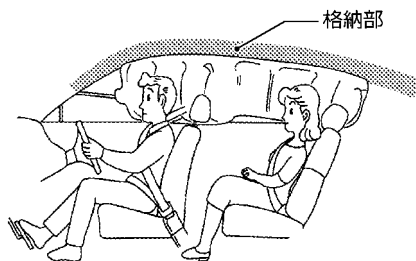
— インストルメントパネル（SRSエアバッグ格納部）に手や足を置いたり、顔や胸などを近づけないでください。また、お子さまをSRSエアバッグ格納部の前に立たせたりひざの上に抱いたりせず、後席に乗せてください。

— チャイルドシートは後席シートに取り付けてください。やむを得ず助手席シートに取り付けるときは、シートをできるだけ後ろに下げ、必ず前向きに取り付けてください。乳児用チャイルドシートなど後ろ向きにしか使用できないシートは必ず後席シートに取り付けてください。

— チャイルドシートは走行する前に確実に固定されていることを確認してください。固定方法及び取り扱いかたは、チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

— インストルメントパネル上面及び前面にステッカーなどを貼ったり、アクセサリーや芳香剤などを置かないでください。

運転席･助手席SRSサイドエアバッグ、カーテンエアバッグシステム

運転席･助手席SRSサイドエアバッグシステム：

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSサイドエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に胸部にかかる衝撃を緩和するシステムです。

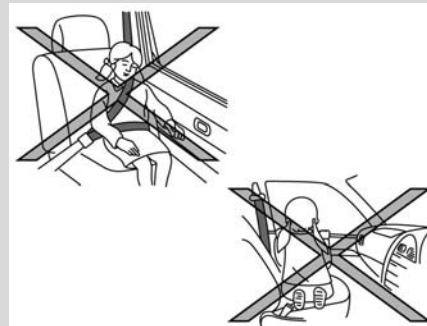
SRSサイドエアバッグは、シート背もたれ側面（外側）に格納されています。助手席は乗員がいなくても作動します。

SRSカーテンエアバッグシステム：

車両側面から強い衝撃を受けたとき、衝撃を受けた側のSRSカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、乗員の主に頭部にかかる衝撃を緩和するシステムです。

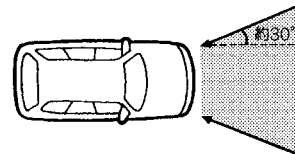
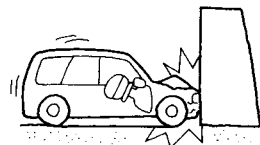
SRSカーテンエアバッグは左右のルーフサイドに格納されています。助手席側は乗員がいなくても作動します。

⚠ 警告

- 必ず次のことをお守りください。守らないと、SRSエアバッグ作動時に強い衝撃を受けたり正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

— ドアにもたれるなど、前席シート背もたれ側面（外側）のSRSサイドエアバッグ格納部及びSRSカーテンエアバッグ格納部に近づかないでください。特にお子さまが窓から腕を出したり、前席シートの背もたれを抱えたりしないように注意してください。

— 前席ドアをガラスが割れるほど強く閉めないでください。SRSエアバッグが誤作動するおそれがあります。

SRSエアバッグが作動するとき

正面衝突時や側面衝突時において、乗員がシートベルトを正しく着用していても重大な傷害を受けるおそれのあるような衝撃を受けた場合に作動します。しかし衝撃が車体で吸収又は分散され、車両の損傷は大きくても乗員への衝撃が強くならない場合には、必ずしも作動するとはかぎりません。

運転席･助手席SRSエアバッグシステム

次のような衝撃が強いときに作動します。

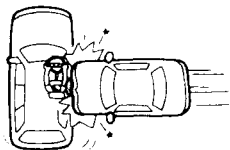
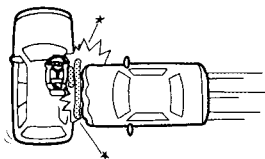
- 25km/h以上の速度で厚いコンクリートのような壁に正面衝突したとき。
- 車両前方左右、約30度以内の方向から強い衝撃(上記と同等）を受けたとき。

次のような、車両下部に強い衝撃を受けたときも作動することがあります。（車両の損傷は少なくても乗員への衝撃は強いとき）

- 高速で縁石などに衝突したとき。
- 深い穴や溝に落ち込んだとき。
- ジャンプして地面にぶつけたとき。

運転席･助手席SRSサイドエアバッグシステム、SRSカーテンエアバッグシステム

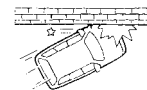
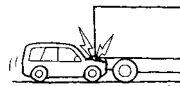
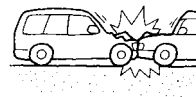
次のような衝撃が強いときに作動します。

- 一般的な乗用車に25km/h以上の速度で側面に真横から衝突されたとき。

〈SRSサイドエアバッグシステム〉

〈SRSカーテンエアバッグシステム〉

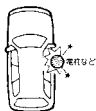
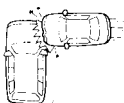
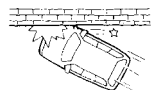
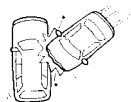
SRSエアバッグが作動しにくいとき

次のような衝撃が弱いときは作動しないことがあります。衝突したものが変形したり移動したときや、衝突したものの形状や衝突の状態によって衝突時の衝撃が緩められたときは、作動しにくくなります。

運転席･助手席SRSエアバッグシステム

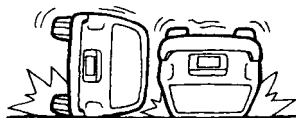
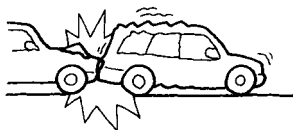
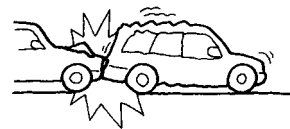
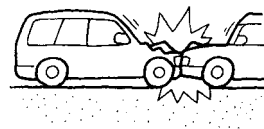
- 停車している同クラスの車に約50km/h以下の速度で衝突したとき。
- 衝突時に折れない電柱などに約30km/h 以下の速度で正面衝突したとき。
- トラックなどの荷台の下にもぐり込んだようなとき。
- 斜め前方からガードレールなどに衝突したとき。

運転席･助手席SRSサイドエアバッグシステム･SRSカーテンエアバッグシステム

- 側面に斜め方向から衝突されたとき。
- 側面にバイクが真横から衝突したとき。
- モーター ルーム（ラゲッジルーム）に衝突されたとき。

- 横転、転覆したとき。
- 斜め前方から衝突したとき。
- 電柱などに衝突したとき。

SRSエアバッグが作動しないとき

一度、SRSエアバッグが作動したあとに衝突しても作動しません。また、次のようなときは作動しません。

運転席･助手席SRSエアバッグシステム

- 横方向や後ろから衝突されたとき。
- 横転、転覆したとき。

運転席･助手席SRSサイドエアバッグシステム、SRSカーテンエアバッグシステム

- 停車中や走行中の車に正面衝突したとき。
- 後ろから衝突されたとき。

2 メーター、スイッチ、室内装備

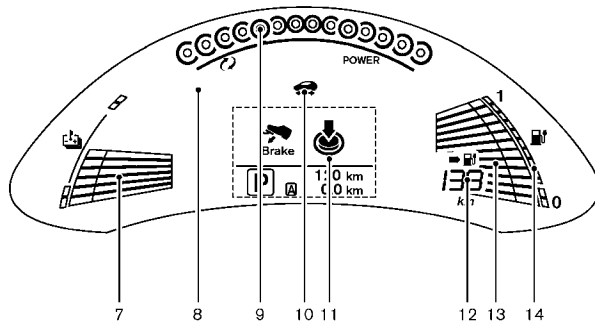
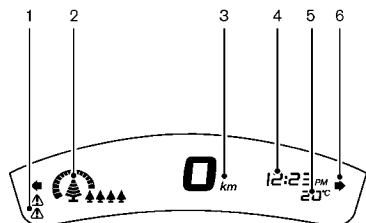
運転席まわり

1. ステアリングスイッチ（左側）（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
   — Ⓐ 到達予想エリアスイッチ
   — オーディオスイッチ
   — Bluetooth®ハンズフリーフォン
2. ワイパー･ウオッシャースイッチ
3. ハンドル
   — EPS(電動パワーステアリング)
   — ホーン
   — 運転席SRSエアバッグシステム
4. ステアリングスイッチ（右側）
   — ASCD(オートスピードコントロール）スイッチ*
5. ヘッドランプ、方向指示器スイッチ
   — ヘッドランプ
   — 方向指示器
6. ツイントリップメーター用TRIP/RESETスイッチ
7. ドライブコンピュータースイッチ
8. イルミネーションコントロールスイッチ
9. 電動パーキングブレーキ
10. セレクトレバー
11. ハンドル位置調節レバー
12. ステアリングヒータースイッチ*
13. 即充電スイッチ
14. 車両接近通報音（VSP）一時停止スイッチ
15. VDC OFFスイッチ

*： 車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

インストルメントパネル

1. 助手席SRSエアバッグ
2. 非常点滅表示灯スイッチ
3. ナビゲーションシステム（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
   — 車両情報及び設定スイッチ
   — Bluetooth®ハンズフリーフォン
   — オーディオシステム
4. ツインデジタルメーター
5. 発炎筒
6. グローブボックス
7. エアコンスイッチ
8. iPod®コネクター/USBコネクター（ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。）
9. 電源ソケット
10. ウインドーデフォッガースイッチ
11. AUX入力端子　（ナビゲーションシステム取扱説明書ををお読みください。）
12. ヒーターシートスイッチ（前席）*
13. パワースイッチ
14. フードオープナー
15. 充電ポートリッドオープナー

*：　車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

メーター

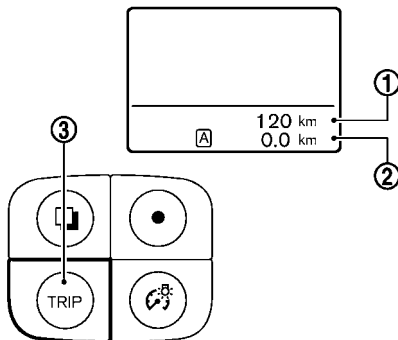
ツインデジタルメーター

1. マスターウォーニング
2. エコインジケーター
3. スピードメーター
4. 時計
5. 外気温計
6. 方向指示器/非常点滅表示灯
7. リチウムイオンバッテリー温度計
8. 警告灯/表示灯
9. パワーメーター
10. 走行可能表示灯
11. マルチファンクションディスプレイ
    — オドメーター/トリップメーター
    — ドライブコンピューター
    — シフトポジションインジケーター
    — タイマー表示
12. 航続可能距離表示
13. リチウムイオンバッテリー残量計
14. リチウムイオンバッテリー容量計

スピードメーター及びオドメーター

スピードメーター (速度計)

走行速度を表示します。

オドメーター (積算距離計) /トリップメーター (区間距離計)

オドメーター①/ツイントリップメーター②は、電源ポジションをON又は走行可能状態にしたときにマルチファンクションディスプレイに表示されます。

オドメーター（積算距離計）は、車両の総走行距離を記録します。

ツイントリップメーターは、2種類の各区間走行距離を表示します。

表示を変更するには：

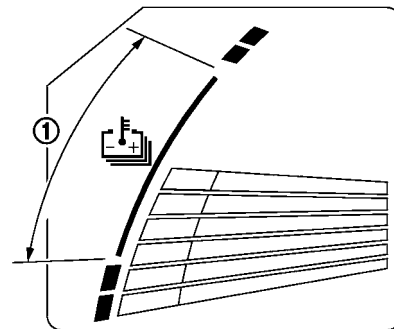
メーターの右側にあるトリップスイッチ③を押すと、トリップメーター表示は次のように変化します。

TRIP A → TRIP B → TRIP A

マルチファンクションディスプレイの詳細については、☞ “マルチファンクションディスプレイ”(page 2-18)をお読みください。

トリップメーターをリセットするには：

トリップスイッチ③を約1秒間押すと、TRIP A、TRIP Bのうち、表示されている方のトリップメーターは0（ゼロ）にリセットされます。

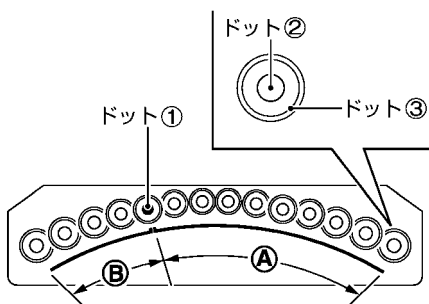
リチウムイオンバッテリー温度計

リチウムイオンバッテリーの温度が表示されます。

リチウムイオンバッテリーの温度は、イラストのように表示がゾーン①内のときは標準範囲です。

リチウムイオンバッテリーの温度は、外気温、充電状況及び運転状況によっても変化します。

知識：

- 温度表示が赤色の付近にある場合は、減速してリチウムイオンバッテリー温度を下げてください。 温度表示が標準範囲を超え、出力制限表示灯が点灯しているときは、走行用モーターに供給される最大電力は制限されます。 そのため、アクセルペダルを踏んでも車速が上がらなくなることがあります。 ☞ “出力制限表示灯”(page 2-16) をお読みください。
- 外気温が極端に低く、リチウムイオンバッテリー温度計の目盛が表示されていないときは、EVシステムが作動しないおそれがあります。

パワーメーター

パワーメーターは、アクセルペダルを踏んだり、戻したりしたときのリチウムイオンバッテリーから走行用モーターへの出力電力、及び回生ブレーキ使用時の走行用モーターからリチウムイオンバッテリーへの回生電力を表示します。

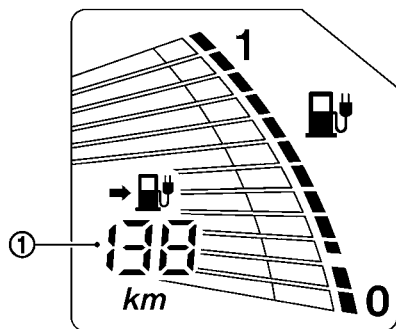
電源ポジションがON又は走行可能状態で停車しているとき、ドット①が点灯し、出力電力及び回生電力が0(ゼロ)であることを表示します。

ドット①を起点として、出力電力はⒶの範囲、回生電力はⒷの範囲内でドット②が点灯します。(ドット②の数が多いほど、出力電力及び回生電力が多いことを示します。)

ドット②で表示できる範囲は、ドット③の丸枠が2重で表示されている範囲です。ドット③の丸枠表示は、リチウムイオンバッテリーの状態（温度や充電状況など）により円がひとつになったり2重になったりします。

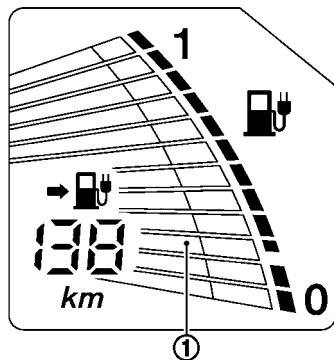
知識：

- リチウムイオンバッテリーが満充電のときは、リチウムイオンバッテリーの過充電を防ぐために、回生電力は自動的に制限されます。
- 以下の条件で、ドット③の2重表示が、外側からひとつ表示になっていき、②のドットは、2重表示までしか増加しません。
  - — リチウムイオンバッテリーの温度計の表示が標準範囲外になったとき。
  - — 走行用モーターの温度が高いとき。
  - — リチウムイオンバッテリーの充電量が低いとき。（Ⓐ側の表示のみ2重表示がひとつになります。）
  - — リチウムイオンバッテリーの充電量が高いとき。（Ⓑ側の表示のみ2重表示がひとつになります。）

航続可能距離表示

航続可能距離表示①は、リチウムイオンバッテリーに蓄えられた電力がなくなるまでに走行可能なおおよその距離を表示します。この値は、バッテリー残量と実際の平均電費をもとに算出されます。

知識：

- 数値は、約100m走行ごとに算出しています。また、充電前の平均電費をもとに算出されるため、充電直後は同じ満充電でも数値が異なる場合があります。
- 表示される数値は、エアコンのON/OFFを切り替えたときや、シフトポジションをD(ドライブ)とECO(エコ)の間で切り替えたときなど、走行条件の変化により増減します。
- バッテリー残量警告灯が点灯したときは、航続可能距離が点滅します。そのまま充電せずに走行し、さらに残量が少なくなると、表示が“---”となります。できるだけすみやかに充電してください。
- 外気温が極端に低い（約-20°C）ときは、航続可能距離が大幅に減少することがあります。
- 暖房の消費電力は、外気温が低くなるほど大きくなるため、航続可能距離が大幅に減少することがあります。

リチウムイオンバッテリー残量計

リチウムイオンバッテリー残量計①は、リチウムイオンバッテリー充電量を表示します。

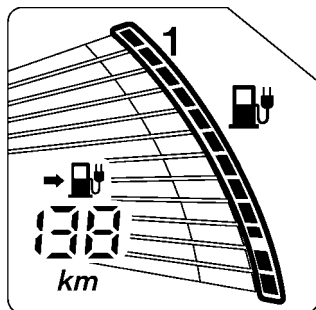
表示が一番下になる前にリチウムイオンバッテリーを充電してください。

バッテリー残量警告灯 は、充電量が低下すると点灯します。

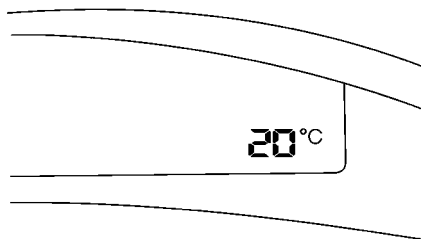
知識：

リチウムイオンバッテリー残量計は、リチウムイオンバッテリーの蓄電能力に対する充電量を表示します。残量計が表示する充電量の表示（セグメントの数）は、リチウムイオンバッテリー温度の影響を受けるため、同じ充電量でもリチウムイオンバッテリー残量計の表示が次のように変化することがあります。

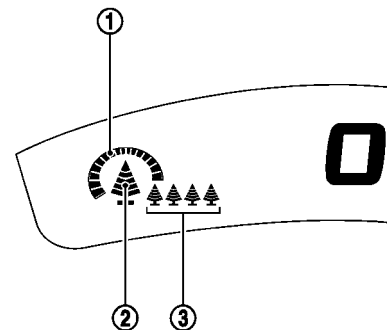
- リチウムイオンバッテリーが冷えてくると、蓄電能力が低下するため、蓄電能力に対する充電量の割合が大きくなり、リチウムイオンバッテリー残量計は、多く表示されることがあります。
- リチウムイオンバッテリーが暖まってくると、蓄電能力が高くなり、蓄電能力に対する充電量の割合が小さくなり、リチウムイオンバッテリー残量計は少なく表示されることがあります。

リチウムイオンバッテリー容量計

リチウムイオンバッテリー容量計は、リチウムイオンバッテリーの容量を表示します。

リチウムイオンバッテリーの経年使用などにより蓄電能力が低下すると、容量計の表示も低下します。

外気温表示

外気温が表示されます。

この表示は、実際の外気温とは異なることがあります。

エコインジケーター

エコインジケーターは、運転をしているその瞬間のエコ運転の状態と、電源ポジションを走行可能状態にしてからOFFにするまでのエコ運転レベルの累積結果を表示し、エコドライブへのモチベーションを高めるものです。

このインジケーターは、アクセルペダルの操作、車速、回生ブレーキ力(ブレーキの操作）、エアコン（冷暖房）の使用電力、アイドル時間（走行可能状態での停止時間）により計算されたエコ運転レベルが表示されます。

電源ポジションを走行可能状態にしてから電源ポジションをOFFするまでの、走行区間全体のエコ運転レベルが表示されます。

瞬間エコ運転レベル:

走行しているときの瞬間的なエコ運転レベルをエコインジケーター①に表示します。

エコ運転ができていると、エコインジケーターに表示されるバーの数が増えます。また、瞬間エコ運転レベル表示①が多いほど、エコツリー②の成長は早くなります。

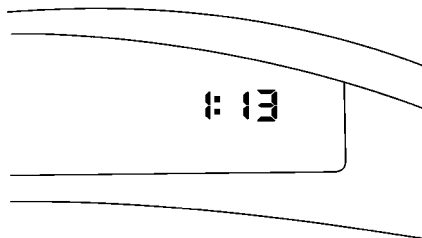
エコ運転レベル:

エコ運転ができていると、エコツリーのシンボル②が早く成長します。 エコツリー②が最大に成長すると、小さなツリー③が表示され、エコ運転度が蓄えられます。小さなエコツリーにエコ運転度が蓄えられると、エコツリー②は最小になり、再度成長を始めます。エコ運転を続けると、エコツリーの成長が繰り返され、小さなツリーの数が増えていきます。

知識:

- エコインジケーターは、経済的な運転ができているかをエコツリーの成長で表示するため、楽しみながら経済的な運転方法を学ぶことができます。
- アクセルペダルをゆっくりと踏み、ブレーキペダルを適切に操作することで急な加速·減速を控えたり、エアコンを控えめに設定したり、電装品（電源ソケットやマップランプなど）の使用を控え、エコ運転度を高めてください。 詳細は、☞ “航続可能距離を延ばす運転” (page EV-19)をお読みください。
- 電源ポジションをOFFにすると、エコ運転レベルはナビゲーションシステムに保存され、過去のエコ運転レベルの確認などができます。詳細は、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

「エコツリー」は、日野自動車株式会社の商標です。

時計

マルチファンクションディスプレイの設定画面で時刻を合わせてください。 ☞ “5. 設定” (page 2-26)をお読みください。

12Vバッテリーを取り外すと、表示時刻がリセットされます。時刻を合わせてください。

知識:

この時計表示は、ナビゲーション画面に表示する時計と同期していません。タイマー充電や、タイマーエアコンなどの作動は、ナビゲーション画面に設定する時間で作動します。詳しくは、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

メーター・表示灯・警告灯の見かた

	12V系充電警告灯		バッテリー残量警告灯		ヘッドランプ上向き表示灯
	ABS警告灯		マスターウォーニング（黄色表示又は赤色表示）		走行可能表示灯
	ブレーキシステム警告灯（黄色表示）		シートベルト警告灯		セキュリティーインジケーター
	ブレーキ警告灯（赤色表示）		SRSエアバッグ警告灯		テールランプ表示灯
PS	EPS(電動パワーステアリング)警告灯		VDC 警告灯		方向指示表示灯
	電制シフト警告灯		電動パーキングブレーキ警告灯		VDC OFF 表示灯
	EVシステム警告灯		出力制限表示灯		
	ヘッドランプ警告灯		プラグイン表示灯		

電球（バルブ）の点検

全ドアを閉め、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを押して電源ポジションをONにしたときに、次のランプが点灯することを確認してください。

、 、 、 PS

次のランプはしばらく点灯したあとに消灯します。

（黄色表示）、 、 （赤色表示）、 、 、 、 、 OFF 、

ランプが点灯しない場合は、電球が切れているか、電装システムが故障しているおそれがあります。 日産販売会社でシステムの点検を受けてください。

警告灯

12V系充電警告灯

12V系充電警告灯は、電源ポジションをONにすると点灯し、走行可能状態にすると消灯します。

電源ポジションが走行可能状態のときに、12V系充電警告灯が点灯した場合は、DC/DCコンバーターシステムが正常に作動していないおそれがあります。すみやかに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

12V系充電警告灯が点灯したときに、駐車するための処置（シフトポジションをP（パーキング）にする、電動パーキングブレーキをかける）が行われていない場合は、次の警告灯も点灯し、ブザーが鳴ります。また、マルチファンクションディスプレイに警告が表示されます。

- マスターウォーニング（赤色表示）
- EVシステム警告灯

EVシステム警告灯とブザーは、電動パーキングブレーキをかけるか、シフトポジションを

P(パーキング）にすると解除されます。

マルチファンクションディスプレイには次のメッセージが点滅表示されます。

走行中：“すみやかに安全な場所に停車してください”

停車中、又は停止時：“すみやかににパーキングブレーキをかけてください”

メッセージが点滅表示したときは、ただちに安全な場所に停車し、電動パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをP（パーキング）にしてください。

注意

電源ポジションが走行可能状態で12V系充電警告灯が点灯した場合は、外部電源による12Vバッテリーの充電を行わないでください。DC/DCコンバーターシステムが故障する原因になることがあります。

知識：

- 電源ポジションが走行可能状態に切り替わらないときは、ブースターケーブルをつないで、電源ポジションを走行可能状態に切り替えてください。詳細は、☞“12Vバッテリーがあがったときは”(page 6-9) をお読みください。
- ブースターケーブルをつないで、電源ポジションを走行可能状態に切り替えた後に、12V系充電警告灯が点灯しているときは、DC/DCコンバーターが故障しているおそれがあります。すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

ABS警告灯

ABS警告灯は、電源ポジションをONにすると数秒間点灯します。（システムが正常に作動）

走行可能状態のとき又は走行中にABS警告灯が点灯したときは、ABSが正常に作動していないおそれがあります。 日産販売会社でシステムの点検を受けてください。

ABSに異常が発生すると、ABSシステムは作動しませんが、ブレーキシステムの性能は確保されています。 ☞ “ブレーキシステム”(page 5-18) をお読みください。

ブレーキシステム警告灯（黄色表示）

ブレーキシステム警告灯（黄色表示）は、電源ポジションをONにすると数秒間点灯します。電源ポジションが走行可能状態のとき、又は走行中にブレーキシステム警告灯（黄色表示）が点灯し続けたときは、以下の機能又はシステムに故障のおそれがあります。

- 回生協調ブレーキ機能
- 電動型制御ブレーキシステム

走行可能状態又は、走行中にブレーキシステム警告灯(黄色表示）が点灯した場合は、日産販売会社で点検を受けてください。ブレーキ警告灯（赤色表示）も点灯したときは、すみやかに車両を安全な場所に停車し、日産販売会社に連絡してください。

詳細については、 ☞ “ブレーキシステム”(page 5-18) をお読みください。

警告

- 電源ポジションがON以外のとき、ブレーキペダルの踏み込みに大きな力が必要になり、踏み代も変化することがあります。又、ブレーキ液が不足した状態でブレーキペダルを踏み込むと、制動距離が延び、ペダルの踏み込みに大きな力が必要になるだけでなく、ペダルの踏みしろも増加することがあります。

- 走行可能表示灯が点灯しているときに、ブレーキシステム警告灯が点灯した場合は、回生協調ブレーキシステムが正常に作動していないおそれがあります。 ブレーキシステムが安全であることを確認できた場合は、慎重に最寄りの整備工場に車両を持ち込んで修理してください。 安全を確認できない場合は、運転によって危険が生じることがあるため、お車をけん引してください。

ブレーキ警告灯（赤色表示）

電源ポジションをONにすると、数秒間点灯し消灯ます。点灯し続けるときや消灯後に点灯したときは、電動型制御ブレーキシステムが正常に作動していないおそれがあります。ブレーキ警告灯(赤色表示）が点灯したときは、ただちに停車し、日産販売会社にご連絡ください。

ブレーキ液低下警告灯：

電源ポジションがONのとき、ブレーキ警告灯はブレーキ液低下を知らせます。走行中にブレーキ警告灯が点灯した場合は、車両を停止し以下の確認を行ってください。（ブレーキ警告灯と同時にブレーキシステム警告灯、VDC警告灯も点灯します。）

1. ブレーキ液の量が規定通りに入っていることを確認してください。ブレーキ液が不足している場合は、ブレーキ液を補充し、日産販売会社で点検を受けてください。
2. ブレーキ液の量が適正のときは、他に原因あることが考えられますので日産販売会社で点検を受けてください。

警告

- 警告灯点灯時はブレーキシステムが正常に作動していないおそれがあります。 その状態で運転すると、危険が生じるおそれがあります。 ブレーキシステムが安全であることを確認できた場合は、慎重に最寄りの整備工場に車両を持ち込み、修理してください。 安全を確認できない場合は、運転によって危険が生じることがあるため、お車をけん引してください。
- 電源ポジションがON以外のとき、あるいはブレーキ液が不足した状態でブレーキペダルを踏み込むと、制動距離が延び、ペダルの踏み込みに大きな力が必要になるだけでなく、ペダルの踏みしろも増加することがあります。
- ブレーキ液の量がブレーキ液リザーバータンクの最低（MIN）マークよりも下の場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

注意

ブレーキシステムの電源系に故障がある場合は、ブレーキ警告灯(赤色表示）、ブレーキシステム警告灯（黄色表示）の点灯と同時に、ブザーが鳴ります。

PS EPS(電動パワーステアリング)警告灯

電源ポジションをONにすると、EPS（電動パワーステアリング）警告灯が点灯します。 走行可能表示灯点灯後は、EPSは消灯します。（電動パワーステアリングシステムは正常に

作動しています。）

走行可能表示灯点灯中にEPS警告灯が点灯したときは、EPSシステムの作動に異常が発生し、修理が必要な可能性があります。 日産販売会社でEPSシステムの点検を受けてください。

走行可能表示灯点灯中にEPS警告灯が点灯したときは、EPSは作動しなくなりますが、ハンドルを操作することはできます。 その状態では、特に急カーブや低速走行時に、ハンドル操作に大きな力が必要になります。

☞ “EPS（電動パワーステアリング）” (page 5-17) をお読みください。

電制シフト警告灯

電制シフトに異常が発生すると点灯します。 同時に、マスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴り、“駐車時は必ずパーキングブレーキをかけてください”というメッセージがマルチファンクションディスプレイに表示されます。

電源ポジションがOFFのときは、ブザーは連続して鳴ります。 パーキングブレーキがかかっていることを確認してください。 パーキングブレーキをかけると、ブザーは停止します。

電制シフト警告灯が点灯したときは、日産販売会社でシステムの点検を受けてください。

EVシステム警告灯

次のシステムに異常が発生すると点灯します。 日産販売会社にご連絡ください。

- 走行用モーター及びインバーターシステム
- 充電ポート又は車載充電器
- リチウムイオンバッテリーシステム
- 冷却システム
- 電制シフト
- 高電圧遮断システムが作動しているとき。 ☞ “高電圧遮断システム” (page EV-8) をお読みください。

ヘッドランプ警告灯

LEDヘッドランプに異常が発生すると点灯します。 日産販売会社にご連絡ください。

バッテリー残量警告灯

リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると点灯します。 リチウムイオンバッテリー残量計の表示が最も下のラインになる前に、できるだけ早く充電してください。

> **⚠ 注意**
>
> リチウムイオンバッテリーの残量がなくなったときは、走行できなくなります。 走行するためには充電が必要になります。

マスターウォーニング

マスターウォーニングは、アッパーメーターに表示され、黄色表示と赤色表示の2種類があります。 マスターウォーニングは、ロアメーターの警告灯又は表示灯が点灯するか、マルチファンクションディスプレイに重要な車両警告情報が表示されるとき点灯します。

黄色表示：

黄色表示のマスターウォーニングは、ロアメーター内で黄色の警告灯が点灯したとき、又はマルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されたときに点灯します。

赤色表示：

赤色表示のマスターウォーニングは、ロアメーターで赤色の警告灯が点灯したとき、又はマルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されたときに点灯します。

複数の警告があるとマルチファンクション

ディスプレイは代表を表示します。そのため、一時的に表示されない警告があります。表示されない警告はマルチファンクションディスプレイで確認することができます。

☞ "ドライブコンピューター" (page 2-24) をお読みください。

シートベルト警告灯

運転席のシートベルトを着用していないと、警告灯とブザーにより警告します。 電源ポジションをONにすると点灯し、運転席シートベルトを着用するまで点灯し続けます。点灯したときはシートベルトを着用してください。

> **⚠ 警告**
>
> 走行中は全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な障害につながるおそれがあります。

知識：

点灯したまま走行すると、シートベルト非着用警報（シートベルトリマインダー）が鳴ります。 ☞ "シートベルト非着用警報(シートベルトリマインダー）" (page 2-18) をお読みください。

SRSエアバッグ警告灯

電源ポジションをONにすると、約7秒間点灯後、消灯します。

電源ポジションがONのとき、SRSエアバッグのシステム、プリテンショナー機能に異常があると、点灯又は点滅を続けます。

電源ポジションをONにしても点灯しないときｋ、又は7秒間たっても点灯、点滅を続けるときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

詳細については、 ☞ "SRSエアバッグの作動" (page 1-21) をお読みください。

> **⚠ 警告**
>
> 電源ポジションをONにしても点灯しないときや、点灯、点滅を続けるときは、放置したまま走行しないでください。万一のときSRSエアバッグ、プリテンショナーシートベルトが正常に作動せず、重大な障害につながるおそれがあります。

VDC警告灯

VDC警告灯は、ビークルダイナミクスコントロール（VDC）システム作動中に点滅し、車両がトラクションの限度に達しつつあることが警告されます。このときは、 路面が滑りやすい可能性があります。

VDCシステムがONのときにVDC警告灯が点灯したときは、VDCシステム保護モードに入っていることが表示されています（VDCシステムに異常が発生している場合など）。 日産販売会社でシステムの点検を受けてください。システムに異常が発生していると、VDCシステムは作動しなくなりますが、走行は引き続き可能です。 詳細については、 ☞ "VDC (ビークルダイナミクスコントロール)" (page 5-21) をお読みください。

電動パーキングブレーキ警告灯

電源ポジションがONのとき、電動パーキングブレーキがかかっていると点灯し、電動パーキングブレーキを解除すると消灯します。同時に、マスターウォーニングが点灯します。 パーキングブレーキを解除すると、電動パーキングブレーキ警告灯とマスターウォーニングは消灯します。

電源ポジションがONで警告灯が点滅してい

るときに、パーキングブレーキを解除して点滅が続くときは、電動パーキングブレーキに異常が発生しています。

日産販売会社にご連絡ください。

表示灯

出力制限表示灯

出力制限表示灯が点灯したときは、走行用モーターに供給される最大電力が制限されます。 そのため、アクセルペダルを踏んでも車速が上がらなくなることがあります。

出力制限表示灯が点灯したときは、ナビゲーション画面とマルチファンクションディスプレイにメッセージが表示されます。 ナビゲーション画面に表示される指示に従ってください。

出力制限表示灯は、次の場合に点灯します。

- リチウムイオンバッテリーの残量が極端に少なくなっているとき。
- リチウムイオンバッテリーの温度が極めて低いとき（約−20°C）とき。
- リチウムイオンバッテリーや、走行用モーター、インバーター、冷却システムなどの温度が高すぎるとき。
- EV制御システムが故障しているとき。

バッテリー残量警告灯が点灯したときは、できるだけ早くリチウムイオンバッテリーを充電してください。

外気温が低いときは、風などがあたらない屋内などの暖かい場所に移動してください。また、充電をすることにより、温度が上がることがあります。

上り坂の連続走行などによって冷却システムの温度が高くなったときは、冷却システムが正常な作動温度に戻るまで出力が制限されます。走行用モーターの過熱によって冷却システムが高温になることがあります。 表示灯が消えないときは、日産販売会社にご連絡ください。

上記以外で表示灯が点灯したときは、EVシステムが故障しているおそれがあります。日産販売会社にご連絡ください。

警告

出力制限モードによって出力が低下し、減速することがあります。減速によって他の車両よりも速度が落ち、衝突の危険が高まるおそれがありますので走行中は特に注意してください。安全な走行速度を維持できない場合は、走行車線から離れた安全な場所に停車してください。 リチウムイオンバッテリーを充電するか（残量低下時）、冷却してください。

プラグイン表示灯

充電コネクタを車両に接続すると点灯し、充電中は点滅します。また、電源ポジションがOFFの状態で、充電していないときは、しばらくすると消灯します。

充電コネクタを接続しても点灯しないときや、充電中に点滅しないときは、日産販売会社にご連絡ください。

知識：

充電コネクタを車両に接続した状態では、電源ポジションを走行可能状態にできません。

ヘッドランプ上向き表示灯

ヘッドランプの上向きを点灯させると点灯します。

☞ “ヘッドランプの上向き、下向き切り替え”(page 2-34) をお読みください。

走行可能表示灯

電源ポジションが走行可能状態のとき、走行ができる状態になると点灯します。（走行中

も点灯します。）

走行可能表示灯は、次の場合は消灯します。

- リチウムイオンバッテリーの残量がなくなったとき。 ☞ "バッテリー残量警告灯"(page 2-14)をお読みください。
- EVシステムに特定の故障が発生したとき。

セキュリティーインジケーター

電源ポジションをACC、OFF、又はLOCKにすると点滅し、車両に搭載されているセキュリティーシステムが作動していることを表示します。

セキュリティーシステムに異常が発生している場合は、電源ポジションをONにしたときに、セキュリティーインジケーターが点灯し続けます。 詳細については、☞ "セキュリティーシステム"(page 2-30)をお読みください。

テールランプ表示灯

車幅灯、尾灯、番号灯を点灯させると点灯します。

方向指示表示灯

方向指示器スイッチ又は非常点滅表示灯を作動させると点滅します。

VDC OFF表示灯

VDC OFFスイッチを押してVDCをOFFにすると点灯します。 VDCシステムが解除されていることを表示します。

警報ブザー

キー封じ込み防止ブザー

電源ポジションをON又はACCにして、運転席ドアを開くと、ブザーが鳴ります。

必ず電源ポジションをOFFにして、インテリジェントキーを携帯して降車してください。

ヘッドランプ消し忘れ警報

ライトスイッチを点灯したまま、電源ポジションがACC、OFF、LOCKのいずれかの位置のときに運転席ドアを開くと、ブザーが鳴ります。

ライトスイッチをOFFにしてから降車してください。

ブレーキパッド摩耗警告

ディスクブレーキパッドには摩耗警告機能があります。ブレーキパッドの交換が必要になると、走行中に高い金属音(キーキー音）が発生します。 この金属音は、最初にブレーキペダルを踏んだときだけ発生します。 ブレーキパッドがさらに摩耗すると、ブレーキペダルを踏んでいなくても、常に音が発生します。警告音が聞こえる場合は、すみやかに日産販売会社でブレーキの点検を受けてください。

電動パーキングブレーキ戻し忘れブザー

電動パーキングブレーキ戻し忘れブザーは、次の場合に鳴ります。

- 電動パーキングブレーキを戻し忘れたまま3km/h以上の速度で走行したとき。（停車して、電動パーキングブレーキを解除してください。）
- 走行中に電動パーキングブレーキスイッチを操作したとき。（押したり、引いたとき。）
- 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で、車両が動いてしまったとき。

シートベルト非着用警報(シートベルトリマインダー)

運転席シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、約90秒間ブザーが鳴ります。

⚠ 警告

走行中は全員がシートベルトを着用してください。着用しないと、万一の事故時や急ブレーキ時に、死亡や重大な障害につながるおそれがあります。

知識：

走行中にメーター内のシートベルト警告灯が消灯していることを確認してください。

☞ “シートベルト警告灯”(page 2-15)をお読みください。

DC/DCコンバーター警告ブザー

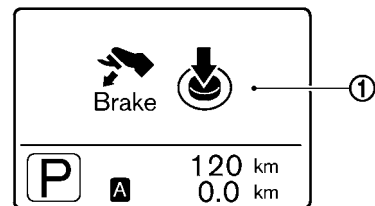
12Vバッテリーの電圧が低下すると、ブザーが鳴ると同時にメーターに警告が表示されます。

ブザーが鳴ったときは、ただちに安全な場所に停車し、電動パーキングブレーキをかけるか、シフトポジションをP（パーキング）にしてください。 メーター内の警告とブザーは、パーキングブレーキをかけるか、シフトポジションをP（パーキング）に入れると解除されます。 すみやかに日産販売会社にご連絡ください。 メーターに表示される警告の詳細については、12V系充電警告 ☞ “12V系充電警告灯”（page 2-11） をお読みください。

電源ポジションOFF忘れ警報*

電源ポジションがON又は走行可能状態にあるとき、運転席ドアを開けるとブザーが鳴ります。電源ポジションをOFFにし、インテリジェントキーを携帯して降車してください。

*：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

マルチファンクションディスプレイ

マルチファンクションディスプレイ①は、充電時間、平均電費及び瞬間電費、平均車速、走行距離及び時間（経過時間）、シフトポジションインジケーター、ASCD（オートスピードコントロール装置）、インテリジェントキーの作動情報、他の情報/警告を表示します。

ASCD（オートスピードコントロール装置）の詳細については、☞ “ASCD（オートスピードコントロール装置）*”(page 5-13)をお読みください。

オドメーターの詳細については、☞ “オドメーター（積算距離計）/トリップメーター（区間距離計）”(page 2-6)をお読みください。

インテリジェントキーシステムの詳細につい

ては、☞“インテリジェントキーシステム”(page 5-4)をお読みください。

ドライブインジケーター

1. EVシステム始動操作表示

シフトポジションがP（パーキング）にあるときに表示します。 ブレーキペダルを踏んでパワースイッチを押すと、EVシステムが始動することを表示します。

2. ステアリングロック未解除表示

ステアリングロックを解除できないときに表示します。

ハンドルを軽く左右に回しながらパワースイッチを押してください。

ステアリングロックを解除するか、表示から15秒間経過すると表示は消えます。

3. インテリジェントキー持ち出し警告

次のいずれかの場合に表示します。

車内にキーがないとき：

インテリジェントキーが車外にあり、電源ポジションがACCのときにドアを閉めると表示します。インテリジェントキーは必ず車内で携帯してください。

未登録インテリジェントキーのとき：

電源ポジションをON、ACC、走行可能状態にしたときに、システムがインテリジェントキーを認識できないと表示されます。 未登録のキーでは、走行可能状態にすることはできません。 登録済みのインテリジェントキーを使用してください。

☞ “インテリジェントキーシステム”(page 5-4) をお読みください。

4. インテリジェントキー電池切れ表示

インテリジェントキーの電池切れが近くなると表示されます。

インテリジェントキー電池切れ表示が表示された場合は、電池を新品と交換してください。 ☞ “インテリジェントキーの電池交換”(page 8-10) をお読みください。

5. インテリジェントキー非作動時EVシステム始動表示

インテリジェントキーの電池切れが近く、インテリジェントキーシステムと車両が正常に通信していないときに表示されます。

インテリジェントキー電池切れ表示が表示されたときは、ブレーキペダルを踏みながらインテリジェントキーをパワースイッチに接触させてください。 （詳細は、☞ “インテリジェントキーの電池切れ”(page 5-6) をお読みください。）

6. 半ドア警告表示

いずれかのドア及びバックドアが開いているか、確実に閉まっていないときに表示します。車両アイコンに開いているドア又はバックドアが表示されます。 すべてのドアとバックドアが閉まっていることを確認してください。

7. キーシステム警告

インテリジェントキーシステムやステアリングロックに異常が発生すると表示されます。

電源ポジションがONのときに警告灯が表示された場合は、走行可能状態にできないことがあります。走行可能状態のときに警告灯が表示された場合は、走行することはできます。 日産販売会社にご連絡ください。

8. 走行時間アラーム

設定した休憩時刻になると表示します。 設定メニューで最長6時間後までの時刻を設定できます。 ☞ “ドライブコンピューター”(page 2-24) をお読みください。

9. 凍結注意アラーム

外気温が3°C以下のときは、画面に警告が表示されます。

外気温センサーは車両前側に取り付けられているため、道路、風向き、他の運転条件による影響を受けることがあり、実際の外気温とは異なることがあります。

10. ランプ消し忘れ警告

電源ポジションをOFFにしたときに、ライトスイッチがONのままになっていると表示します。 運転席のドアを開けると、ブザーがなります。ライトスイッチをOFFにしてください。

11. プラグイン表示

充電コネクタを接続すると表示されます。

充電コネクタを車両に接続した状態では、走行可能状態にすることはできません。

12. 充電コネクタ取り外し警告

車両に充電コネクタが接続されている状態で、電源ポジションをONにしたり、走行可能状態に切り替えようとしたりすると表示されることがあります。走行したいときは、充電機器を取り外してください。

13. 電制シフト警告A

電制シフトに異常が発生すると表示します。

また、駐車したときに、パーキングブレーキがかかっていないと表示します。同時にマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。 日産販売会社でシステムの点検を受けてください。

14. 電制シフト警告B

電制シフトに異常が発生すると表示します。同時にマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。電制シフトがすぐに切り替わらないことがあるため、シフトする位置にセレクトレバーを押しつけて、必ずセレクトレバー手前の表示灯、又はロアメーターの表示灯でシフトポジションが切り替わったことを確認してください。車両を停止するときや、駐車するときは、必ずセレクトレバー上部のⓅスイッチを押してP（パーキング）にしてください。 修理を受けるために、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

15. シフトポジション警告

セレクトレバーの位置が中間位置にあるときに表示します。セレクトレバーが適切な位置になっているか確認してください。

同時にマスターウォーニングが点灯し、ブザーが鳴ります。 セレクトレバーの位置を確認してください。

16. リチウムイオンバッテリー残量警告

リチウムイオンバッテリーの残量が低下したときに表示します。同時に、バッテリー残量警告灯とマスターウォーニングも点灯します。できるだけ早くリチウムイオンバッテリーを充電してください。 マルチファンクションディスプレイに[i]の記号が表示されたときは、ナビゲーションシステムに詳細情報が表示されることが示されています。 ナビゲーションシステムで詳細情報と指示を確認してください。

17. 出力制限警告

リチウムイオンバッテリーの残量が不足しているとき、又は駆動力の制限が必要なとき（バッテリーが低温又は高温など）に表示します。同時に出力制限表示灯とマスターウォーニングが点灯します。 マルチファンクションディスプレイにこの警告が表示された場合は、ナビゲーション画面に詳細情報が表示されます。 ナビゲーション画面に表示される指示に従ってください。 マルチファンクションディスプレイに[i]の記号が表示されたときは、ナビゲーションシステムに詳細情報が表示されることが示されています。 ナビゲー

ションシステムで詳細情報と指示を確認してください。

18. ブレーキペダル踏み込み警告

次の場合に表示します。

- 急な坂道などで電動パーキングブレーキがかかった状態で、車両が動いてしまったとき。
- 電動パーキングブレーキがかかった状態で電動パーキングブレーキスイッチを押し、ブレーキペダルを踏み込まなかったとき。

19. 電動パーキングブレーキ解除警告

次の場合に表示します。

- 電動パーキングブレーキを解除しない状態で車速が3 km/hを超えたとき。
- パーキングブレーキをかけ、運転席シートベルトを着用せずにアクセルペダルを踏み、発進したとき。

20. 電動パーキングブレーキ修理表示

電動パーキングブレーキシステムに異常が発生するとメッセージを表示します。修理を受けるために、できるだけ早く日産販売会社にご連絡ください。

21. 電動パーキングブレーキ過熱警告

短時間に電動パーキングブレーキを何度も操作して、電動パーキングブレーキが過熱すると表示します。しばらく待ってから再度操作してください。警告が表示されたときは、電動パーキングブレーキの解除はできますが、パーキングブレーキをかけることはできません。

22. 12V系充電警告

走行中に12Vバッテリー系のシステムが正常に作動していないときに表示します。同時に、12V系充電警告灯とマスターウォーニングも点灯します。 ただちに安全な場所に停車し、日産販売会社にご連絡ください。

23. パーキングブレーキ操作警告

停車中に12Vバッテリー系のシステムが正常に作動していないときに12V系充電警告が表示され、次に車両停止のメッセージ（"すみやかに安全な場所に停車してください"）を表示します。

マルチファンクションディスプレイに警告が表示されたときは、セレクトレバー上部のⓅスイッチを押して、シフトポジションをP（パーキング）に入れ、パーキングブレーキをかけてください。 パーキングブレーキをかけると、警告は消灯します。 日産販売会社にご連絡ください。

24. シートベルト警告

運転席シートベルトを着用していない状態で走行すると（約15km/h以上）、警告が表示されます。シートベルトを着用するか、約90秒後に警告が消えます。

25. ASCD表示*

ASCDメインスイッチインジケーター：

ASCDのメインスイッチを押すと表示します。メインスイッチを再度押すと、インジケーターは表示されなくなります。 ASCDのメインスイッチインジケーターが表示されているときは、ASCDシステムが作動しています。

ASCDセットインジケーター：

ASCDシステムが車速を制御しているときに表示します。 走行可能表示灯が点灯しているときにインジケーターが点滅したときは、ASCDシステムが正常に作動していないおそれがあります。 日産販売会社でシステムの点検を受けてください。

詳細については、☞ “ASCD（オートスピードコントロール装置）*”（page 5-13) をお読みください。

*：車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

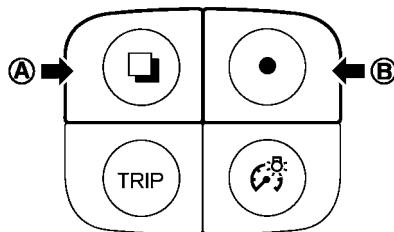
26. シフトポジションインジケーター

電源ポジションがONのときにセレクトレバーのシフトポジションを表示します。詳細については、詳しくは、☞ “セレクトレバーについて”(page 5-8) をお読みください。

27. P(パーキング)戻し忘れ警告*

シフトポジションがP（パーキング）以外のとき、運転席ドアが開いていると半ドア警告表示と交互に表示され、車内でブザーが鳴ります。

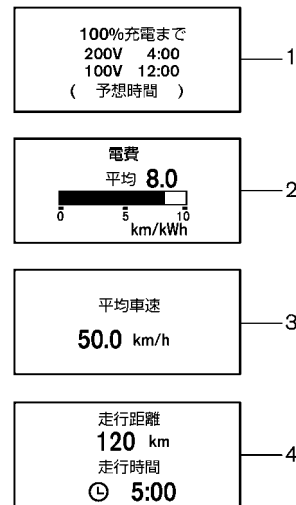
*：車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

ドライブコンピューター

ドライブコンピューターの操作スイッチは、ロアメーターの右下側にあります。 ドライブコンピューターを操作するときは、Ⓐ又はⒷのスイッチを押します。

Ⓐ ❏ スイッチ
Ⓑ ● スイッチ

電源ポジションをONにすると、ドライブコンピューターのモードを ❏ スイッチⒶで選択できるようになります。

❏ スイッチⒶを押すたびに、表示は次のように変化します。

充電時間表示 → 電費表示→ 平均車速 → 走行距離/走行時間（経過時間） → 設定 → 警告画面確認

1. 充電時間表示

充電完了（80%又は100%充電）までにかかる時間の目安を表示します。ただし、充電時間は外気温やバッテリー温度（高温又は低温）、供給される電力などの外的要因により変化するため、この表示も変化することがあります。

知識：

- AC200Vでの普通充電中は、100Vの充電時間の表示が、“--：--”表示になります。
- AC100Vでの普通充電中は、200Vの充電時間の表示が、“--：--”表示になります。
- 急速充電中は、AC200V、AC100Vとも充電時間の表示が、“--：--”表示になます。
- 充電が完了すると、AC200V、AC100Vともに充電時間の表示が、“--：--”表示になります。しばらく走行して電力を消費すると、再び時間が表示されます。
- 充電中にエアコン（冷暖房機能）をONにすると、充電時間の表示が変化しなくなります。エアコン（冷暖房機能）をOFFにして約15分が経過すると、再び表示が変化するようになります。

2. 電費表示

平均電費：

平均電費モードでは、最後にリセット時点以降の平均電費を表示します。平均電費は、 ● スイッチⒷを1秒以上押すとリセットされます。（同時に平均車速もリセットされます。）

表示は30秒ごとに更新されます。 リセット後、約500mを走行するまでは、“----”が表示されます。

瞬間電費：

瞬間電費モードでは、瞬間的な電費をバーグラフで表示します。

走行中に、発電された電力がリチウムイオンバッテリーに充電されているときは、瞬間電費ディスプレイが最大値を表示します。 最大値は、発電された電力が消費されるまで表示し続けます。

3. 平均車速

平均車速モードでは、最後にリセットされた時点以降の平均車速を表示します。平均車速は、 ● スイッチⒷを1秒以上押すとリセットされます。

表示は30秒ごとに更新されます。 リセット後、30秒が経過するまでは、“----”が表示されます。

4. 走行距離及び経過時間

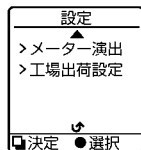
走行距離：

最後にリセットされた時点以降の総走行距離を表示します。 ● スイッチⒷを1秒以上押すとリセットされます。 （同時に経過時間もリセットされます。）

走行時間（経過時間）：

最後にリセットされた以降の時間が表示されます。 表示時間は、 ● スイッチⒷを1秒以上押すとリセットされます。 （同時に走行距離もリセットされます。）

5. 設定

設定
>次へ
>時計
>メンテナンス
>アラーム
▼
❑決定　●選択

走行中は操作できません。 マルチファンクションディスプレイに“走行中は設定の操作ができません”と表示します。

設定モードでは、 ❑ スイッチⒶと ● スイッチⒷを使用します。

● スイッチⒷを押すと、メニュー間を移動できます。

❑ スイッチⒶを押すと、メニューが選択されます。

次へ：

❑ スイッチⒶを押すと、警告確認モードになります。

● スイッチⒷを押すと、他のメニューが選択されます。

時計：

アッパーメーターにある時計の調整ができます。

- 戻る
  設定モードのトップページに戻るには、このサブメニューを選択します。
- 時計調整
  以下の手順で時計の時刻（時間と分）を調整できます。
  a. ● スイッチⒷを押して“時”を調整し、 ❑ スイッチⒶを押します。
  b. ● スイッチⒷを押して“分”を調整し、 ❑ スイッチⒶを押します。
- 24/12時間
  12時間表示又は24時間表示を選択できます。

メンテナンス：

メンテナンスメニューには5つのサブメニューがあります。

- 戻る
  設定モードのトップページに戻るには、このサブメニューを選択します。
- タイヤ
  タイヤ交換距離の設定又はリセットを行うには、このサブメニューを選択します。
- ユーザー1、ユーザー2、ユーザー3
  交換/メンテナンス項目の距離を設定するか、そのリセットを行うには、このサブメニューを選択します。 3種類までの他の項目を設定できます。 必要に応じて設定してください。

アラーム：

アラームメニューには3つのサブメニューがあります。

- 戻る
  設定モードのトップページに戻るには、このサブメニューを選択します。

- 走行時間

  運転者への警告時間を設定するときは、このサブメニューを使用します。
- 外気温

  凍結注意アラームをOn又はOffに設定するには、このサブメニューを選択します。

メーター演出：

このメニューでは、スタートアップサウンドの作動音の変更と消音を設定できます。

サブメニューには下記の5項目があります。

メニュー項目を選択すると、選択された音が鳴ります。

- 戻る

  設定モードのトップページに戻るには、このサブメニューを選択します。
- サウンド1
- サウンド 2
- サウンド 3
- Off

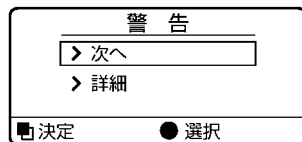
工場出荷設定：

オドメーター以外のすべての値を初期設定値にリセットするには、このメニューを選択します。

設定モードのトップページに戻るには、“戻る”を選択します。

知識：

初期設定値にリセットすると、以前に行ったすべての設定値が初期設定値に戻ります。

6. 警告確認

次へ：

■ スイッチⒶを押すと、充電時間表示を表示します。

● スイッチⒷを押すと、他のメニューが選択されます。

詳細：

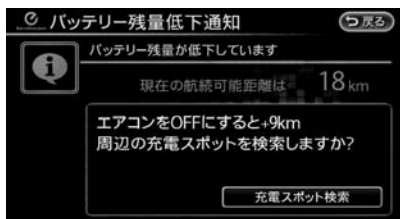
この項目は、警告が表示されているときだけ選択できます。

警告の詳細を表示させるときは、このメニューを選択します。

警告情報表示

リチウムイオンバッテリー残量警告

バッテリー残量警告灯 とマスターウォーニング ⚠ が点灯すると、リチウムイオンバッテリーの残量低下を警告するためのメッセージをナビゲーション画面に表示します。画面と共に、音声で案内を行います。

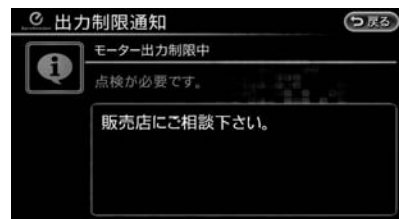
1. メッセージは画面左上に表示されます。詳しい情報画面を表示させるには、[確認]をタッチします。

2. メッセージ画面が表示されます。 画面に表示されるメッセージを確認してください。 [充電スポット検索]をタッチし、車両の現在位置付近にあるすべての充電スポットを検索してください、又検索した充電スポットは、行き先に設定することができます。
3. [戻る]をタッチするか、現在地スイッチを押し、現在地画面に戻ります。

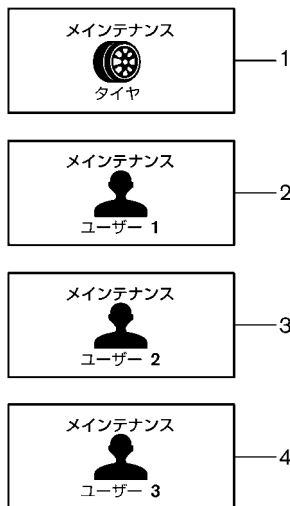
知識：

- リチウムイオンバッテリー残量警告は、表示しないように設定できます。 ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- リチウムイオンバッテリーの残量が低下すると、システムは自動的に充電スポットの情報を取得します。

出力制限警告

リチウムイオンバッテリーの残量が低下したり、リチウムイオンバッテリーに異常が発生したりすると、出力が制限されることを知らせるために、メーター内で出力制限表示灯 とマスターウォーニング が点灯し、ナビゲーション画面にメッセージを表示します。

1. メッセージは画面左上に表示されます。 詳しい情報画面を表示させるには、[確認]をタッチします。

2. メッセージ画面が表示され、出力制限の実施、原因及び必要な対応策を警告するためのメッセージ内容が表示されます。

メンテナンス用インジケーター

1. タイヤ交換表示

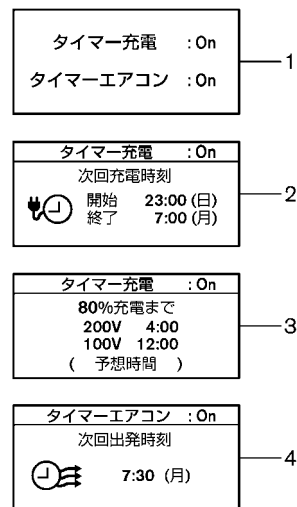
設定したタイヤ交換距離に達すると表示します。タイヤ交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 ☞ “5. 設定” (page 2-26)をお読みください。

⚠ 警告

タイヤ交換表示により、タイヤ空気圧の点検を含む定期的なタイヤの点検が不要になることはありません。 ☞ “ホイール·タイヤの交換” (page 8-21)をお読みください。タイヤ空気圧、アライメント、運転習慣、路面状況などの要素がタイヤの摩耗と交換時期に影響します。 タイヤ交換表示を特定の走行距離に設定しても、タイヤがその距離まで交換しなくてよいとは限りません。 タイヤ交換表示は、目安として利用し、必ずタイヤの定期点検を行ってください。 タイヤの定期点検（空気圧の点検を含む）を行わないと、タイヤが破損することがあります。その結果、車両に大きな損傷が生じ、重大な傷害又は死亡事故を引き起こす原因になるおそれがあります。

2. 3. 4. “その他の”表示

タイヤ以外の整備項目の点検距離又は交換距離に達すると表示します。その他の整備項目には、たとえばタイヤのローテーションを行う距離の設定ができます。項目の点検/交換距離は設定したり、リセットしたりできます。 ☞ “5. 設定” (page 2-26)をお読みください。定期整備項目と間隔については、メンテナンスノートをお読みください。

タイマー設定状態確認表示

電源ポジションをOFFにすると、上記1の画面が10秒間表示されます。 10秒以内に ❏ スイッチⒶを押すと、2の画面が表示されます。

❏ スイッチⒶを押すごとに、表示が1→2→

3→4→1と切り替わります。10秒間押さないと表示が消えます。

1. タイマー設定状態確認（充電及びエアコン）

タイマー充電とタイマーエアコンの設定状況（ON又はOFF）を確認できます。

2. タイマー充電の設定確認

タイマー充電開始/停止時間と曜日を確認できます。

3. 充電時間

タイマー充電で設定されている充電量（80%又は100%）までにかかる予想所要時間を確認できます。

4. タイマーエアコン設定確認

タイマーエアコンに設定した出発予定時刻と曜日を確認できます。

セキュリティーシステム

イモビライザー(盗難防止装置)

車両の盗難に対する防御性能を高めるために、インテリジェントキーに送信機を内蔵し、あらかじめ登録されているインテリジェントキーを使用しないと、電源ポジションを走行可能状態にできないシステムです。

イモビライザーが働いているときは、セキュリティーインジケーターが点滅します。

知識：

- インテリジェントキーに登録された信号は、インテリジェントキーごとに異なります。
- 登録済みのインテリジェントキーを使用しても電源ポジションを走行可能状態にできない場合は、別の登録済みキーやその他の電子機器によって生じた干渉が原因の可能性があります。 以下の方法でEVシステムを始動させてください。
  - **a.** 電源ポジションをOFFにします。
  - **b.** 電源ポジションをOFFにしたあと、約5秒待ちます。
  - **c.** 干渉源と考えられる機器を登録済みのインテリジェントキーから離し、電源ポジションを走行可能状態にします。

  上記の手順で電源ポジションを走行可能状態にできるときは、他の機器を登録済みのインテリジェントキーから遠ざけてください。

  また、上記の操作を行っても電源ポジションが走行状態に切り替わらないときは、日産販売会社にご連絡ください。

セキュリティーインジケーター

セキュリティーインジケーターはロアメーター内にあり、電源ポジションがACC、OFF又はLOCKのときに点滅し、イモビライザーが作動していることを表示します。

知識：

電源ポジションをONにしたあとも点灯し続けるときは、システムの異常が考えられます。日産販売会社で点検を受けてください。

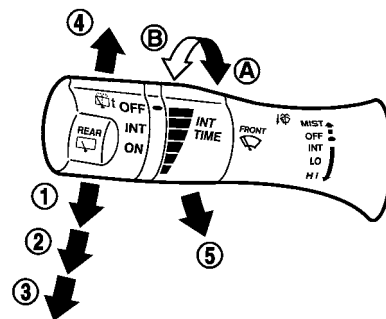
フロントワイパー・ウオッシャースイッチ

警告

寒冷時は、ウインドーガラスに吹きつけられたウオッシャー液が凍結し、視界を妨げ、思わぬ事故につながるおそれがあります。 ウオッシャー液を噴射する前に、ヒーターを使ってフロントウインドーガラスを温めてください。

注意

- ウオッシャーは30秒以上連続作動させないでください。
- ウオッシャータンクが空のときは、ウオッシャーを作動させないでください。

ワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。その場合は、ワイパースイッチをOFFにし、ワイパーアーム上とその周囲から雪又は氷を取り除いてください。モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチをONにしてください。

フロントワイパーとウオッシャーは、電源ポジションがONのときに作動します。

① INT－間けつ作動は、スイッチをⒶ（低速）又はⒷ（高速）方向に回すと調節できます。
② LO－低速連続作動
③ HI －高速連続作動
④ MIST - ワイパーが1回作動します。

ウオッシャーの作動：

ウオッシャーを作動させるには、レバーを手前に引きます⑤。 自動的にワイパーが数回作動します。

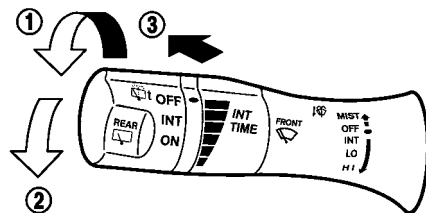
リヤワイパー･ウオッシャースイッチ

⚠ 警告

寒冷時は、リヤウインドーガラス上でウオッシャー液が凍結し、視界が妨げられることがあります。 デフォッガーでリヤウインドーガラスを温めてからウオッシャーを使用してください。

⚠ 注意

- ウオッシャーは30秒以上連続作動させないでください。
- ウオッシャータンクが空のときは、ウオッシャーを作動させないでください。

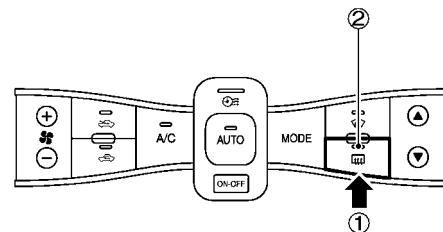
リヤワイパー作動中、雪などの障害物によりワイパーが作動できなくなると、モーター保護のためにワイパーの作動が停止することがあります。 その場合は、ワイパースイッチをOFFにし、ワイパーアーム上とその周囲から雪又は氷を取り除いてください。 モーターが冷えるまで（約1分程度）待ってから、再度スイッチをONにしてください。

リヤワイパーとウオッシャーは、電源ポジションがONのときに作動します。

スイッチをOFF位置から回し、ワイパーを作動させます。

①INTー間けつ作動（調節機能なし）

②ONー連続作動

スイッチを前方に押すと③、リヤ側ウオッシャーが作動します。 同時に、ワイパーも数回作動します。

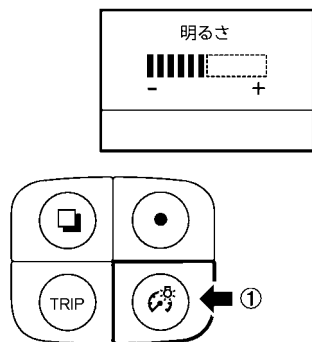
リヤウインドーデフォッガースイッチ

リヤウインドーガラスとドアミラー（ヒーター付ドアミラー装着車のみ）のくもりを取るには、電源ポジションをON位置にしてスイッチ①を押します。（ 表示灯②が点灯）

スイッチを再び押すと、デフォッガーの作動が停止します。

デフォッガー機能は約15分後に自動的に作動が停止します。

⚠ 注意

リヤウインドーの内側を清掃するときは、デフォッガーの熱線に傷を付けたり、損傷させたりしないように注意してください。

イルミネーションコントロールスイッチ

イルミネーションコントロールスイッチは、電源ポジションがONのときに操作できます。 スイッチを操作すると、メーターの明るさが変わると同時にマルチファンクションディスプレイがイルミネーションコントロールモードに切り替わります。

①のスイッチを押すと、バーはプラス側へ移動します。 バーが最大の明るさに達すると、ブザーが鳴ります。 明るさが最大のときにスイッチ①を再び押すと、明るさは最小値に設定されます。

ヘッドランプ·方向指示器スイッチ

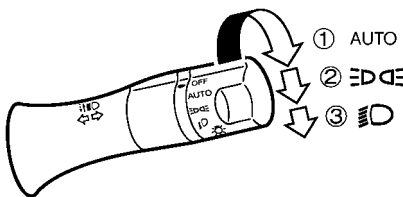
ヘッドランプスイッチ

ヘッドランプの点灯

1. スイッチを回し、② の位置に合わせます。車幅灯、尾灯、番号灯が点灯します。
2. スイッチを回し、③ の位置に合わせます。前記のライトに加えて、ヘッドランプが点灯します。

オートライトシステム

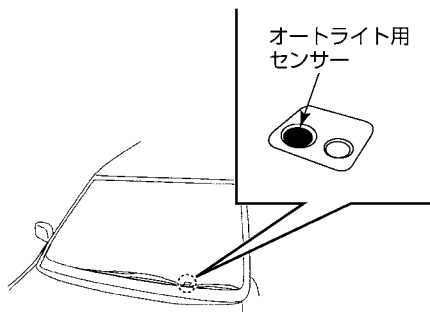
オートライトは、車外の明るさに応じてライトを自動的に点灯·消灯させるシステムです。

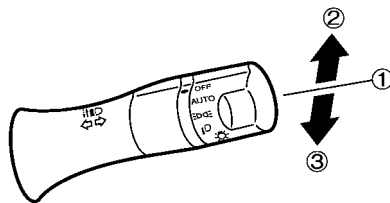
オートライトシステムを作動させるには：

1. ライトスイッチを回し、AUTOの位置①に合わせます。
2. 電源ポジションをONにします。
3. ヘッドランプは自動的に点灯·消灯します。

オートライトシステムをOFFにするには、スイッチをOFF、 、又は 位置に回します。

オートライトシステムは、暗くなるとヘッドランプを自動的に点灯させ、明るくなると消灯させます。

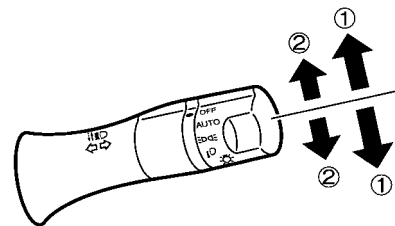
ワイパー作動時は、ワイパーが数回作動すると点灯します。

夜間やトンネルなどの走行時に加え、歩行者事故などが多く発生している夕暮れ時や雨天でのフロントワイパー作動時もライトを点灯させることにより、自車両を目立たせ、周囲の歩行者やドライバーへの注意を喚起します。

センサーの上に、物を置いたり、ガラスクリーナーなどを吹きかけないでください。センサーの感度が低下し、正常に作動しなくなります。

ヘッドランプの上向き、下向き切り替え

① 下向き（ロービーム）にするには、レバーを中立位置にします。
② 上向き（ハイビーム）にするには、スイッチが ≣D 位置のときにレバーを前方に押します。 元の位置に引き戻すと、下向き（ロービーム）になります。
③ レバーを手前に引くと、ライトスイッチがOFF位置のときでもヘッドランプのハイビームが点灯します（パッシング）。

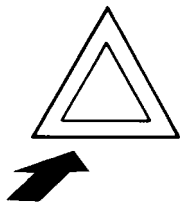
オートレベライザー

ヘッドランプが下向き点灯時に乗車人員や荷物量の違いにより車両姿勢が変化すると自動的に照射方向を調整するシステムです。

方向指示器スイッチ

①方向指示

スイッチを上又は下に動かし、左折又は右折信号を出します。 右左折が完了すると、方向指示器は自動的に消灯します。

②車線変更

車線変更するときは、方向指示器が点滅する位置までスイッチを上又は下に動かします。

非常点滅表示灯スイッチ

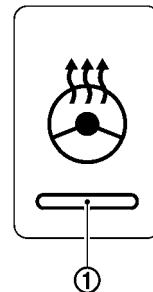
故障などでやむを得ず路上駐車するときや、非常時に使います。 スイッチを押すとすべての方向指示器とメーター内の方向指示表示灯が点滅します。

⚠ 警告

- 非常時に停車するときは、必ず走行車線から十分に離れた安全な場所に車両を移動させてください。
- 高速走行時は、緊急事態によって他の車両に危険が及ぶような場合以外は非常点滅表示灯を使用しないでください。

- 非常点滅表示灯の点滅中は、方向指示器は作動しません。

非常点滅表示灯は、電源ポジションがどの位置でも作動します。

ステアリングヒータースイッチ*

ステアリングの表面温度が約20°C未満のときに作動します。

電源ポジションがONのときに、ステアリングヒータースイッチを押すと、表示灯①が点灯してステアリングが加熱し、ON/OFFを繰り返しながらステアリングの表面温度が約20°Cを超える温度を保ちます。

ステアリングヒーターを停止する場合は、ステアリングヒータースイッチを押してください。表示灯が消え、ステアリングヒーターが停止します。

また、タイマー機能によりステアリングヒータースイッチをONにしてから30分後に自動でステアリングヒーターが停止します。

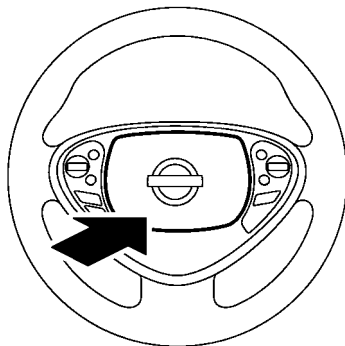
知識：

ステアリングの温度が約20°C以上のときは、スイッチを押してもステアリングヒーターは作動しませんが、故障ではありません。

外気温が低く（約10°C以下）、タイマーエアコン及び乗る前エアコン（リモート）を使用する場合は、次の条件で自動的にステアリングヒーターが作動します。

- タイマーエアコン使用時：
  — 出発予定時刻の約15分前～出発予定時刻までの間。
- 乗る前エアコン(リモート)使用時：
  — エアコン開始～15分間。

*：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

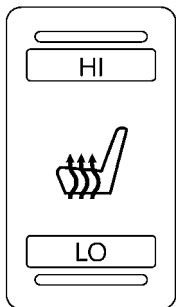
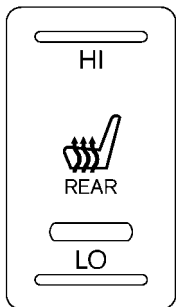
ホーン

ホーンを鳴らすには、ハンドル中央のパッド面を押します。

警告

ホーンは分解しないでください。 運転席SRSエアバッグシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。運転席SRSエアバッグシステムを改造すると、重大な傷害につながるおそれがあります。

ヒーターシート*

注意

- 長時間の連続使用は低温やけどの原因となります。特に皮膚の弱い方、乳幼児、病人、お年寄り、体の不自由な方、眠気をもよおす薬を服用された方、深酒や疲労の激しい方は注意して使用してください。
- シートに毛皮や座布団を載せたり、日産純正以外のシートカバーを使わないでください。過熱するおそれがあります。
- 固くて重たいものや突起がある物をシートに載せたり、ピンや針などの鋭い物でシートをつきさしたりしないでください。
- シートを清掃するときは、シンナー、ベンジン、アルコールなどの有機溶剤を使用しないでください。
- 水などをこぼしたときは、乾いた布ですぐに拭き取ってください。
- ヒーターシートに異常があるとき、又は作動しないときは、日産販売会社で点検を受けてください。

前席

後席

前席シート又は後席シートを温めます。前席シートのスイッチはセンターコンソール前方に、後席シートのスイッチは助手席の背もたれの内側にあります。

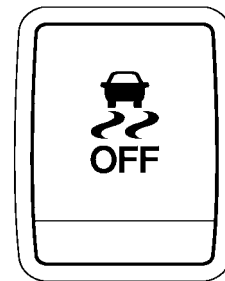
1. 電源ポジションをONにします。
2. スイッチ位置をHI(高温）またはLO(低温）にあわせます。ヒーターがONのとき、表示灯が点灯します。
3. 止めるときは、スイッチを水平な位置に戻してください。表示灯が消灯します。

知識：

スイッチ位置をHI(高温)あるいはLO(低温)のままにしてあると、タイマーエアコン作動中及び乗る前エアコン（リモート）作動中は自動的に働きます。

後席は、両サイドのシート部分のみ温まります。

*：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

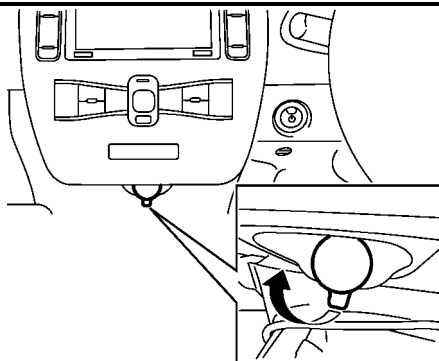
VDC OFFスイッチ

通常走行時は、ビークルダイナミクスコントロール（VDC）をONにして走行してください。

車両がぬかるみ又は雪にはまった場合、VDCシステムは走行用モーターの出力を低下させて車輪の空転を抑えます。この場合、アクセルペダルを完全に踏み込んでも走行用モーターの回転数が上がらないことがあります。 悪路から脱出するために最大限の走行用モーター出力が必要な場合、VDCシステムをOFFに切り替えてください。

VDCシステムをOFFにするには、VDC　OFFスイッチを押します。 OFF の表示灯が点灯します。

再度VDCシステムをONにするには、VDC OFFスイッチを再び押すか、電源ポジションを

OFFからONにすると、VDC OFF表示灯は消灯し、VDC ONになります。 ☞ “VDC（ビークルダイナミクスコントロール)”
(page 5-21)をお読みください。

電源ソケット

電源ソケットはインストルメントパネルに設置されています。

⚠ 注意

- 使用中と使用直後は、ソケットとプラグが熱くなっていることがあります。
- 12V、120W（10A）を超えるアクセサリーは使用しないでください。 2マタソケットを使用したり、複数の電装アクセサリーを同時に使用しないでください。
- 12Vバッテリーがあがらないように、電源ポジションをON又は走行可能状態にして電源ソケットを使用してください。
- 電源ソケットは、エアコン、ヘッドランプ、リヤウインドーデフォッガーと同時に使用しないでください。
- この電源ソケットは、シガーライターを差し込んで使用するようには設計されていません。
- ソケットの奥までプラグを押し込んでください。 接触が不完全な状態では、プラグが異常発熱するか、内部の温度ヒューズが切れる場合があります。
- プラグを挿入したり抜いたりする前に、使用機器側の電源スイッチをOFFにしてください。
- 使用しないときは、必ずキャップをしてください。 ソケットに水がかからないように注意してください。

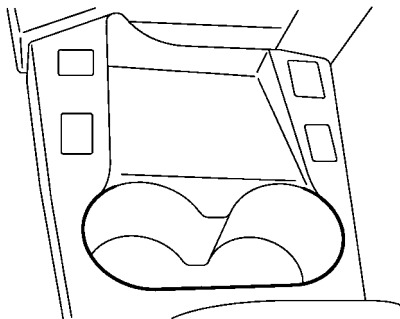
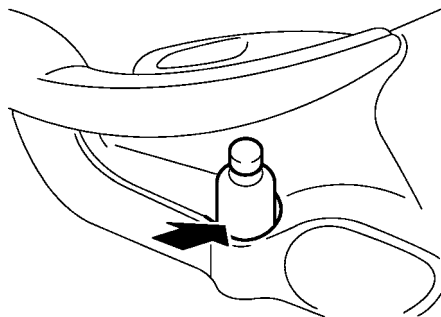
カップホルダー/ボトルホルダー

⚠ 警告

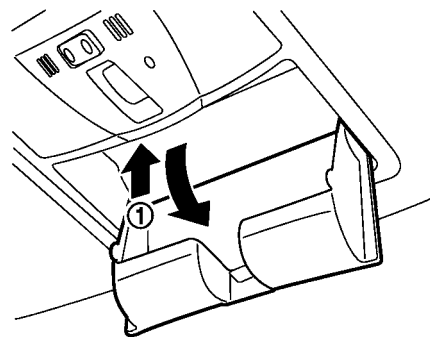
運転中は、信号待ちなどの停車中に使ってください。走行中に飲み物を出し入れすると前方不注意となり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 飲み物をこぼさないように急発進と急ブレーキに注意してください。熱い飲み物がこぼれると、やけどをするおそれがあります。高温の飲み物は、避けてください。
- カップホルダーには、急ブレーキや事故の際に投げ出され、ケガの原因になるような硬い容器などを収納しないでください。

前席カップホルダー

ボトルホルダー

⚠ 注意

- 飲み物容器のふたを閉めてから収納してください。
- ドアポケットのホルダーには、急ブレーキや事故の際に投げ出され、ケガの原因になる物を収納しないでください。

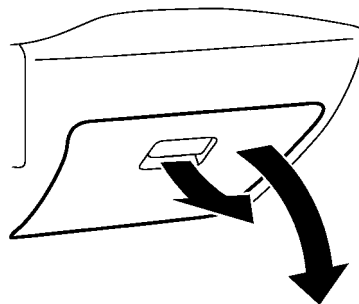
サングラスホルダー

⚠ 警告

事故を防ぐために、走行中はサングラスホルダーを閉めておいてください。

サングラスホルダーを開くには、①を押します。

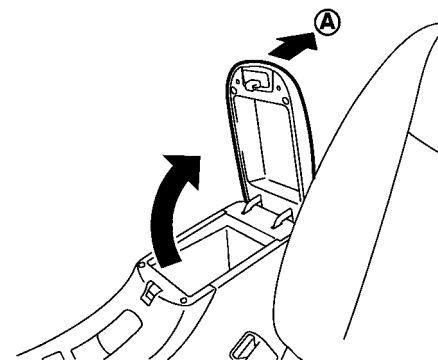
⚠ 注意

- メガネ類以外は収納しないでください。
- 直射日光が当たる場所に駐車するときは、サングラスホルダーにメガネ類を入れておかないでください。熱で変形するおそれがあります。

グローブボックス

⚠ 警告

グローブボックスを開けたまま走行しないでください。ブレーキをかけたとき収納したものが飛び出したり，ふたに当たるなどして、思わぬケガをすることがあります。

グローブボックスを開くには、ノブを引きます。
閉めるときは、ロックされるまでふたを押します。

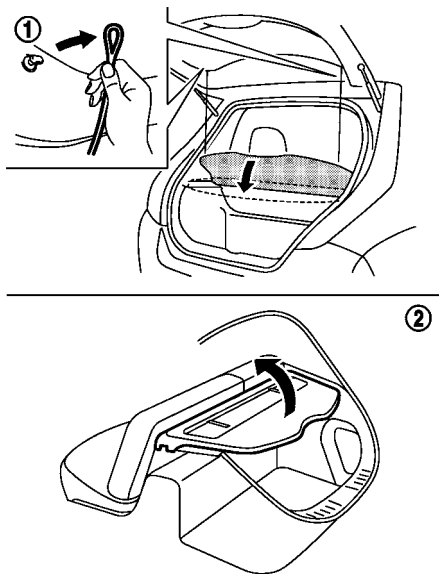
コンソールボックス

コンソールボックスを開くときは、ノブⒶを押し上げ、ふたを引き上げます。閉めるときは、ロックされるまでふたを押します。

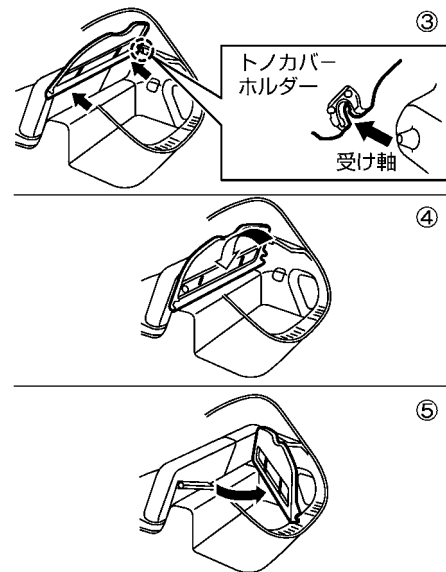
トノカバー*

⚠ 警告

- トノカバーの上には、小物を含めて絶対に何も載せないでください。事故又は急停止時にケガの原因になることがあります。
- トノカバーを取り外した状態で使用しないでください。

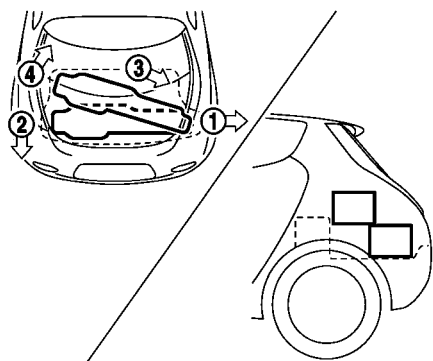
- 荷物は動かないように、収納してください。 背もたれの高さを超えて荷物を積まないでください。 急停止時又は衝突時に、固定していない荷物によってケガをするおそれがあります。
- チャイルドシートの上部ストラップが損傷すると、衝突時にお子さまの重大な傷害又は死亡につながることがあります。
  — テザーアンカーに取り付けたときに、トノカバーが上部ストラップに接触するときは、車両から外して使用しないでください。 トノカバーを外さないと、衝突時に上部ストラップが損傷するおそれがあります。
  — テザーアンカーに固定した上部ストラップに荷物が接触しないよう注意してください。上部ストラップに触れないよう、荷物は適切な方法で固定してください。 衝突時に、固定しない荷物又は上部ストラップに接触する荷物によって上部ストラップが損傷するおそれがあります。

トノカバーによってラゲッジルームの荷物が車外から見えなくなります。

トノカバーの取り外しかた：

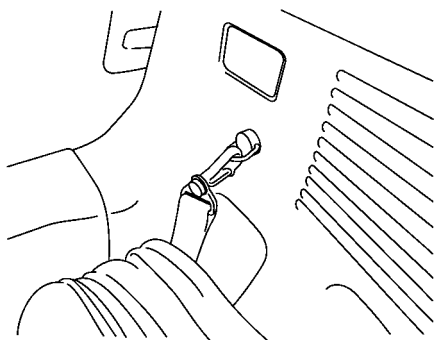
1. ストラップをバックドアのフック①から取り外します。
2. トノカバーを引き上げます。
3. トノカバーホルダーを受け軸から取り外します。

4. ③の位置からそのまま後席の背もたれに沿ってトノカバーをスライドさせて下げます。
5. 左側又は右側を後方へ引き、トノカバーを取り外します。

6. 取り付けるときは、操作した逆の手順で戻します。

*：車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

ゴルフバッグの収納

ラゲッジルーム内には2個のゴルフバッグを上下二段に重ねて収納できます。 一個目のゴルフバッグの上部をラゲッジルームの右側に入れ①、バッグ下部を②の方向に収めます。2個目のゴルフバッグの上部をラゲッジルームの右側に入れ③、ゴルフバッグの下部を④の方向に収めます。

大きさ又は種類によっては2個のゴルフバッグを積めないこともあります。

ラゲッジフック

⚠ 注意

フックには2kg以上の物を掛けないでください。フックが破損するおそれがあります。

フックはラゲッジルームの側面にあります。充電ケーブル(EVSE)を固定するときに使用します。

パワーウインドー

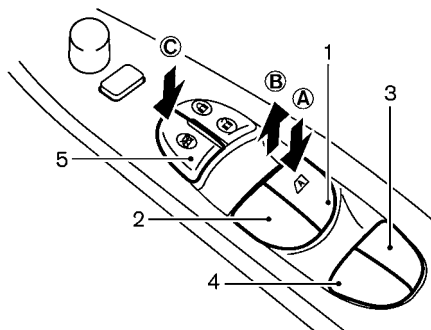
電源ポジションがONのとき操作できます。

⚠ 警告

- 走行中は顔や手、物などを車外に出さないでください。車外のものに当たったり、急ブレーキ時に重大な傷害につながるおそれがあります。
- お子さまを乗せているときは、パワーウインドーロックスイッチを押し込み、操作させないようにしてください。重大な傷害につながるおそれがあります。

知識：

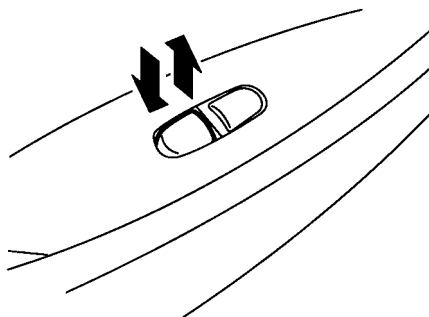
- 運転席のパワーウインドーロックスイッチが押し込まれているときは、助手席･後席窓ガラスの操作ができません。
- キーOFF後作動機構:
  運転席の窓ガラスは電源ポジションをACC又はOFFにしたあとでも、約15分間は開閉することができます。ただし、その約15分間に運転席 ドアを開けて閉める（ドアが開いているときは閉める）と、窓ガラスの開閉はできなくなります。

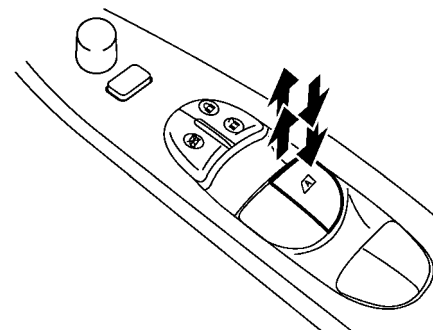
運転席スイッチ

1. 運転席窓ガラス
2. 助手席窓ガラス
3. 後席右側窓ガラス
4. 後席左側窓ガラス
5. パワーウインドーロックスイッチ

窓ガラスを開閉するには、スイッチを押し下げるⒶか、引き上げⒷ、その位置で保持します。 運転席スイッチで全席の窓ガラスの開閉ができます。

ウインドーロック

ロックスイッチⒸを押し込むと、運転席窓ガラス以外の開閉ができなくなります。 スイッチをもう一回押すと、ロック機能は解除されます。

助手席スイッチ

助手席スイッチで助手席窓ガラスの開閉ができます。 窓ガラスを開閉するには、スイッチを押し下げるか、引き上げ、その位置で保持します。

ワンタッチ開閉

ワンタッチ開閉機能は、 A のマークが付いたスイッチで使用できます。

スイッチを強く押すと全開します。スイッチを強く引き上げると全閉します。 スイッチから手を離しても、窓ガラスは自動的に全開又は全閉します。 途中で止めたいときは、スイッチを操作した反対側に軽く押すか引きます。

スイッチを軽く押すと、押している間窓ガラスは開きます。軽く引くと、引き上げている間窓ガラスは閉まります。

挟み込み防止機構

⚠ 警告

完全に閉まる直前は、挟み込みを感知できない領域があります。窓ガラスを閉める前に、乗員の手などが挟まれないことを確認してください。

窓ガラスが閉まる間に異物の挟み込みが感知されると、窓ガラスの上昇が停止し、自動で少し下降し止まります。

挟み込み防止機構は、次の場合に作動します。

- ワンタッチ開閉機能を使って窓ガラスを閉めているとき。
- 電源ポジションをOFFにしてから操作しているとき。

環境や走行条件により、異物を挟んだときと同じような衝撃や荷重が窓ガラスに加わると、挟み込み防止機構が作動することがあります。

ワンタッチ機能が作動しないとき

窓ガラスを閉めるときにワンタッチ機能が正常に作動しないときは、以下の手順で初期化してください。

1. 電源ポジションをONします。
2. ドアを閉めます。
3. パワーウインドースイッチを押して、窓ガラスを全開にします。
4. パワーウインドースイッチを引いたまま保持して窓ガラスを閉めます。窓ガラスが閉まったあと、3秒以上スイッチをそのまま保持します。
5. パワーウインドースイッチから手を離します。ワンタッチ機能で窓ガラスを操作し、正常に作動することを確認してください。

上記の操作で作動できない場合は、日産販売会社で点検を受けてください。

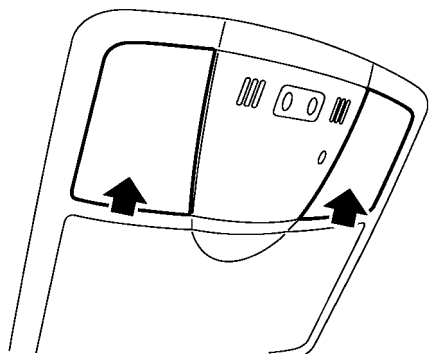
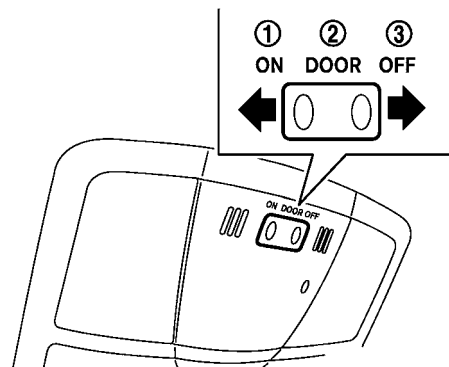
室内照明

⚠ 注意

電源ポジションがOFFのときに長時間使用しないでください。 12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

マップランプ

⚠ 注意

電源ポジションがOFFのときに長時間使用しないでください。 マップランプのスイッチが“ON”又は“DOOR”の場合、12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

スイッチを押して、マップランプを点灯又は消灯させます。

マップランプのコントロールスイッチには、ON①、DOOR②、OFF③の3つの位置があります。

ON位置

スイッチがON位置①のとき、マップランプが点灯します。

DOOR位置

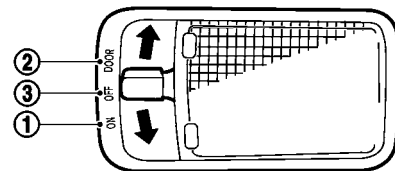
スイッチがDOOR位置②のとき、マップランプは以下の条件で点灯します。

- 電源ポジションをOFFにする。
  — 約15秒間点灯します。
- 電源ポジションがOFFのときに、解錠 🔓 スイッチ又はリクエストスイッチを押してドアを解錠する。
  — 約15秒間点灯します。
- 電源ポジションがOFFのときにドアを開けてから閉める。
  — 約15秒間点灯します。
- ドアを開けたとき。
  — ドアが開いている間は点灯状態になります。ドアを閉めると、消灯します。

12Vバッテリーあがりを防止するために、マップランプは15分後に自動的に消灯します。

OFF位置

スイッチがOFF位置③のときは、マップランプは常に消灯状態になります。

ルームランプ

ルームランプスイッチには、ON①、DOOR②、OFF③の3つの位置があります。

ON位置

スイッチがON位置①のとき、ルームランプが点灯します。

DOOR位置

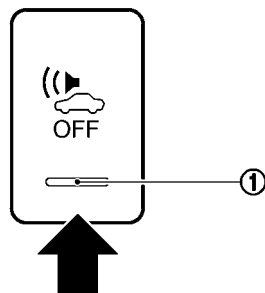
スイッチがDOOR位置②のとき、ルームランプは次の条件で点灯します。

- 電源ポジションをOFFにする。
  — 約15秒間点灯します。
- 電源ポジションがOFFのときに、解錠 🔓 スイッチ又はリクエストスイッチを押してドアを解錠する。
  — 約15秒間点灯します。
- 電源ポジションがOFFのときにドアを開けてから閉める。
  — 約15秒間点灯します。
- 電源ポジションがACC又はONのときにドアを開ける。
  — ドアが開いている間は点灯状態になります。ドアを閉めると、消灯します。

12Vバッテリーあがりを防止するために、ルームランプは15分後に自動的に消灯します。

OFF位置

スイッチがOFF位置③のときは、ルームランプは常に消灯状態になります。

車両接近通報音（VSP）一時停止スイッチ

車両接近通報装置(VSPシステム)は、低速走行中に車両が接近していることを車両接近通報音で歩行者に知らせます。

VSPシステムがONで、以下の場合に作動します。

- 車両を発進し、車速が30km/h以内のとき。
- 減速して、車速が25km/h以下になったとき。
- シフトポジションをR（リバース）にしたとき。

VSPシステムのON/一時停止

1. 電源ポジションをONにします。
2. VSP 一時停止スイッチを押して、VSPシステムを一時停止状態にします。（VSP一時停止インジケーター①が点灯）
3. VSP 一時停止スイッチを再び押すと、VSPシステムがONになります。（VSPスイッチの一時停止インジケーター①が消灯）
4. 電源ポジションをOFFにすると設定はリセットされ、再び電源ポジションをONにするとVSPシステムはONになります。

⚠ 警告

- VSPシステムは、高速道路の渋滞走行などの歩行者がいない状況でのみ、一時停止状態にしてください。歩行者がいる可能性があるときは、絶対にVSPシステムを一時停止状態にしないでください。
- VSPシステムを一時停止状態にして走行すると、近づく車両に歩行者が気づかず、事故が発生して重大な傷害又は死亡につながるおそれがあります。
- VSPシステムがONで低速走行中に、車両接近通報音が聞こえないときは、安全で静かな場所に停車してください。

窓ガラスを開けてブレーキペダルを確実に踏み込み、シフトポジションをR（リバース）にして車両前側から音が聞こえるか点検してください。

車両前側から音が聞こえないときは、ただちに日産販売会社に連絡し、点検を受けてください。

3 走行する前に

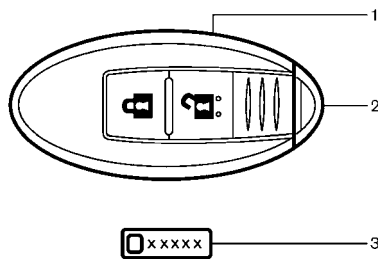
キー

キーにはキー番号タグが付いています。 キー番号は記録し、車内ではなく、（たとえば財布などの）安全な場所に保管してください。キーを紛失したときは、キー番号から日産販売会社でスペアキーを作成できます。日産販売会社ではキー番号は記録していないため、キー番号タグの保管は非常に重要です。

キー番号はすべてのキーを紛失し、スペアキーを作成するときに元となるキーがない場合にのみ必要です。キーが1本でも残っている場合は、日産販売会社でスペアキーを作成できます。

知識：

- 車内にキーを残したまま降車しないでください。

インテリジェントキー

1. インテリジェントキー（2セット）
2. メカニカルキー（インテリジェントキー内）（2セット）
3. キー番号タグ（1セット）

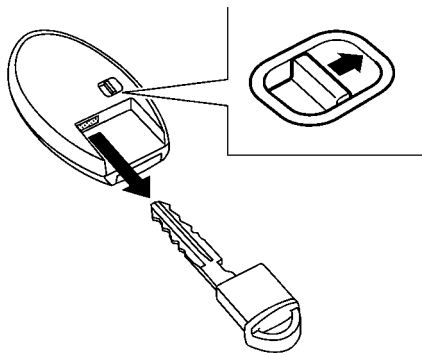
車両に登録されたインテリジェントキーを使用した場合に限り、お車を走行させることができます。1台の車両に4本までのインテリジェントキーを登録することができます。 新しいキーは、日産販売会社にて使用前に車両に登録する必要があります。 新しいキーを登録するときに、インテリジェントキー部品内の全メモリーが消去されるため、お手持ちのすべてのインテリジェントキーを日産販売会社にご持参ください。 インテリジェントキー機能は、作動しないように切り替えることができます。日産販売会社にご連絡ください。

注意

- 運転中はインテリジェントキーを携帯してください。インテリジェントキーは送信機が内蔵された精密機器です。損傷させないために、次の点に注意してください。
  - キーには、防水機能が付いていますが、ぬらすと損傷するおそれがあります。 ぬれたときは、すぐ拭き、完全に乾かしてください。
  - 曲げたり、落としたり、ぶつけたりしないでください。
  - 温度が60°Cを超える場所に長時間放置しないでください。
  - 変更又は改造を行わないでください。
  - 磁気を帯びたキーホルダーを付けないでください。
  - テレビ、パソコン、又は携帯電話などの電気機器の近くに置かないでください。
  - 水又は塩水でぬらしたり、洗濯機で洗ったりしないでください。 シ

ステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

- インテリジェントキーを紛失したか、盗まれたときは、インテリジェントキーが不正に使用されることを防ぐため、IDコードを消去することをおすすめします。消去方法については、日産販売会社にご相談ください。

メカニカルキー

メカニカルキーを取り外すときは、インテリジェントキー裏側のロックノブを解除します。

メカニカルキーを取り付けるときは、ロックノブがロック位置に戻るまでインテリジェントキーに確実に差し込みます。

運転席ドアのキーシリンダーでメカニカルキーを使いドアの施錠·解錠ができます。☞ “メカニカルキー機能”(page 3-3)をお読みください。

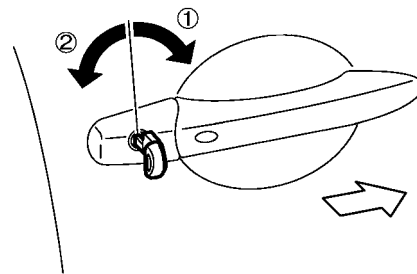
⚠ 注意

メカニカルキーは常にインテリジェントキーに取り付けて携帯してください。

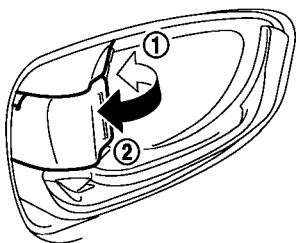
ドア

⚠ 警告

- ドアを開ける前に、必ず周囲の交通状況を確認してください。
- お子さまだけを車内に残さないでください。誤って各種スイッチ類を操作してしまい、重大な事故につながることがあります。

メカニカルキー機能

インテリジェントキーの電池が切れたときや、車両のバッテリーがあがったときなどにドアの施錠·解錠ができます。

- 運転席ドアのキーシリンダーを車両前方①に回すと、全ドアとバックドアが施錠されます。
- 運転席ドアのキーシリンダーを車両後方②に回すと、全ドアとバックドアが解錠されます。

ロックノブによる施錠･解錠

車内のロックノブを押し込む①と施錠し、手前②に引くと解錠します。

運転席のロックノブで施錠･解錠すると、全ドアが同時に施錠･解錠します。

ドアを開けるときは、解錠後ドアハンドルを引きます。

キーを使用しないでドアを施錠するときは、キーを車内に置き忘れないよう注意してください。

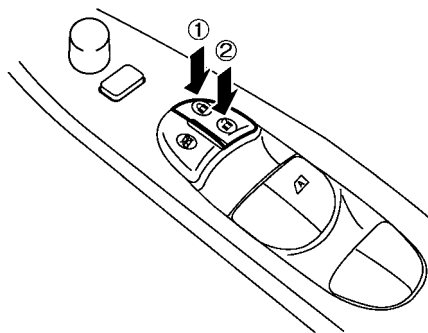
知識：

運転席ドアは、施錠したままでもドアハンドルを引くとドアが開けられます。その時、全ドアが同時に解錠します。

キー（インテリジェントキー）を使わない施錠

前席ドアは車内のロックノブを押し込み、ドアハンドルを引きながらドアを閉めます。

後席ドアは車内のロックの部を押し込み、そのままドアを閉めます。

ドアロックスイッチによる施錠

運転席のドアロックスイッチを押すと、全ドアの施錠･解錠ができます。

ドアを施錠するときは、運転席ドアを開いた状態でドアロックスイッチの施錠側①を押し、ドアハンドルを引いてドアを閉めます。

ドアロックスイッチでドアを施錠するときは、キーを車内に置き忘れないよう注意してください。

解錠するときは、ドアロックスイッチの解錠側②を押します。

キー封じ込み防止機能

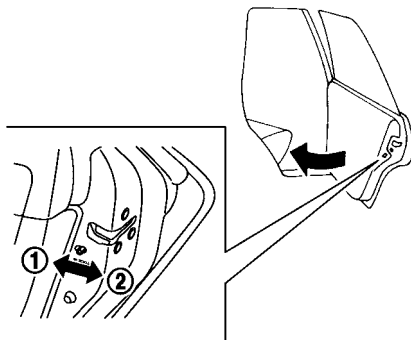
インテリジェントキーを車内に置き忘れたまま施錠することを防ぐ機能です。

⚠ 警告

- 次のような場所に置いているときは、キー封じ込み防止機能が作動しないことがあります。
  — インストルメントパネル上
  — グローブボックス内
  — ドアポケット内
  — スペアタイヤ付近
  — 金属製のバッグの中
  — 金属製のものの近く

- 周囲の電波環境によってはキー封じ込み防止機能が作動しないことがあります。
- インテリジェントキーが車外にあっても、車両（ドアやドアガラス、リヤバンパーなど）に近づきすぎた場合、キー封じ込み防止機能が作動することがあります。

- インテリジェントキーが車内にあるとき。
  — 運転席ドアを開けた状態での運転席のロックノブ又はドアロックスイッチによる施錠ができません。（施錠後、すぐに全ドアが解錠されます。）
- ドアを開けた状態で運転席のロックノブ又はドアロックスイッチにより全ドアを施錠し、インテリジェントキーを車内に入れてしまったとき。
  — 全ドアを閉めると、車外警報ブザーが鳴り、全ドアが解錠されます。

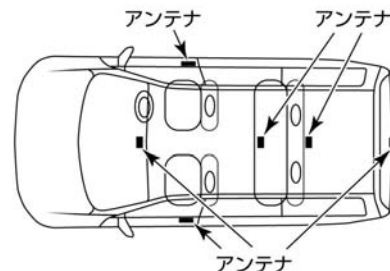
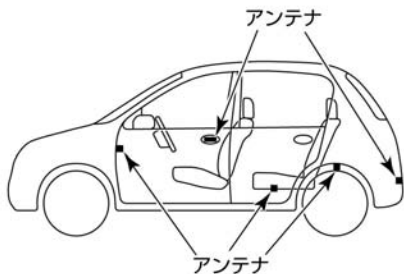
チャイルドセーフティドアロック

車内のロックノブの位置に関係なく、後席ドアを車内から開けられなくなります。この機能は、主にお子さまを乗せるときに使います。

レバーをLOCK位置①にすると、後席ドアは車内から開けられなくなります。

ロックを解除するには、レバーを元の位置②に戻します。

インテリジェントキー

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカー及び植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。ドア開閉時、各リクエストスイッチ操作時、EVシステム始動時などにインテリジェントキーの電波が植え込み型心臓ペースメーカー及び植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

- 植え込み型心臓ペースメーカー及び植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、インテリジェントキーの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があるため、医療電気製造業者などへ影響を確認してからご使用ください。
- 詳しくは、日産販売会社にお問い合わせください。
- 航空機内ではインテリジェントキーのスイッチを押さないでください。また、バッグなどに収納するときは、荷物などでスイッチが押されないようにしてください。万一スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運航に支障をきたすおそれがあります。

インテリジェントキーシステムは、ポケットや財布からキーを取り出すことなく、リモートコントロール機能又は、各リクエストスイッチを押すことで、全ドアとバックドアの施錠･解錠ができます。

作動環境や作動条件がインテリジェントキーシステムの作動に影響することがあるため、使用する前に次のことをお守りください。

注意

- 運転中はインテリジェントキーを携帯してください。
- 駐車するときは、絶対にインテリジェントキーを車内に残しておかないでください。

インテリジェントキーは電波を受信しているため、常に車両と通信し微弱な電波を発信します。

次のような使用環境では機能に障害が起こるため、インテリジェントキー機能やリモートコ ントロールエントリー機能が正常に作動しない場合があります。その場合には、メカニカルキーを使って操作を行ってください。

- 近くにテレビ塔、発電所、放送局などの強い電波を発生する設備があるとき。
- 無線機や携帯電話などの無線通信機器を一緒に携帯しているとき。
- インテリジェントキーが金属性のものに接したり、覆われたりしているとき。
- 近くで電波式リモートコントロールエントリーを使用しているとき。
- インテリジェントキーをパソコンなどの電気製品の近くに置いたとき。
- コインパーキングに駐車したとき。
- 近くで電波式侵入警報装置を使用しているとき。
- 極端に気温が低いとき。（電池の性能が低下するため）

電池の寿命は使用状況によりますが、2年程度です。電池が切れた場合は、新しい電池と交換してください。

インテリジェントキーの電池が切れたときは、ブレーキペダルを踏み込み、インテリジェントキーをパワースイッチに接触させます。次に、ブザーが鳴ってから10秒以内に、

ブレーキペダルを踏み込みながらパワースイッチを押します。“インテリジェントキーの電池切れ”をお読みください。

インテリジェントキーは常時電波を受信しているため、強い電波を発する機器（テレビやパソコンなど）の近くに置くと、電池の寿命が短くなることがあります。

電池の交換方法については、☞ “インテリジェントキーの電池交換”(page 8-10)をお読みください。

12Vバッテリーがあがらないように注意してください。

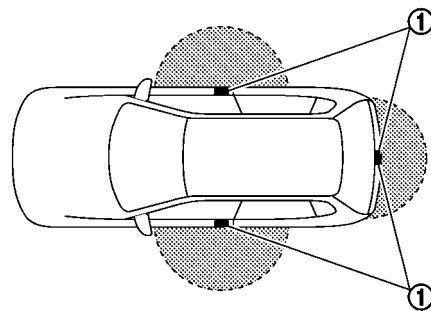
1台の車両に4本までのインテリジェントキーを登録することができます。追加のインテリジェントキーの購入については、日産販売会社にお問い合わせください。

⚠ 注意

- 外気温が−10°C以下のときは、インテリジェントキーの電池が正常に作動しないことがあります。
- 電子部品を内蔵しているため、インテリジェントキーは水又は塩水でぬらさないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- インテリジェントキーを落とさないように注意してください。
- インテリジェントキーを強くぶつけないようにしてください。
- 変更又は改造を行わないでください。
- インテリジェントキーはぬれると損傷するおそれがあります。ぬれたときは、すぐに水分を拭きとり、乾かしてください。
- インテリジェントキーは温度が60°C以上になる場所に長時間放置しないでください。
- インテリジェントキーに磁気を帯びたキーホルダーを付けないでください。
- インテリジェントキーは磁界を発生する機器（テレビ、オーディオ機器、パソコン、携帯電話など）の近くに置かないでください。

インテリジェントキーを紛失したり、盗まれたりしたときは、インテリジェントキーのIDコードを消去することで、インテリジェントキーが不正に使用されることを防ぐことができます。IDコードの消去方法については、日産販売会社にご相談ください。

インテリジェントキー機能は、作動しないように切り替えることができます。インテリジェントキー機能の作動解除については、日産販売会社にご相談ください。

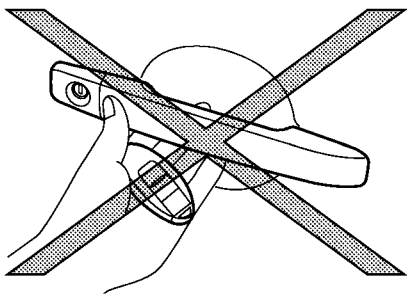
インテリジェントキーの作動範囲

インテリジェントキー機能は、インテリジェントキーがリクエストスイッチ①から規定の作動範囲内にあるときに使用できます。

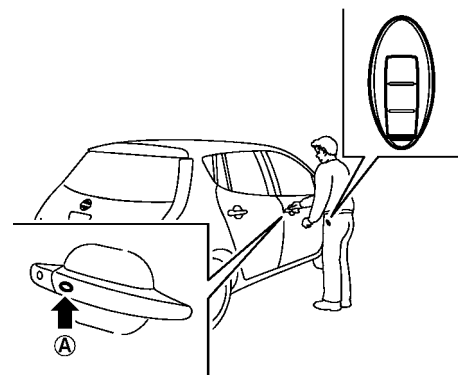
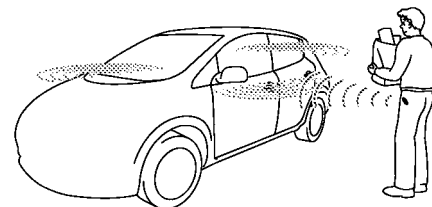
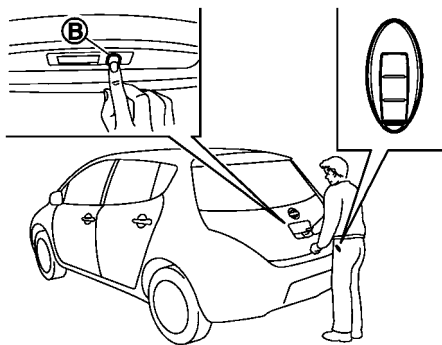
インテリジェントキーの電池が消耗しているときや、付近に強力な電波が存在するときは、インテリジェントキーシステムの作動範囲は狭くなり、インテリジェントキーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

作動範囲は、各リクエストスイッチ①から約80cm以内です。

インテリジェントキーがドアガラス、ハンドル、リヤバンパーに近づきすぎている場合、リクエストスイッチが作動しないことがあります。

インテリジェントキーが作動範囲内にある場合は、インテリジェントキーを携帯している人以外でもリクエストスイッチを押して施錠･解錠できます。

ドア施錠/解錠時の注意事項

- インテリジェントキーを手に持ったままドアハンドルのリクエストスイッチを押さないでください。ドアハンドルに近すぎると、システムはインテリジェントキーが車外にあるかどうか認識しにくくなります。
- ドアハンドルのリクエストスイッチを押してドアを施錠したあとは、ドアが確実に施錠されていることを確認してください。
- インテリジェントキーを車内に置き忘れないよう、必ずキーを携帯してドアを施錠してください。
- ドアハンドルのリクエストスイッチを押す前にドアハンドルを引かないでください。ドアは解錠されますが、開きません。一旦ドアハンドルを離してから再び引くと、ドアは開きます。
- インテリジェントキーシステム（ドアハンドルのリクエストスイッチを使用したドアの開閉）は、作動しないように切り替えることができます。ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

インテリジェントキーの作動

インテリジェントキーシステムは、ポケットや財布からキーを取り出すことなく、全ドアとバックドアの施錠･解錠ができます。

インテリジェントキーを携帯することにより、作動範囲内でドアハンドルのリクエストスイッチ（運転席ドア又は助手席ドア）Ⓐ又はバックドアのリクエストスイッチⒷで全ドアの施錠又は解錠ができます。

ドア又はバックドアで施錠･解錠すると、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。

ドアの施錠

1. 電源ポジションをOFFにして、インテリジェントキーを携帯して車から降ります。*1
2. 全ドアとバックドアを閉めます。 *2
3. インテリジェントキーを携帯した状態で、ドアハンドルのリクエストスイッチ（運転席又は助手席）Ⓐ又はバックドアのリクエストスイッチⒷを押します。*3
4. 全ドアとバックドアが施錠されます。
5. 非常点滅表示灯が1回点滅し、車外の警報ブザーが1回鳴ります。

*1: 電源ポジションがACC又はONのときは、施錠できません。

*2: いずれかのドアが開いていると、インテリジェントキーでは施錠できません。

*3: インテリジェントキーを車内に残しているときは、ドアハンドルのリクエストスイッチを押してもドアは施錠できません。（インテリジェントキーを車内に残した状態でも、登録された別のインテリジェントキーでドアを施錠することができます。）

⚠ 注意

- リクエストスイッチでドアを施錠したあとは、ドアハンドルを操作してドアが確実に施錠されたことを確認してください。

- インテリジェントキーの封じ込み防止のため、リクエストスイッチを使用してドアを施錠するときは、インテリジェントキーを携帯していることを確認してからリクエストスイッチを操作してください。
- リクエストスイッチでの施錠･解錠は、インテリジェントキーシステムがインテリジェントキーを検出したときのみ作動します。

ドアの解錠

1. インテリジェントキーを携帯した状態で、ドアハンドルのリクエストスイッチⒶ又はバックドアのリクエストスイッチⒷを押します。
2. 非常点滅表示灯が2回点滅し、車外の警報ブザーが2回鳴り、全てのドア(バックドア含む）が解錠されます。

バックドアは、バックドアオープナースイッチを押して開けることができます。☞ “バックドア”(page 3-15)をお読みください。

ドアが施錠された状態で、リクエストスイッチを押してから30秒以内に、以下のいずれかの操作を行わないと、全ドアが自動的に施錠

します。

- いずれかのドア（バックドアを含む）を開く。
- パワースイッチを押す。

上記の30秒間に、インテリジェントキーの解錠 🔓 スイッチを押すと、その時点からさらに30秒が経過したあとに前ドアが自動的に施錠されます。

バッテリーセーバーシステム

バッテリーあがりを防止するため、以下の条件がそろった状態で約60分経過すると自動的に電源OFFになります。

- 電源ポジションがACCのとき。
- 全ドアが閉まっているとき。
- 電源ポジションがP（パーキング）位置にあるとき。

警告灯と警報ブザー

インテリジェントキーの誤操作による予期せぬ車両の動き出しや盗難を防ぐために、車内外で警報ブザーが鳴り、マルチファンクションディスプレイに警告が表示されます。

警報ブザーが鳴るか、警告灯が表示されたときは、必ず車両とインテリジェントキーの確認を行ってください。

☞ “トラブルシューティング” (page 3-11) 及び ☞ “メーター·表示灯·警告灯の見かた” (page 2-11) をお読みください。

トラブルシューティング

<table>
<tr><th colspan="2">症状</th><th>考えられる原因</th><th>確認すること</th></tr>
<tr><td rowspan="2">運転席ドアを開けて降車したとき</td><td rowspan="2">車内警報ブザーが鳴り続けます。</td><td>運転席ドアを開けたまま電源ポジションをOFFにした。</td><td>運転席ドアを閉めてください。</td></tr>
<tr><td>電源ポジションがACCにある。</td><td>電源ポジションをOFFにし、運転席ドアを閉めてください。</td></tr>
<tr><td rowspan="3">降車後にドアを閉めたとき</td><td>ディスプレイにキーの警告が表示されず、車外警報ブザーが3回鳴り、車内警報ブザーが数秒間鳴ります。</td><td>電源ポジションがACC又はONにある。</td><td>電源ポジションをOFFにします。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">車外警報ブザーが鳴り続けます。</td><td>電源ポジションがACC又はOFFで、電動シフト制御に異常が発生し、シフトポジションをP(パーキング)に入れることができない。</td><td rowspan="2">電動パーキングブレーキスイッチを引き上げます。</td></tr>
<tr><td>電動シフト制御に異常が発生し、パーキングブレーキをかけていないときにマスターウォーニング（黄色表示）が点灯する。</td></tr>
<tr><td>車内のロックノブを施錠位置にして、ドアハンドルを引いてドアを閉めたとき</td><td>車外警報ブザーが数秒間鳴り、全ドアが解錠されます。</td><td>インテリジェントキーが車内又はラゲッジルーム（荷室）にある。</td><td>インテリジェントキーを携帯してください。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">リクエストスイッチを押すか、インテリジェントキーの施錠 スイッチを押し、ドアを施錠したとき</td><td rowspan="2">車外警報ブザーが数秒間鳴ります。</td><td>インテリジェントキーが車内又はラゲッジルーム（荷室）にある。</td><td>インテリジェントキーを携帯してください。</td></tr>
<tr><td>ドアが半ドアになっている。</td><td>ドアを完全に閉めます。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、走行可能状態にしたとき</td><td>メーター内マルチファンクションディスプレイに、「インテリジェントキー電池切れ」が表示されます。</td><td>電池が消耗している。</td><td>電池を新品と交換します。 ☞ “インテリジェントキーの電池交換”(page 8-10)をお読みください。</td></tr>
<tr><td>メーター内のマルチファンクションディスプレイに「キー持ち出し警告」が表示され、車内警報ブザーが数秒間鳴ります。</td><td>インテリジェントキーが車内にない。</td><td>インテリジェントキーを携帯してください。</td></tr>
</table>

症状		考えられる原因	確認すること
パワースイッチを押したとき	メーター内マルチファンクションディスプレイに、「キーシステム警告」が表示されます。	インテリジェントキーシステムの異常が警告されている。	日産販売会社にご連絡ください。

リモートコントロールエントリー機能について

⚠ 警告

- インテリジェントキーの電波は医療電気機器に悪影響を与えることおそれがあります。 ペースメーカーを使用している方は、この機能をご使用になる前に医療電気機器の製造業者に連絡をして、ペースメーカー及び植え込み型除細動器（ICD）に与える影響についてご確認ください。

⚠ 注意

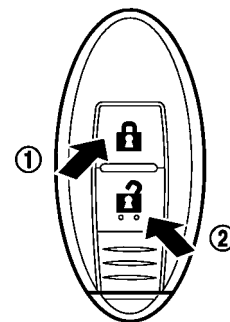
- 電子部品を内蔵しているため、インテリジェントキーは水又は塩水でぬらさないでください。 システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- インテリジェントキーを落とさないように注意してください。
- インテリジェントキーを強くぶつけないようにしてください。
- 変更又は改造を行わないでください。
- インテリジェントキーはぬれると損傷するおそれがあります。 ぬれたときは、すぐに水分を拭きとり、乾かしてください。
- インテリジェントキーは温度が60°C以上になる場所に長時間放置しないでください。
- インテリジェントキーに磁気を帯びたキーホルダーを付けないでください。
- インテリジェントキーは磁界を発生する機器（テレビ、オーディオ機器、パソコン、携帯電話など）の近くに置かないでください。

インテリジェントキーのリモートコントロールエントリー機能ですべてのドアを施錠·解錠できます。

作動範囲は、車両から約1mです。（作動距離は車両周囲の状況によって変化します。）

リモートコントロールエントリー機能は次の場合は作動しません。

- インテリジェントキーが作動範囲内にないとき。
- ドアが開いているか、確実に閉まっていないとき。(解錠のみできます。)
- インテリジェントキーの電池が消耗しているとき。

ドアの施錠

① 施錠 スイッチ
② 解錠 スイッチ

ドアを施錠又は解錠すると、作動確認のためのブザーと非常点滅表示灯が作動します。

1. 電源ポジションをOFFにして、インテリジェントキーを携帯して車から降ります。*1
2. 全ドアとバックドアを閉めます。*2
3. インテリジェントキーの施錠 スイッチ①を押します。
4. 全ドアとバックドアが施錠されます。
5. 非常点滅表示灯が1回点滅し、ブザーが1回鳴ります。

*1: 電源ポジションがACC又はONのときは、施錠できません。

*2: いずれかのドアが開いていると、施錠できません。

ドアハンドルを操作し、ドアが確実に施錠されたか確認してください。

ドアの解錠

1. インテリジェントキーの解錠 スイッチ②を1回押します。
2. 非常点滅表示灯が2回点滅し、 全ドア(バックドア含む）が解錠されます。

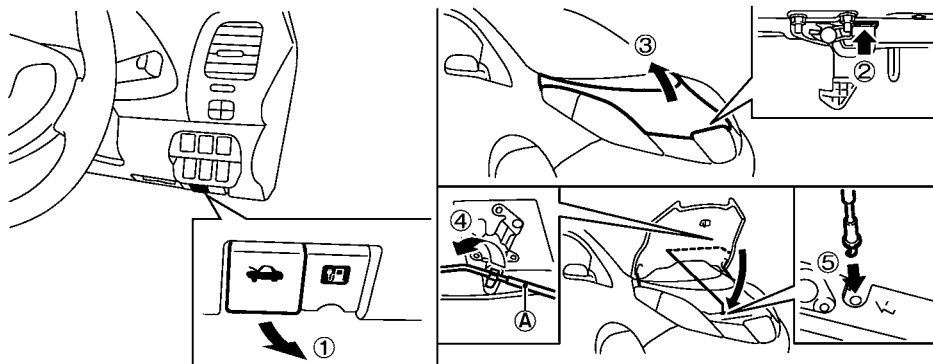
ドアが施錠された状態で、解錠 スイッチを押してから30秒以内に、以下のいずれかの操作を行わないと、全ドアが自動的に施錠します。

- いずれかのドア（バックドアを含む）を開く。
- パワースイッチを押す。

上記の30秒間に、インテリジェントキーの解錠 スイッチを押すと、その時点からさらに30秒が経過したあとに全ドアが自動的に施錠されます。

フード

⚠ 警告

- 走行前に、フードが完全に閉まり、ロックされていることを確認してください。ロックされていないと、走行中にフードが開いて、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- モータールームから蒸気又は煙が出ているときは、フードを開かないでください。やけどをするおそれがあります。

開けかた：

1. 運転席右下にあるフードオープナー①を引きます。フードの先端が少し浮き上がります。
2. フードと充電ポートリッドの間にあるレバー②を探し、指先でレバーを押し上げます。
3. フード③を持ち上げます。
4. フードからステー④を取り外し、スロット⑤に差し込みます。

ステーを移動させるときは、操作部Ⓐを持ってください。走行用モーター停止直後は高温になっていることがあるため、金属部分には直接触れないでください。

閉めかた：

1. ステーを元の位置に戻します。
2. フードをゆっくり降ろし、ロック部に合わせます。
3. フードを押し下げ、確実にロックします。

⚠ 注意

- フードを閉めるときは、手などを挟まないようにゆっくり降ろしてください。

バックドア

警告

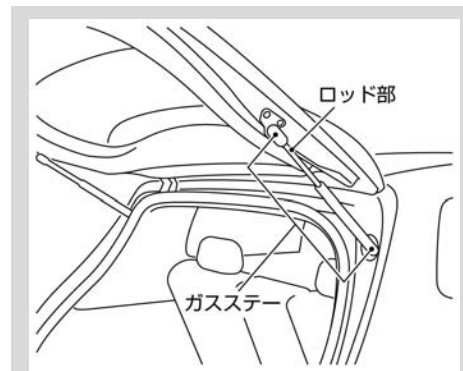
- ラゲッジルーム(荷室）に人を乗せて走行しないでください。急ブレーキをかけたときなど、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 走行前にバックドアが確実に閉まっていることを必ず確認し、開けたまま走行しないでください。

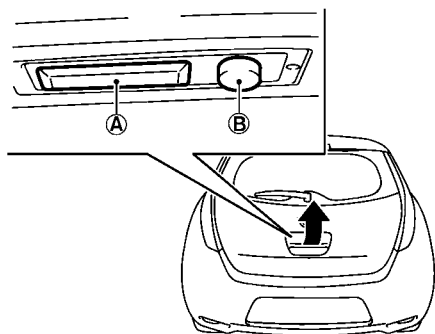
注意

- バックドアを開ける前に、バックドアに付着した雪や氷、ゴミなどの重量物を取り除いてください。重量物が付いたままバックドアを開けると重みで突然閉まるおそれがあります。
- バックドアは必ず全開してください。途中で止めると突然閉まるおそれがあります。
- 風が強いときに開けると、風にあおられ急に閉まることがありますので特に注意してください。
- バックドアを閉めるときは、手などを挟まないよう注意してください。

バックドアガスステーについて

バックドアのガスステーはバックドアの重量を支えるために取り付けられています。ガスステーの損傷や作動不良を防ぐために、次のことをお守りください。

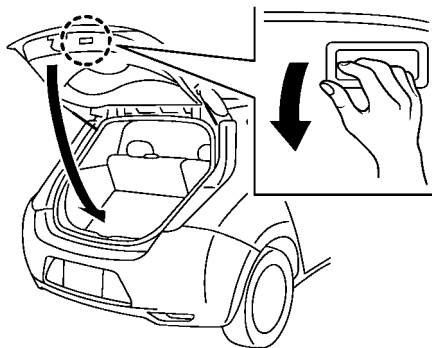
- ガスステーに手やひもなどをかけたり、横方向に力をかけたりしないでください。
- ビニール片、ステッカー、接着剤などの異物をロッド部に付着させないでください。
- ガスステーを持って、バックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手や腕を挟んだりして思わぬケガをするおそれがあります。

電磁式バックドアオープナースイッチを押したまま、リモートコントロール機能でドアを施錠·解錠しないでください。故障の原因になります。

開閉のしかた

バックドアを開けるときは、解錠してから電磁式バックドアオープナースイッチⒶを押し、バックドアを持ち上げます。

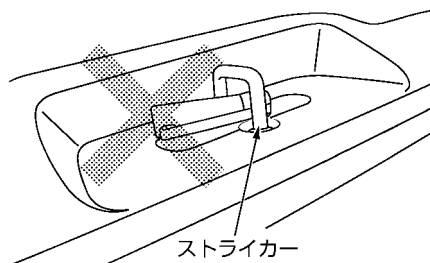
バックドアの解錠のしかた:

- インテリジェントキーの解錠 🔓 スイッチを押す。
- インテリジェントキーを携帯した状態でバックドア･リクエストスイッチⒷを押す。
- インテリジェントキーを携帯した状態でドアハンドルのリクエストスイッチを押す。
- 運転席ドアロックスイッチを解錠位置へ押す。
- 運転席ドアのキーシリンダーにキーを差し込み、車両後方へ回す。

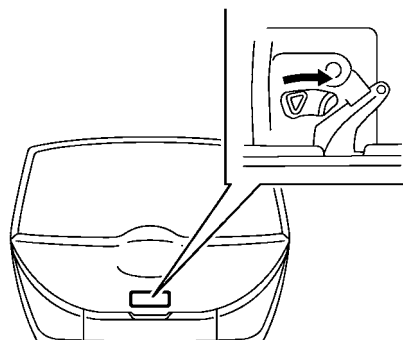
インテリジェントキーを携帯している状態で電磁式バックドアオープナースイッチⒶを押すと、バックドアを解錠し開けることができます。この時ドアも同時に解錠します。

閉めるときは、ドアグリップに手を掛け、バックドアを降ろし確実にロックするまで押しつけます。

⚠ 注意

- バックドアや車体側に手を触れたままバックドアを閉めると、手を挟まれてケガをするおそれがあります。
- バックドアを閉めるときは、バックドアのふちやその周辺に手を掛けないでください。必ず外から押して閉めてください。
- バックドアを閉めたあとは、確実に閉まっていることを必ず確認してください。走行中にバックドアが開いて思わぬ事故につながるおそれがあります。

バックドアを閉めるときは、ストライカーに異物をかみ込まないようにしてください。ストライカーやバックドアのロックが破損し、バックドアが閉まらなくなるおそれがあります。

バックドアが開けられなくなったとき

12Vバッテリーあがりなどにより、電磁式バックドアオープナースイッチででバックドアを開けられなくなったときは、次の操作をしてください。

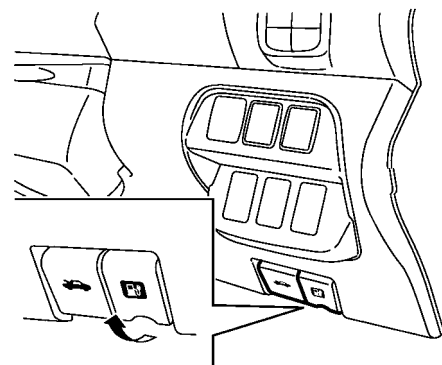
1. バックドア車内側にあるカバーの上側をお手持ちのマイナスドライバーなどに布などを巻きつけて外します。
2. レバーを矢印の方向に動かし、解錠します。

3. バックドアを持ち上げます。

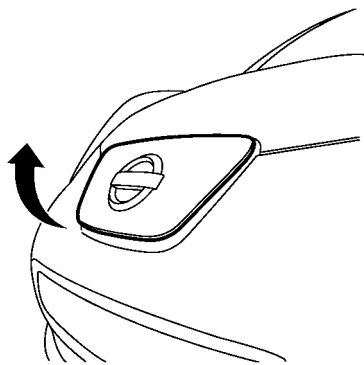
操作後は早めに日産販売会社で点検を受けてください。

充電ポート

充電ポートリッド

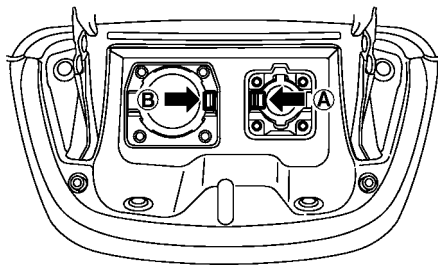
⚠ 注意

走行する前に、充電ポートのリッドが完全に閉まり、ロックされていることを確認してください。ロックされていないと、走行中にリッドが突然開いて車両を破損するおそれがあります。

開けかた:

1. 運転席の右下のにある充電ポートリッドオープナーを引きます。充電ポートリッドの先端が少し浮き上がります。

2. リッド下側のすき間に手を入れ、ロックされるまで開けます。

閉めかた:

1. リッドをゆっくりと降ろし、ロック部に合わせます。
2. リッドを押し下げ、完全に閉まったところで確実にロックされたことを確認してください。

充電ポートキャップ

Ⓐ: 普通充電ポートキャップ

Ⓑ: 急速充電ポートキャップ

充電ポートのキャップについているタブを押して開けます。

元の位置に閉めると、自動的にロックされます。

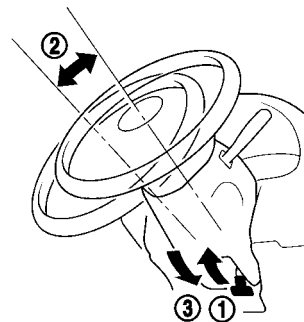
⚠ 注意

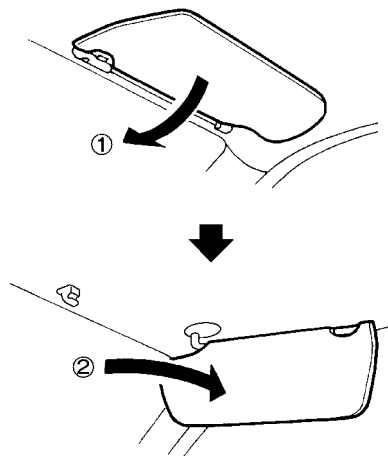
充電が完了したときは、必ず充電ポートキャップを閉めてください。充電ポート内に水やほこりが入ると、故障の原因になります。普通充電ポートのキャップは、開いたままでも充電ポートリッドを閉めることができるため、充電ポート使用時は特に注意してください。

ハンドル

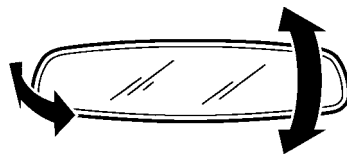
⚠ 警告

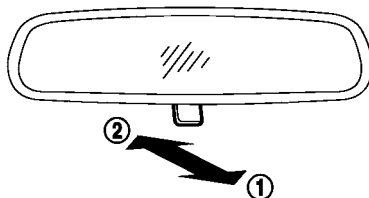
走行中にハンドルの調節は行わないでください。車両の制御を失い、事故につながるおそれがあります。

ハンドル調節のしかた

1. レバー①を押し上げます。
2. ハンドルを動かし②、適切な位置で止めます。
3. レバーを引き下げ③、固定します。

サンバイザー

1. 前方からの日差しを防ぐときは、下に下げて使います①。
2. 横からの日差しを防ぐときは、下に下げてフックから外し、横にして使います②。

ミラー

ルームミラー

ミラー本体を持ち、角度を調節して適切な位置に合わせます。

防眩切り替えレバー

⚠ 警告

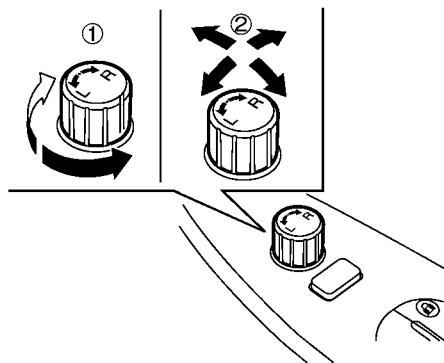
- ミラーの調節は走行前に行ってください。また、防眩への切り替えは必要なときのみ行ってください。思わぬ事故につながるおそれがあります。
- 後方が見えにくくなるため、夜間用の位置は必要なときのみ使用してください。

夜間など後続車のヘッドランプがまぶしいときは、レバーを手前①に引くと反斜が弱くなります。

昼間など通常走行時は②の位置に戻してお使いください。

ルームミラーのまわりに無線機やアクセサリーなどを取り付けたり、配線から電源をとったりしないでください。インテリジェントキーの電波受信機が内蔵されているため、ドアの施錠·解錠やバックドアの解錠、EVシステムの始動などができなくなるおそれがあります。

ドアミラー

ドアミラーの調節

ドアミラースイッチは運転席のアームレストにあります。

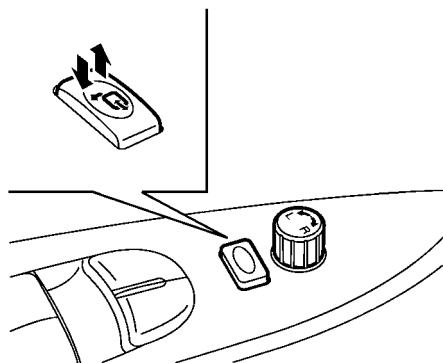
ドアミラーは電源ポジションがACC又はONのときに操作できます。

スイッチ①を右又は左へ回して右側又は左側ドアミラーを選択し、スイッチ②を動かして後方が十分確認できる位置にミラーの角度を調節します。

ヒーター付ドアミラー*

電源ポジションがONのとき、リヤウインドーデフォッガースイッチを押すと、ドアミラーに内蔵されたヒーターが作動し霜やくもりを取ります。☞ “リヤウインドーデフォッガースイッチ”(page 2-32)をお読みください。

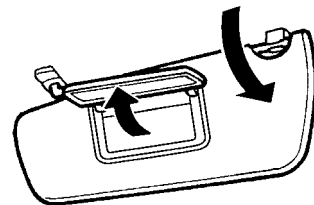
*: 車種、グレード、オプションなどにより、装着の有無が異なります。

ドアミラー格納スイッチ

電源ポジションがACCまたはONのとき、操作できます。

スイッチを押すごとに切り替わります。

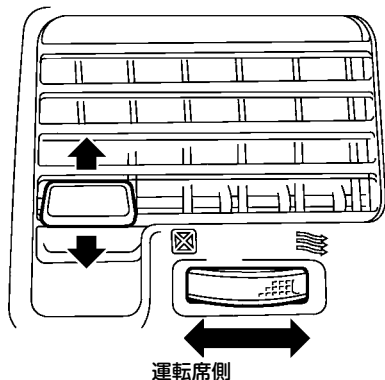
⚠ 注意

- ミラーが動いているときは手を触れないでください。手を挟んだり、ミラーが故障するおそれがあります。
- ミラーを格納したまま走行しないでください。後方確認ができないため危険です。
- 手動で開閉すると走行中ミラーが前方又は後方に倒れるおそれがあります。手動で開閉したあとは、走行前にドアミラー格納スイッチで開閉操作を行ってください。

バニティミラー

使用するときは、サンバイザーを下げてカバーを引き上げます。

4 エアコンの使いかた

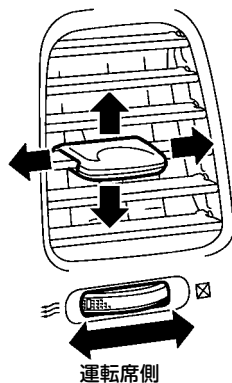
吹き出し口

前席中央吹き出し口

ダイヤルを操作して、吹き出し口の開閉を調節をすることができます。

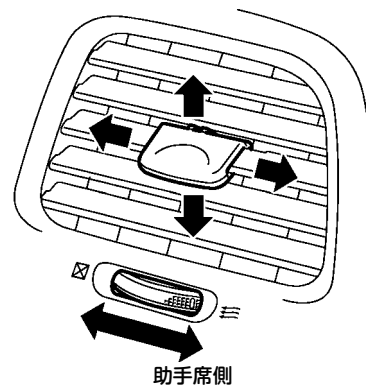
⊠ ：　吹き出し口が閉まります。
≋ ：　吹き出し口が開きます。

ノブを上下に操作して、吹き出し口の風向きを調整することができます。

助手席側も同様の操作で吹き出し口の開閉や風向きの調整ができます。

前席左右吹き出し口

ダイヤルを操作して、吹き出し口の開閉を調節をすることができます。

⊠ ：　吹き出し口が閉まります。
≋ ：　吹き出し口が開きます。

ノブを上下·左右に操作して、吹き出し口の風向きを調整することができます。

エアコンシステム

⚠ 警告

- お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残さないでください。炎天下では、密閉した車内の温度は急速に上昇し、熱中症や脱水症状などを引き起こすおそれがあります。また外気温が低い場合は、車内の温度が急速に下がるおそれがあります。最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。
- 窓ガラスがくもることがあるため、内気循環で長時間使用しないでください。
- モータールーム内の冷却ファンに手や足、アクセサリー類、衣類が接触したり、挟まったりしないよう注意してください。 冷却ファンが突然回転し始めることがあります。

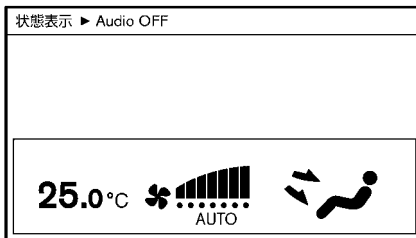
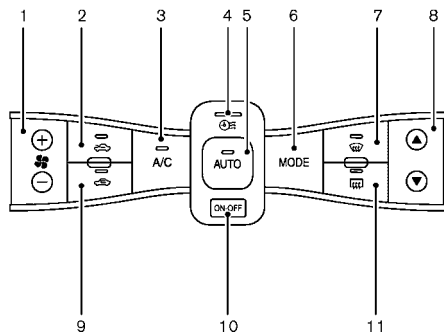
走行可能状態のときに、エアコン機能（冷暖房機能）を作動させることができます。ただし、充電中は電源ポジションがONのときにエアコン機能が使用できます。

この車両のエアコンシステムは、送風･冷房･暖房機能の他に、タイマー機能や車両の外からリモコン操作のできる乗る前エアコン(リモート)機能があります。

それぞれの機能は、次の条件のときに使用できます。

電源ポジション	LOCK/OFF	ACC	ON	走行可能状態
送風機能	-	-	○	○
冷房･暖房機能	-	-	○*1	○
タイマーエアコン機能	○*2	-	-	-
乗る前エアコン（リモート）機能	○	-	-	-

*1:　充電中のみ使用できます。.

*2:　充電ケーブルの接続が必要です。

状態表示スイッチを押すと、エアコンシステムの状態が表示されます。 詳しくはナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。

1. （風量切り替え）スイッチ
2. （外気導入）スイッチ
3. A/Cスイッチ
4. タイマーエアコン表示灯
5. AUTOスイッチ
6. MODE（吹き出し口切り替え）スイッチ
7. （フロントデフォッガー）スイッチ
8. 温度調節スイッチ
9. （内気循環）スイッチ
10. エアコンシステムON·OFFスイッチ
11. （リヤウインドーデフォッガー）スイッチ（ “リヤウインドーデフォッガースイッチ”(page 2-32)をお読みください。）

オートエアコン

オートで使うとき

オートモードは、室内温度を一定に保ち、吹き出し口の切り替え及び風量を自動的に調節するため、一年を通して使用できます。

エアコンシステムをOFFにするときは、エアコンシステムON·OFFスイッチを押します。

エアコンシステムON·OFFスイッチでエアコンをOFFにしたあと、再びエアコンシステムON·OFFスイッチを押すと、エアコンはOFFにする直前の設定で作動します。

オートモードで作動中に、いずれかの操作スイッチを押すと、エアコンは手動モードに切り替わります。

冷房·暖房（除湿あり）機能：

1. AUTOスイッチを押して、AUTO表示灯を点灯させます。
2. A/C表示灯が点灯していないときは、A/Cスイッチを押して表示灯を点灯させます。
3. 温度調節スイッチの ▲ 又は ▼ を押し、希望の設定温度に設定します。温度の調節範囲は、18〜32°Cです。
4. 内外気の切り替えを自動制御するには、次のいずれかの操作を行ないます。
   - 外気導入モード作動中に、スイッチを1.5秒以上押す。
   - 内気循環モード作動中に、スイッチを1.5秒以上押す。

   内外気の切り替えが自動制御に設定されると、とスイッチの表示灯が2回点滅します。

冷房時、吹き出し口から霧が噴き出したように見えることがありますが、これは湿った空気が急に冷やされたときに発生するもので、異常ではありません。

暖房（除湿なし）機能：

1. AUTOスイッチを押して、AUTO表示灯を点灯させます。
2. A/C表示灯が点灯しているときは、A/Cスイッチを押して表示灯を消灯させます。
3. 温度調節スイッチの ▲ 又は ▼ を押し、希望の設定温度に設定します。 温度の調節範囲は、18〜32°Cです。

- 外気温よりも低い温度に設定しないでください。 温度が適切に調節されなくなることがあります。
- 窓ガラスがくもったときは、暖房（除湿なし）ではなく、冷房·暖房（除湿あり）機能を使用してください。

窓ガラスのくもりの取りかた：

1. スイッチを押して、表示灯を点灯させます。
2. 温度調節スイッチの ▲ 又は ▼ を押し、希望の設定温度に設定します。 温度の調節範囲は、18〜32°Cです。
   - 窓ガラスの結露又はくもりを素早く取るには、温度を高温に設定し、風量を最大レベルに設定します。
   - 窓ガラスのくもりが取れたあとは、 スイッチを再び押し、表示灯を消灯させます。
   - スイッチを押すと、窓ガラスのくもりを取るために除湿機能（A/C）が自動的に作動し、外気導入モードが選択されます。

マニュアルで使うとき

マニュアルモードは、エアコンを手動で調節するために使用します。

エアコンをOFFにするときは、エアコンシステムON·OFFスイッチを押します。

風量調節：

スイッチの＋側を押すと、風量が多くなります。

スイッチの−側を押すと、風量が少なくなります。

AUTOスイッチを押すと、風量を自動制御します。

吹き出し口の調節：

MODEスイッチを押し、吹き出し口モードを変更します。

— 中央と左右吹き出し口から送風
— 中央、左右吹き出し口、足元から送風
— 主に足元から送風
— フロントデフォッガーと足元から送風

温度調節：

温度調節スイッチの ▲ 又は ▼ を押し、希望の設定温度に設定します。温度の調節範囲は、18〜32°Cです。

内気循環：

内気循環モードに切り替えるときは、 スイッチを押し、表示灯を点灯させます。

外気導入：

外気導入に切り替えるときは、 スイッチを押し、表示灯を点灯させます。

内外気切り替えの自動制御：

内外気の切り替えを自動制御するには、次のいずれかの操作を行ないます。

- 外気導入モード作動中に、 スイッチを1.5秒以上押す。
- 内気循環モード作動中に、 スイッチを1.5秒以上押す。

内外気の切り替えが自動制御に設定されると、 と スイッチの表示灯が2回点滅します。

タイマーエアコン

タイマーエアコンは、ナビゲーション画面で出発予定時刻を設定して、車両に充電コネクタを接続すると、設定した出発時刻までに暖房または冷房が作動し、車内の温度を約25°Cにします。あらかじめ車内を快適な温度にすることで、エアコンの使用によるリチウムイオンバッテリーの電力消費量を減らすことができます。

室内があらかじめ設定されている温度になるようにエアコンが作動します。（室内温度の

設定は調節できません。）

タイマーエアコンは、充電器から供給された電力でエアコンを作動させるので、リチウムイオンバッテリーの充電量は減りません。

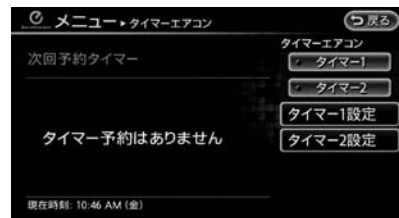
タイマーエアコンは、あらかじめ2種類の出発予定時刻を登録しておくことができます。また設定した2種類の時刻については、どちらの時刻で作動させるかを1週間分予約することができます。各曜日に予約した時刻は、次の週にも継続されるため、毎回設定する必要はありません。

⚠ 警告

タイマーエアコンを設定しても、システムの自動停止などの理由で車内が高温または低温になることがあります。お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残さないでください。炎天下では、密閉した車内の温度は急速に上昇し、熱中症や脱水症状などを引き起こすおそれがあります。また外気温が低い場合は、車内の温度が急速に下がるおそれがあります。最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

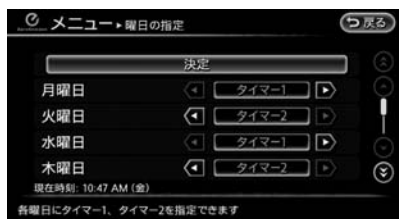
タイマーエアコンを設定する

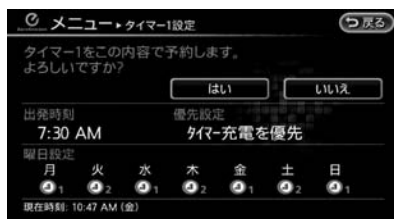
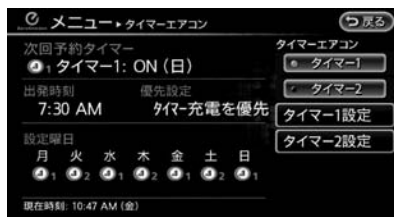
1. （ゼロエミッションメニュー）スイッチを押します。

2. [タイマーエアコン]をタッチします。

3. [タイマー1設定]をタッチします。

4. 出発時刻を入力します。

5. [曜日の指定]をタッチして、曜日ごとに作動させたい設定を選んでから、[決定]をタッチします。

知識：

[曜日の指定]でOFFを選択すると、その曜日のタイマーエアコンは行われず、次回のタイマーエアコンの予約まで待機します。

6. [決定]をタッチすると、確認画面が表示されます。

7. [はい]をタッチします。

8. 設定が保存され、[タイマー1設定]の表示灯が点灯します。

   タイマー2を設定するときも、同様の操作で設定してください。

9. パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにして、充電コネクタを接続します。

タイマーエアコンの注意事項：

- タイマーエアコンを予約したあとは、必ずパワースイッチを押して電源ポジションをOFFにしてください。電源ポジションがOFFになっていないと、予約した開始時刻になってもエアコンが作動しません。
- タイマーエアコンを解除するには、[タイマー1]又は[タイマー2]をタッチします。表示灯が消灯して予約が解除されます。予約を解除しても出発予定時刻及び曜日の設定は消去されません。
- タイマーエアコンが設定されると、タイマーエアコン表示灯が点灯します。タイマーエアコンが作動しているときは、タイマーエアコン表示灯と充電インジケーターが点滅します。
- タイマー充電とタイマーエアコンが同時に作動時間を迎えたときは、どちらかの機能を優先するように設定できます。詳しくは、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- タイマーエアコンは、設定した出発予定時刻までに車内の温度が約25°Cになるように、エアコン作動開始時刻を自動で設

定しています。また出発予定時刻になると、エアコンが停止します。設定した出発予定時刻よりも早くまたは遅れて車に乗り込むと、車内の温度が快適な温度になっていない場合があります。

- タイマーエアコンは、家や充電器などから供給される電力を使用するため、外気温が高すぎたり、低すぎたりしたときや、充電プラグを100Vのコンセントに接続しているときは、エアコンの性能が制限されるため、車内の温度が約25°Cにならないことがあります。
- タイマーエアコン優先に設定されているときは、リチウムイオンバッテリーの充電量に関係なくタイマーエアコンが作動します。
- 充電中にタイマーエアコンが作動すると、充電に必要な時間が延びることがあります。
- 外気温が低いときにタイマーエアコン又は乗る前エアコン（リモート）を作動させると、リチウムイオンバッテリーの充電量が低下することがあります。
- タイマーエアコンが作動しているときは、タイマーエアコンの設定は変更できません。作動中にタイマーエアコンの設定を変更すると、変更内容は次回の予約から反映されます。
- タイマー充電優先に設定されているときは、リチウムイオンバッテリー残量計の表示がレベル10を越えるまでタイマーエアコンは作動しません。
- 充電施設によっては、電源が時間帯によってON/OFFするタイマー機能をもった設備があります。このような充電施設でタイマーエアコンを設定する場合は、充電器の電源がONになっているか確認してください。

乗る前エアコン（リモート）

この車両には、TCU（テレマティクス·コミュニケーション·ユニット）と呼ばれる通信機器が搭載されています。 このTCUが日産カーウイングスデータセンターと通信することによって、さまざまなリモート機能サービスを利用することができます。

乗る前エアコン（リモート）は、車両から離れた場所から携帯電話やパソコンを使用して日産カーウイングスデータセンターウェブサイトにアクセスし、エアコンを作動させることができます。

乗る前エアコン（リモート）でエアコンを作動させたとき、又はリモート機能で設定したエアコンの作動時刻になると、日産カーウイングスデータセンターが車両にアクセスし、一定時間エアコンが作動します。エアコンの作動結果確認は、ウェブサイトにアクセスするか、電子メールによって確認することができます。

⚠ 警告

- 植え込み型心臓ペースメーカー及び植え込み型除細動器（ICD）を使用している方は、アンテナから約22cm以内の範囲に装着部位が近づかないようにしてください。サービスご利用時などにTCUの電波が植え込み型心臓ペースメーカー及び植え込み型除細動器（ICD）の作動に影響を与えるおそれがあります。

  植え込み型心臓ペースメーカー及び植え込み型除細動器（ICD）以外の医療電気機器を使用している方は、TCUの電波が医療電気機器の動作に影響を与える場合があるため、医療電気製造業

者などへ影響を確認してからご使用ください。

- 乗る前エアコン（リモート）を設定しても、システムの自動停止などの理由で車内が高温または低温になることがあります。お子さまや介護を必要とされる方、ペットを車内に残さないでください。炎天下では、密閉した車内の温度は急速に上昇し、熱中症や脱水症状などを引き起こすおそれがあります。また外気温が低い場合は、車内の温度が急速に下がるおそれがあります。最悪の場合は死亡につながるおそれがあります。

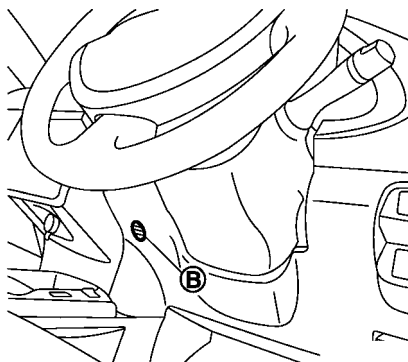
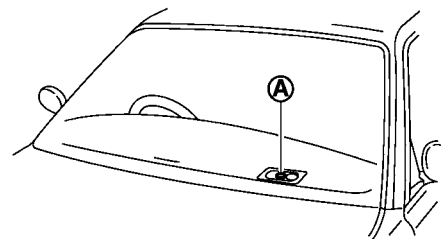
知識：

- 上記のサービスを利用するには、カーウイングスサービスに申し込む必要があります。詳しくは、ナビゲーションシステム取扱説明書をお読みください。
- 上記のサービスを利用するには、次の条件が満たされている必要があります。
  - — 車両が携帯電話の通信圏内に入っている。
  - — ご利用になるパソコン又は携帯電話がインターネットに接続可能な状態になっている。
- ご利用の携帯電話の機種によっては、上記のサービスがご利用できない場合がありますので、 事前にご確認ください。
- 乗る前エアコン（リモート）は、充電コネクタが接続されていなくてもエアコンを作動させることができます。ただし、エアコンの作動時間は、通常よりも短くなります。
- 充電コネクタが接続されていても、電源ポジションがOFFになっていない場合は、乗る前エアコン（リモート）は作動しません。

乗る前エアコン（リモート）の注意事項

- 充電コネクタを接続すると、エアコンは充電器から供給される電力で作動します。 充電コネクタを車両から外すと、エアコンはリチウムイオンバッテリーの電力で作動します。
- 充電コネクタ接続中のエアコン作動時間は最長で2時間です。充電コネクタの接続を外した状態での作動時間は、最長で15分間です。
- 乗る前エアコン（リモート）機能は、パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにしたときのみ作動します。電源ポジションがOFFになっていることを確認してください。
- 乗る前エアコン（リモート）機能は、車両が携帯電話の通信圏外のときは作動しません。
- 車両を2週間以上使用しないと、通信は行なわれなくなります。 パワースイッチを押して電源ポジションをONにすると、日産カーウイングスデータセンターとの通信が復旧します。
- タイマーエアコンは、家や充電器などから供給される電力を使用するため、外気温が高すぎたり、低すぎたりしたときや、充電プラグを100Vのコンセントに接続しているときは、エアコンの性能が制限されるため、車内の温度が約25°Cにならないことがあります。
- 乗る前エアコン（リモート）が作動しているときに、パワースイッチを押して電源ポジションをONにするか、充電コネクタの接続を外すと、乗る前エアコン（リモート）は自動的に停止し、電子メールで通知されます。

- 普通充電中に乗る前エアコン（リモート）が作動すると、エアコン優先の設定で作動し、充電も続行されます。
- 急速充電中に乗る前エアコン（リモート）が作動した場合、充電が停止するとエアコンの作動も停止します。
- 急速充電コネクタが接続されていても充電が行われていないときは、エアコンはリチウムイオンバッテリーの電力で作動します。

エアコンシステムの注意事項

- 自動温度調節は、イラストのⒶ位置及びⒷ位置のセンサーで行っています。センサーの作動を妨げるような物を周囲に取り付けないでください。
- AUTOスイッチを押すと、エアコンの消費電力の最適化を行い、エアコン作動による電力消費量が削減されます。
- AUTOスイッチを押すと、AUTO表示灯とA/C表示灯の両方が点灯します。
- MODEスイッチ、A/Cスイッチ、風量切り替えスイッチ、外気導入スイッチ、内気循環スイッチ、フロントデフォッガースイッチのいずれかを押すと、AUTO表示灯が消灯します。
- 外気温が低いときは、足元からの送風が最長で150秒間は作動しないことがありますが、異常ではありません。
- オートモードでコンプレッサの作動がOFFになると、窓ガラスが曇る場合があります。この場合はフロントデフォッガースイッチを押して曇りを取ってください。
- エアコン作動による電力消費量は、外気温とエアコン設定温度により変化します。 夏に車内を冷やしすぎたり、冬に温めすぎたりすると電力消費量が増大し、航続可能距離が短くなります。
- シフトポジションをECO（エコ）位置にして走行すると、エアコンはECO（エコ）モードで作動するため電力消費が抑えられます。
- 走行可能状態で冷暖房を使用中に充電コネクタを接続すると、自動的に電源ポジションがONに切り替わります。このとき、エアコンは冷暖房機能が停止して送風のみに切り替わります。冷暖房機能をお使いになる場合は、一度電源ポジションをOFFにして、充電が開始されたことをご確認のうえもう一度ONにしてください。

- 充電中に冷暖房機能をお使いの場合は、充電が終了すると冷暖房機能が停止し、送風機能のみになります。

クリーンフィルターについて

エアコンシステムにはクリーンフィルターが装着されており、汚れ、花粉、ほこりなどを取り除きます。エアコンの暖房、くもり取り、換気が効率的に行なわれるように、フィルターは定期的に交換してください。 フィルターを交換するときは、日産販売会社にご相談ください。

吹き出し風量が大幅に低下したときや、エアコンシステム作動中に窓ガラスがくもりやすくなったときは、フィルターを交換してください。

エアコンのお手入れ

この車両のHFC-134a(R-134a)冷媒は、オゾン層を破壊しません。 この冷媒は地球の大気に悪影響を与えませんが、自動車用エアコンシステム整備時には冷媒を回収し、再利用される場合があります。 日産販売会社では、エアコンシステム冷媒の回収とリサイクルに必要な訓練を受けた技術者が専門機器で対応いたします。

警告

エアコンシステムには高圧の冷媒が含まれています。エアコンシステムの整備は、日産販売会社にご依頼ください。

5 走行するとき

走行時の注意事項

⚠ 警告

- お子さまや介護を必要とする方だけを車内に残さないでください。 また、ペットも車内に残さないでください。誤って車両を操作してしまい、思わぬ事故で乗員及び他の通行者がケガをすることがあります。 さらに、高温の晴天下では、密閉した車内の温度は急速に上昇し、短時間で人と動物にとって重大な傷害又は死亡につながるおそれがあります。
- 荷物は、動かないようにロープ又はストラップで適切に固定してください。また、背もたれの高さを越えて荷物を積まないでください。急停止時又は衝突時に、固定していない荷物によってケガをするおそれがあります。

衝突と横転を避けるには

⚠ 警告

安全かつ慎重に運転してください。車両のコントロールを失って事故につながるおそれがあります。

常に注意を怠らず、慎重に運転し、交通規則に従ってください。

車両のコントロールを失うおそれがあるため、スピードの出し過ぎ、高速でのコーナリング、急なハンドル操作は避けてください。コントロールを失うと、他の車両又は器物に衝突したり、（特に車両が横滑りした場合は）車両が横転したりするおそれがあります。

シートベルトを着用すると、衝突時と横転時にケガをする危険が低下します。横転したときにシートベルトを着用していなかったり、不適切に着用していたりすると、適切に着用している場合と比較してケガをする危険性又は死亡する危険性は大幅に高まります。

常に運転に集中し、疲れたときは運転しないでください。 酒気帯び状態又は薬物（眠気を引き起こす処方箋薬又は市販薬を含む）の影響が出ているときは、絶対に運転しないでください。

☞ “シートベルト”(page 1-8) に記載されている方法で必ずシートベルトを着用し、乗員にも着用を指示してください。

脱輪したときの対処

走行中に、左側又は右側の車輪が誤って脱輪した場合は、下記の手順に従って車のコントロールを保ってください。 下記の手順は一般的な指針ですので、 車両、路面、及び交通の状態に応じて、適切な方法で対処してください。

1. あわてたり、取り乱したりしないよう心がけてください。
2. ブレーキはかけないでください。
3. 両手でハンドルをしっかり握ったまま、直進コースを維持するよう努めてください。
4. アクセルペダルをゆっくりと戻して徐々に減速してください。
5. 前方に障害物がない場合は、減速しながらそのまま道なりに走行します。 車速が低下するまでは車両を路面に戻そうと試みないでください。

6. 安全な速度になった時点で、路面から外れた車輪が戻るように徐々にハンドルを回します。 両方の車輪が路面に戻ったあと、適切な走行車線に戻るようにハンドルを操作してください。
   - 車、路面、又は交通の状態から判断して、車を路面に戻すのが安全でないと判断した場合は、徐々に減速して路肩の安全な場所に停車してください。

タイヤ空気圧が低下したときは

パンクしたり、縁石にぶつかったり、深い穴に落ちたりしてタイヤが損傷すると、空気圧が急激に低下や、バースト（破裂）することがあります。 タイヤ空気圧の急低下は、空気圧が不足したまま走行しても生じる場合があります。

空気圧が急激に低下すると、特に高速時には車両のハンドリングや安定性に悪影響が及ぶことがあります。

適正なタイヤ空気圧を維持し、摩耗と損傷の有無を目視点検することで、空気圧の急低下を防いでください。 、☞ “タイヤ·ロードホイールサイズ”(page 9-4)をお読みください。

走行中にタイヤ空気圧が急激に低下するか、“バースト（破裂）”が生じた場合は、次の手順に従って車両のコントロールを維持してください。 下記の手順は一般的な指針ですので、車両、路面、及び交通の状態に応じて、適切な方法で対処してください。

⚠ 警告

タイヤ空気圧が急激に低下した場合に次の注意事項を守らないと、車両のコントロールを失う危険性が高まります。 車両のコントロールを失うと、衝突事故につながり、ケガをするおそれがあります。

- 一般的に車両は、パンクしたタイヤの方向に進みます。（片寄ります。）
- 急ブレーキをかけないでください。
- アクセルペダルを急に戻さないでください。
- 急なハンドル操作を行わないでください。

1. あわてたり、取り乱したりしないよう心がけてください。
2. 両手でハンドルをしっかり握ったまま、直進コースを維持するよう努めてください。
3. アクセルペダルをゆっくりと戻して徐々に減速してください。
4. 可能であれば、ハンドルを徐々に操作し、走行車線から十分に離れた安全な場所へ移動してください。
5. ブレーキペダルを軽く踏み、ゆっくり停車してください。
6. 非常点滅表示灯を点灯させ、日産販売会社又はJAFなどのロードサービスに連絡してタイヤを交換してもらうか、☞ “パンクしたときは”(page 6-3)をお読みください。

パワースイッチ

⚠ 警告

走行中は、非常時以外はパワースイッチを操作しないでください。（パワースイッチを続けて3回押すか、2秒以上押し続けると、EVシステムが停止します。）走行中にEVシステムが停止すると、衝突や重大な傷害につながるおそれがあります。

パワースイッチを操作する前に、セレクトレバー上部のⓅスイッチを押します。

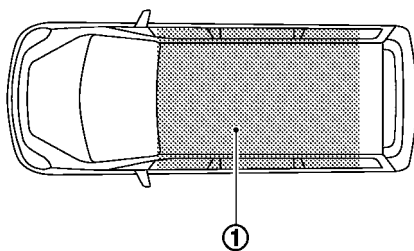
インテリジェントキーシステム

インテリジェントキーシステムでは、キーをポケット又は財布から取り出さずにEVシステムを始動させることができます。作動環境や条件により、インテリジェントキーシステムの作動に影響することがあります。

システム作動に関連する一部のメッセージや警告は、マルチファンクションディスプレイに表示されます。 詳しくは、☞ “マルチファンクションディスプレイ” (page 2-18)をお読みください。

⚠ 注意

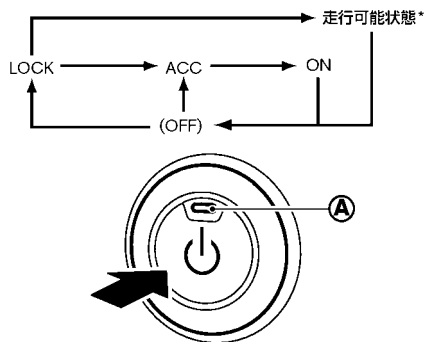
- 運転中はインテリジェントキーを携帯してください。
- 駐車するときは、絶対にインテリジェントキーを車内に残しておかないでください。

作動範囲

インテリジェントキーが規定の作動範囲内①にあるときのみ、インテリジェントキー機能を使用してEVシステムを始動できます。

インテリジェントキーの電池が消耗しているときや、付近に強力な電波が存在するときは、インテリジェントキーシステムの作動範囲は狭くなり、インテリジェントキーが正常に作動しなくなるおそれがあります。

インテリジェントキーが作動範囲内にあるときは、誰でも（インテリジェントキーを携帯していない人でも）パワースイッチを押し、EVシステムを始動させることができます。

- ラゲッジルームは作動範囲外ですが、状況によってはインテリジェントキーが作動する場合があります。
- インストルメントパネルに載せたり、グローブボックスやドアポケット内に入れたりすると、インテリジェントキーが作動しないことがあります。
- 車外でドア又は窓ガラスに近づけると、作動しない場合があります。

パワースイッチの操作

*：ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押します。

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、電源ポジションは次のように変わります。

- 1回押すと、ACCに切り替わります。
- 2回押すと、ONに切り替わります。
- 3回押すと、OFFに切り替わります。
- 4回押すと、ACCに戻ります。
- OFFのときにドアを開くか、閉めると、LOCKに戻ります。

パワースイッチ内の表示灯Ⓐは、電源ポジションがACC又はON/走行可能状態のときに点灯します。

電源ロック機能により、シフトポジションをP（パーキング）にしないと、電源ポジションをLOCKにできません。

電源ポジションをLOCKに変更できないときは、次の操作を行なってください。

1. シフトポジションをP（パーキング）にします。
2. 電源ポジションをOFFにします。パワースイッチの表示灯Ⓐが消灯します。
3. ドアを開くと、電源ポジションはLOCKに切り替わります。

電源ポジションの位置

LOCK（通常駐車位置）

この位置でステアリングがロックされます。

インテリジェントキーを携帯してパワースイッチを押し、電源ポジションをACC、ONに切り替えると、ステアリングのロックが解除されます。

ACC（アクセサリー）

この位置は、EVシステムが作動していないときに、ラジオなどの電装品が作動します。

ON（EVシステム作動位置）

この位置は、EVシステムと電装品が作動します。

走行可能状態（走行位置）

この位置は、EVシステムと電装品が作動し、走行ができます。

OFF

ステアリングロックを作動させずに、EVシステムを停止させることができます。

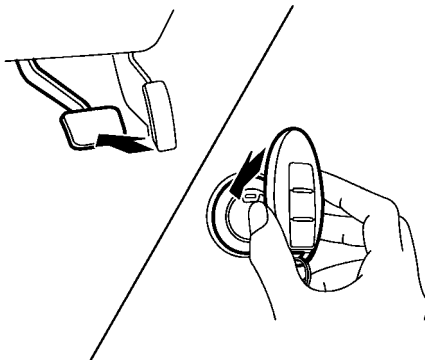
シフトポジションをP（パーキング）に入れるまでは、電源ポジションをLOCKにすることはできません。

⚠ 注意

電源ポジションをACCにしたまま車両を長時間放置しないでください。12Vバッテリーがあがるおそれがあります。

知識：

- パワースイッチを素早く押したり、2回連続で素早く押したとき、切り替え音は聞こえますが電源ポジションが切り替わらないことがあります。もう一度パワースイッチをしっかりと押して電源ポジションを切り替えてください。
- パワースイッチを押したときに、「ステアリングロック未解除表示」がマルチファンクションディスプレイに表示されたときは、ハンドルを軽く回しながらパワースイッチをもう一度押してください。詳細は、☞ “ドライブインジケーター”(page 2-20)をお読みください。

インテリジェントキーの電池切れ

インテリジェントキーの電池が切れるか、インテリジェントキーの作動が環境条件による干渉を受けるときは、次の手順でEVシステムを走行可能状態にしてください。

1. セレクトレバー上部のⓅスイッチを押します。
2. ブレーキペダルを確実に踏み込みます。
3. イラストのようにインテリジェントキーをパワースイッチに接触させます。（ブザーが鳴ります。）
4. ブザーが鳴ってから10秒以内に、ブレーキペダルを踏み込みながらパワースイッチを押します。走行可能表示灯が点灯します。

ステップ3を行なったあと、ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、電源ポジションはACCに切り替わります。

知識：

- 上記の手順で電源ポジションをACC又はONに切り替えるか、走行可能表示灯が点灯すると、インテリジェントキーが車内にあってもマルチファンクションディスプレイにインテリジェントキー持ち出し警告が表示されることがあります。表示を止めるには、再びインテリジェントキーをパワースイッチに接触させます。
- マルチファンクションディスプレイにインテリジェントキー電池切れ表示を表示したときは、できるだけ早く電池を交換してください。☞ “インテリジェントキーの電池交換”(page 8-10)をお読みください。

EVシステムの非常停止のしかた

緊急時以外は走行中にパワースイッチの操作を行わないでください。

走行中にやむを得ずEVシステムを停止する場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- パワースイッチを連続して素早く3回押す。
- パワースイッチを2秒以上押し続ける。

EVシステムを始動する前に

- 車両周囲の安全を確認してください。
- 冷却水、ブレーキ液、ウオッシャー液などの液量はできるだけ頻繁に確認してください。
- 窓ガラスやランプ類が汚れていないか点検してください。
- タイヤの外観と状態を目視点検してください。また、空気圧が適正か確認してください。
- すべてのドアを閉めてください。
- シートとヘッドレストの位置を調節してください。
- ルームミラーとドアミラーを調節してください。
- シートベルトを着用し、全乗員に着用を指示してください。
- パワースイッチを押して電源ポジションをONにし、警告灯の作動状況を点検してください。☞ “メーター·表示灯·警告灯の見かた”(page 2-11)をお読みください。

EVシステムの始動方法

1. 電動パーキングブレーキをかけます。
2. シフトポジションがP（パーキング）にあることを確認します。

   この車両は、シフトポジションをP（パーキング）又はN(ニュートラル)にしないとシステムが始動しません。

   パワースイッチを操作するときは、インテリジェントキーを携帯してください。
3. ブレーキペダルを踏み込み、パワースイッチを押してEVシステムを始動させます。

   電源ポジションの位置に関わらず、ブレーキペダルを踏み込みながらパワースイッチを押すと、走行可能状態になります。
4. EVシステムを停止させるときは、セレクトレバー上部のⓅスイッチを押しシフトポジションをP（パーキング）に入れ、パーキングブレーキスイッチを引いてから、パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにします。

電制シフト

この車両は、通常のオートマチック車とセレクトレバーの操作方法が異なります。運転の基本操作を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

発進のしかた

1. 走行可能表示灯が点灯したあと、ブレーキペダルを奥まで踏み込んでセレクトレバーを動かします。

   この車両のセレクトレバーは、電源ポジションがONでブレーキペダルを踏み込んでいないとP（パーキング）から切り替えることができません。

   電源ポジションがLOCK、OFF、ACCのときは、セレクトレバーを動かしても他のシフトポジションに切り替えることはできません。

2. ブレーキペダルを踏み込んだまま、目的のシフトポジションに切り替えてください。
3. 電動パーキングブレーキとブレーキペダルを解除し、ゆっくりと発進してください。

⚠ 警告

- セレクトレバーを切り替えながらアクセルペダルを踏まないでください。シフトポジションが完全に切り替わるまでは、必ずブレーキペダルを踏み込んでおいてください。ブレーキペダルを踏んでいないと、急発進など事故につながるおそれがあります。

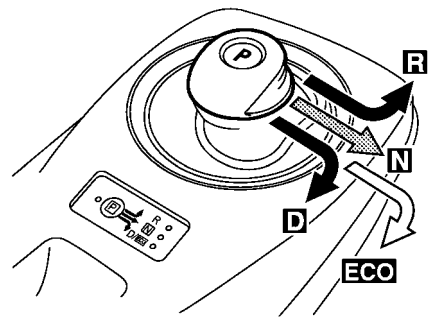
⚠ 注意

- 冠水路など深い水たまりは走行しないでください。走行用モーターの破損や車両故障につながるおそれがあります。
- 上り坂ではクリープ現象を利用した停車や、アクセルペダルを踏みながら停車状態を保つような停車はしないでください。駆動システムが故障する原因となります。
- セレクトレバーには物を掛けないでください。車両が突然発進するなど事故の原因になるおそれがあります。

知識：

- シフトポジションがD（ドライブ）又はECO（エコ）のときに、シートベルトを着用してアクセルペダルを踏むと、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

  ☞ “電動パーキングブレーキ” (page 5-11) をお読みください。

セレクトレバーについて

セレクトレバーの使いかた

➡：　ブレーキペダルを踏み込みながらゲートに沿ってスライドさせます。

➡（斜線）：　ブレーキペダルを踏みながらセレクトレバーを真横にスライドさせてしばらく保持し、N（ニュートラル）に切り替えてから手を離します。

⇨: シフトポジションがD（ドライブ）のときに、ゲートに沿ってスライドさせます。

知識：

- 走行可能表示灯が点灯しているときのみ、全てのシフトポジションへ切り替えができます。
- セレクトレバーの近くにあるシフトインジケーター又はメーターのマルチファンクションディスプレイで、選択したシフトポジションに切り替わっていることを必ず確認してください。なお、電制シフトが故障して電制シフト警告灯が点灯している場合、マルチファンクションディスプレイのシフトポジションが表示されないことがあります。その場合は、シフトインジケーターでシフトポジションの確認をしてください。
- シフトポジションをECO（エコ）から再びD（ドライブ）に切り替えるときは、D（ドライブ）の方向にもう一度スライドさせるか、別のシフトポジションに切り替えたあと、もう一度D（ドライブ）に切り替えます。
- 電源ポジションがONでも走行可能表示灯が点灯していないときは、D（ドライブ）、ECO（エコ）、R（リバース）には切り替えられません。
- 充電中は、電源ポジションをONにしてもP（パーキング）以外のシフトポジションには切り替えられません。

走行可能表示灯が点灯したら、ブレーキペダルを完全に踏み込んでから、セレクトレバーを操作してください。

この車両にはオートP機能がありますが、何らかの理由でシフトポジションがP（パーキング）以外のときに、電源ポジションがOFF又はACCになると、LOCKには切り替えられません。

電源ポジションをLOCKにできないときは、次の操作を行なってください。

1. 停車してパーキングブレーキをかけます。
2. ブレーキペダルを踏み込みながらパワースイッチを押して、電源ポジションをONに切り替えます。
3. セレクトレバー上部のⓅスイッチを押してP（パーキング）に切り替えます。
4. パワースイッチを押して電源ポジションをOFFに切り替えます。

知識：

オートP機能：

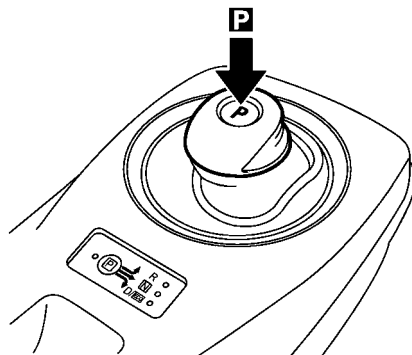
- **シフトポジションをP（パーキング）に切り替えずに電源ポジションをOFFにすると、シフトポジションは自動的にP（パーキング）に切り替わります。**

⚠ 注意

- 電源ポジションをONにするときは、セレクトレバーが中央にあることを確認してください。電源ポジションがONになったときにシフトポジションがD（ドライブ）又はR（リバース）になっていると、急発進など事故につながるおそれがあります。
- セレクトレバー上部のⓅスイッチを押したまま、セレクトレバーをスライドさせないでください。シフトポジションを切り替えることができません。
- セレクトレバーを操作してシフトポジションを切り替えたときは、レバーから手を離し、セレクトレバーが中央に

戻ることを確認してください。セレクトレバーが中央に戻らず、中途半端な位置の状態は故障などの原因になります。

- 上り坂では、D（ドライブ）又はECO（エコ）のまま故意に車両を後退させたり、下り坂でR（リバース）のまま故意に車両を前進させたりしないでください。事故につながるおそれがあります。
- アクセルペダルを踏みながらセレクトレバーを操作しないでください。急発進など事故につながるおそれがあります。ただし、D（ドライブ）とECO（エコ）の切り替えのときは例外です。
- 次の操作は無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにシフトポジションはN（ニュートラル）へ切り替わります。また、駆動用モーターなどに負担がかかるため、故障などのおそれがあります。
  — 前進中にシフトポジションをR（リバース）に切り替える
  — 後退中にシフトポジションをD（ドライブ）又はECO（エコ）に切り替える

P(パーキング)

主に駐車時に使用します。車両が完全に停止していることを確認してください。P（パーキング）に切り替えるには、車両が完全に停止しているときに、イラストのようにセレクトレバー上部のⓅスイッチを押します。

車両が完全に停止する前に、セレクトレバー上部のⓅスイッチを押すと、ブザーが鳴るとともにその時のシフトポジションが維持されます。P（パーキング）に切り替えるときは、あわせて電動パーキングブレーキをかけるようにしてください。坂道で駐車するときは、安全のため必ず電動パーキングブレーキを先にかけてから、セレクトレバー上部のⓅスイッチを押してP（パーキング）に切り替えます。

知識：

- 停車中にP（パーキング）以外のシフトポジションで電源ポジションをOFFにすると、シフトポジションが自動的にP（パーキング）に切り替わります。
- セレクトレバーをスライドさせながら、セレクトレバー上部のⓅスイッチを押しても、P（パーキング）に切り替えることはできません。必ずセレクトレバーが中央の位置で押してください。
- 12Vバッテリーがあがってる又はあがりそうなときは、P（パーキング）から切り替えられないことがあります。その場合は、12Vバッテリーを充電又は交換してください。

R（リバース）

後退時に使用します。車両が完全に停止したことを確認してからR（リバース）に切り替えてください。後退中にセレクトレバーをD

（ドライブ）にすると操作が無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにN（ニュートラル）に切り替わります。

N（ニュートラル）

動力が伝わらない状態で、アクセルペダルを踏んでも前進も後退もしません。また、坂道などでN（ニュートラル）のままブレーキペダルを離すと、傾斜により車両が動く場合があります。

⚠ 警告

走行中はN（ニュートラル）に切り替えないでください。回生ブレーキが作動しなくなるため事故などにつながるおそれがあります。

D（ドライブ）

通常走行時に使用します。後退中にセレクトレバーをD（ドライブ）にすると操作が無効とみなされ、ブザーが鳴るとともにN（ニュートラル）に切り替わります。

ECO（エコ）

主に航続可能距離を延ばしたいときに使用し、D（ドライブ）からのみ切り替えられます。

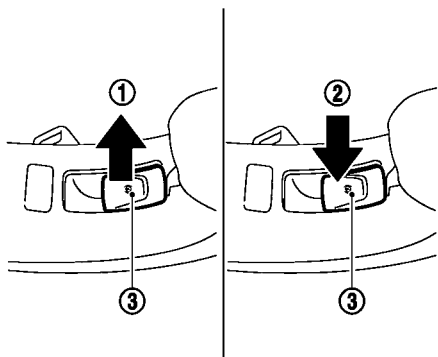
ECO（エコ）では航続距離を延ばすために消費電力を抑えたり、回収できるエネルギー量を増やしたりするため、D（ドライブ）と比較した場合に以下のような特徴があります。

- アクセルペダルから足を離したときに、回生ブレーキが強くなります。
- 走行用モーターへの出力を抑えるため、加速力が低下します。
- エアコンの電力を抑えるため、エアコンの効きが弱くなります。

電動パーキングブレーキ

電動パーキングブレーキの作動と解除は、電動パーキングブレーキスイッチを操作して行なうことができます。

⚠ 警告

- 故障などで、電動パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキが故障し、事故につながるおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキは車外から解除しないでください。
- お子さまだけを車内に残さないでください。誤って電動パーキングブレーキを解除してしまい、事故につながるおそれがあります。
- 車両を離れるときは、電動パーキングブレーキをかけ、セレクトレバー上部のⓅ（パーキング）スイッチを押してシフトポジションをP（パーキング）にしてください。

かけかた：

1. フットブレーキを確実に踏み込みます。
2. 電動パーキングブレーキスイッチ①を引き上げます。

電源ポジションがON又は走行可能状態のときに、電動パーキングブレーキスイッチを操作すると、ロアメーターの電動パーキングブレーキ警告灯と電動パーキングブレーキスイッチの作動インジケーター③が約1秒後に点灯します。

解除のしかた：

1. フットブレーキを確実に踏み込みます。
2. 電動パーキングブレーキスイッチ②を押し下げます。
3. 走行前に、電動パーキングブレーキ警告灯と電動パーキングブレーキスイッチの作動インジケーター③が消灯していることを確認してください。

自動解除：

1. 運転席シートベルトを確実に着用します。
2. フットブレーキを確実に踏み込みます。
3. シフトポジションをD（ドライブ）、ECO（エコ）、又はR（リバース）に入れます。
4. アクセルペダルを踏むと、電動パーキングブレーキは自動的に解除されます。

坂道発進：

1. 運転席シートベルトを確実に着用していることを確認します。
2. 電動パーキングブレーキをかけます。
3. シフトポジションがD（ドライブ）又はECO（エコ）にあることを確認します。
4. アクセルペダルを徐々に踏み込みます。
5. 電動パーキングブレーキは自動的に解除されます。

知識：

- 電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりすると、後席下側から作動音が聞こえますが異常ではありません。
- 電動パーキングブレーキをかけたり、解除したりの操作を短時間に繰り返すと、システムの過熱を防ぐために電動パーキングブレーキが作動しなくなる場合があります。約1分間経過してから再度操作してください。
- 電源ポジションがON又は走行可能状態のときに、電動パーキングブレーキを解除できます。
- 走行中に、非常で電動パーキングブレーキをかける必要が生じたときは、電動パーキングブレーキスイッチを引き上げ続けてください。ブザーが鳴り、パーキングブレーキがかかります。スイッチから手を離すと、電動パーキングブレーキは解除されます。
- 急坂又は立体駐車場に駐車するときは、電動パーキングブレーキスイッチを2回引き上げてください。パーキングブレーキの効きが最大になります。

- 電源ポジションがOFF又はACCのときに、電動パーキングブレーキスイッチを引くと、電動パーキングブレーキスイッチの作動インジケーターがしばらく点灯状態になることがあります。

⚠ 注意

寒冷時に駐車するときは、シフトポジションをP（パーキング）に入れ、電動パーキングブレーキを解除したまま車輪の前後に適切な輪留めをしてください。寒冷時に電動パーキングブレーキをかけると、パーキングブレーキが凍結し、解除できなくなるおそれがあります。

12Vバッテリーのバッテリーあがりなどの理由で、電動パーキングブレーキスイッチを操作してもパーキングブレーキの解除ができないときは、手動で解除してください。

手動での解除方法については、☞ “電動パーキングブレーキの手動解除”(page 6-14)をお読みください。

ASCD（オートスピードコントロール装置）*

ASCDの注意事項

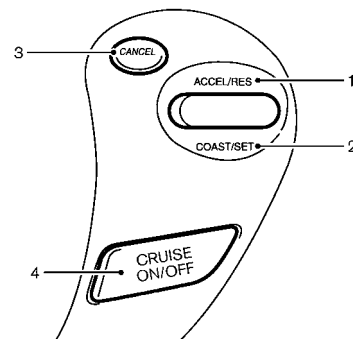
- ASCDは、故障するとメーター内のマルチファンクションディスプレイのセットインジケーターが点滅し、自動的にASCDの作動が解除されます。
- セットインジケーターが点滅したときは、メインスイッチをOFFにし、日産販売会社でシステムの点検を受けてください。
- リジューム/アクセラレートスイッチ、セット/コーストスイッチ、又はキャンセルスイッチを押しながら、メインスイッチを押すと、セットインジケーターが点滅します。

⚠ 警告

次の状況では、ASCD機能を使用しないでください。

- 設定速度で走行できないとき。
- 渋滞走行時又は交通状況によって車速が変動するとき。
- 曲がりくねった道又は山道の走行時。
- 滑りやすい道路の走行時（雨天、降雪、凍結など）。
- 風が強いとき。

車両のコントロールを失い、事故につながるおそれがあります。

ASCDの操作

1. リジューム/アクセラレートスイッチ(上押し)
2. セット/コーストスイッチ(下押し)
3. キャンセルスイッチ
4. メインスイッチ

ASCDを使用すると、アクセルペダルを踏まずに40～100km/hの速度で走行できます。

ASCDをONにするときは、メインスイッチを押してONにします。（ マルチファンクションディスプレイにクルーズインジケーターが

表示されます。）

走行速度を設定するときは、希望する速度まで加速し、セット/コーストスイッチを短く押すとマルチファンクションディスプレイにセットインジケーターが表示され、アクセルペダルから足を離すと、設定した速度が維持されます。

- 追い越しを行なうときは、アクセルペダルを踏み込みます。アクセルペダルから足を離すと、車両は設定された速度に復帰します。
- 曲がりくねった道や山道では、設定した速度が維持されないことがあります。ASCDを使用しないで走行してください。

ASCDの作動を停止するときは、次のいずれかの操作を行なってください。停止時には、マルチファンクションディスプレイのセットインジケーターが消灯し、メインスイッチをOFFにした場合は、クルーズインジケーターも消灯します。

1. キャンセルスイッチを押す。
2. ブレーキペダルを軽く踏む。
3. メインスイッチをOFFにする。

- リジューム/アクセラレートスイッチ又はセット/コーストスイッチを押しながらブレーキペダルを踏むと、ASCDの作動が解除されます。 一旦、メインスイッチをOFFにしてから再度ONにしてください。
- 以下の場合は、自動的にASCDの作動が停止します。
  — 車速が30km/h以下になったとき。
  — 設定した速度より、車速が13km/h以上低下したとき。
  — VDCが作動したとき。
  — タイヤが空転したとき。
  — シフトポジションをN（ニュートラル）にしたとき。
  — ASCDシステムに異常があるとき。

設定速度を上げるときは、次のいずれかの操作を行なってください。

- アクセルペダルを踏みこみ、希望の速度に達した時点で、セット/コーストスイッチを短く押す。
- リジューム/アクセラレートスイッチを押し続け、希望の速度に達した時点で、スイッチから手を離す。
- リジューム/アクセラレートスイッチを短く押し、希望の速度にする。（スイッチを押すごとに約1.0km/hずつ設定速度が高くなります。）

設定速度を下げるときは、次のいずれかの操作を行なってください。

- ブレーキペダルを軽く踏み、希望の速度に達した時点で、セット/コーストスイッチを短く押す。
- セット/コーストスイッチを押し続け、希望の速度まで減速した時点で、スイッチから手を離す。
- セット/コーストスイッチを短く押し、希望の速度にする。（スイッチを押すごとに、約1.0km/hずつ設定速度が低くなります。）

設定速度に復帰させるときは、リジューム/アクセラレートスイッチを短く押します。 車速が40km/h以上のときに、最後に設定した速度に復帰します。

*：車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

航続可能距離を延ばす運転

航続可能距離を延ばすためには、次の運転習慣をおすすめします。

走行する前:

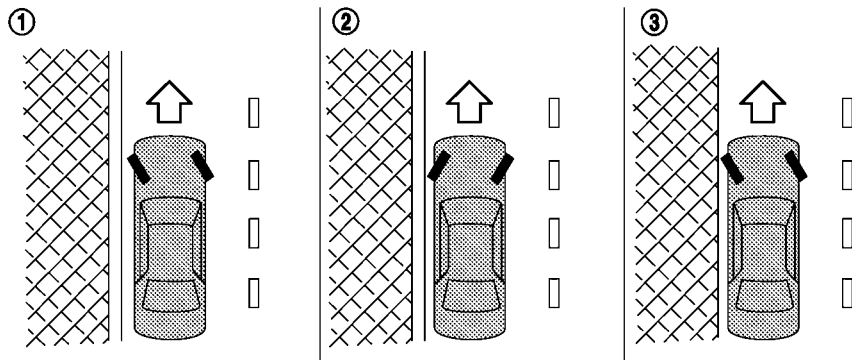
- リチウムイオンバッテリーを充電中に、控えめな温度で車内を暖房又は冷房してください。
- 車両から不要な荷物を降ろしてください。

走行中:

- ECO（エコ）モードで走行してください。ECO（エコ）モードには、次の特徴があります。
  — アクセルペダルから足を離したときにD（ドライブ）よりも回生ブレーキが強くなります。
  — D（ドライブ）よりも加速力が低下します。
  — エアコンの電力を抑えるため、D（ドライブ）よりも効きが弱くなります。
- アクセルペダルの踏み込み量を一定にし、一定の速度で走行してください。ASCD付車は、ASCDを使用して一定の巡航速度を維持してください。
- 加速/減速時にアクセルペダルの踏み込みと解除をゆっくりと行い、滑らかに加速/減速してください。
- 高速道路は、適度な速度で走行してください。
- 安全な車間距離を維持し、不必要な停止やブレーキペダルを踏んでの減速を避けてください。
- エアコンの温度調節を控えめに設定してください。また、エアコンをこまめに停止してください。
- 高速巡航中は、空気抵抗を低下させるため、窓ガラスを閉めてください。

車両のメンテナンス:

- 推奨されている定期メンテナンススケジュールに従ってください。
- タイヤ空気圧を適正値に調節してください。
- ホイールアライメントを適正な状態に調整してください。

坂道駐車のしかた

⚠ 警告

- 燃えやすい物（干し草、紙くず、敷物など）の上では停車又は駐車しないでください。発火して火災につながるおそれがあります。
- ガソリンや可燃性ガスの入ったスプレー缶などは積まないでください。引火や爆発するおそれがあり危険です。
- 炎天下で駐車するときは、車内にライターや炭酸飲料の缶、サングラス、カメラなどを置いたままにしないでください。車内が高温になり、爆発したり変形するおそれがあります。
- 操作部が露出しているガスライターをグローブボックスなどに入れておいたり、床やシートのすき間に落としたままにしないでください。荷物を押し込んだときやシートを動かしたときに、ガスが噴出して、火災につながるおそれがあります。
- 車両を離れるときは、絶対に車両を走行可能状態にしておかないでください。
- お子さまだけを車内に残さないでください。誤って各種スイッチ類を操作し、重大な事故につながるおそれがあります。
- 安全に駐車するためには、電動パーキングブレーキをかけるだけでなく、シフトポジションをP（パーキング）位置に入れるてください。車両が突然動きだし、事故につながるおそれがあります。

1. 電動パーキングブレーキを確実にかけます。
2. セレクトレバー上部のⓅスイッチを押します。
3. 坂道に駐車したときに、不意に車両が動き出さないように、前輪はイラストの向きに合わせてください。
   - 縁石のある下り坂：①
     前輪を縁石の方に向け、縁石側車輪が縁石にわずかに接触するまで前進します。
   - 縁石のある上り坂：②
     前輪を縁石とは反対側に向け、縁石側車輪が縁石にわずかに接触するまで後退します。
   - 縁石のない上り坂又は下り坂：③
     万が一動き出したときに、車両が道路中央から遠ざかるように、前輪を路肩の方に向けます。

4. パワースイッチを押して、電源ポジションをOFFにします。

EPS（電動パワーステアリング）

⚠ 警告

- 走行中に走行可能表示灯が消灯すると、ステアリングのパワーアシスト機能が働かなくなり、ハンドル操作により大きな力が必要になります。
- 走行可能表示灯点灯時に電動パワーステアリング警告灯が点灯したときは、パワーアシスト機能が働かなくなります。 その状態でも引き続きハンドルを操作することはできますが、ハンドル操作により大きな力が必要になります。

EPS(電動パワーステアリング)は、ハンドル操作に必要な力を電動でアシストして操舵力を軽くします。

駐車時又は低速走行時にハンドルを連続的に操作すると、アシスト力は低下しハンドル操作は重くなります。電動パワーステアリングシステムのモーターが過熱し、損傷するのを防ぐための機能で、電動パワーステアリングシステムの温度が下がると、アシスト力は正常に戻ります。 システムを過熱させるようなハンドル操作の繰り返しは避けてください。

すばやいハンドル操作を行うと、音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

走行可能表示灯点灯中に、電動パワーステアリング警告灯 **PS** が点灯したときは、電動パワーステアリングシステムに異常が発生し、修理が必要な可能性があります。 日産販売会社で電動パワーステアリングシステムの点検を受けてください。 (☞ “EPS(電動パワーステアリング)警告灯”(page 2-13) をお読みください。

ブレーキシステム

ブレーキ操作時の注意事項

この車両には次の2種類のブレーキシステムが搭載されています。

1. 油圧ブレーキシステム
2. 回生協調ブレーキシステム

油圧ブレーキシステムは、従来の車両に採用されているブレーキと類似しています。

ブレーキシステムには独立した2系統の油圧回路が使用されており、一方の回路が故障しても、2つの車輪のブレーキが引き続き作動します。

回生協調ブレーキシステムは、リチウムイオンバッテリーを充電し、航続可能距離を延ばすために電力を回収すること及びバッテリーの状態によって作動する減速力を主な目的としています。

シフトポジションがD（ドライブ）でアクセルペダルから足を離すと、回生協調ブレーキシステムによって車両はある程度減速し、リチウムイオンバッテリーに電力が供給されます。

シフトポジションがECO（エコ）のとき、アクセルペダルから足を離すと、D（ドライブ）のときよりも回生ブレーキがかかります。 また、ブレーキペダルを踏んだときも、電力を回収します。

リチウムイオンバッテリーが満充電のときは、回生協調ブレーキシステムによる減速力は少なくなります。リチウムイオンバッテリーの過充電を防ぐために、満充電のときは回生ブレーキの減速力は自動的に弱められます。 リチウムイオンバッテリー温度が高い/低い（バッテリー温度計が赤/青のゾーンにある）ときは、バッテリーの損傷を防ぐために回生ブレーキの減速力は自動的に弱められます。

交通状況又は道路状況に応じて、ブレーキペダルを使用して車両を減速させるか、停車してください。 フットブレーキは、回生協調ブレーキシステムの作動による影響は受けません。

回生協調ブレーキ

走行用モーターによる回生ブレーキと、摩擦ブレーキの制御を協調させることにより、 回生ブレーキが効きにくい状態でも、ドライバーが要求する制動力を発生します。

シフトポジションがD（ドライブ）、又はECO（エコ）の走行中で、次のときに働きます。

1. アクセルペダルから足を離している
2. ブレーキペダルを踏んでいる

回生協調ブレーキシステム作動中は、ブレーキペダルの踏み応えが変化することがありますが、ブレーキシステムは正常に作動しており、異常ではありません。

ブレーキ操作

走行中はブレーキペダルに足を載せておかないでください。 ブレーキが過熱し、ブレーキパッドとシューの摩耗が進み、電費が低下します。

ブレーキの摩耗を減らし、ブレーキの過熱を防ぐためには、坂道又は長い斜面を下る前に減速し、シフトポジションはECO（エコ）を選択してください。 過熱するとブレーキ性能が低下し、車両のコントロールを失うおそれがあります。

⚠ 警告

- 滑りやすい路面を走行するときは、制動、加速時には注意して運転してください。急ブレーキや急加速によって車輪が横滑りし、事故につながるおそれがあります。

- ブレーキシステムまたはEVシステムに異常があるとき、又はABSやVDCが作動しているときには回生ブレーキが働きません。（フットブレーキが働きます）。
- ブレーキペダルを踏んだとき、又はブレーキペダルから足を離したときに音が聞こえることがあります。その音はブレーキの正常な作動によって発生するため、異常ではありません。 さらに、EVシステムが作動していないときにブレーキペダルを踏むと、重たく感じられるか、通常よりも踏みしろが少なく感じられることがあります。ブレーキ警告灯が点灯せず、ペダルが正常な状態に戻ったように感じられた場合は、異常は発生していないため、車両は通常どおりに使用できます。

知識：

朝一番及び長時間駐車後の走り始め、又は降雨後や洗車後など湿気が多いときにブレーキペダルを踏むと、"キー"という音がする場合があります。この音は、ブレーキパッドが水分を吸収し、表面の摩擦力が一時的に変化したためで異常ではありません。これらの音がときどきするのは異常ではありませんが、頻繁に音がする場合は、すみやかに日産販売会社で点検をうけてください。

ブレーキがぬれたとき

洗車したり、水たまりを走ったりすると、ブレーキがぬれることがあります。 その結果、制動距離が伸び、ブレーキをかけたときに片側に寄ることがあります。

ブレーキを乾かすときは、安全な速度で走行しながらブレーキペダルを軽く踏み、ブレーキを加熱させます。 ブレーキが正常な状態に戻るまで、この操作を繰り返します。 ブレーキが乾くまでは、高速走行は避けてください。

電動パーキングブレーキのならし作業

パーキングブレーキの制動効果が低下したときや、パーキングブレーキのシュー/ドラムを交換したときは、ブレーキ性能を十分に引き出すために、常にパーキングブレーキシューのならし作業を行なってください。

ならし作業の手順は車両サービスマニュアルに記載されており、日産販売会社で実施できます。

ABS（アンチロックブレーキシステム）

警告

- ABSは高性能な装置ですが、不注意又は危険な運転が原因による事故を防ぐことはできません。ABSは、滑りやすい路面でのブレーキ時に、車両の制御を維持するのに役立ちます。ABSが付いていても、滑りやすい路面では、制動距離が通常の路面よりも長くなる点に注意してください。 でこぼこ道、じゃり道、積雪路を走行するときや、タイヤチェーンを装着したときも、制動距離が伸びることがあります。 常に十分な車間距離を確保してください。最終的に安全に責任を負うのは運転者です。
- タイヤの種類と状態も、ブレーキの効きに影響を及ぼします。
  — タイヤ交換時は、全4輪に指定サイズのタイヤを装着してください。

— 詳細については、 ☞ “タイヤ・ロードホイールサイズ” (page 9-4) をお読みください。

ABSは、急ブレーキ時や滑りやすい路面でのブレーキ時に、タイヤがロックしないようにブレーキを制御します。 システムは各車輪の回転数を検出し、各車輪がロックし、横滑りしないようにブレーキ液の圧力を変動させます。 各車輪のロック状態を防ぐことにより、システムは操舵時の安定性を維持し、滑りやすい路面での横滑りとスピンを最小限に抑えるのに役立ちます。

ABSを使用するには

ブレーキペダルを一定の力で確実に踏み込み、ハンドルを操作して障害物を回避してください。ABSが作動し、タイヤのロックを防ぎます。

⚠ 警告

ポンピングブレーキをしないでください。ポンピングブレーキをすると、制動距離が伸びることがあります。

自己診断機能

ABSには電子センサー、電動ポンプ、油圧ソレノイド、そしてコンピューターが内蔵されています。 コンピューターには診断機能が組み込まれており、電源ポジションを走行可能状態にしたとき、及び低速による前進又は後退時に、毎回システムがテストされます。 自己診断が行なわれると、鈍い音が聞こえたり、ブレーキペダルが振動したりすることがあります。 そうした現象は異常ではありません。 異常を検出すると、システムはABSの作動を解除させ、ロアメーター内のABS警告灯を点灯させます。 その状態でもブレーキシステムは正常に作動しますが、アンチロック補助機能は働きません。

自己診断中又は走行中にABS警告灯が点灯したときは、日産販売会社で車両の点検を受けてください。

標準作動

ABSは、5～10km/hを超える速度で作動します。 作動する速度は、路面の状況により異なります。

ABSが一輪以上がロックしそうな状態を検出すると、アクチュエーターが瞬時に減圧させ、ブレーキを解除します。 この動作は、運転者がブレーキペダルを素早くポンピングする操作に似ています。 ABS作動中は、ブレーキペダルの振動が感じられ、モータールームから音が聞こえ、アクチュエーターから振動が感じられることがあります。 そうした状態は正常であり、ABSは仕様通りに作動しています。 ただし、振動は路面が危険な状況にあり、慎重に運転する必要があることを示している場合があります。

VDC (ビークルダイナミクスコントロール)

VDC（ビークルダイナミクスコントロール）システムは、各種センサーを使用して運転者の車両操作と車両の動きを監視し走行の状態に応じて、VDCシステムは次の機能を作動させます。

- 滑っている側の駆動輪のスリップを軽減するためにブレーキ圧を制御し、同じ車軸の滑っていない側の駆動輪に動力を伝達します（ブレーキリミテッドスリップデフ機能）。
- 車速に応じて、駆動輪のスリップを低減するために、ブレーキ圧と走行用モーターの出力を制御します（トラクションコントロール機能）。
- 次の状況下で車両の制御が維持されるように、個々の車輪におけるブレーキ圧と走行用モーターの出力を制御します。
  — アンダーステア（ハンドルを切っても、車両の旋回がそれに追いつかない状態）
  — オーバーステア（特定の路面又は運転条件により車両がスピンする傾向）

VDCシステムは車両の制御性を維持するのに役立つ可能性がありますが、あらゆる走行状況で車両のコントロールが失われるの防ぐことはできません。

VDCシステムが作動すると、ロアメーター内の 警告灯が点滅します。 この警告灯が点滅したときは、次の点に注意してください。

- 路面が滑りやすい状態になっているか、車両の走行安定性を維持するためにシステムが作動した可能性があります。
- ブレーキペダルの振動が感じられたり、モータールームから音又は振動が聞こえたりすることがあります。そうした状態は正常であり、VDCシステムは正常に作動しています。
- 路面の状況に合わせて速度を調整し、運転をしてください。

☞ “VDC警告灯”（page 2-15）及び ☞ “VDC OFF表示灯”(page 2-17) をお読みください。

システムに異常が発生すると、メーター内の 警告灯が点灯します。 その警告灯が点灯すると、VDCシステムは自動的に作動が解除されます。

VDCシステムをオフに切り替えるときは、VDC OFFスイッチを押します。 OFF 表示灯が点灯し、VDCシステムのOFF状態が表示されます。 VDC作動中に、VDC OFFスイッチでシステムの作動を解除しても、VDCシステムは作動し、一方の駆動輪のスリップを防ぐために、滑っていない方の駆動輪に動力を伝達します。 その場合は、 警告灯が点滅します。

VDCが作動していないときにVDC OFFスイッチを押すと、ABS機能及びブレーキリミテッドスリップデフ機能を除くVDCのすべての機能（トラクションコントロールを含む）が作動せず、 警告灯は点滅しません。 電源ポジションをOFFにし、再びONにすると、VDCシステムは自動的にONの状態になります。

システムには診断機能が組み込まれており、走行用モーターに電源が供給されたときと低速による前進/後退時に、毎回システムがテストされます。 自己診断が行なわれると、鈍い音が聞こえたり、ブレーキペダルが振動したりすることがありますが異常ではありません。

⚠ 警告

- VDCシステムは走行安定性を維持するように設計されていますが、高速での急なハンドル操作や不注意/危険な運転行為が原因の事故を防ぐことはできません。 特に滑りやすい路面での走行時やコーナリング時は、速度を落とし、常に慎重に運転してください。

- サスペンションを改造しないでください。サスペンション部品（ショックアブソーバー、ストラット、スプリング、スタビライザーバー、ブッシュなど）やホイールが純正品でないか、著しく劣化しているときは、VDCシステムは正常に作動しないことがあります。車両のハンドリング特性に悪影響が及び、警告灯が点滅するか、警告灯が点灯することがあります。
- ブレーキ関連部品（パッド、ローター、キャリパーなど）が純正品でないか、著しく劣化しているときは、VDCシステムは正常に作動しなくなり、警告灯が点灯することがあります。
- 走行用モーター関連部品が純正品でないか、著しく劣化しているときは、警告灯が点灯することがあります。
- 極端に傾いた路面（サーキット路に見られるバンクコーナーなど）を走行するときは、VDCシステムが正常に作動せず、警告灯が点灯することがあります。そうした路面は走行しないでください。
- 不適切な路面（ターンテーブル、フェリー、エレベーター、ランプなど）を走行すると、警告灯が点灯することがあります。その状態は異常ではありません。安定した路面に戻った後に、EVシステムを再始動してください。
- 指定以外のホイール又はタイヤを使用すると、VDCシステムが正常に作動しなくなり、警告灯が点灯することがあります。
- VDCシステム付車でも、雪道では冬用タイヤやタイヤチェーンを装着してください。

寒冷時の取り扱い

車の冬じたく

凍結などに備えて、車両に以下の装備を積んでおくことをおすすめします。

- プラスチックの板など（窓ガラスやワイパーブレードから氷と雪を取り除くため）
- 丈夫で平らな板など（確実な土台としてジャッキ下に敷くため）
- シャベルなど（雪だまりから車両を掘り出すため）
- ウオッシャー液の予備（ウオッシャータンクに補充するため）

12Vバッテリーの点検

メンテナンスノート「簡単な整備のしかた」をお読みください。

冷却水の濃度点検

冷却水の凍結を防ぐため、クーラントの濃度を点検してください。

クーラントの濃度	凍結温度
30%	約－15°C
50%	約－35°C

冷却水を補充·交換するときは、日産純正スーパーロングライフクーラント（50%希釈

品）をお使いください。

☞ “交換油脂類”(page 9-2)をお読みください。

知識：

- 寒冷地仕様車は工場出荷時に50%にしてあります。
- 冷却水の点検·補充·交換は日産販売会社にご相談ください。

冬用タイヤ、タイヤチェーンの準備

- 冬用タイヤに交換するときは、4輪とも必ず指定サイズで同一銘柄、パターン（溝模様）のタイヤに交換してください。
- タイヤチェーンは、お客様のタイヤサイズに合った日産純正品をおすすめします。

ウオッシャー液の濃度点検

ウオッシャー液の凍結を防ぐため、ウオッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温に応じた希釈割合（濃度）にしてください。

日産純正ウインドーウオッシャー液をおすすめします。

注意

外気温に合わせた希釈割合に合わせてください。不適合の場合、ウインドーガラスに噴射した液が凍結し、視界不良となるおそれがあります。

寒冷地用ワイパーブレードの装着

寒冷地用のワイパーブレードを装着するときは、お車に合った日産純正部品をおすすめします。
詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

注意

高速走行時は通常のワイパーブレードより拭きとりにくくなります。速度を落として走行してください。

知識：

降雪期以外は通常ブレードに戻してください。

凍結したドアロックの解凍

ドアロックが凍結してしまった場合は、インテリジェントキーのリモコンを使用するか、キーを温めてからキー穴に挿入してください。また、ドアロックの凍結を防ぐには、キー穴に凍結防止剤を塗布してください。

凍結した充電ポートリッドの解凍

充電ポートリッドが凍結したときは、氷を溶かして水分を除去してから、充電ケーブル（EVSE）の接続又は取り外しを行ってください。

滑りやすい路面の走りかた

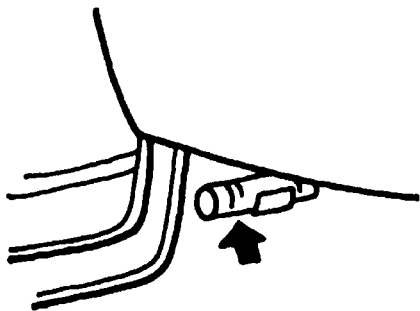
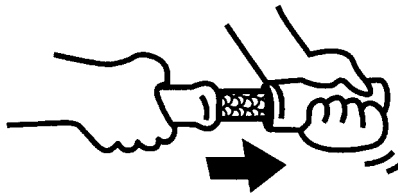
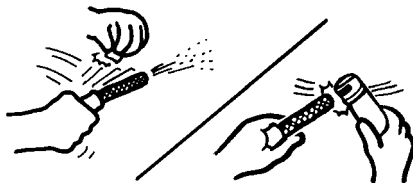
警告

- 滑りやすい路面での急発進、急加速、急ブレーキ、急ハンドルなど無理な運転は危険ですのでしないでください。雪道や凍結路では速度を落とし、車間距離をとり、ゆとりある運転をしてください。
- 雪道、凍結路では早めに冬用タイヤ、タイヤチェーンなどを装着して走行してください。

- 滑りやすい路面では、通常よりも制動距離が長くなります。 乾いた路面よりも車間距離をとり、早い段階でブレーキペダルを踏んでください。
- 滑りやすい路面ではASCD(オートスピードコントロール)機能は使用しないでください。

6 万一のとき

発炎筒の使いかた

故障や事故などで緊急停車したとき、周囲に危険を知らせるために使います。

1. 助手席足元部のホルダーから発炎筒を外します。

2. 本体を回しながらケースから引き抜きます。

3. 点火部をケースのすり薬でこすって点火します。

警告

- お子さまには触らせないでください。いたずらなどで発火するおそれがあり危険です。
- 可燃物の近くで使わないでください。引火する危険があります。
- 点火は必ず車外で行い、点火後は顔や身体に近づけないでください。やけどをする危険があります。
- トンネル内では使わないでください。煙で視界が悪くなり、他車の走行の妨げとなり事故をまねくおそれがあります。このときは非常点滅表示灯を使ってください。

知識：

- 点火後は約５分間燃え続けます。
- 発炎筒に記載してある使用方法、注意をあらかじめ確認しておいてください。

- 発炎筒には有効期限があります。期限が切れる前に日産販売会社でお買い求めください。

EVシステムの非常停止のしかた

緊急時以外は走行中にパワースイッチの操作を行わないでください。

走行中にやむを得ずEVシステムを停止する場合は、以下のいずれかの操作を行ってください。

- パワースイッチを連続して素早く3回押す。
- パワースイッチを2秒以上押し続ける。

パンクしたときは

タイヤ応急修理のしかた

この車両には、スペアタイヤは搭載されていません。スペアタイヤの代わりにタイヤパンク応急修理キットが搭載されており、軽度のパンクを一時的に応急修理できます。

タイヤトレッド部(接地面）に刺さった釘やネジなどによる軽度のパンクは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理できます。

本キットは応急修理を目的としているため、修理後はすみやかに日産販売会社または専門の修理業者で点検、恒久修理を行ってください。

⚠ 注意

- 修理キットについて
  - — 応急修理キットは、必ず日産純正品を使用してください。
  - — 応急修理キットは、搭載車両専用です。他の車には使用しないでください。
  - — 応急修理キットは自動車用タイヤの空気充填や空気圧チェック以外で使用しないでください。

— 応急修理キットはDC 12V専用です。他の電源での使用はできません。

— 水分やほこりを付着させないでください。

— 分解改造などは絶対しないでください。

— 落下させたり、コンプレッサーに強い衝撃を加えたりしないでください。故障の原因となります。

— お子さまが誤って手を触れないように注意してください。

- 修理剤について

  — 飲むと健康に害があります。万一誤って飲んだ場合は、できるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

  — 万一目や皮膚に付着した場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診療を受けてください。

- 次の場合は応急修理はできませんので、日産販売会社又はJAFなどのロードサービスに連絡してください。

  — 修理剤の有効期限が切れている場合

  — 約６mm以上の切り傷や刺し傷がある場合

  — タイヤのサイド部が損傷を受けた場合

  — ほとんど空気が抜けた状態で走行した場合

  — タイヤがホイールの内側又は外側に外れている場合

  — ホイールが損傷している場合

  — タイヤが2本以上パンクしている場合

応急修理のしかた

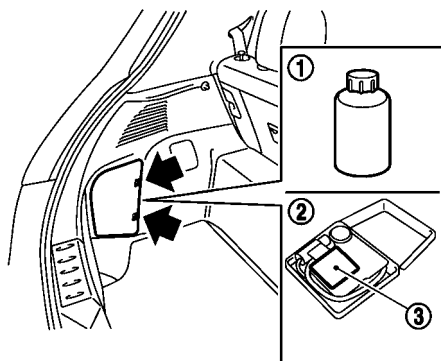
安全な場所に止めてください：

1. 安全を確認しながら、走行車線から離れた場所へ車両を移動させます。
2. 非常点滅表示灯を点灯させます。
3. 平坦な場所に駐車し、パーキングブレーキをかけます。
4. セレクトレバー上部のⓅスイッチを押して、P（パーキング）にします。
5. パワースイッチを押して、電源ポジションをOFFにします。
6. 全乗員を降車させ、車両及び走行車線から離れた安全な場所に待機させます。

⚠ 警告

パーキングブレーキが確実にかかり、シフトポジションがP（パーキング）に入っているか確認します。

- 危険なため、斜面、凍結面、滑りやすい路面では作業しないでください。
- 対向車の近くでは絶対に作業しないでください。

タイヤパンク応急修理キット：

ラゲッジルーム側面に収納されているタイヤパンク応急修理キットを取り出します。 修理キットには次のものが含まれています：

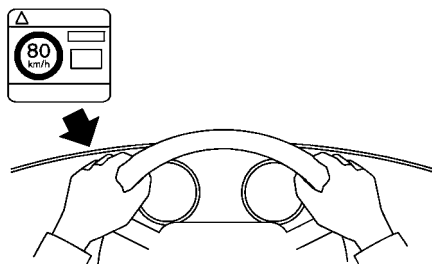
① 修理剤ボトル
② エアコンプレッサー
③ 速度制限シール

タイヤパンク応急修理キットを使用する前に：

- タイヤに釘やネジなどが刺さっている場合は、抜かずにそのまま修理してください。
- 修理剤の有効期限を確認してください。有効期限を過ぎたシーラントは絶対に使用しないでください。

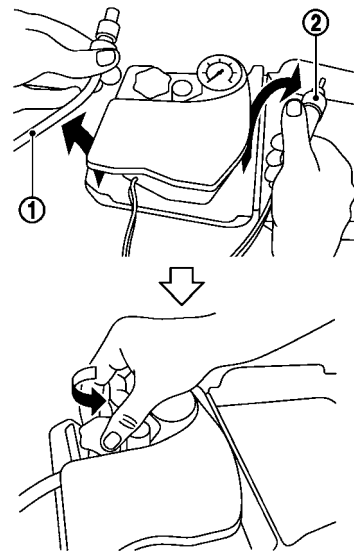
応急修理の手順：

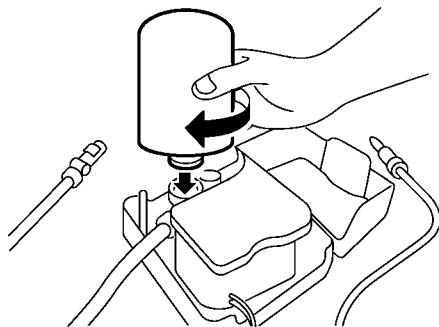
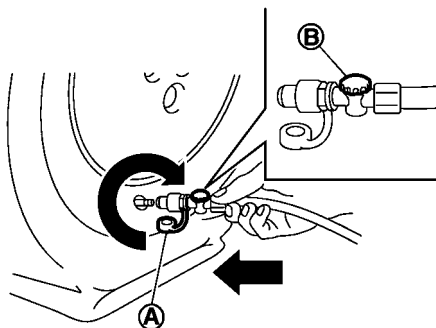
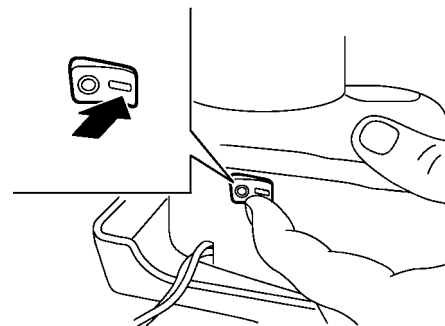
知識：

修理剤を使用するときは、タイヤに刺さった釘やネジを抜き取らないでください。

1. コンプレッサーのカバーを開き、速度制限シールをはがし、運転者のよく見えるところに貼ります。

注意

ハンドルのセンターパッド部には速度制限シールを貼らないでください。SRSエアバッグが正常に作動しなくなり、重大な傷害につながるおそれがあります。

また、警告灯やスピードメーターが見えなくなる位置にも貼らないでください。

2. コンプレッサーからホース①と電源プラグ②を取り出します。 コンプレッサーからボトルホルダーのキャップを外します。

3. 修理剤ボトルのキャップを外し、内ぶたをつけたままボトルホルダーに取り付けます。　（ボトルホルダーにねじ込むと、内ぶたが破れます。）

4. パンクしたタイヤのバルブからキャップを外します。

5. ホース先端の保護キャップⒶを外し、ホース（排気バルブⒷがしまっていることを確認してください）をタイヤのバルブに確実にねじ込みます。コンプレッサーのスイッチがOFF(O)位置にあることを確認し、電源プラグを車内の電源ソケットに差し込みます。

6. 電源ポジションをACCにしてコンプレッサーのスイッチをON(-)位置にし、タイヤを指定空気圧又は最低180kPa（1.84kg/cm2)まで昇圧します。

   この際、実際の空気圧が測れるようにコンプレッサーを一時停止して圧力計で測定してください。

   空気圧が高すぎる場合は、排気バルブⒷを反時計回りにして、空気を抜いてください。

⚠ 注意

- ホースとタイヤの接続が不十分な場合、空気が漏れたり、修理剤が飛び散るおそれがあります。
- 破裂の危険があるので応急修理キット作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを切り、修理を中止してください。
- バルブを介して修理剤を注入するため、圧力が600kPa（6.12kg/cm2)に達することがありますが、異常ではありません。通常は30秒ほどで下がります。

タイヤの空気圧は運転席ドア開口部に表示、及びサービスデータに記載してあります。

タイヤ空気圧が10分以内に180kPa (1.84kg/cm2)まで昇圧しないときは、重度の損傷が生じているおそれがあり、この修理キットでは修理できません。日産販売会社にご連絡ください。

7. 指定の空気圧又は180kPa以上まで昇圧できたら、コンプレッサーのスイッチを切り、電源プラグを電源ソケットから抜きます。ホースをタイヤのバルブから素早く取り外し、ホースに保護キャップを取り付け、バルブにキャップを取り付けます。 タイヤパンク応急修理キットを格納場所に収納します。

⚠ 注意

タイヤパンク応急修理キット収納時は、次の点に注意してください：

- 修理剤ボトルはコンプレッサーに確実にねじ込んで固定してください。 締め付けが不十分な場合は修理剤が漏れ出し、目や皮膚に付着するおそれがあります。

8. 修理剤をタイヤ内に広げるため、10分間又は3km走行してください。80km/h以下の速度で注意深く運転してください。
9. 走行後、再度コンプレッサーのスイッチがOFF位置にあることを確認し、ホースをタイヤのバルブに取り付け、コンプレッサーに付属している空気圧計でタイヤ空気圧を点検します。 空気圧が低下していない場合は、一時的な修理は完了です。

   走行前に、指定の空気圧に調節してください。指定空気圧は運転席ドア開口部に表示、及びサービスデータに記載されています。
10. タイヤ空気圧が低下したときは、ステップ5～9を繰り返してください。

⚠ 注意

空気圧が130kPa以下に低下したり、ステップ5～9の作業を繰り返しても空気圧が低下したりする場合は、本修理キットによる応急修理はできません。

運転を中止して日産販売会社又はJAFなどのロードサービスにご連絡ください。

修理剤とホースは、再使用することはできません。使用後は新しい修理剤とホースをお求めください。 詳しくは、日産販売会社にご連絡ください。

タイヤを修理したあとは：

タイヤの修理/交換を受けるために、できるだけ早く日産販売会社にご連絡ください。

⚠ 警告

- 80km/hを超える速度では走行しないでください。
- すみやかに日産販売会社に立ち寄り、タイヤの点検、修理、又は交換を受けてください。 修理剤には、穴の開いた部分を一時的にふさぐ機能しかありません。 恒久的に修理せずにそのままタイヤを使用すると、事故につながるおそれがあります。
- 付属品の日産純正応急修理剤以外は使用しないでください。 他のタイヤ修理剤を使用すると、バルブステムシールが損傷し、空気圧が低下するおそれがあります。

リチウムイオンバッテリーの残量がなくなったときは

万一、安全な場所に移動する前に走行できなくなったときは、付近の人に応援を求め、車を手で押して安全な場所に移動してください。このとき、電源ポジションはONのまま、シフトポジションはN（ニュートラル）にしてください。

安全な場所に車両を停めたあとは、日産EVカスタマーセンターにご連絡ください。また、救援を待つ間は、12Vバッテリーのバッテリーあがりを防ぐため、電源ポジションをOFFにしてください。

知識：

- リチウムイオンバッテリーの残量が完全になくなると、電源ポジションが自動的にONに切り替わり、走行可能状態に切り替えることができなくなります。このとき、シフトポジションも自動的にN（ニュートラル）に切り替わるため、走行できなくなります。
- メーターの航続可能距離表示が“－－”表示ではなくなるまで（数値が点滅表示されるまで）充電すると、再び走行可能状態に切り替えることができるようになります。
- リチウムイオンバッテリーの残量が低下したときは、メーター及びナビゲーション画面にさまざまな警告が表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

（☞ “リチウムイオンバッテリーの残量が低下したとき”(page EV-4)）

12Vバッテリーがあがったときは

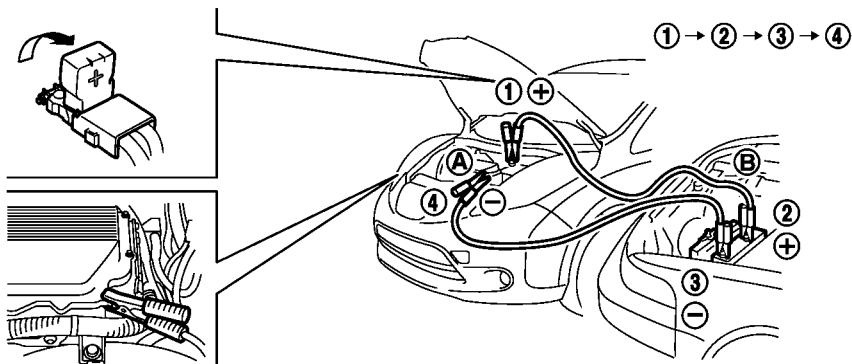
12Vバッテリーがバッテリーあがりになったときは、EVシステムを始動することができません。以下の手順及び注意事項に従ってEVシステムを始動させてください。

なお、この手順で充電できるのは12Vバッテリーであり、リチウムイオンバッテリーではありません。リチウムイオンバッテリーの充電が必要なときは、別途充電をしてください。詳しくは、“充電”の章をお読みください。

⚠ 警告

- ブースターケーブルをつなぐときは、次のことを必ずお守りください。火花が発生し、バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発することにより、やけどなど重大な障害につながるおそれがあります。
  - — ブースターケーブルを正しい順番と位置でつないでください。
  - — ブースターケーブルを自車バッテリーのマイナス(-)端子に直接つながないでください。
  - — ブースターケーブルのプラス(+)端子とマイナス(-)端子を接触させないでください。
  - — 12Vバッテリーが凍結しているおそれのあるときは、ブースターケーブルをつながないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。目や皮膚に付着すると、失明や炎症など重大な障害につながるおそれがあります。万一、付着したときは、すぐに多量の水で洗浄し、飲み込んだときは多量の水を飲んで応急処置をしたあと、ただちに医師の診療を受けてください。
- 救援車には12V仕様のバッテリーを使用してください。 不適切な仕様のバッテリーは車両を損傷させることがあります。
- 作業を行なうときは、適切な目の保護具（ゴーグル、工業用安全メガネなど）を着用し、指輪や金属バンドなどの宝飾品は必ず外してください。 また、12Vバッテリーの上及びその周辺に顔を近づけないでください。
- この車両のモータールームには冷却ファンが装着されており、突然ファンが回り始めることがあります。 手や他の物を近づけないでください。

⚠ 注意

- リチウムイオンバッテリーを充電したままの状態で、12Vバッテリーにブースターケーブルを接続しないでください。 車両又は充電機器が破損するおそれがあります。
- リーフを救援車として使用しないでください。リーフの12Vバッテリーを充電するシステムは、他車の12Vバッテリーあがりを救援するには適していません。

1. 自車Ⓐと救援車Ⓑの12Vバッテリーが近づくように車両の位置を調節します。

⚠ 注意

車両と車両が接触しないように注意してください。

2. 両方の車両のパーキングブレーキをかけます。

   自車Ⓐの12Vバッテリーが完全にあがっているときは、電源ポジションをOFFから切り替えられませんので、そのままの状態で作業を続けてください。

3. 両方の車両のシフトポジションをP（パーキング）にします。
4. 両方の車両の電装品（ヘッドランプ、ヒーター、エアコンなど）のスイッチをOFFにします。
5. 両方の車両の電源ポジション又はキースイッチをOFFにします。
6. 12Vバッテリーの端子カバーを外します。 爆発による事故を防止するために、よく絞ったぬれた布で12Vバッテリーを覆います。
7. ブースターケーブルを図の順序(① → ② → ③ → ④)で接続します。

⚠ 注意

- 必ずブースターケーブルのプラス(+)端子は、12Vバッテリーのプラス(+)端子に接続してください。また、マイナス(-)端子は12Vバッテリーではなく、車両ボディ（12Vバッテリーから離れたステーなど）に接続します。
- ブースターケーブルがモータールーム内の可動部品に触れていないか確認し、さらにワニグチクリップが他の金属部に接触していないか確認してください。

8. 救援車Ⓑのエンジンを始動させます。
9. 救援車Ⓑのエンジンをかけたまま、 自車Ⓐのブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押して、電源ポジションをON（走行可能表示灯が点灯）に切り替えます。

知識：

EVシステムがすぐに始動しないときは、電源ポジションをOFFにし、10秒待ってから再び試してみてください。

10. EVシステムが始動したら、取り付けたときと反対の順序(④ → ③ → ② → ①)でブースターケーブルを取り外します。リチウムイオンバッテリーの電力で12Ｖバッテリーを充電するため、そのまま20分以上電源ポジションがＯＮの状態を維持してください。
11. バッテリーの端子カバーを取り付けます。 腐食性の酸で汚れていることがあるため、12Vバッテリーを覆うために使用した布は必ず処分してください。
12. 必要に応じて車両に充電機器を接続し、リチウムイオンバッテリーを充電してください。

知識：

上記の手順に従っても電源ポジションをONにできないときは、すみやかに日産販売会社にご連絡ください。

押しがけについて

この車両は、押しがけ又はけん引による始動はできません。 押しがけを試みると車両が破損するおそれがあります。

けん引するときは

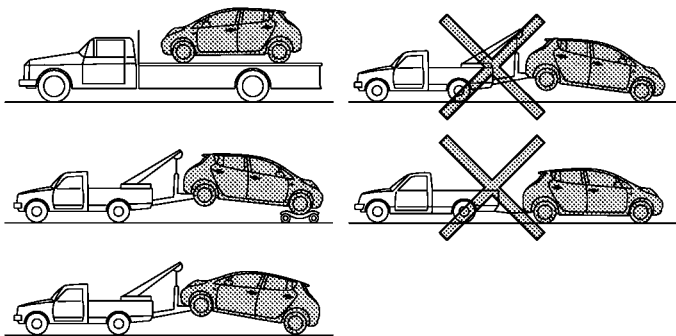
車両をけん引するときは、周囲の交通状況に気をつけながら法律に従ったけん引を行ってください。不適切なけん引をすると、車両を破損させるおそれがあります。車両が動かなかったり、異常な音がするときは、けん引せずに日産販売会社にご連絡ください。けん引が必要なときは、できるだけ日産販売会社又はJAFなどのロードサービスに依頼することをおすすめします。

⚠ 警告

レッカー車で吊り上げた場合は、絶対に車両の下側には入らないでください。

⚠ 注意

- けん引時は、アクスル、ステアリングシステム、パワートレーンが作動可能な状態になっているか確認してください。それらの部品のいずれかが損傷している場合は、トレーラーなどを使用してください。
- トレーラーなどで輸送するときは、ワイヤーなどで必ず車両を固定してください。

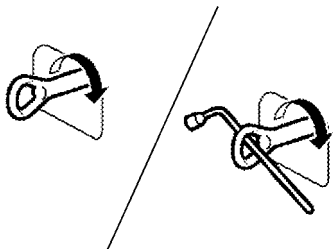
けん引のしかた

イラストのように必ず駆動輪（前輪）を上げるか、車両をトレーラーに載せてけん引を行なってください。

⚠ 注意

- 前輪又は4輪を接地させた状態では絶対にけん引しないでください。 車両が破損し、重大かつ高額な修理を必要とするおそれがあります。
- 台車を使用せずに後輪を接地させて車両をけん引するときは、必ず電動パーキングブレーキを解除してください。12Vバッテリーのバッテリーあがりなどで、パーキングブレーキスイッチを押しても解除できない場合は、☞ “電動パーキングブレーキの手動解除”(page 6-14)をお読みください。

悪路から脱出するには（立ち往生したときは）

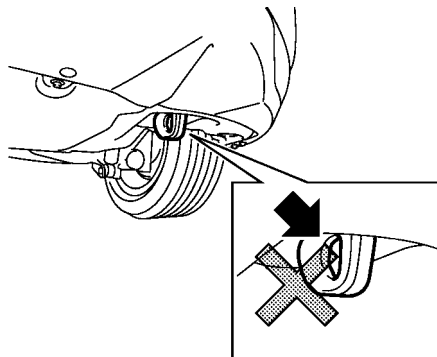
けん引による脱出について

車両前側：

⚠ 警告

- 立ち往生した車両を脱出させるときは、極力近づかないでください。
- タイヤを高速で空転させないでください。タイヤの破裂により重大な傷害につながったり、車両の部品が過熱して破損するおそれがあります。

1. カバーの溝に、マイナスドライバーのような先の細いお手持ちの工具を布を巻いて差し込み、バンパーからけん引フックカバーを取り外します。
2. イラストのようにホイールナットレンチを使ってけん引フックを確実に取り付けます。　（けん引フックは、ラゲッジルーム左側に格納されています。）

使用後は、けん引フックを取り付けたときと逆の手順で取り外し、元の位置に適切に格納してください。

車両後ろ側：

後ろ側のフックは、船舶輸送時の固定専用です。けん引やトレーラー輸送時などの固定には絶対に使わないでください。

⚠ 注意

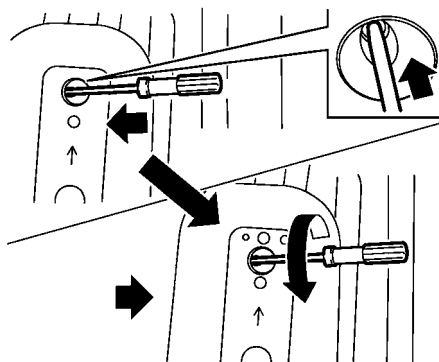
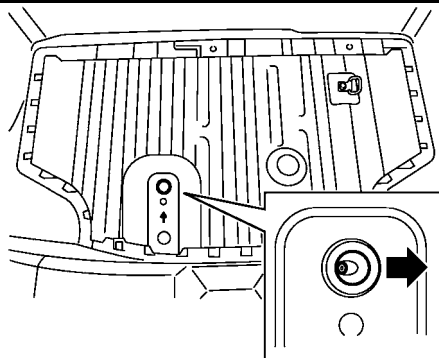
- 後ろ側のフックは、砂地、雪道、ぬかるみなどから脱出するときには使用しないでください。
- 絶対に後ろ側のフックを使用して他の車両をけん引しないください。

自力での脱出について

砂地、雪道、ぬかるみなどから抜け出せなくなったときは、次の方法を試してみることをおすすめします。

1. VDCシステムをOFFにします。
2. 車両の前後に障害物がないことを確認します。
3. ハンドルを左右に回し、前輪の周囲をならします。
4. 車両を前後にゆっくりと揺すります。
   - シフトポジションをR（リバース）に切り替えて、その後すぐにD（ドライブ）に戻す操作を繰り返します。
   - アクセルペダルの踏み込み量は必要最小限にしてください。
   - R（リバース）とD（ドライブ）から切り替える前に必ずアクセルペダルから足を離してください。

- 車輪を空転させるのは極力避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないようにしてください。

5. 数回試しても脱出できないときは、日産販売会社又はJAFなどのロードサービスに連絡してください。

電動パーキングブレーキの手動解除

電動パーキングブレーキスイッチを操作しても解除できないときは、電動パーキングブレーキは手動で解除できます。

次の操作は、非常時に電動パーキングブレーキを解除する必要が生じたときだけ行なってください。

知識：

- 電動パーキングブレーキシステムの異常によっては、電動パーキングブレーキスイッチの作動インジケーターが点滅し、メーター内の電制シフト警告灯が点灯することがあります。
- メーター内の電制シフト警告灯が点灯した場合は、安全な場所に停車し、すみやかに日産販売会社に連絡してください。
- 電動パーキングブレーキの手動解除は非常時のみ行ってください。電動パーキングブレーキの手動解除を行ったあとは、日産販売会社で車両の修理と点検を受ける必要があります。

電動パーキングブレーキを手動で解除するには、次の手順に従ってください。

1. シフトポジションがP（パーキング）にあるのを確認します。 シフトポジションをP（パーキング）に入れることができないときは、日産販売会社に連絡してください。

2. パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにします。
3. 電動パーキングブレーキスイッチの作動インジケーターが消灯していることを確認します。
4. バックドアを開きます。
5. ラゲッジルーム内の工具セットから手動解除工具を取り出します。
6. ラゲッジルームからラゲッジフロアボードを外します。
7. 反時計回りに回転させてキャップを取り外します。
8. 工具を挿入して、押し込みながら反時計回りに回し続けます。
9. しばらく回し続け、手を離すと回したときの量と同じくらい、工具が元の方向に戻されるようになれば、パーキングブレーキの解除は完了です。
10. 手動解除工具は、取り外しと逆の順序で収納してください。

⚠ 警告

シフトポジションがP（パーキング）以外に入っていると、車両が突然動き出すことがあります。

⚠ 注意

- 電動パーキングブレーキを手動で解除するときは、必ず電動パーキングブレーキスイッチの作動インジケーターが消灯してから行なってください。 システムが作動し、手動解除用の工具が突然動いて、ケガをするおそれがあります。
- 電動パーキングブレーキを手動で解除するときは、シフトポジションがP（パーキング）にあることを確認してください。シフトポジションをP（パーキング）に入れることができないときは、日産販売会社に連絡してください。
- 電動パーキングブレーキをかけたまま走行すると、部品が過熱し、電動パーキングブレーキの効きが悪くなり、早期に摩耗することがあります。
- 電動パーキングブレーキの手動解除工具は、非常時に電動パーキングブレーキを解除する目的以外で使用しないでください。

知識：

電動パーキングブレーキの手動解除工具は、電動パーキングブレーキの解除のみに使用できます。パーキングブレーキをかけることはできません。

電動パーキングブレーキスイッチの作動インジケーターは、電源ポジションをOFFにしてから1分後に消灯します。 電動パーキングブレーキスイッチの作動インジケーターが消灯しないときは、日産販売会社に連絡してください。

7 車との上手なつきあいかた

外装のお手入れ

車両を美しく保つためには、適切なお手入れが大切です。

塗装面を保護するために、次のような場合はできるだけすぐに洗車してください。

- 雨にぬれた後。（酸性雨による損傷を防ぐため）
- 海岸沿いの道路を走行したあと。
- ばい煙、鳥のふん、樹液、金属粉、昆虫などによる汚れが塗装面に付着したとき。
- 塗装面にほこりや汚れが堆積したとき。

なるべく、車庫又は屋根のある場所で車両を保管してください。

屋外に駐車する場合は、なるべく日陰に駐車するか、車両をボディカバーで保護してください。

ボディカバーの着脱時は塗装面に傷をつけないように注意してください。

洗車のしかた

ぬらしたスポンジと大量の水で車両から汚れを洗い流します。中性洗剤、専用ボディーシャンプー、又は一般的な食器洗い用洗剤を汚れていないぬるま湯（熱湯は厳禁）で薄めて使用し、車両を念入りに洗浄します。

⚠ 注意

- 洗車するときは、モータールーム内に水をかけないでください。電気部品の故障などの原因になるおそれがあります。
- 洗剤に酸を使用する洗車機は使用しないでください。一部の洗車機（特にブラシレスタイプ）では、洗浄用に酸が用いられています。酸は特定のプラスチック製車両部品と反応し、ひび割れを起こすことがあります。外観に影響が及ぶだけでなく、正常に作動しなくなるおそれがあります。酸が使われていないかどうか、必ず洗車機を確認してください。
- 家庭用強力洗剤、強力な化学洗剤、ガソリン、又は溶剤は使わないでください。
- 表面に水によるはん点が残るおそれがあるため、直射日光下又はボディーが高温のときは洗車しないでください。
- 洗浄用ミットなどの毛羽立ちする布又は粗い布は避けてください。固まった汚れ又は他の異物を取り除くときは、塗装面に傷つけたり、損傷させたりしないよう注意してください。

洗車後は十分な水で洗い流してください。

内側開閉部、継ぎ目、ドアの折り返し部、バックドア、フードは、特に凍結防止剤の影響を受けやすい部位ですので定期的に清掃してください。下回りとホイールに水を吹き付けて汚れを浮かし、凍結防止剤を洗い流します。

湿らせたセーム皮を使って車両を乾かし、塗装面に水によるはん点が残るのを防いでください。

ワックスのかけかた

定期的にワックスをかけると塗装面が保護され、外観が美しく維持されます。汚れや溜まったワックスかすを取り除いてからワックスをかけることをおすすめします。

適切な製品の選定については、日産販売会社にご相談ください。

- 必ず入念に洗車してからワックスをかけてください。また、ワックス容器に記載してある説明に従ってください。
- 塗装面を損傷させるおそれのある研磨剤、切削液、又はクリーナーの入ったワックスは使わないでください。

機械でワックスがけしたり、磨き作業を過剰に行ったりすると、仕上げ面の光沢が失われるか、渦巻き状の跡が残るおそれがあります。

付着した汚れの取り除きかた

塗装面が損傷したり、しみができたりしないように、タールやオイル、ばい煙、昆虫、樹液はできるだけ早く取り除いてください。 日産販売会社又は自動車用品店では、専用のクリーナーが販売されています。

下回り

冬季に凍結防止剤が使用される地域では、下回りを定期的に清掃してください。 定期的に清掃することで、凍結防止剤の蓄積が防止され、下回りとサスペンションの腐食進行を防止できます。 冬季の前と春季に再度、下回りのシールを点検し、必要に応じて再処理を受けてください。

窓ガラス

ガラスクリーナーを使って、ガラス表面から油膜を取り除きます。 炎天下に駐車したあとにガラスに油膜が付くのは異常ではありません。 油膜はガラスクリーナーと柔らかい布で容易に取り除くことができます。

⚠ 注意

窓ガラスの内側を清掃するときは、先のとがった工具、研磨剤入りのクリーナー、又は塩素系の殺菌クリーナーは使用しないでください。 ラジオやナビゲーションシステムのアンテナ類やリヤウインドーの熱線が損傷するおそれがあります。

ソーラーセルモジュール*

ソーラーセルモジュールは、樹脂カバーを使用しています。掃除をする場合は外装のお手入れをお読みください。また、次のことをお守りください。

- カラ拭きや、コンパウンド入りのワックスを使ったポリッシングはハードコーティングを剥がすおそれがありますので行わないでください。
- 充分な効果を得るため、落ち葉や汚れを落としてください。

*：車種、グレード、オプションなどにより、装備の有無が異なります。

ホイール

外観を維持するために、ホイールは洗車時に洗浄してください。

- ホイール交換時又は下回りの洗浄時は、ホイール内側を清掃してください。
- ホイールは定期的に点検し、凹み又は腐食がないか確認します。損傷によって空気圧が低下したり、タイヤビードのシールが不良になったりするおそれがあります。
- 冬季に凍結防止剤が使用される地域では、保護のためにホイールにワックスをかけることをおすすめします。

⚠ 注意

ホイール洗浄時は、研磨剤入りクリーナーは使用しないでください。

アルミホイール

特に冬季に凍結防止剤が道路に使用される地域では、中性洗剤で湿らせたスポンジで定期的に洗浄してください。 凍結防止剤の塩分によってホイールが変色することがあります。

⚠ 注意

しみや変色を防ぐために、次のことをお守りください。

- 強酸性又は強アルカリ性の洗剤は使わないでください。
- ホイールが高温のときはホイールクリーナーを使わないでください。 この場合、ホイールの温度が外気温と同じになるまで待ってください。
- クリーナー使用後は15分以内にすすぎ、クリーナーを完全に洗い流してください。

クローム部品

クローム部品は、外観を維持するために研磨剤の入っていないクリーナーで定期的に清掃してください。

タイヤクリーナー

タイヤクリーナーの使用はおすすめしません。 ゴムの変色を抑えるために、タイヤは製造時にコーティングされています。 タイヤクリーナーを使用すると、そのコーティングと反応し、化合物が発生するおそれがあります。 走行中にその化合物がタイヤから剥がれ、塗装のしみの原因になることがあります。

タイヤクリーナーを使う場合は、次の注意事項をお守りください。

- 水性タイヤクリーナーをお使いください。 タイヤ上のコーティングは、油性タイヤクリーナーを使用した方が溶解しやすくなります。
- タイヤトレッド部又は溝に付着しないように、薄く塗布してください。（付着すると取り除くのが困難です。）
- 乾いた布で余分なタイヤクリーナーを拭きとってください。 タイヤトレッド部又は溝からタイヤクリーナーが完全に取り除かれたことを確認してください。
- メーカーの推奨事項に従い、タイヤクリーナーを乾かしてください。

内装のお手入れ

時々、掃除機又はソフトブラシを使用して、内装材、プラスチック部品、シートからほこりを取り除いてください。 ビニールとレザーの表面は、中性洗剤を薄めて柔らかい布に含ませ、軽くふき取ります。さらに水に浸した布を固くしぼってふき取ります。

レザーの外観を保つためには、定期的なお手入れと清掃が必要です。

市販のクリーナーを使用する前に、メーカーの説明書をよくお読みください。 一部のクリーナーには、シート素材にしみ又は脱色を起こすおそれのある薬品が含まれています。

メーターや計器のレンズを清掃するときは、水で湿らせた布を使用してください。

⚠ 注意

- ベンジン、シンナーなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レザー表面に小石や砂などの小さな粒子が付着すると、表面を傷つけることがありますので、すみやかに取り除いてください。 レザーの自然な仕上げを傷めるおそれがあるため、サドルソープ（革みがき石けん）、カーワック

ス、研磨剤、オイル、洗浄剤、溶剤、洗剤、アンモニア系のクリーナーは使用しないでください。

- メーカーによって推奨されていない限り、絶対にシートのコーティング剤は使用しないでください。
- メーター又は計器のレンズカバーに、ガラス/プラスチッククリーナーを使用しないでください。 レンズカバーが損傷することがあります。

芳香剤

大半の芳香剤には内装に悪影響を及ぼすおそれのある溶剤が使用されています。芳香剤を使用する場合は、次の注意事項を守ってください。

- 吊すタイプの芳香剤が内装の表面と接触すると、内装が変色することがあります。 このような芳香剤は、内装表面に接触することなく吊るすことができる場所に取り付けてください。
- 液状の芳香剤は、内装にこぼすと、表面が変色するおそれがあります。

芳香剤を使用する前に、メーカーの取扱説明書をよくお読みください。

フロアカーペット

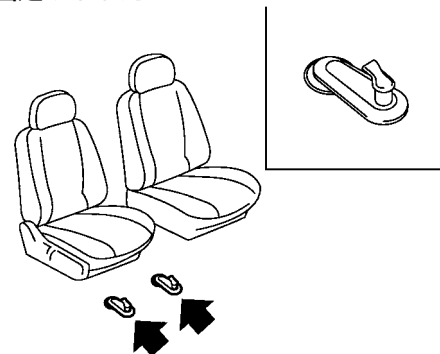
⚠ 警告

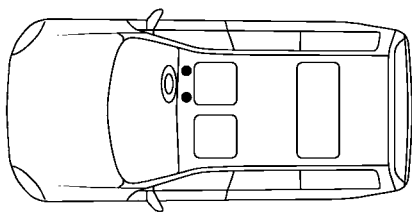
この車両（年式）専用のフロアカーペットを、床の上にしっかりと固定して正しく使用してください。フロアカーペットがずれて各ペダルと干渉し、思わぬスピードが 出たりブレーキが効きづらくなるなど、重大な傷害につながるおそれがあります。

ペダル操作の妨げにならないように以下のことに注意してください：

- 運転席にフロアカーペットを敷くときは運転席専用のものを使用し、重ねて敷かない。
- 日産純正品であっても、他車種及び異なる 年式のフロアカーペットは使用しない。
- 固定クリップで確実に固定し、フロアカーペットでペダルを覆わない。
- フロアカーペットが正しく固定されていることを定期的に点検し、洗車後は必ず確認する。
- 電源ポジションOFF時及びシフトポジションがP(パーキング）のときに各ペダルをいっぱいに踏み込み、 フロアカーペットと干渉しないで運転に支障がないことを確認する。

フロアカーペットは定期的に清掃してお手入れし、摩耗が激しい場合は交換してください。

固定のしかた

この車両（年式）専用のフロアカーペットが設定されています。床の上にしっか りと固定して正しく使用してください。床面には日産純正フロアカーペット用の固定クリップが付いています。取り付けるには、フロアカー

ペットを床の形状に合わせて敷き、取付穴に固定クリップのピンを通し、確実に固定します。

固定クリップの位置

シートベルト

シートベルトは、中性洗剤の溶液で湿らせたスポンジで拭くことで清掃できます。 ベルトは日陰で完全に乾かしてから使用してください。

☞ “シートベルト”(page 1-8) をお読みください。

⚠ 警告

ぬれたシートベルトを巻き込み装置に格納しないでください。 シートベルト素材の強度が大幅に低下することがあるため、シートベルトは絶対に漂白剤、染料、又は化学溶剤を使用して清掃しないでください。

充電ケーブル(EVSE)

充電ケーブル(EVSE)のお手入れには、中性洗剤の溶液（3%）で湿らせ、よく絞った柔らかい布で拭いてください。 水で湿らせた布で拭いて洗剤分を取り除き、換気が行き届いた日陰で乾かします。

腐食防止について

車両を腐食させる最も一般的な要因

- ボディーパネルの断面、穴や他の部分に堆積した、水分を含む汚れと異物
- 砂利、跳ねた石による損傷、又は軽度の交通事故による塗装や保護コーティングの損傷

腐食に影響を及ぼす要因について

湿気

車両下回りに砂、汚れ、及び水が溜まると、腐食が進むことがあります。 ぬれたフロアカーペットは車内では完全に乾かないため、フロアパネルの腐食を防ぐために取り外して乾かしてください。

相対湿度

腐食は、湿度が高い地域、特に温度が0°Cを下回らず、大気汚染が激しい地域又は路面に凍結防止剤が使用されている地域では早まります。

気温

気温が上昇すると、十分に換気されていない部品の腐食が進みます。

大気汚染

腐食は、産業公害、沿岸地域における空気中の塩分、又は路面凍結防止剤の多用によって早まります。 さらに、路面凍結防止剤は塗装面の分解を加速させます。

車を腐食から守るには

- 洗車とワックスがけを頻繁に行い、車の汚れを落としておきます。
- 塗装に損傷がないか常に点検し、少しでも損傷がある場合はできるだけ早く修理します。
- 砂、汚れ、凍結防止剤が蓄積していないか下回りを点検します。蓄積している場合は、できるだけ早く水で洗い流します。

⚠ 注意

- 絶対にホースを使用して車内の汚れ、砂、又は他の異物を洗い流さないでください。 汚れは掃除機で取り除いてください。
- 絶対に水又は他の液体を車内の電気部品にかけないでください。損傷するおそれがあります。

路面の凍結防止剤に含まれるケミカルは、極めて強い腐食性を有しています。 それにより下回りの部品（ブレーキライン、ブレーキケーブル、フロアパン、フェンダーなど）の腐食と劣化が進みます。

冬季には、下回りを定期的に清掃してください。

詳しくは、日産販売会社にご相談ください。

8 メンテナンスと点検

点検·整備について

メンテナンスノートに、点検·整備及び保証の内容について記載してあります。ご使用前に必ずお読みになってください。

- 点検·整備の実施、記録、保存は法律で義務づけられています。
- 点検や清掃に使用した工具や布などを、モータールーム内に置き忘れないようにしてください。故障や車両火災につながるおそれがあります。

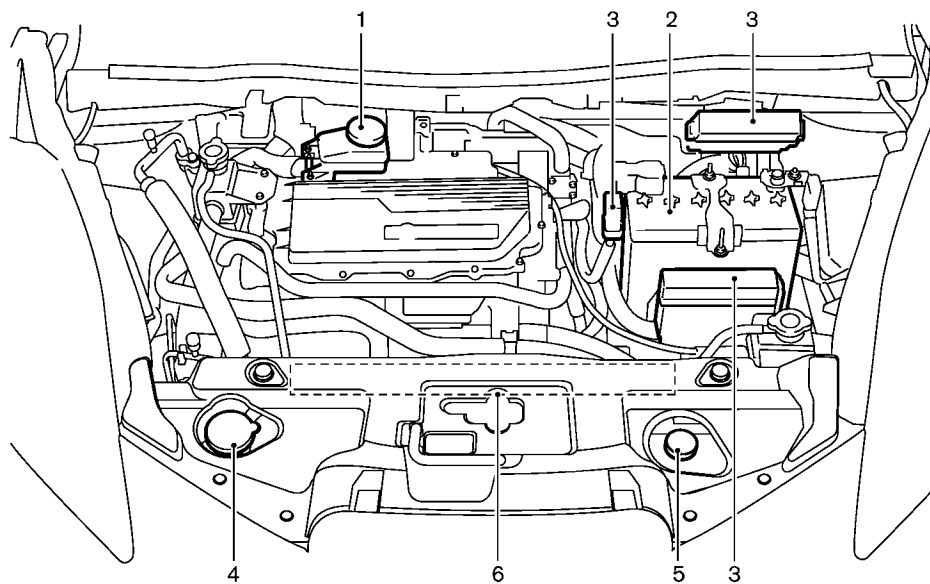
⚠ 注意

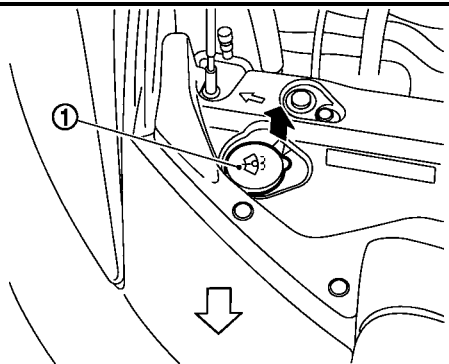
- 充電インジケーターが点灯·点滅しているとき、またはタイマーエアコン表示灯が点滅しているときは、高電圧システムが作動しているため、絶対に整備作業を行わないでください。
- 整備作業を行うときは、車両から充電コネクタを取り外したあと、電源ポジションを一旦ONにし、もう一度OFFにしてから作業してください。

日常点検について

車を安全にお使いいただくため、日常点検は必ず実施してください。

- 車の状態に応じて、適切な時期に実施することが法律で義務づけられています。詳しくは、メンテナンスノートをお読みください。
- いつもと違うことに気がついたら日産販売会社で点検を受けてください。（音、振動、臭い、水·油漏れなど）

モータールーム内配置図

1. ブレーキフルードリザーバータンク
2. 12Vバッテリー
3. ヒューズ/ヒュージブルリンクホルダー
4. ウオッシャーリザーバータンク
5. 冷却水リザーバータンク
6. ラジエーター

ウインドーウオッシャー液

ウオッシャー液が不足しているときは、ウオッシャータンクのキャップを外し、ウオッシャー液を補給してください。ウオッシャー液容器に記載してある凍結温度を参考に、外気温に応じた希釈割合（濃度）にして補給します。

キャップ中央の①の穴を押さえ、引き抜くと、スポイト式にウオッシャー液の残量が点検できます。

引き抜いたときにウオッシャー液がチューブ下端にしか入らないと、ウオッシャータンクはほぼ空の状態です。

日産純正ウインドーウオッシャー液をおすすめします。

⚠ 注意

- ウオッシャー液を補給するときは、液を高温部にかけないようにしてください。出火するおそれがあります。
- ウオッシャー液の代わりにせっけん水などを使用しないでください。塗装がしみになるおそれがあります。
- ウオッシャータンクにはウオッシャー液の原液を入れないでください。メチルアルコール系ウオッシャー液の原液を注入する際にこぼすと、グリルなどに取り除くことのできないしみができることがあります。
- ウオッシャー液の原液は、推奨されている濃度まで水で希釈してからウオッシャータンクに補給してください。ウオッシャー液の原液をウオッシャータンクに入れてから、水で希釈しないでください。

12Vバッテリー

12Vバッテリーの液量が下限（LOWER LEVEL）以下になったまま使用、又は充電すると、12Vバッテリーが爆発するおそれがあります。日常点検で12Vバッテリーの液量を点検してください。

詳しくは、メンテナンスノートをお読みください。

ワイパー

お手入れ

ガラスが油膜でギラギラするときは、ガラスクリーナーを使って、ガラスの表面やワイパーのゴムを清掃してください。

知識：

油膜があると、ワイパー作動時に音がしたり、雨の夜などは対向車の光が乱反射したりすることがあります。

ワイパーブレードのゴムが摩耗していたり、異物がかみ込んでいたりすると、拭き残しでガラスに線が残ります。ワイパーブレードを清掃し、異物を取り除いてください。また、ゴムが摩耗しているときは、早めに交換してください。

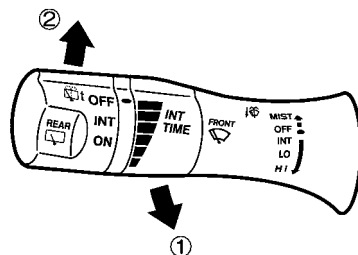
フロントワイパーブレードの交換

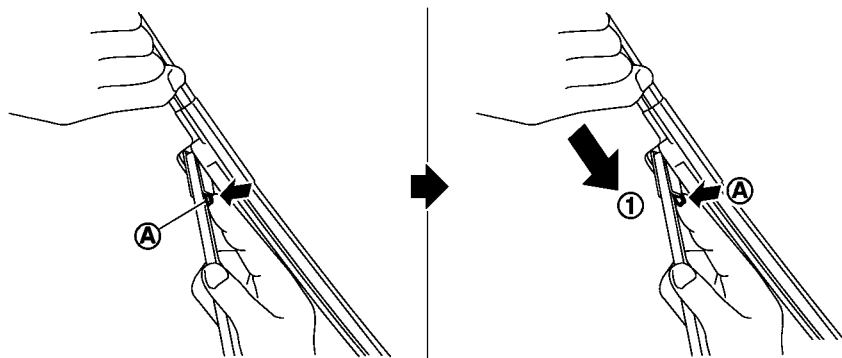
ライズアップ機能：

ワイパーアームを起こすために、ワイパーの作動を途中で止める機能です。

1. パワースイッチを押して電源ポジションをOFFにしてから1分以内に、ワイパースイッチを手前に引きます。ワイパーの作動が途中で止まり、ワイパーアームを引き起こすことができます。
2. ワイパーアームを元に戻すには、ワイパーアームを降ろし、電源ポジションをONにしてからスイッチを1回押し上げます。

注意

ワイパーアームを起こした状態でワイパーを作動させると、損傷するおそれがあります。

知識：

ライズアップ機能を使わなくても、ワイパーアームを起こすことができます。

ワイパーブレードの交換：

1. ワイパーアームを引き上げます。
2. 解除タブⒶを押しながらワイパーブレードをワイパーアームから①の向き（下向き）に動かし、取り外します。
3. 新しいブレードを取り付けます。取り付けは取り外したときと逆の手順で行い、ブレードが確実に固定されていることを確認します。

注意

- 交換するときは、ワイパーアーム及びワイパーブレードがガラスに当たらないように気をつけてください。ガラスに当たるとガラスが破損するおそれがあります。
- ワイパーブレード交換後は、ワイパーアームを元の位置に戻してください。そのままにしておくと、フードを開けたときに破損するおそれがあります。

リヤワイパーブレード

リヤワイパーブレードの点検又は交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。

ワイパーゴムの交換

メンテナンスノート「簡単なお手入れのしかた」をお読みください。

ブレーキ

⚠ 注意

- ブレーキが正常に作動しないときは、日産販売会社で点検を受けてください。
- ブレーキペダルの高さは調整しないでください。 調整すると、ブレーキが効きにくくなることがあります。 調整が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。

ブレーキパッド摩耗警告

ディスクブレーキのパッド（摩擦材）が摩耗すると、走行中にブレーキ付近から金属音（キーキー音）が発生します。金属音が発生したときは、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

⚠ 注意

金属音が発生したまま走行を続けると、ブレーキが効かなくなり、事故につながるおそれがあります。

朝一番及び長時間駐車後の走り始め、又は降雨後や洗車後など湿気が多いときにブレーキペダルを踏むと、“キー”という音がする場合があります。この音は、ブレーキパッドが水分を吸収し、表面の摩擦力が一時的に変化したためで異常ではありません。このような音がときどきするのは異常ではありませんが、頻繁に音がする場合は、すみやかに日産販売会社で点検を受けてください。

ヒューズ

ランプがつかないときや電気系統の装置が作動しないときは、ヒューズ切れが考えられます。

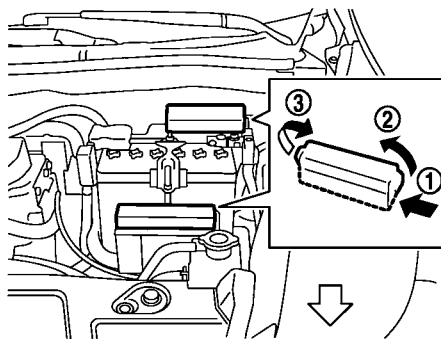
故障の状況から、関係するヒューズの位置を確認してください。ヒューズの位置は、ヒューズボックスのふたに表示してあります。

⚠ 注意

- 充電インジケーターが点灯·点滅しているとき、またはタイマーエアコン表示灯が点滅しているときは、高電圧システムが作動しているため、絶対に整備作業を行わないでください。
- 整備作業を行うときは、車両から充電コネクタを取り外したあと、電源ポジションを一旦ONにし、もう一度OFFにしてから作業してください。
- 規定容量以外のヒューズや、ヒューズの代わりに針金、銀紙などは絶対に使わないでください。 電装システムの破損や火災につながるおそれがあります。

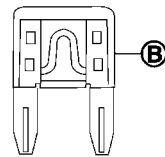
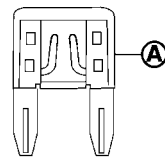
知識：

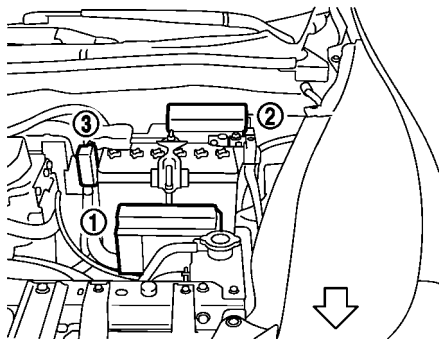
- 車種により、ついていないヒューズがあります。
- ヒューズを交換したときは、確実に差し込まれていることを確認してください。

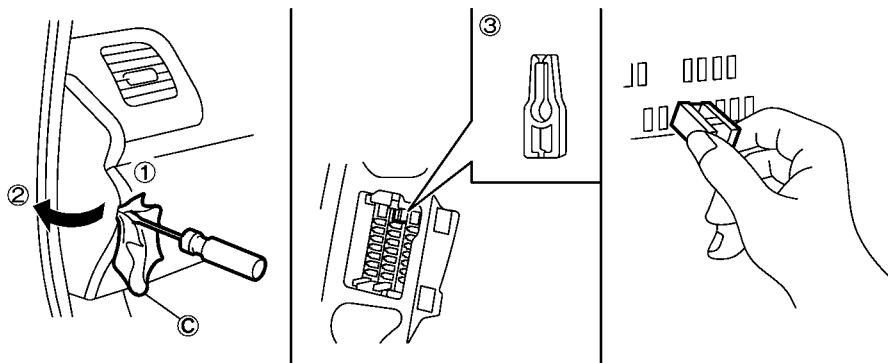
モータールーム

⚠ 警告

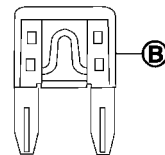
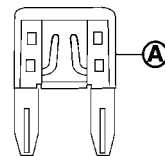
- 高電圧ケーブルはオレンジ色で識別されています。高電圧部品とケーブルだけでなく、そのコネクターにも絶対に接触や分解、取り外しなどをしないでください。それらの部品又はケーブルに接触すると、感電のおそれがあります。

1. 電源ポジションをOFFにします。また、ライトスイッチなどがOFFになっていることを確認してください。
2. フードを開きます。
3. タブ①を押してヒューズ/ヒュージブルリンクホルダーカバーを②の方向（右側）から持ち上げ、次に③を持ち上げて取り外します。
4. 交換が必要なヒューズを探します。
5. 車内ヒューズボックスにあるヒューズ抜きを使ってヒューズを取り外します。

   ヒューズ抜きは、ヒューズに対して垂直に差し込み、引き抜いてください。

6. イラストのⒶのようにヒューズが切れているときは、新品Ⓑと交換してください。
7. 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

ヒュージブルリンク

電装品が作動せず、ヒューズが正常なときは、ホルダー①、②、③内のヒュージブルリンクを点検してください。ヒュージブルリンクが切れているときは、すみやかに日産販売会社で点検·修理を受けてください。

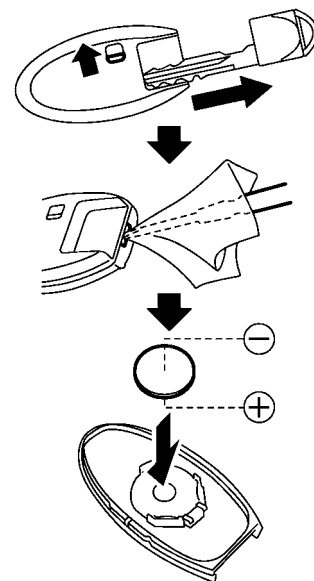
車内

1. 電源ポジションをOFFにします。また、ライトスイッチなどがOFFになっていることを確認してください。
2. ドライバーを①のスリットに差し込みます。

   ヒューズボックスカバーを保護するためにⒸのように布を使ってください。
3. ヒューズボックスカバー②を引き外します。
4. ③のヒューズ抜きでヒューズを取り外します。

5. イラストのⒶのようにヒューズが切れているときは、新品Ⓑと交換してください。

6. 交換してもヒューズが切れるときは、日産販売会社で点検を受けてください。

インテリジェントキーの電池交換

⚠ 注意

- お子さまが電池や取り外した部品を誤飲しないよう注意してください。
- 電池を不適切に処分すると、環境に害が及ぶおそれがあります。 必ず地域のルールに従って処分してください。
- 電池交換時は、部品にほこりやオイルを付着させないでください。
- 必ず同一タイプ又は同等タイプの電池と交換してください。

インテリジェントキーの電池は次の方法で交換してください。

1. インテリジェントキーからメカニカルキーを取り出します。
2. スリットにマイナスの精密ドライバーを差し込み、ひねって上下に分解させます。

知識：

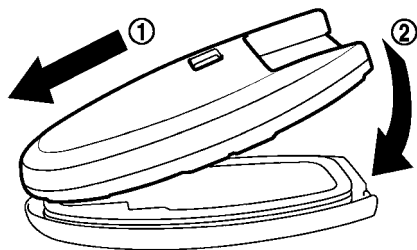
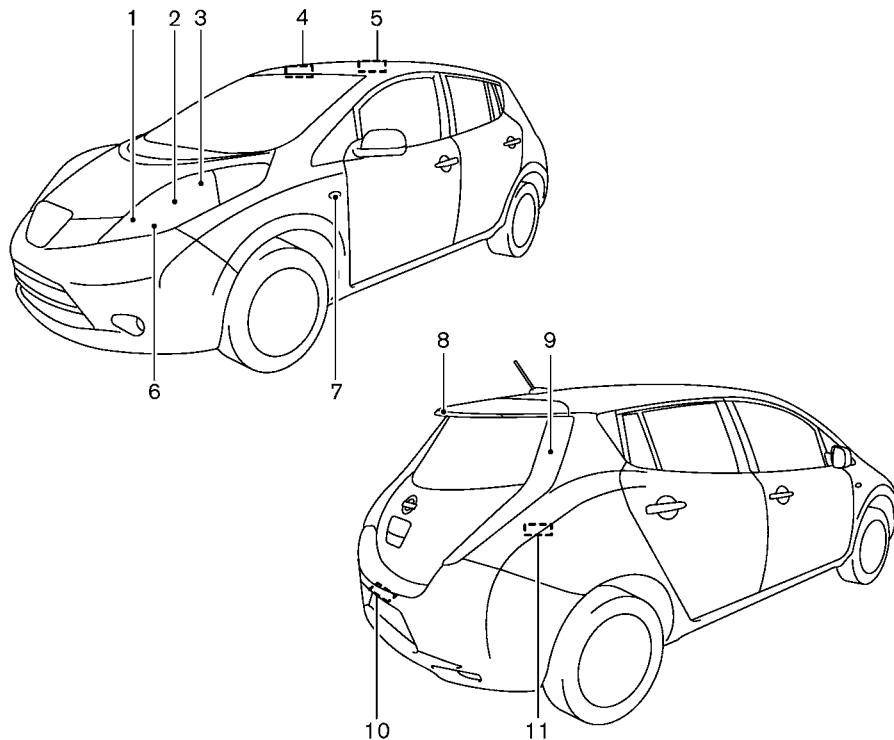
本体に傷をつけるおそれがあるため、ドライバーに布などを当てて外してください。ドライバーを奥に差し込みすぎると内部の基板を傷つけるおそれがあります。

3. 古い電池を取り外し、新しい電池の＋極を下側にしてはめ込みます。

   電池の種類： CR2025

   - 故障の原因になるため、内部回路や電子端子には触れないでください。
   - 電池交換後は、インテリジェントキーシステムの各機能が正常に作動するか必ず確認してください。

4. ふたとケースの先端部を合わせ①、確実に閉じるまで互いに押し付けます②。
5. スイッチを操作し、正常に作動するか確認します。

交換が必要なときは、日産販売会社にご連絡ください。

電球（バルブ）を交換するときは

1. 車幅灯
2. 前照灯（ロービーム）
3. 方向指示器（前側）
4. マップランプ
5. ルームランプ
6. 前照灯（ハイビーム）
7. 方向指示器（側面）
8. ハイマウントストップランプ
9. リヤコンビランプ（制動灯/尾灯/方向指示器/後退灯）
10. 番号灯
11. ラゲッジランプ

ランプが点灯しないときは、バルブ切れが考えられます。バルブを点検し、切れているときは交換してください。

バルブの交換作業が不慣れな方や部品の破損などが心配な方は、日産販売会社にご相談ください。

⚠ 注意

- 充電インジケーターが点灯·点滅しているとき、またはタイマーエアコン表示灯が点滅しているときは、高電圧システムが作動しているため、絶対に整備作業を行わないでください。
- 整備作業を行うときは、車両から充電コネクタを取り外したあと、電源ポジションを一旦ONにし、もう一度OFFにしてから作業してください。

- バルブの交換作業中は、各部品の取り外し又は取り付けに細心の注意を払い、車体や各部品、配線などを傷つけないように注意してください。

知識：

ヘッドランプ、制動灯などの外装ランプは、雨天走行や洗車などにより、レンズ内面が一時的にくもることがあります。また外装ランプ内と外気との温度差により、レンズ内面がくもることもあります。これは雨天時などに窓ガラスがくもるのと同様の現象で、機能上の問題ではありません。

また、レンズの構造上、レンズのふちに水滴が付着することがありますが、機能上の問題ではありません。ただし、ランプ内に水がたまっている場合やレンズ内面に大粒の水滴が付着している場合は、日産販売会社にご相談ください。

外装ランプ及び内装ランプ

ランプ	消費電力（ワット）	バルブ番号
前照灯(ロービーム)*	LED	—
前照灯(ハイビーム)（ハロゲン）	65	H9
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（前側）	21	WY21W （アンバー）
車幅灯	5	W5W
方向指示器 兼 非常点滅表示灯（側面）	5	WY5W （アンバー）
リヤコンビランプ		
制動灯/尾灯*	LED	—
方向指示器 兼 非常点滅表示灯	21	WY21W （アンバー）
後退灯	16	W16W
番号灯	5	W5W
マップランプ	5	—
ハイマウントストップランプ*	LED	—
ルームランプ	8	—
ラゲッジランプ	8	—

*： 交換が必要なときは、日産販売会社にご相談ください。

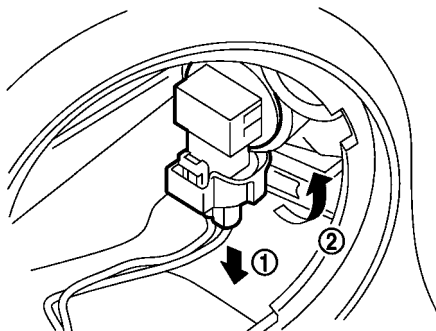
注意： 部品の最新情報については、必ず日産販売会社の部品部門にご確認ください。

ハロゲンヘッドランプの交換方法

ハイビームヘッドランプは、ハロゲンバルブを使用しています。

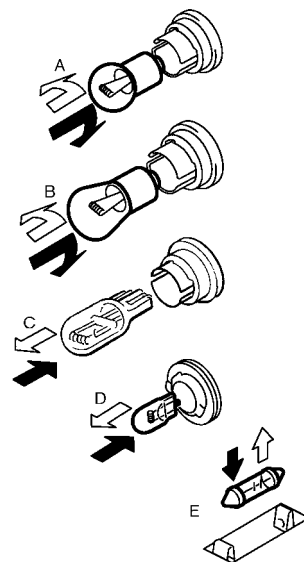
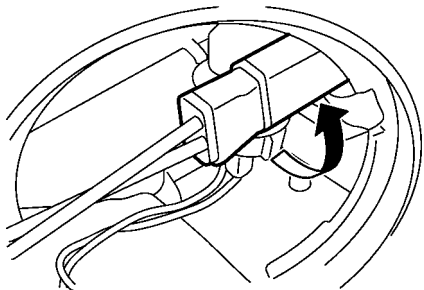
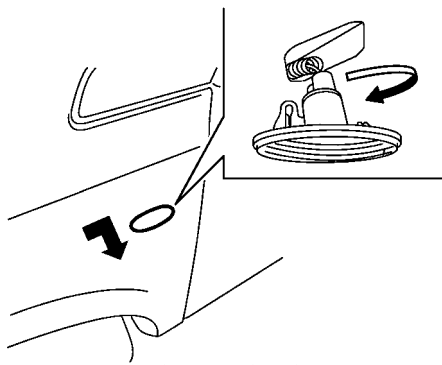
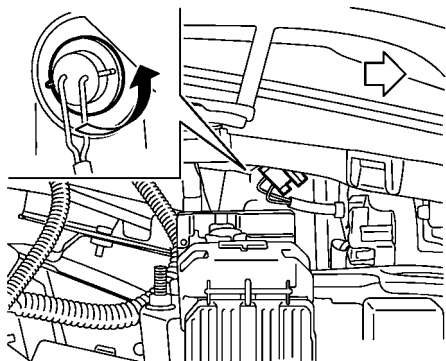
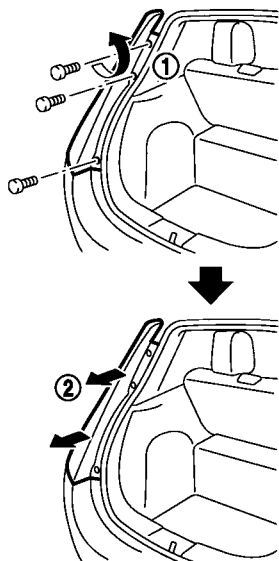
⚠ 注意

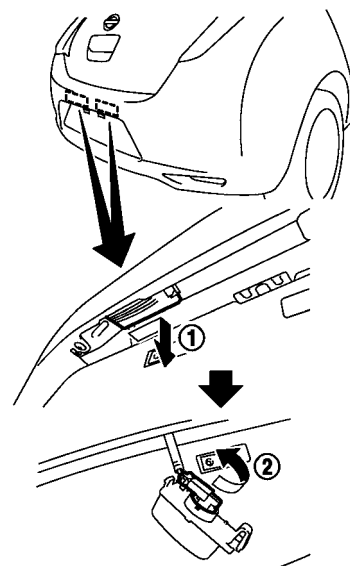
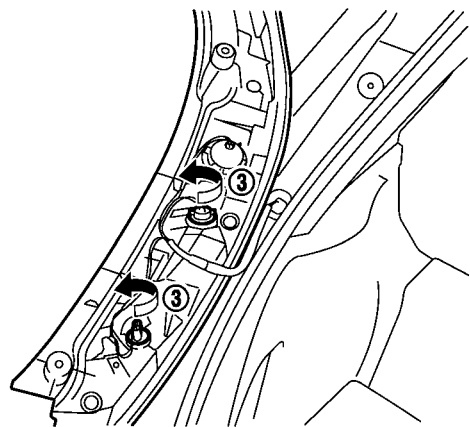
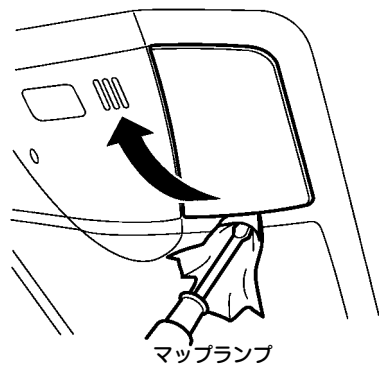
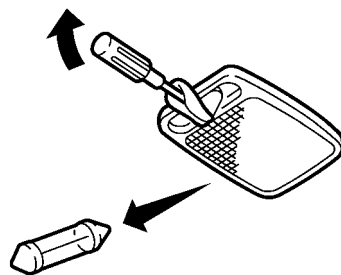
- バルブを長時間、ヘッドランプ本体から外したままにしないでください。 ほこり、水分などがヘッドランプ本体に入り、バルブの性能が低下することがあります。
- ハロゲンバルブ内には高圧ハロゲンガスが封入されています。 ガラス部分に傷がつくか、バルブを落下させると、破損するおそれがあります。
- バルブを取り扱うときは、ガラス部分に触れないでください。 ガラス部分に触れると、バルブの寿命が短くなったり、ヘッドランプの性能が低下したりするおそれがあります。
- バルブ交換後は、光軸調整は不要です。 光軸調整が必要なときは、日産販売会社にご連絡ください。

必ず指定された容量のバルブに交換してください。

バッテリーのマイナス側ケーブルを外してからバルブを交換してください。

1. コネクター①を取り外します。
2. イラストの②のようにバルブを回し、取り外します。

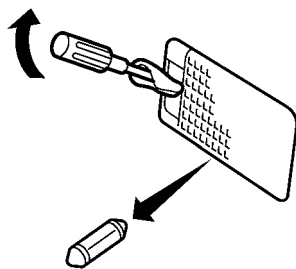
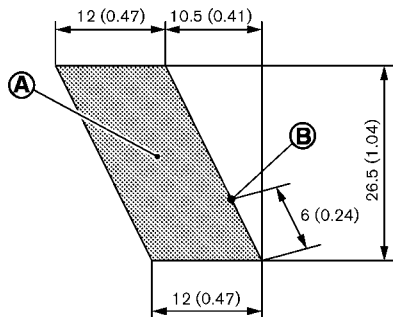
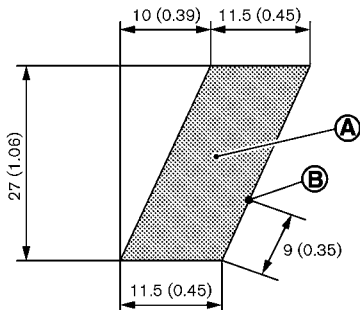
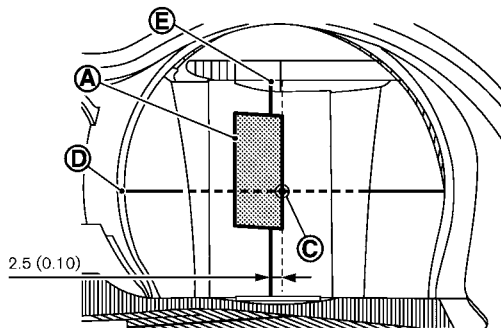
その他の電球（バルブ）の交換方法

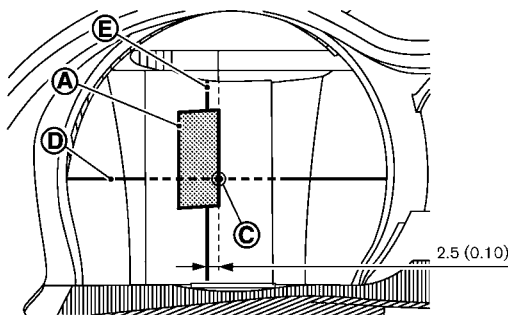
他のすべてのランプは、A、B、C、D、Eのいずれかのタイプです。電球交換時は、最初にレンズ又はカバーを取り外してください。

: 取り外し
: 取り付け

車幅灯

方向指示器（側面）

方向指示器（前側）

方向指示器（後面）/後退灯

番号灯

マップランプ

ラゲッジランプ

ルームランプ

配光調整

車両の通行区分が左右で異なる国を走行する場合は、自車のヘッドライトの光が対向車と歩行者の妨げとならないようにするため、次の方法でヘッドランプにシールを貼ってください。

右側ヘッドランプ (単位：mm/インチ)

左側ヘッドランプ (単位：mm/インチ)

1. 電源ポジションをOFFにしてください。ヘッドランプが冷えてから作業をしてください。
2. イラストを参考に、左右のヘッドランプ表面に貼るシールⒶを準備してください。 ヘッドランプに貼るときに目印にするⒷの位置に、マーカーなどで印をつけてください。

   知識：

   必ず光を通さないシールを使用してください。光を通すシールでは効果が得られません。

3. ヘッドランプ正面から見て、ヘッドランプ表面上にあるマークⒸに、シールの目印Ⓑを合わせながら貼り付けてください。イラストのように、縦の点線に沿ってシールを貼りけるようにしてください。

知識：

ヘッドランプの正面から見て、目印Ⓒは以下のように合わせてください。

横軸：

ヘッドランプ内側にあるリフレクター（反射

面）の線Ⓓに目印Ⓒの横軸を合わせてください。

縦軸：

- 右側ヘッドランプ

  目印Ⓒの縦軸を、ヘッドランプ内側のリフレクターの線Ⓔから約2.5mm車両内側に合わせてください。シールを貼ったときに、イラストのように縦の点線に沿って外側にシールを貼り付けてください。

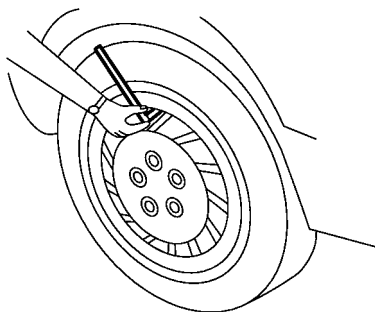
- 左側ヘッドランプ

  目印Ⓒの縦軸を、ヘッドランプ内側のリフレクターの線Ⓔから約2.5mm車両外側に合わせてください。シールを貼ったときに、イラストのように縦の点線に沿って内側にシールを貼り付けてください。

ホイール·タイヤ

パンクしたときは、☞ “タイヤ応急修理のしかた”(page 6-3) をお読みください。

タイヤ空気圧

タイヤ空気圧の点検

1. タイヤからバルブキャップを取り外します。
2. バルブにタイヤエアゲージを押し付けます。バルブを強い力で押したり、横方向に押したりすると空気が漏れ出すので、タイヤから空気が漏れ出すシューという音が聞こえたときは、ゲージの位置を調節してください。
3. ゲージに表示される空気圧を読み取り、規定値に調節してください。
4. ゲージを取り外します。
5. バルブキャップを取り付けます。
6. 同様の手順で、すべてのタイヤの空気圧を点検します。

タイヤサイズ	タイヤ空気圧 k Pa (kg/cm)	
	前輪	後輪
205/55R16	250 (2.5)	250 (2.5)

タイヤの空気圧は運転席ドアの開口部に表示されています。

タイヤ·ロードホイールを交換するとき

- タイヤを交換するときは、４輪とも同時期に行い、必ず指定サイズで同一の銘柄、パターン（溝模様）のタイヤを取り付けてください。
- タイヤサイズは、運転席ドア開口部のタイヤ空気圧表示をご確認ください。

⚠ 注意

- 指定サイズ以外のタイヤ·ロードホイールは絶対に取り付けないでください。不適合なタイヤ·ロードホイールを取り付けると、安全性が損われ、思

わぬ事故につながるおそれがあります。

- 径が異なるタイヤを装着すると、VDCのシステムが正常に作動しないことがあります。

  次のようなタイヤの装着はしないでください。

  — 摩耗差の大きいタイヤの装着

  — 前輪又は後輪だけに冬用タイヤを装着

  — サイズや種類の異なるタイヤを個々に装着

- タイヤの交換をするときは、日産販売会社にご相談ください。

ロードホイールを交換するときは、必ず指定サイズで同一種類のロードホイールを取り付けてください。ロードホイールのサイズは、☞ “タイヤ·ロードホイールサイズ” (page 9-4) をお読みください。

知識：

- ロードホイールは、リムサイズやインセットが同じでも、他の車のものは使えない場合があります。お手持ちのものをご使用になるときは、日産販売会社にご相談ください。
- アルミロードホイールには、荷重制限がありますので、交換するときは日産販売会社にご相談ください。
- タイヤやロードホイールを交換したときは、ホイールバランスを確実にとってください。

タイヤチェーンについて

- タイヤチェーンは必ず前２輪に装着してください。
- お客様のタイヤサイズに合ったタイヤチェーンでも使用できない場合があります。

  タイヤチェーンはお客様のタイヤに適合した日産純正品をおすすめします。適合するタイヤチェーンについては日産販売会社にご相談ください。

装着の前に

- 安全に作業できる平坦な場所に停車してください。
- パーキングブレーキをかけEVシステムを停止します。さらに、非常点滅表示灯を点滅させ、必要に応じて停止表示板（又は停止表示灯）を置きます。

装着のしかた

タイヤチェーンは、付属の取扱説明書に従って正しく装着してください。

⚠ 注意

不適正に装着したり、タイヤサイズに合わないものなどを使用すると、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

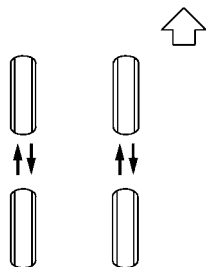
知識：

- タイヤチェーンを装着すると、アルミホイールに傷をつけるおそれがあります。
- タイヤチェーンを装着したときはタイヤチェーンに付属の取扱説明書で指示された速度で走行してください。安全が損なわれたりタイヤチェーンが切れやすくな

ります。

- 雪のない舗装路ではチェーンを装着したまま走行しないでください。路面を損傷したり、チェーンの摩耗を早め、寿命が短くなったりします。
- タイヤチェーンを装着しているときは、突起しているところや穴の上を走行したり、急ハンドルやタイヤがロックするようなブレーキ操作をしないでください。

ホイール·タイヤの交換

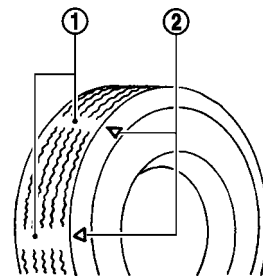
タイヤの位置交換(ローテーション)

左右それぞれで、前後タイヤの交換を行ってください。タイヤの偏摩耗を防ぎ、寿命をのばすために、約5,000kmごとにタイヤのローテーション（位置交換）を行うことをおすすめします。（タイヤ交換手順については、☞ “ジャッキアップ及びタイヤ交換のしかた”(page 8-22)をお読みください。）

ホイールナットは、トルクレンチを使い規定のトルクで締め付けてください。

ホイールナット締め付けトルク：
108N·m（11kg·m）

ホイールナットは常に規定値まで締め付けてください。

⚠ 警告

- タイヤのローテーション後は、タイヤ空気圧を点検し、調整してください。
- タイヤを取り付けてしばらく走行したあと、ナットのゆるみや車体の振動などの異常がないか確認してください。

1. 摩耗限界表示（ウェアインジケーター）
2. 摩耗限界表示の位置を示すマーク

タイヤの摩耗と損傷

⚠ 警告

- 摩耗、ひび割れ、膨張、トレッド部（接地面）に刺さった異物などがないかタイヤを定期的に点検してください。 著しい摩耗、ひび割れ、膨張、深い傷などが見られるときは、タイヤを交換してください。
- タイヤには摩耗限界表示が設けられています。 摩耗限界表示が表れたときは、タイヤを交換してください。
- タイヤは経年/使用により劣化します。安全を確保するため、製造から5年～7年を目安に必ず点検をうけてください。日産販売会社にご相談ください。

ホイールのお手入れ

ホイールのお手入れの詳細については、☞ “外装のお手入れ”(page 7-2)をお読みください。

ジャッキアップ及びタイヤ交換のしかた

この車にはスペアタイヤは搭載されていません。パンクしたときの応急修理については☞ “パンクしたときは”(page 6-3)をお読みください。

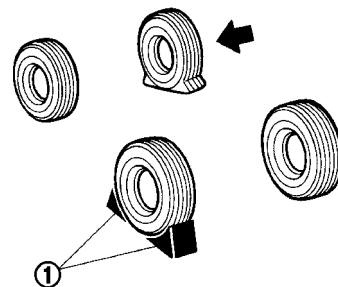
⚠ 注意

タイヤ交換をするときは、軍手などを着用して作業してください。走行直後はホイールナットが熱いため、やけどやケガをするおそれがあります。

安全な場所へ停車する：

交通のさまたげにならず、安全に作業できる地面(平坦な硬い場所）に停車し、人や荷物を車から降ろします。

⚠ 注意

やわらかい地面の上では行わないでください。ジャッキが倒れ、事故につながるおそれがあります。

ジャッキをかける位置と対角線上にあるタイヤに輪止め①をします。

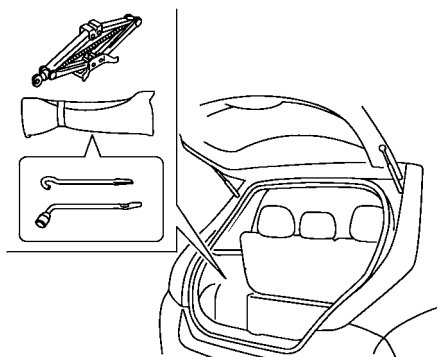
輪止めは、前輪をジャッキアップするときは後輪の後ろ側、後輪をジャッキアップするときは前輪の前側に置きます。

⚠ 注意

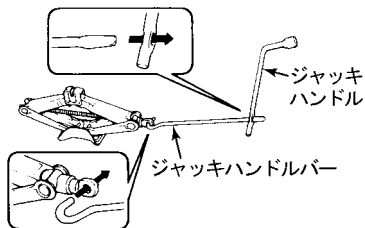
やむを得ず傾斜地で作業する場合は、ジャッキをかける位置と対角線の位置にあるタイヤの下り側に輪止めをし、車が動き出さないようにしてください。

輪止めは標準で搭載されていませんので必要に応じて準備してください。なお、輪止めはタイヤを固定できる大きさの石、木片などで

代用できます。

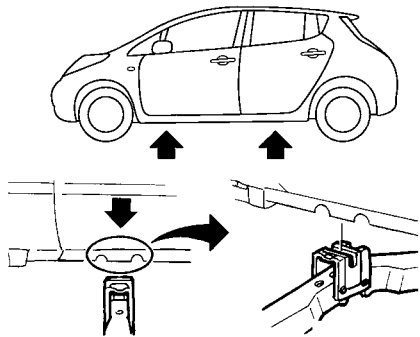
ジャッキ·工具格納場所：

ジャッキ、工具はラゲッジサイドボックス(左側）に格納されています。

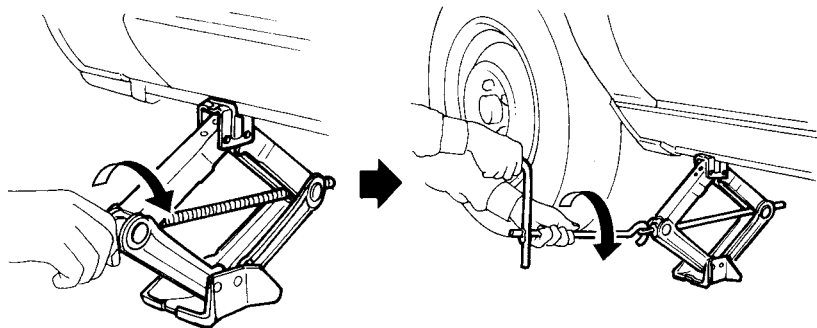
ジャッキアップのしかた：

ジャッキにジャッキハンドルバーとジャッキハンドルをセットします。

ジャッキアップとタイヤの取り外し：

> **⚠ 警告**
>
> - ジャッキアップしたときは絶対に車両の下に入らないでください。ジャッキが外れると、重大な傷害につながるおそれがあり非常に危険です。
> - ジャッキアップ中は走行用モーターを始動/作動させないでください。車が発進し重大な傷害につながるおそれがあります。

> **⚠ 注意**
>
> - ジャッキは必ずこの車両専用のものを使い他車のジャッキは使わないでください。また、この車両専用のジャッキは他車に使わないでください。
> - ジャッキは、タイヤ交換時に車両をジャッキアップする目的以外で使用しないでください。
> - ジャッキは適切なジャッキアップポイントに合わせてください。 ジャッキアップポイント以外の位置には絶対にジャッキをかけないでください。
> - 必要以上の高さまで車両をジャッキアップしないでください。
> - ジャッキの上下に台やブロックなどを入れないでください。
> - 人や荷物は必ず車から降ろしてください。

ジャッキ本体に貼られている注意ラベルと次の指示をよくお読みください。

1. ジャッキを手で回し、ジャッキの溝がジャッキアップポイントの中央に入るまで上げます。

   ジャッキは平坦な硬い地面で使用してください。

2. ホイールナットレンチを使用して、各ホイールナットを反時計回りに1〜2回転させて緩めます。 タイヤが地面から離れるまではホイールナットを取り外さないでください。
3. タイヤが地面を離れるまで慎重に車両をジャッキアップします。

⚠ 注意

車両をジャッキアップするには、イラストのようにジャッキハンドルレバーとジャッキハンドルを両手で確実に保持してください。回転中に外れると、思わぬケガをするおそれがあります。

4. ホイールナットを取り外し、タイヤを取り外します。
5. ハブの取り付け面とホイール裏側の取り付け面を布で拭き取り汚れを取り除きます。

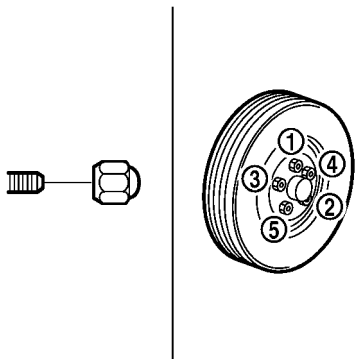
⚠ 注意

取り付け面が汚れていると、走行中にナットがゆるみタイヤが外れるおそれがあります。

6. 交換用タイヤをゆっくりと取り付け、ホイールナットが軽く当たるくらいまで、締めつけます。

⚠ 警告

ナットを取り付けるときは、ナットやボルトにオイルやグリースなどを塗らないでください。走行中にナットがゆるみ、タイヤが外れるおそれがあります。

7. ホイールナットをイラストの順序で2～3回に分けてホイールナットレンチで締めつけます。

8. ジャッキを下げます。さらにホイールナットを7.の締め付け順序で十分に締めつけます。ホイールナットレンチを足で踏んで回したり、パイプなどを使って必要以上に締めつけないでください。ボルトが折れるおそれがあります。

   ホイールナット締めつけトルク

   108N･m (11kg･m)

9. 工具、ジャッキなどを格納場所に戻します。

⚠ 注意

タイヤを取り付けてしばらく走行したあと、ナットのゆるみや車体の振動などの異常がないか確認してください。

9 サービスデータ

交換油脂類

下記は、おおよその規定量です。 実際の量は、わずかに異なることがあります。

項目	規定量（ℓ）	指定油脂（規格）
冷却システム冷却水		
リザーバータンクを含む	6.6	日産純正スーパーロングライフクーラント*1
リザーバータンク	0.8	
ヒーターシステム冷却水	1.8	
減速機オイル	1.1	日産純正マチックフルードS*2
ブレーキフルード	–	日産純正ブレーキフルード No.2500 （DOT3）
ウインドーウオッシャー液	2.5	日産純正ウインドーウオッシャー液 （外気温に応じて濃度を調節してください。）

*1： 走行用モーターやインバーターなどが破損するおそれがあるため、市販されている水漏れ防止剤などの添加剤は冷却水に添加しないでください。冷却水には、日産純正スーパーロングライフクーラントを必ずご使用ください。

*2： 必ず日産純正マチックフルードSを使用してください。日産純正マチックフルードS以外のフルードを使用すると減速機が損傷するおそれがあります。

仕様

車載充電システム（普通充電）

定格電圧	AC100V（単相）、AC200V（単相）
定格周波数	50Hz/60Hz
最大定格電流	11.2A (AC100V)、15A (AC200V)
最大消費電力	1.1kVA (AC100V)、3.0kVA (AC200V)
電源システム	TN-Sシステム
EVSE漏電遮断器の検知電流（日産純正ポータブルタイプEVSEとの組み合わせ）	15mA
保護クラス	クラスⅠ EV
EV充電モード/接続タイプ	Mode2/Case B (普通充電、日産純正EVSEとの組み合わせ) Mode3/Case C (普通充電、公共充電スタンドなど) Mode4/Case C (急速充電)
施工要求（短絡保護電流、保護機器の情報）	過電流、過電圧対策手段は、国内の法規、基準に従うことが必要です。家屋、ビルの配線に適切な過電流保護装置を必ず設置してください。
冷却システム	車両の冷却システムを使用
IP等級	IP55：車両走行状態の充電ポート IP44：充電中のEVSEと充電ポート接合部（日産純正EVSEとの組み合わせ）
動作温度	−35～45°C
保管温度	−40～80°C
適合規格	SAE J1772: 2010 EN61851-1: 2001 EN61851-21: 2002 IEC61851-1: 2001 IEC61851-21: 2001 EN61000-6-1: 2007 EN61000-6-2: 2005 EN61000-6-3: 2007 EN61000-6-4: 2007 CE

走行用モーター

型式	EM61

タイヤ・ロードホイールサイズ

ロード・ホイール

種類	サイズ	インセット(mm)
アルミ	16 × 6 1/2J	40

タイヤ

サイズ	空気圧 kPa（kg/cm2）
205/55R16	250 (2.5)

イベントデータレコーダ(EDR)

車両データの記録･蓄積について

この車両に装備されている以下のシステムの各コンピュータはEDR（イベントデータレコーダ）機能を備えています。

以下システムの各コンピュータは正常に作動しているかどうかを常に診断し、EDRで車両が衝突したときの車両データを記録･蓄積しています。

SRSエアバッグシステム

SRSエアバッグシステムが作動したときに下記車両データを記録･蓄積します。

- エアバッグシステムの作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

知識：

EDR（イベントデータレコーダ）は一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

データの扱いについて

日産自動車及び日産自動車が委託した第三者は、EDRに記録されたデータを日産自動車の車両衝突安全性能の向上を目的として、取得･利用することがあります。

なお、日産自動車及び日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示･提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

車両状態の記録·蓄積について

車両状態記録機能は、下記車両データを記録·蓄積します。

- 車輪速などの車両走行情報
- バッテリー消費電力などの電力制御情報

車両状態記録機能

車両状態記録機能は電気自動車としての品質維持を目的として、車両の運行状態を常に記録·蓄積しています。

車両状態記録機能から得られたデータを元に的確なサービスを提供することができます。

知識：

車両状態記録機能は、一般的なデータレコーダとは異なり、会話などの音声や映像は記録しません。

データの扱いについて

日産自動車及び日産自動車が委託した第三者は、車両状態記録機能に記録されたデータを、部品交換履歴などの確認や、日産自動車の車両品質向上を目的として、取得·利用することがあります。

なお、日産自動車及び日産自動車が委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示·提供することはありません。

- 車両の使用者の同意がある場合
- 裁判所など、法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理を行うなど、使用者や車両が特定できないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

10 さくいん

アルファベット

A

E

I

L

S

V

かな

あ

い

う

え

お

た

ち

つ

て

と

な

の

は

ひ

ふ

へ

ほ

ま

み

め

も

ら

り

る

れ

ろ

わ